

中央区政世論調査

報告書

第53回 令和5年4月実施



は じ め に

区政運営のための指針づくりや施策の実施にあたっては、区民の皆さまの多様な意見・要望をさまざまな手段を講じて聴取し、把握・分析した上で的確に反映させていくことが大切です。

そのため、区では、「区長への手紙」、「区政への提案制度」など各種の広聴活動を行っています。

「区政世論調査」もその一つとして、区民の皆さまの意見を統計的に把握するもので、昭和40年から実施し今回で53回目となりました。今回の調査では、「定住性」「防災対策」「健康診査」「高齢者施策」「子育て支援」「男女共同参画社会」「防犯対策」「スポーツ」「築地魚河岸」「受動喫煙防止対策」「デジタル技術を活用した区民サービス」「環境」「シティプロモーション」「施策の要望・評価」の14項目についてお伺いしました。調査結果は、今後の区政運営の基礎資料として活用していきますが、多くの皆さまに参考としていただければ幸いです。

おわりに、調査にご協力いただきました区民の皆さまに厚くお礼申し上げます。

令和5年9月

中央区企画部広報課

I	調査のあらまし	1
1	調査の目的	3
2	調査の項目	3
3	調査の設計	3
4	回収結果	3
5	地域区分図（地区別回収結果）	4
6	この報告書の見方	5
7	調査方法略歴	7
II	回答者の属性	9
1	性別	11
2	年齢	11
3	職業	11
4	居住地域	12
5	同居家族	12
6	家族構成	12
7	家族の状況	13
8	住居形態	13
9	国籍	13
10	ライフステージ（7分類）	14
III	地域別にみた回答者の属性	15
1	年齢	17
2	職業	17
3	同居家族	17
4	住居形態	18
5	ライフステージ	18
IV	調査結果の分析	19
	【1 定住性】	21
	（1）居住年数	21
	（2）愛着心	24
	（3）定住意向	27

目 次

【2 防災対策】	30
（1）家庭での災害に対する備え	30
（2）防災拠点の認知度	37
（3）災害に備えた地域の協力体制	40
（4）災害時に協力したいと思う活動	42
（5）災害情報を得る手段として有効だと思うもの	46
【3 健康診査】	49
（1）健康診査の受診状況	49
（2）健康診査を受けなかった理由	52
【4 高齢者施策】	56
（1）要介護時における暮らし方	56
（2）区に望む高齢者保健福祉サービス	60
（3）区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス	63
【5 子育て支援】	66
（1）子育てに関する悩みの相談	66
（2）重要と考える子育て支援策	70
（3）さらに充実を図る必要がある子育て支援策	74
（4）区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス	78
【6 男女共同参画社会】	81
（1）男女の地位の平等感	81
（2）ワーク・ライフ・バランスの現在の状況	94
【7 防犯対策】	98
（1）不安を感じる犯罪	98
（2）防犯のために行っていること	102
（3）区に特に力を入れてほしい施策	106
【8 スポーツ】	110
（1）過去1年間に行ったスポーツや運動の種類	110
（2）過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度	115
（3）過去1年間にウォーキングや散歩をした場所	119
【9 築地魚河岸】	122
（1）「築地魚河岸」への来場経験	122
（2）「築地魚河岸」への来場目的	125
（3）「築地魚河岸」に対する印象やイメージ	126

【10 受動喫煙防止対策】	128
(1) 「中央区たばこルール」の認知度	128
【11 デジタル技術を活用した区民サービス】	131
(1) 区に進めてほしいデジタル技術を活用した区民サービス	131
【12 環境】	135
(1) 区内のみどり	135
(2) 環境を守るための取り組み	137
(3) 今後の家庭での取り組み	139
(4) 環境配慮を行う上での阻害要因	141
(5) 企業の責任としての取り組み	143
【13 シティプロモーション】	146
(1) 中央区ならではの伝統と文化	146
(2) 伝統と文化を身近に感じているか	147
(3) 各エリアの特色と各エリアで一番お薦めしたい特色	148
【14 施策の要望・評価】	150
(1) 区の施策の満足度と重要度	150
(2) 区の施策への要望	157
V 結果の数表	163
VI 使用した調査票	187

I 調査のあらまし

I 調査のあらまし

1 調査の目的

区民の生活環境への意識、区の施策に対する評価および区政への意見・要望を把握し、本区の行政施策上の参考資料とする。

2 調査の項目

今回の調査では、次の14項目について調査した。

- | | |
|--------------|------------------------|
| (1) 定住性 | (8) スポーツ |
| (2) 防災対策 | (9) 築地魚河岸 |
| (3) 健康診査 | (10) 受動喫煙防止対策 |
| (4) 高齢者施策 | (11) デジタル技術を活用した区民サービス |
| (5) 子育て支援 | (12) 環境 |
| (6) 男女共同参画社会 | (13) シティプロモーション |
| (7) 防犯対策 | (14) 施策の要望・評価 |

3 調査の設計

- | | |
|----------|--|
| (1) 調査対象 | 中央区に居住する満18歳以上の個人 |
| (2) 対象者 | 2,000人 |
| (3) 抽出方法 | 層化無作為抽出法
令和5年4月1日現在の住民基本台帳に登録された満18歳以上の個人148,517人から抽出 |
| (4) 調査方法 | [配布] 郵送に準じた配布
[回収] 郵送回収またはインターネット回答 |
| (5) 調査時期 | 令和5年4月25日(火)～6月5日(月) |
| (6) 調査機関 | 株式会社CCNグループ |

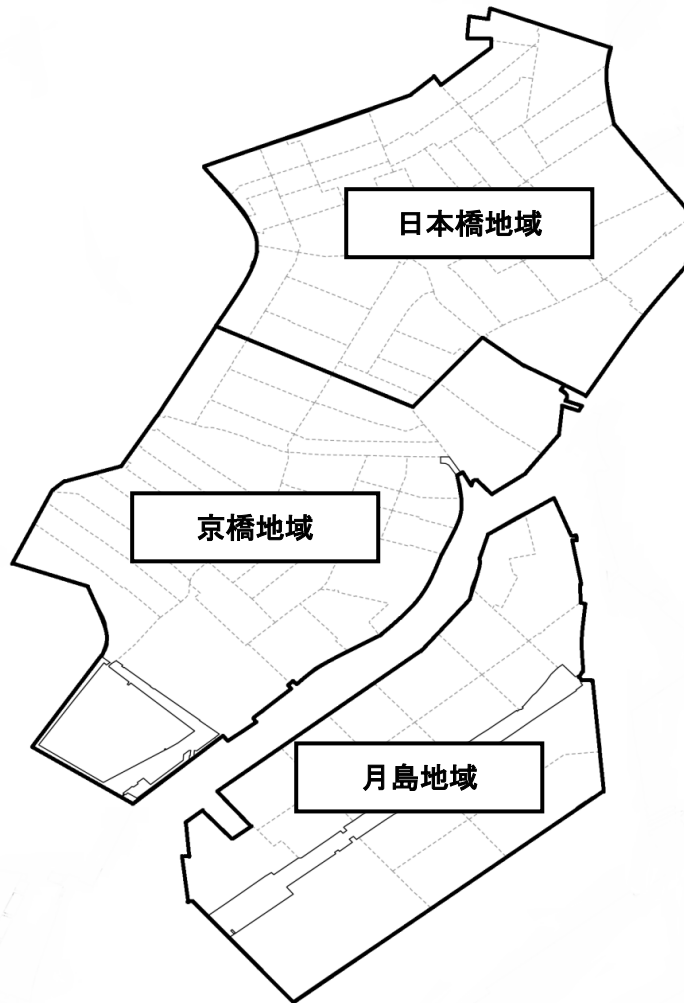
4 回収結果

標本数	有効回収数	有効回収率
2,000	850	42.5%

回収方法	有効回収数	有効回収率
郵送回収	549	64.6%
インターネット回答	301	35.4%
合計	850	100.0%

5 地域区分図（地区別回収結果）

対象者の抽出および集計にあたっては、地域特性を把握するため、京橋・日本橋・月島の3地域に区分した。



地域名	該当町丁名	満 18 歳以上 人口 (母集団)	構成比	割当 標本数	有効 回収数	回収率
京橋地域	八重洲 2 丁目、京橋、銀座、新富、入船、湊、明石町、築地、浜離宮庭園、八丁堀、新川	37,441 人	25.2%	504	194	38.5%
日本橋地域	日本橋本石町、日本橋室町、日本橋本町、日本橋小舟町、日本橋小伝馬町、日本橋大伝馬町、日本橋堀留町、日本橋富沢町、日本橋人形町、日本橋小網町、日本橋蛸殻町、日本橋箱崎町、日本橋馬喰町、日本橋横山町、東日本橋、日本橋久松町、日本橋浜町、日本橋中洲、八重洲 1 丁目、日本橋、日本橋茅場町、日本橋兜町	46,787 人	31.5%	630	261	41.4%
月島地域	佃、月島、勝どき、豊海町、晴海	64,289 人	43.3%	866	352	40.6%
無回答		-	-	-	43	-
合 計		148,517 人	100.0%	2,000	850	42.5%

(注) 満 18 歳以上人口 (母集団) は、令和 5 年 4 月 1 日現在

6 この報告書の見方

(1) 注意事項

- ①この報告書の設問および図表中のnとは、設問に対する回答者数で、比率算出の基数を示す。
- ②回答の比率(%)はnを基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位までを示した。従って、合計が100%にならない場合がある。
- ③グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- ④回答者数が20に満たないものについては、図示するに留め、この報告書の中では特に取りあげていないものもある。
- ⑤本文中で、百分率の比較をする際には、ポイントと表記している。
- ⑥統計数値を考察するにあたっては、表現をおおむね以下のとおりとしている。

例	表現
20.0～20.4%	2割
20.5～20.9%	約2割
21.0～23.9%	2割を超える
24.0～26.4%	2割台半ば
26.5～28.9%	3割近く
29.0～29.4%	約3割
29.5～29.9%	3割

- ⑦クロス集計の図表では、分析軸となる質問(性別、性/年齢別など)に無回答だった人については掲載していない。そのため、各層のnの合計が総数とは一致しない場合がある。
- ⑧複数回答の設問におけるクロス集計の分析については、タイトルに(上位10項目)や(5項目)などと書き添えているものもある。その場合、「その他」や「無回答」などは項目数として含めずに数えている。
- ⑨性別、性/年齢別のグラフでは、性別の質問で「回答しない」と回答された方が少ないため、「回答しない」のグラフは省略している。

(2) ライフステージについて

ライフステージとは、人間の一生を年齢や結婚、子どもの成長、子どもの独立、子どもの同居の有無などによっていくつかの段階に分けたものである。例えば、今回の調査で30歳代のライフステージ構成をみると、子どもがいないか未就学児のいる「家族形成期」(66.7%)が最も高いが、「独身期」(54.9%)や小・中学生の子どものいる「家族成長前期」(14.5%)もある。このように同じ30歳代でも人生段階は異なり、未就学児のいる人と小・中学生のいる人では、関心を持つ問題なども異なってくる。ライフステージによる分析は、単なる年齢別とは違う人生段階に目を向けた点に特徴がある。

今回の調査では、家族の状況を6分類して、回答者にどの段階であるかを答えてもらい、年齢を考慮して、最終的に「その他」を含む7分類にまとめた。

- ①独身期 = 独身(18~39歳、学生など：親と同居含む)
- ②家族形成期 = 子どものいない夫婦(18~39歳)、
子どもあり(一番上が小学校入学前)
- ③家族成長前期 = 子どもあり(一番上が小・中学生)
- ④家族成長後期 = 子どもあり(一番上が高・大学生)
- ⑤家族成熟期 = 64歳以下で子どもあり
(一番上または子ども全員が卒業、就職、結婚など)
- ⑥老齢期 = 65歳以上で子どもあり
(一番上または子ども全員が卒業、就職、結婚など)
独身(65歳以上)、子どものいない夫婦(65歳以上)
- ⑦その他 = 独身(40~64歳)、子どものいない夫婦(40~64歳)

(3) 標本誤差

標本誤差(サンプル誤差)はおおよそ下記の通りである。等間隔抽出法、すなわち無作為抽出法の標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、比率算出の基数(n)および回答比率(P)によって異なる。

$$b = 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b=標本誤差 N=母集団
n=比率算出の基数(サンプル数)
P=回答比率

回答比率(P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,000	±1.90	±2.53	±2.90	±3.10	±3.16
850	±2.06	±2.74	±3.14	±3.36	±3.43
800	±2.12	±2.83	±3.24	±3.46	±3.54
500	±2.12	±3.58	±4.10	±4.38	±4.47
300	±3.46	±4.62	±5.29	±5.66	±5.77

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数が850で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.36%以内(56.64~63.36%)である」とみることができる。

7 調査方法略歴

この報告書の一部の設問において過年度比較をしている。比較に用いている各調査年の調査手法をまとめた。

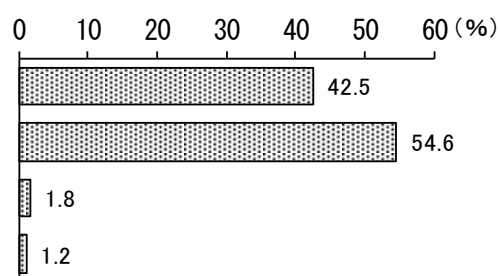
調査年	調査方法	説明	対象とした年齢
平成12年	留置法	郵送配布－訪問回収	満20歳以上
平成16年	留置法	郵送配布－訪問回収	満20歳以上
平成17年	留置法	郵送配布－訪問回収	満20歳以上
平成18年	留置法	郵送配布－訪問回収	満20歳以上
平成19年	留置法	郵送配布－訪問回収	満20歳以上
平成20年	郵送法	郵送配布－郵送回収	満20歳以上
平成21年	郵送法	郵送配布－郵送回収	満20歳以上
平成22年	郵送法	郵送配布－郵送回収	満20歳以上
平成23年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満20歳以上
平成24年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満20歳以上
平成25年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満20歳以上
平成26年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満20歳以上
平成27年	郵送法	郵送配布－郵送回収	満20歳以上
平成28年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上
平成29年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上
平成30年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上
令和元年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上
令和2年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上
令和3年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上
令和4年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上
令和5年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収またはインターネット回答	満18歳以上

Ⅱ 回答者の属性

Ⅱ 回答者の属性

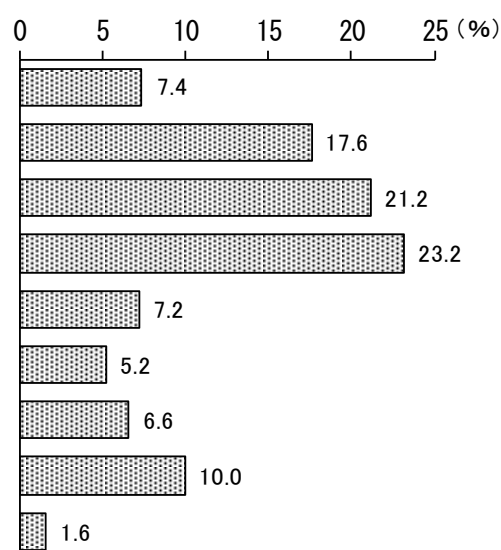
1 性別

	基数	構成比
1 男性	361	42.5%
2 女性	464	54.6
3 回答しない	15	1.8
(無回答)	10	1.2
合計	850	100.0



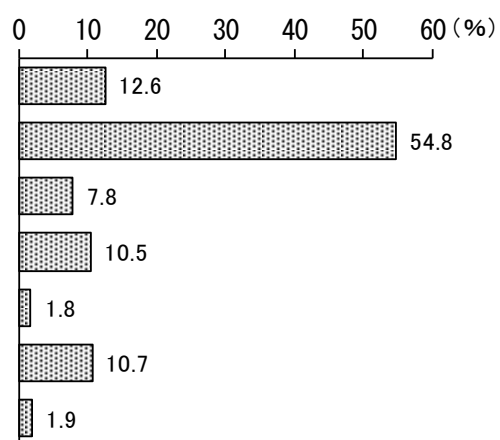
2 年齢

	基数	構成比
1 18～29歳	63	7.4%
2 30歳代	150	17.6
3 40歳代	180	21.2
4 50歳代	197	23.2
5 60～64歳	61	7.2
6 65～69歳	44	5.2
7 70～74歳	56	6.6
8 75歳以上	85	10.0
(無回答)	14	1.6
合計	850	100.0



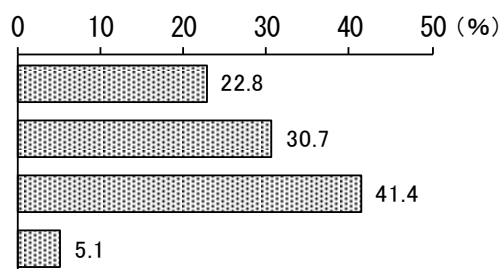
3 職業

	基数	構成比
1 自営業 (家族従業を含む)	107	12.6%
2 勤め人	466	54.8
3 アルバイト・パートタイマー	66	7.8
4 無職 (主婦・主夫)	89	10.5
5 無職 (学生)	15	1.8
6 無職 (その他)	91	10.7
(無回答)	16	1.9
合計	850	100.0



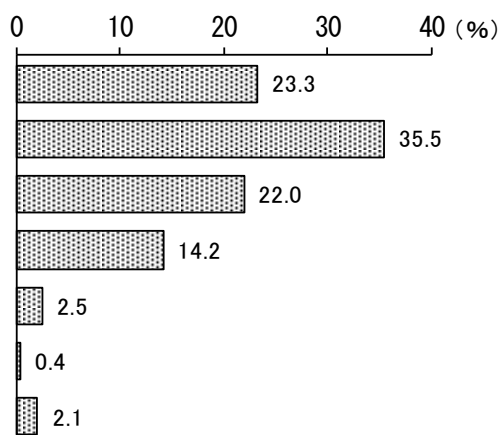
4 居住地域

	基数	構成比
1 京橋地域	194	22.8%
2 日本橋地域	261	30.7
3 月島地域	352	41.4
(無回答)	43	5.1
合計	850	100.0



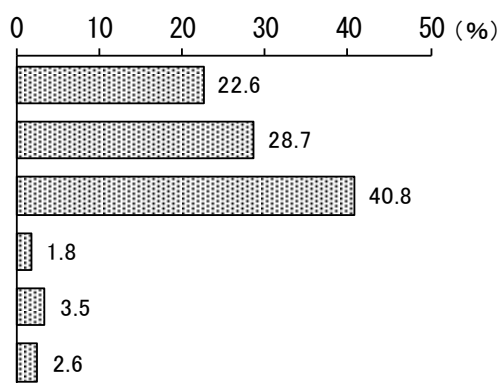
5 同居家族

	基数	構成比
1 1人	198	23.3%
2 2人	302	35.5
3 3人	187	22.0
4 4人	121	14.2
5 5人	21	2.5
6 6人以上	3	0.4
(無回答)	18	2.1
合計	850	100.0



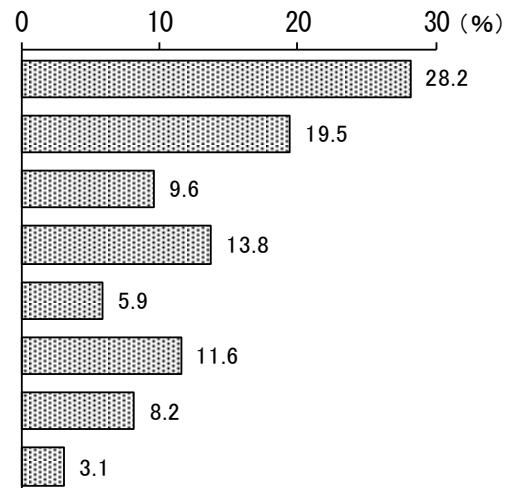
6 家族構成

	基数	構成比
1 単身 (本人のみ)	192	22.6%
2 夫婦のみ (1世代世帯)	244	28.7
3 親と子 (2世代世帯)	347	40.8
4 親と子と孫 (3世代世帯)	15	1.8
5 その他の世帯	30	3.5
(無回答)	22	2.6
合計	850	100.0



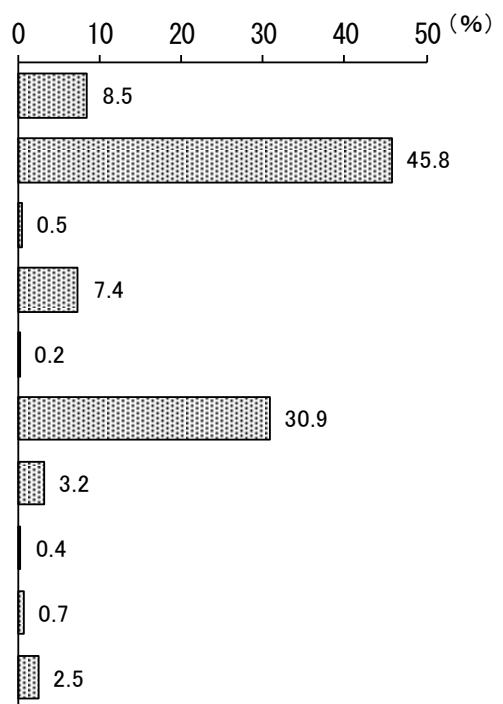
7 家族の状況

	基数	構成比
1 独身	240	28.2%
2 子どものいない夫婦	166	19.5
3 一番上の子どもが小学校入学前	82	9.6
4 一番上の子どもが小・中学生	117	13.8
5 一番上の子どもが高校・大学生	50	5.9
6 一番上の子どもが学校卒業	99	11.6
7 その他	70	8.2
(無回答)	26	3.1
合計	850	100.0



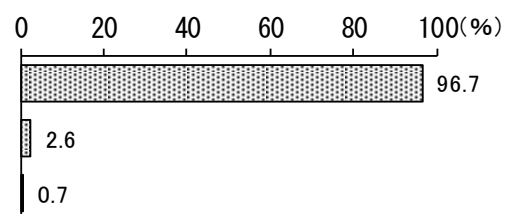
8 住居形態

	基数	構成比
1 持家 一戸建	72	8.5%
2 持家 分譲マンション	389	45.8
3 借家 一戸建	4	0.5
4 借家 公共住宅 (区立、区営、都営、公社、都市再生機構 (旧公団))	63	7.4
5 借家 民間木造アパート	2	0.2
6 借家 民間鉄筋アパート、マンション	263	30.9
7 借家 社宅、官舎、寮	27	3.2
8 借家 間借り、住込み	3	0.4
9 その他	6	0.7
(無回答)	21	2.5
合計	850	100.0

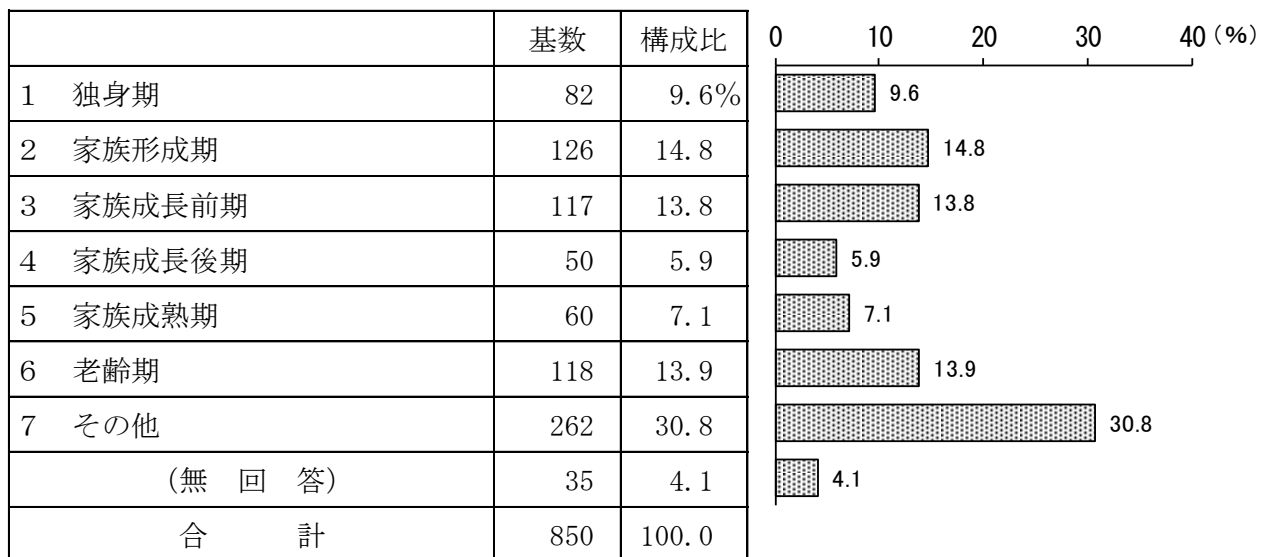


9 国籍

	基数	構成比
1 日本	822	96.7%
2 日本以外 (外国籍)	22	2.6
(無回答)	6	0.7
合計	850	100.0



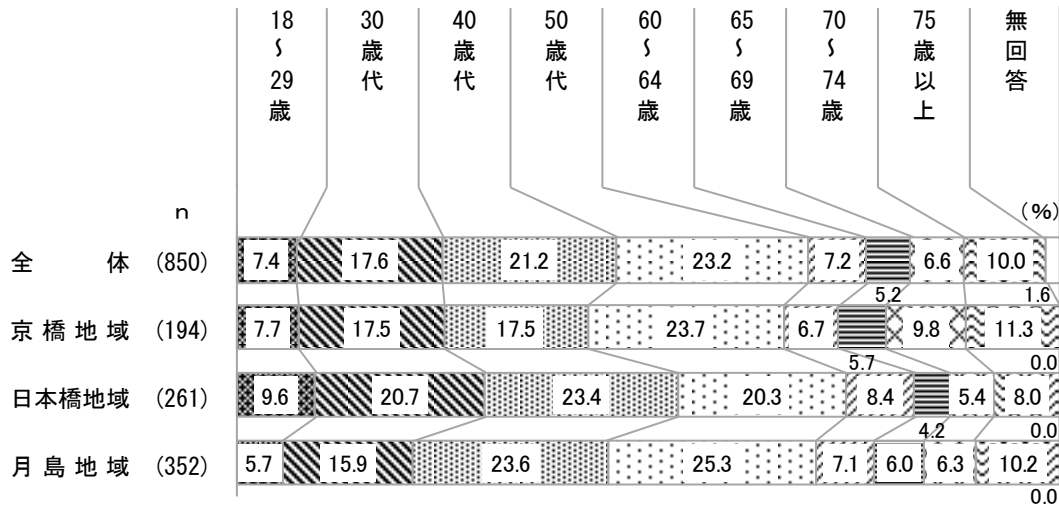
10 ライフステージ（7分類）



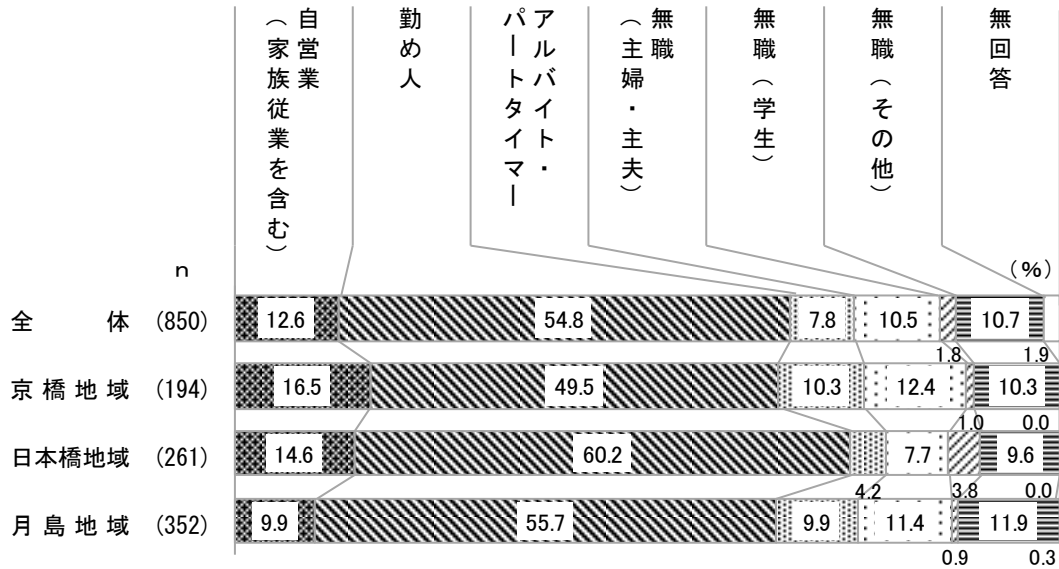
Ⅲ 地域別にみた回答者の属性

Ⅲ 地域別にみた回答者の属性

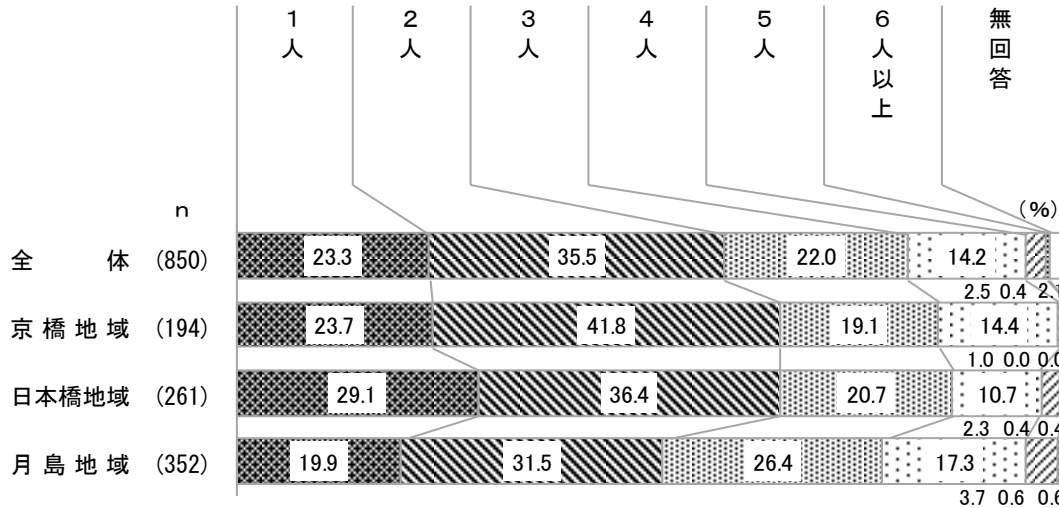
1 年齢



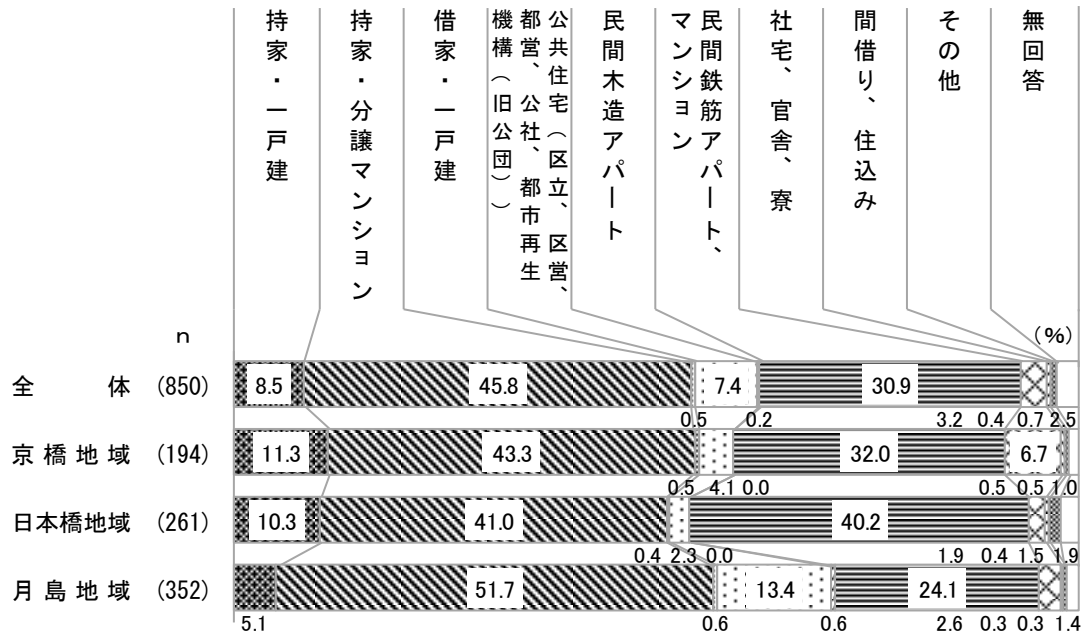
2 職業



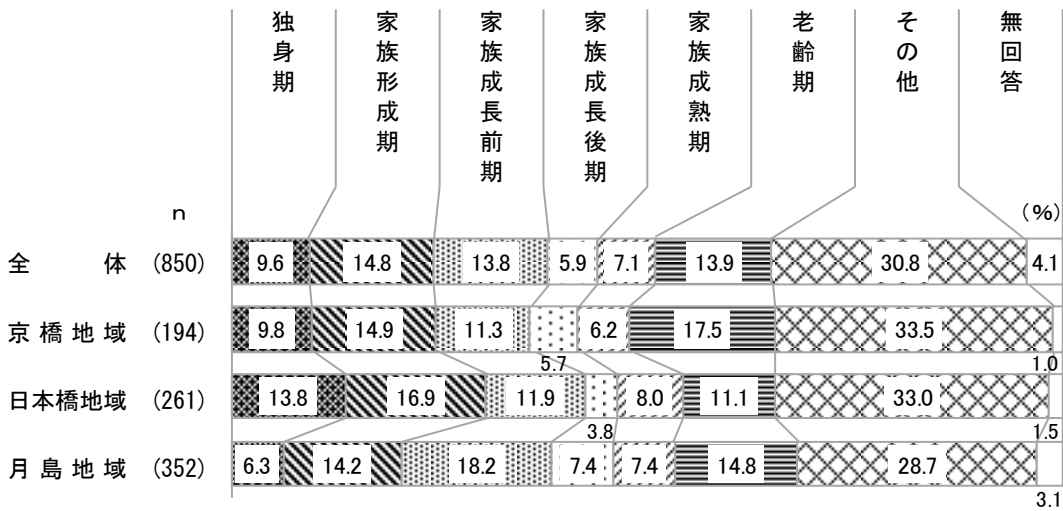
3 同居家族



4 住居形態



5 ライフステージ



IV 調査結果の分析

IV 調査結果の分析

【1 定住性】

(1) 居住年数

◇『長期居住者』が3割を超え、『中期居住者』が4割、『短期居住者』が3割近く

問1 あなたは、中央区にお住まいになって何年になりますか。(○は1つ)

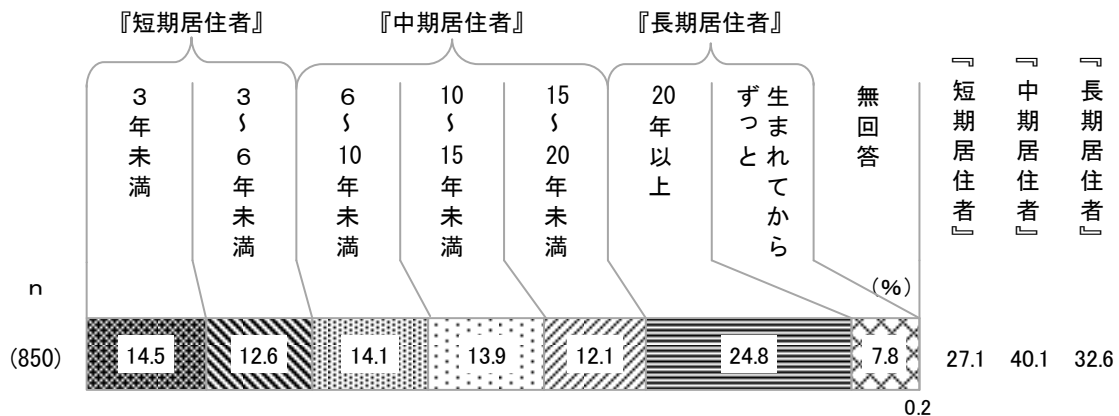
n = 850

1	3年未満	14.5%	5	15～20年未満	12.1
2	3～6年未満	12.6	6	20年以上	24.8
3	6～10年未満	14.1	7	生まれてからずっと	7.8
4	10～15年未満	13.9		(無回答)	0.2

居住年数は、「20年以上」(24.8%)が最も高くなっており、「生まれてからずっと」(7.8%)と合わせた『長期居住者』(32.6%)は3割を超えている。

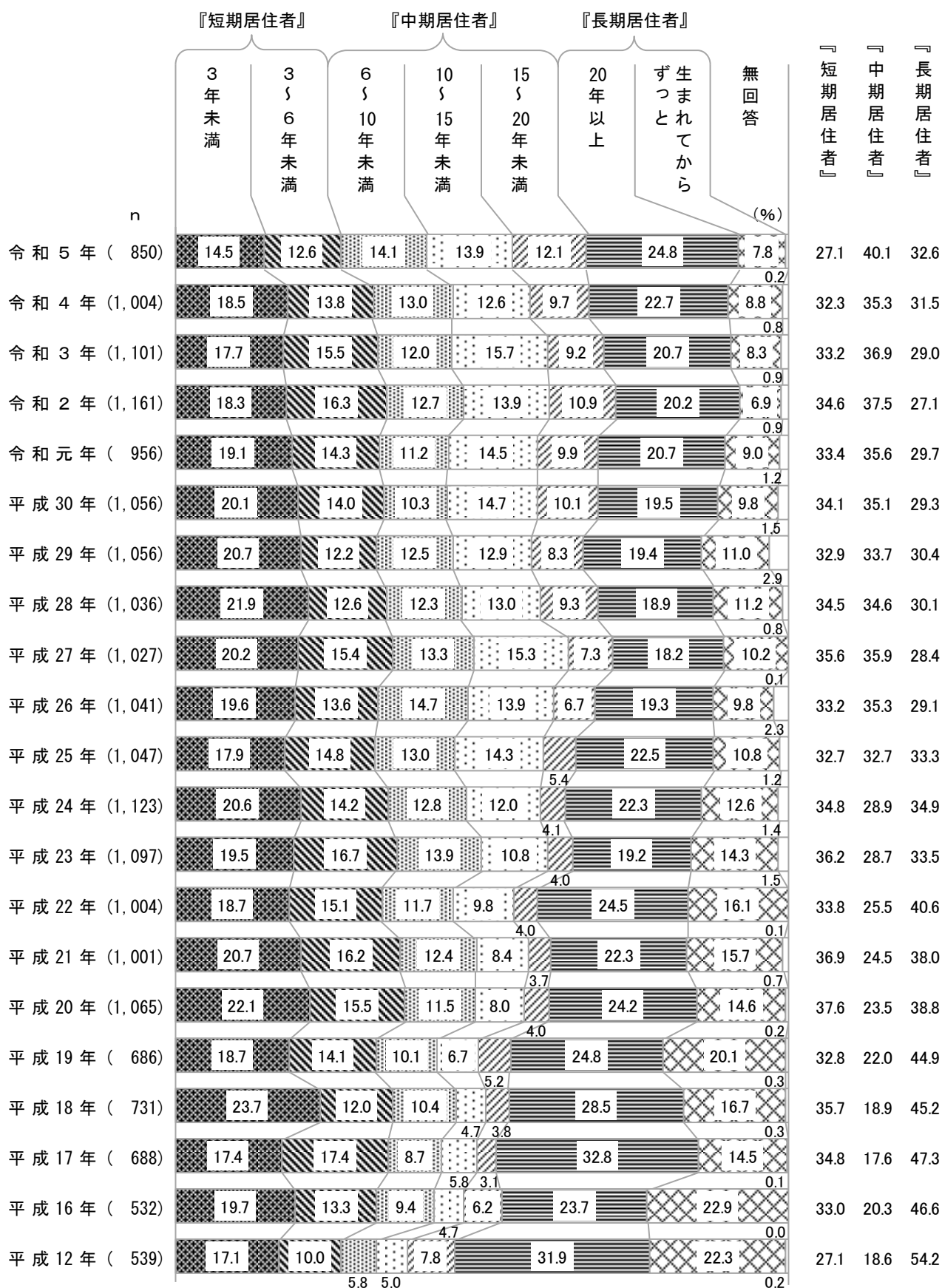
また、「6～10年未満」(14.1%)と「10～15年未満」(13.9%)、「15～20年未満」(12.1%)を合わせた『中期居住者』(40.1%)は4割となっている。「3年未満」(14.5%)と「3～6年未満」(12.6%)を合わせた『短期居住者』(27.1%)は3割近くとなっている。(図表1-1-1)

図表1-1-1 居住年数



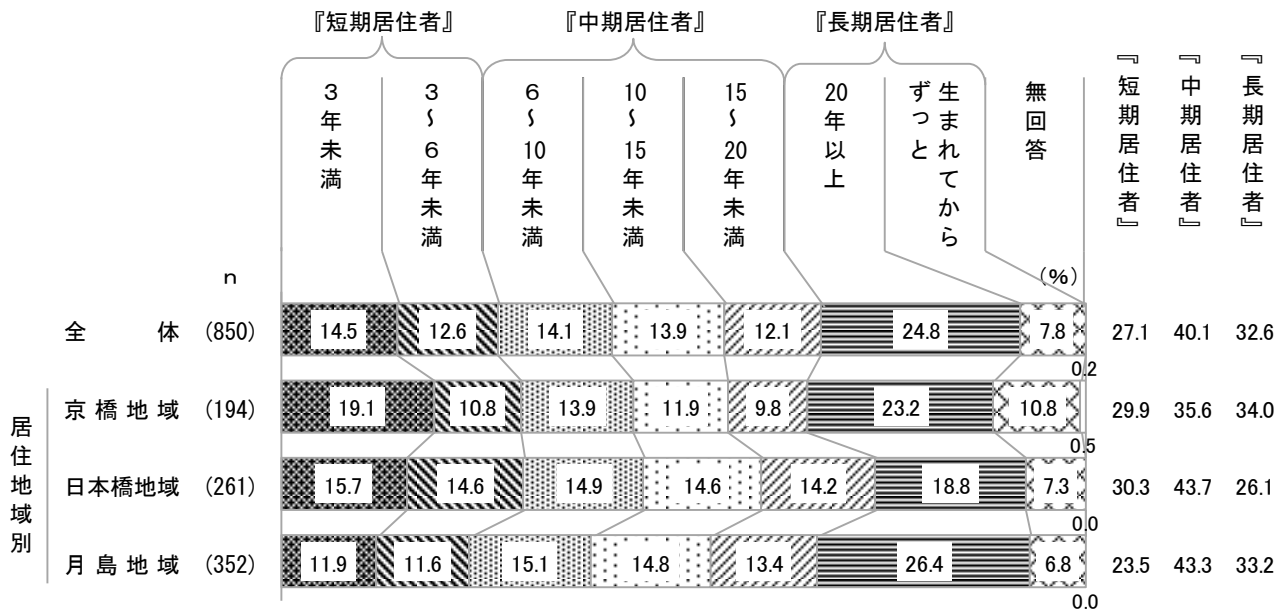
昨年の調査結果と比較すると、『短期居住者』は5.2ポイント減少し、『中期居住者』は4.8ポイント増加している。(図表1-1-2)

図表1-1-2 居住年数一過年度比較



居住地域別でみると、『中期居住者』は日本橋地域と月島地域で4割を超え高くなっている。『長期居住者』は京橋地域で3割台半ばと高くなっている。(図表1-1-3)

図表1-1-3 居住年数-居住地域別



(2) 愛着心

◇愛着を『感じる』人が8割台半ば

問2 あなたは、中央区に対して「わがまち」というような愛着心を感じていますか。
(○は1つ)

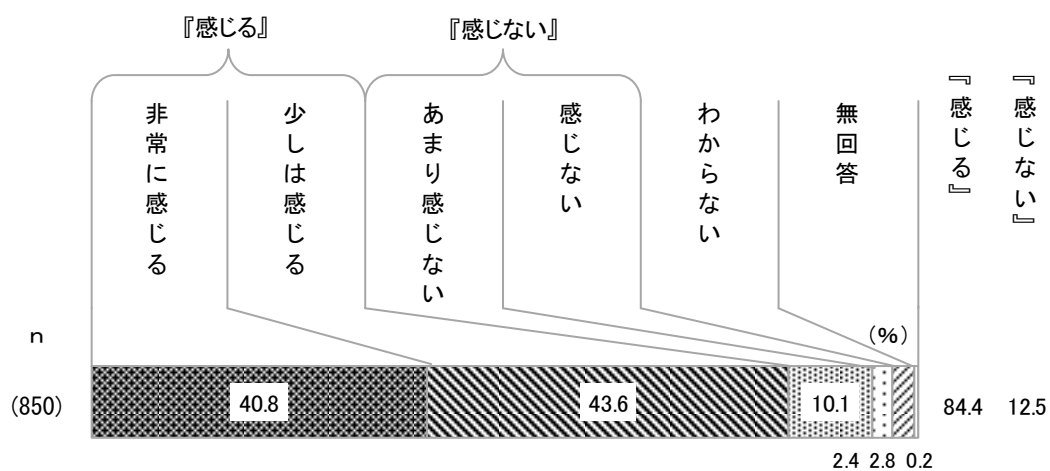
n = 850

1	非常に感じる	40.8%	4	感じない	2.4
2	少しは感じる	43.6	5	わからない	2.8
3	あまり感じない	10.1		(無回答)	0.2

愛着心は、「少しは感じる」(43.6%)が最も高くなっており、「非常に感じる」(40.8%)と合わせた『感じる』(84.4%)は8割台半ばとなっている。

一方、「あまり感じない」(10.1%)と「感じない」(2.4%)を合わせた『感じない』(12.5%)は1割を超えている。(図表1-2-1)

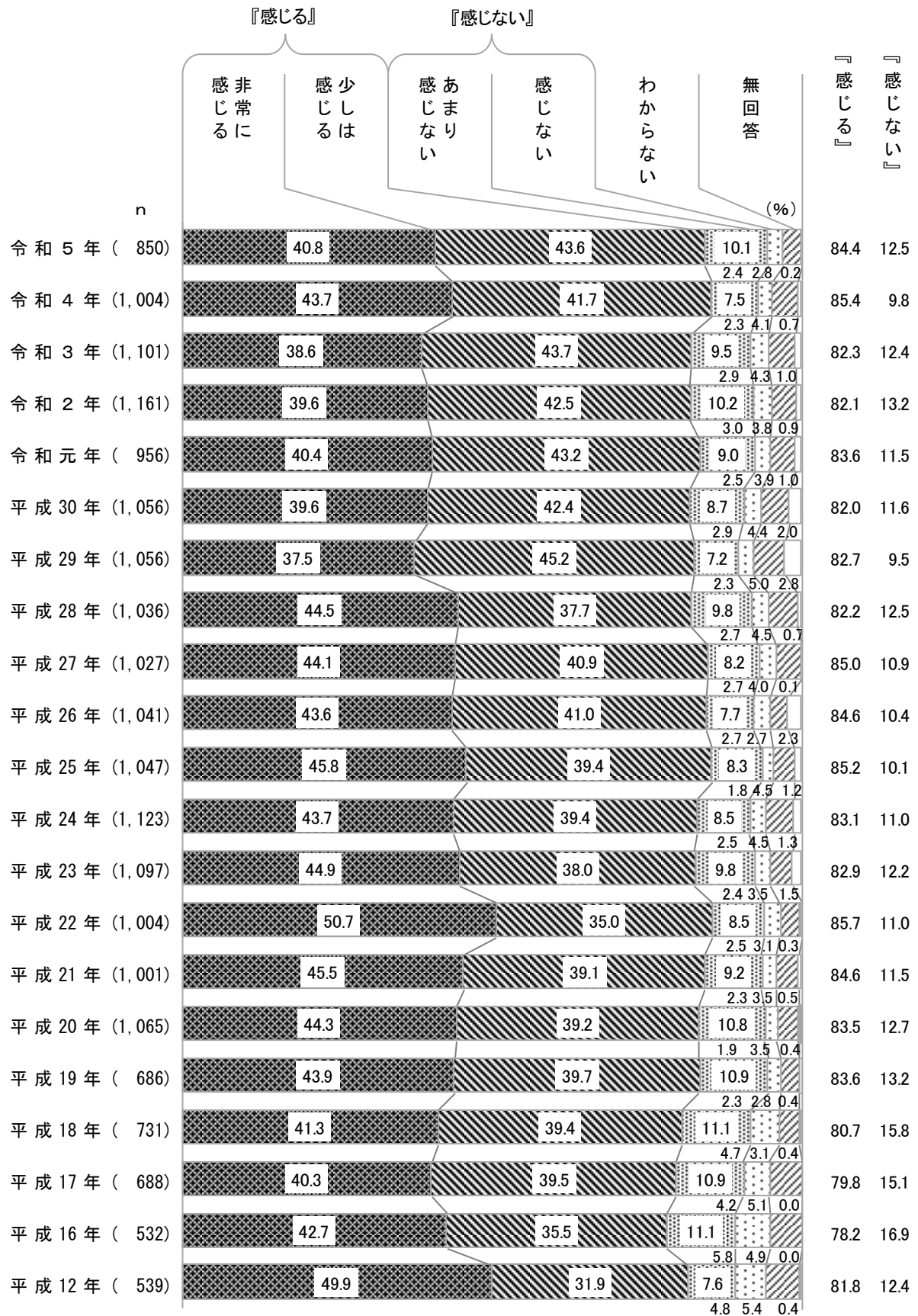
図表1-2-1 愛着心



過去の調査結果と比較すると、『感じる』は平成18年以降8割台で推移している。

(図表1-2-2)

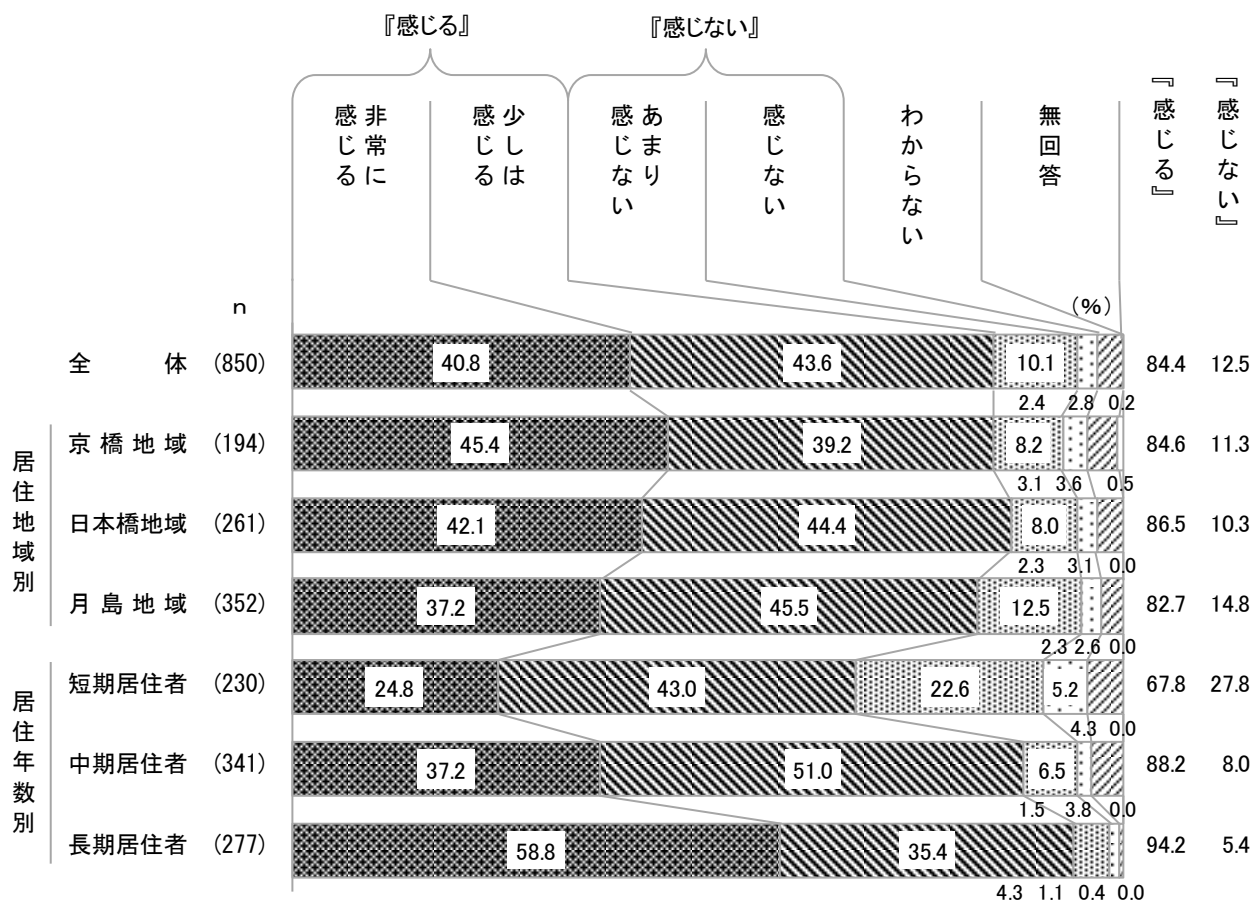
図表1-2-2 愛着心一過年度比較



居住地域別でみると、『感じる』は日本橋地域で9割近くと高くなっている。

居住年数別でみると、『感じる』は長期居住者で9割台半ば、中期居住者で9割近くと高くなっている。(図表1-2-3)

図表1-2-3 愛着心—居住地域別・居住年数別



(3) 定住意向

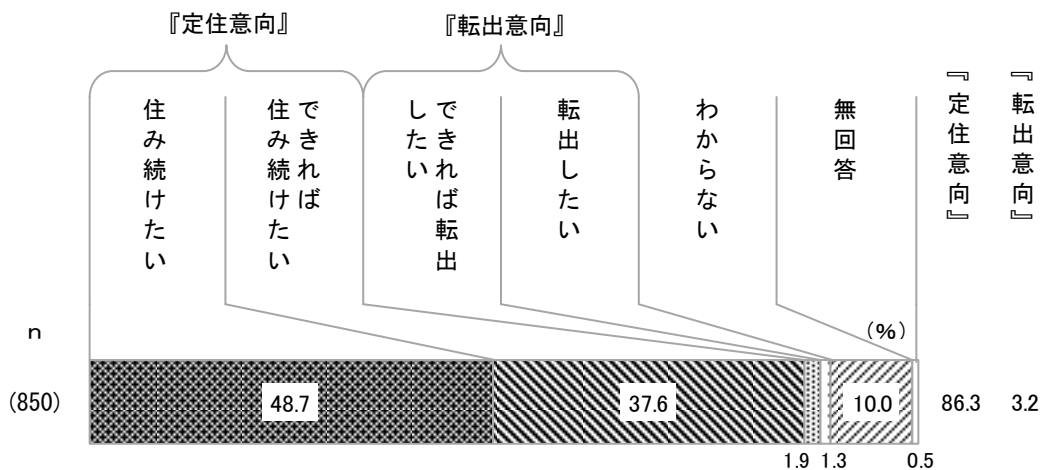
◇『定住意向』が8割台半ば

問3 あなたは、中央区に今後もずっと住みたいと思っていますか。(〇は1つ)				
n = 850				
1	住み続けたい	48.7%	4 転出したい	1.3
2	できれば住み続けたい	37.6	5 わからない	10.0
3	できれば転出したい	1.9	(無回答)	0.5

定住意向は、「住み続けたい」(48.7%)が最も高くなっており、「できれば住み続けたい」(37.6%)と合わせた『定住意向』(86.3%)は8割台半ばとなっている。

一方、「できれば転出したい」(1.9%)と「転出したい」(1.3%)を合わせた『転出意向』(3.2%)は1割に満たない。(図表1-3-1)

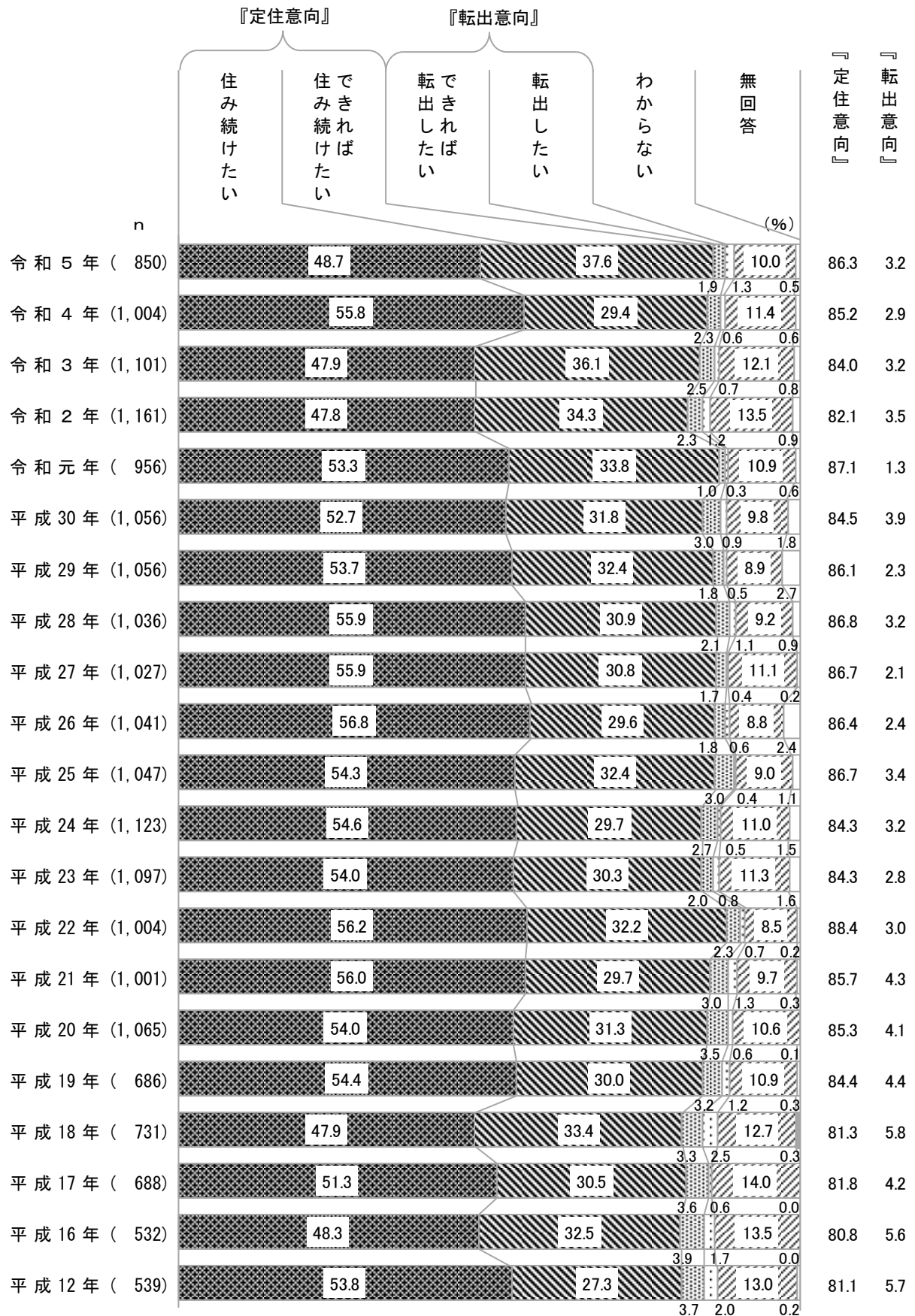
図表1-3-1 定住意向



過去の調査結果と比較すると、『定住意向』は平成12年以降8割台で推移している。

(図表1-3-2)

図表1-3-2 定住意向一過年度比較

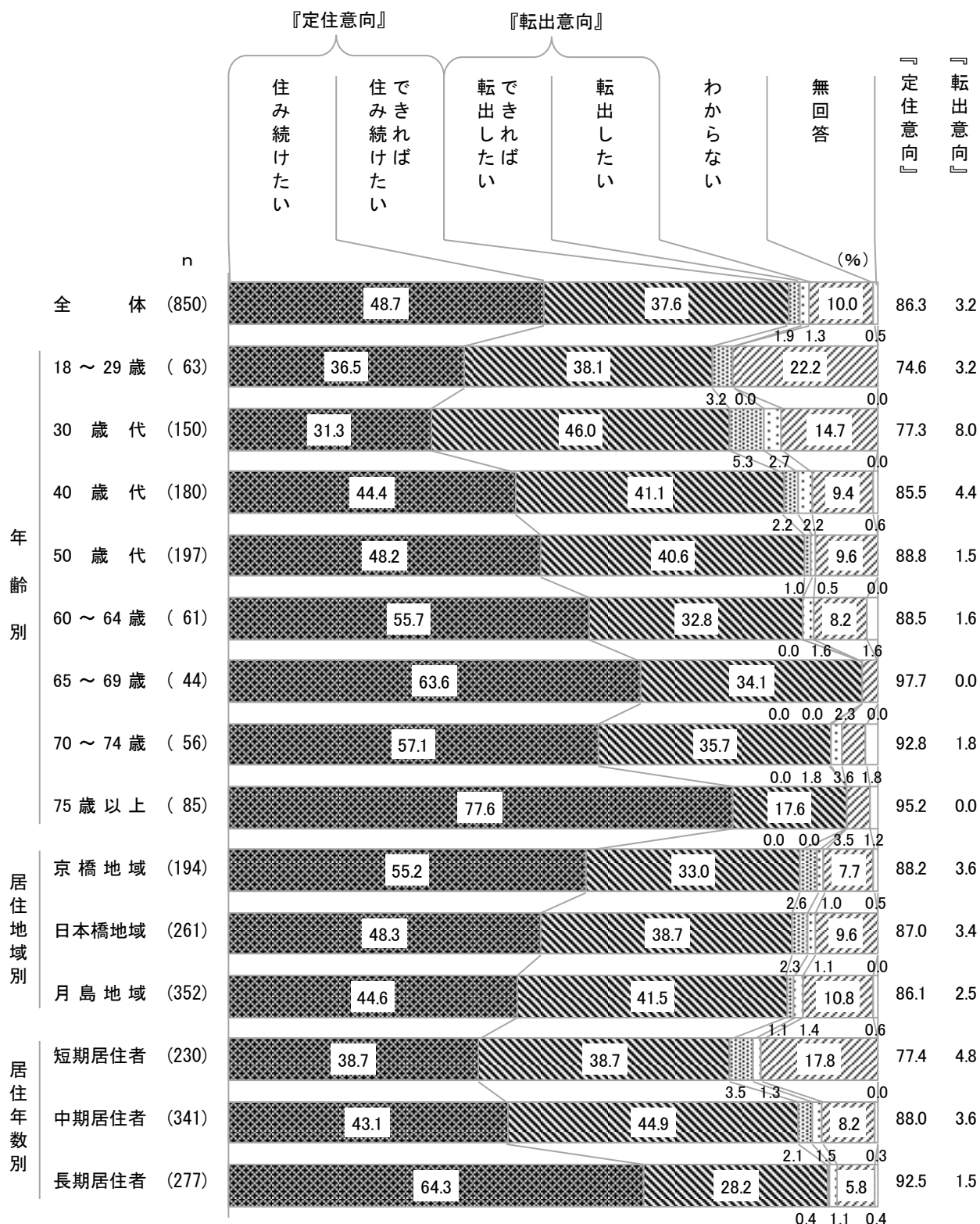


年齢別でみると、『定住意向』は65～69歳と70～74歳、75歳以上で9割台と高くなっている。

居住地域別でみると、『定住意向』は京橋地域と日本橋地域で9割近くと高くなっている。

居住年数別でみると、『定住意向』は長期居住者で9割を超え高くなっている。(図表1-3-3)

図表1-3-3 定住意向一年齢別・居住地域別・居住年数別



【2 防災対策】

(1) 家庭での災害に対する備え

◇「飲料水の備蓄」が約7割

問4 あなたのご家庭では、大地震などの災害が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。(〇はいくつでも)

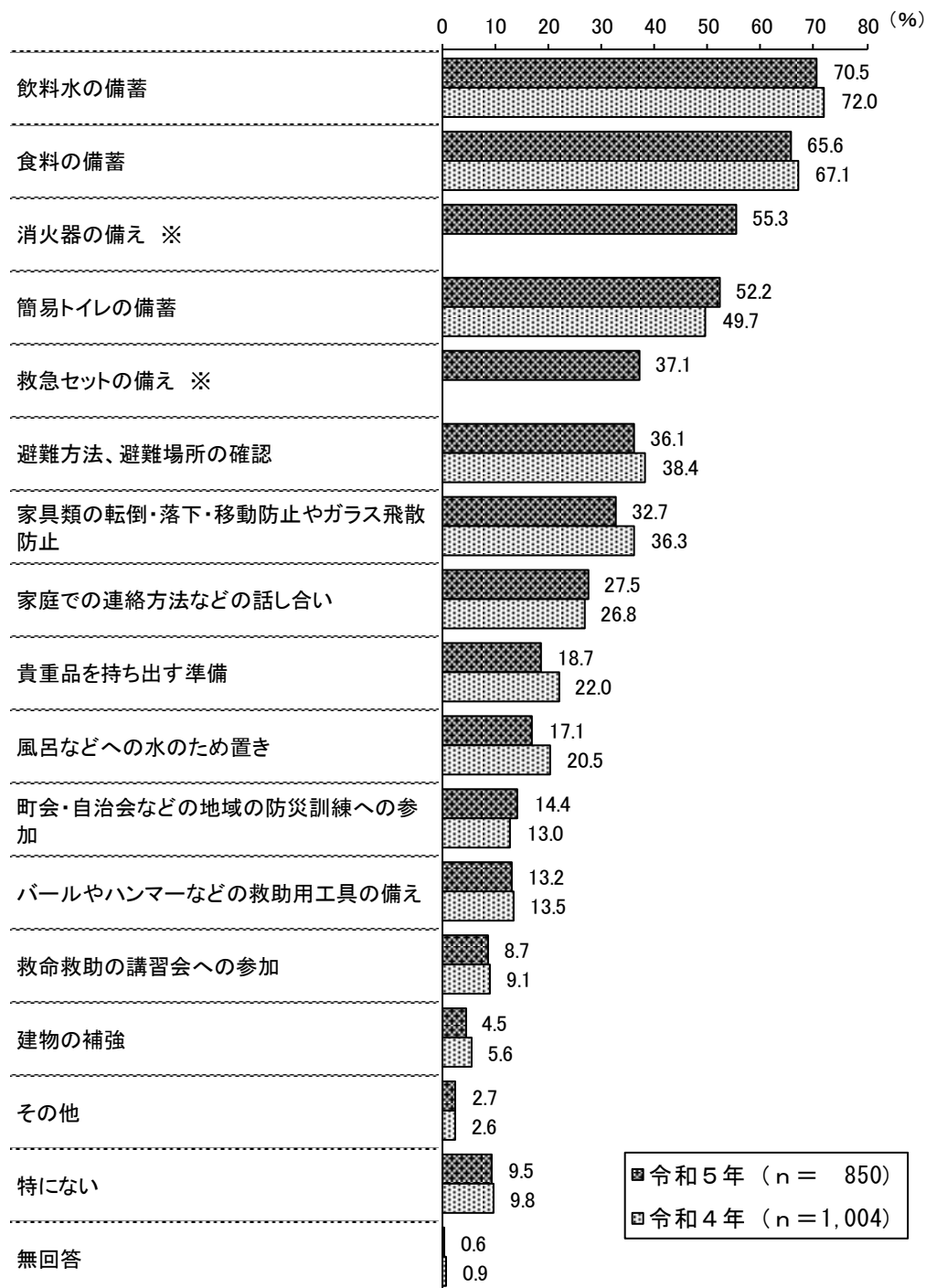
n = 850

1 食料の備蓄	65.6%
2 飲料水の備蓄	70.5
3 簡易トイレの備蓄	52.2
4 家具類の転倒・落下・移動防止やガラス飛散防止	32.7
5 消火器の備え	55.3
6 救急セットの備え	37.1
7 バールやハンマーなどの救助用工具の備え	13.2
8 貴重品を持ち出す準備	18.7
9 風呂などへの水のため置き	17.1
10 救命救助の講習会への参加	8.7
11 町会・自治会などの地域の防災訓練への参加	14.4
12 避難方法、避難場所の確認	36.1
13 家庭での連絡方法などの話し合い	27.5
14 建物の補強	4.5
15 その他	2.7
16 特にない	9.5
(無回答)	0.6

家庭での災害に対する備えは、「飲料水の備蓄」(70.5%)が約7割と最も高くなっている。次いで、「食料の備蓄」(65.6%)、「消火器の備え」(55.3%)、「簡易トイレの備蓄」(52.2%)、「救急セットの備え」(37.1%)、「避難方法、避難場所の確認」(36.1%)などとなっている。一方、「特にない」(9.5%)は1割となっている。

昨年の調査結果と比較すると、「簡易トイレの備蓄」は2.5ポイント増加している。一方、「家具類の転倒・落下・移動防止やガラス飛散防止」は3.6ポイント、「風呂などへの水のため置き」は3.4ポイント、「貴重品を持ち出す準備」は3.3ポイントそれぞれ減少している。(図表2-1-1)

図表2-1-1 家庭での災害に対する備え(複数回答)



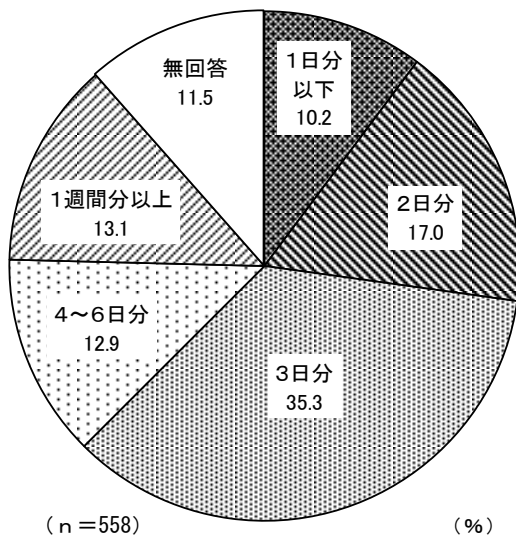
※ 「消火器の備え」「救急セットの備え」の選択肢は、令和4年では「消火器・救急セットなどの備え」としていた。(47.3%)

食料の備蓄日数は、「3日分」(35.3%)が3割台半ばで最も高く、平均備蓄日数は3.75日分となっている。(図表2-1-2)

飲料水の備蓄日数は、「3日分」(27.5%)が3割近くで最も高く、平均備蓄日数は4.51日分となっている。(図表2-1-3)

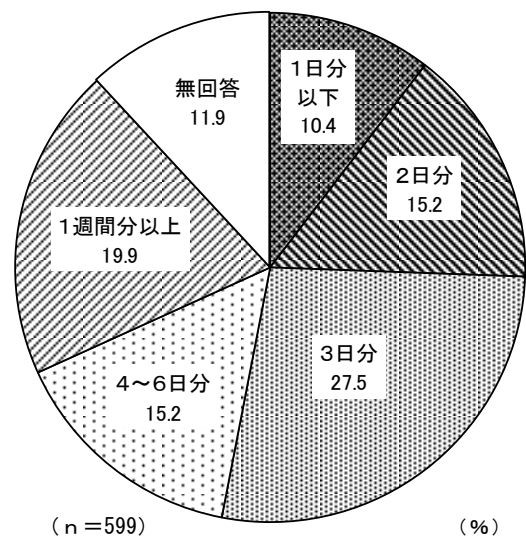
簡易トイレの備蓄日数は、「3日分」(27.9%)が3割近くで最も高く、平均備蓄日数は4.79日分となっている。(図表2-1-4)

図表2-1-2 食料の備蓄日数



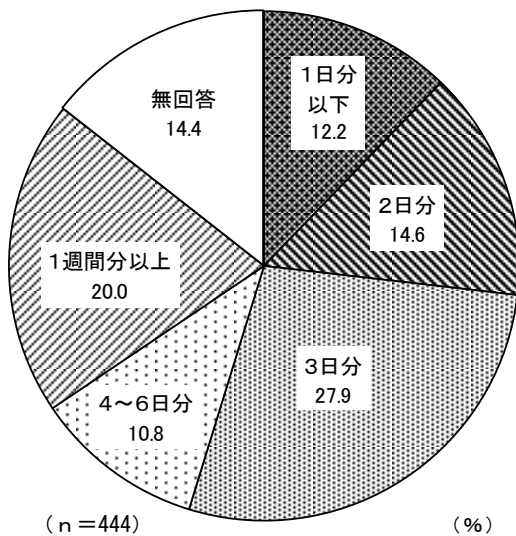
平均備蓄日数 : 3.75日

図表2-1-3 飲料水の備蓄日数



平均備蓄日数 : 4.51日

図表2-1-4 簡易トイレの備蓄日数



平均備蓄日数 : 4.79日

過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「飲料水の備蓄」と「食料の備蓄」が引き続き上位2項目となっている。(図表2-1-5)

図表2-1-5 家庭での災害に対する備え一過年度比較

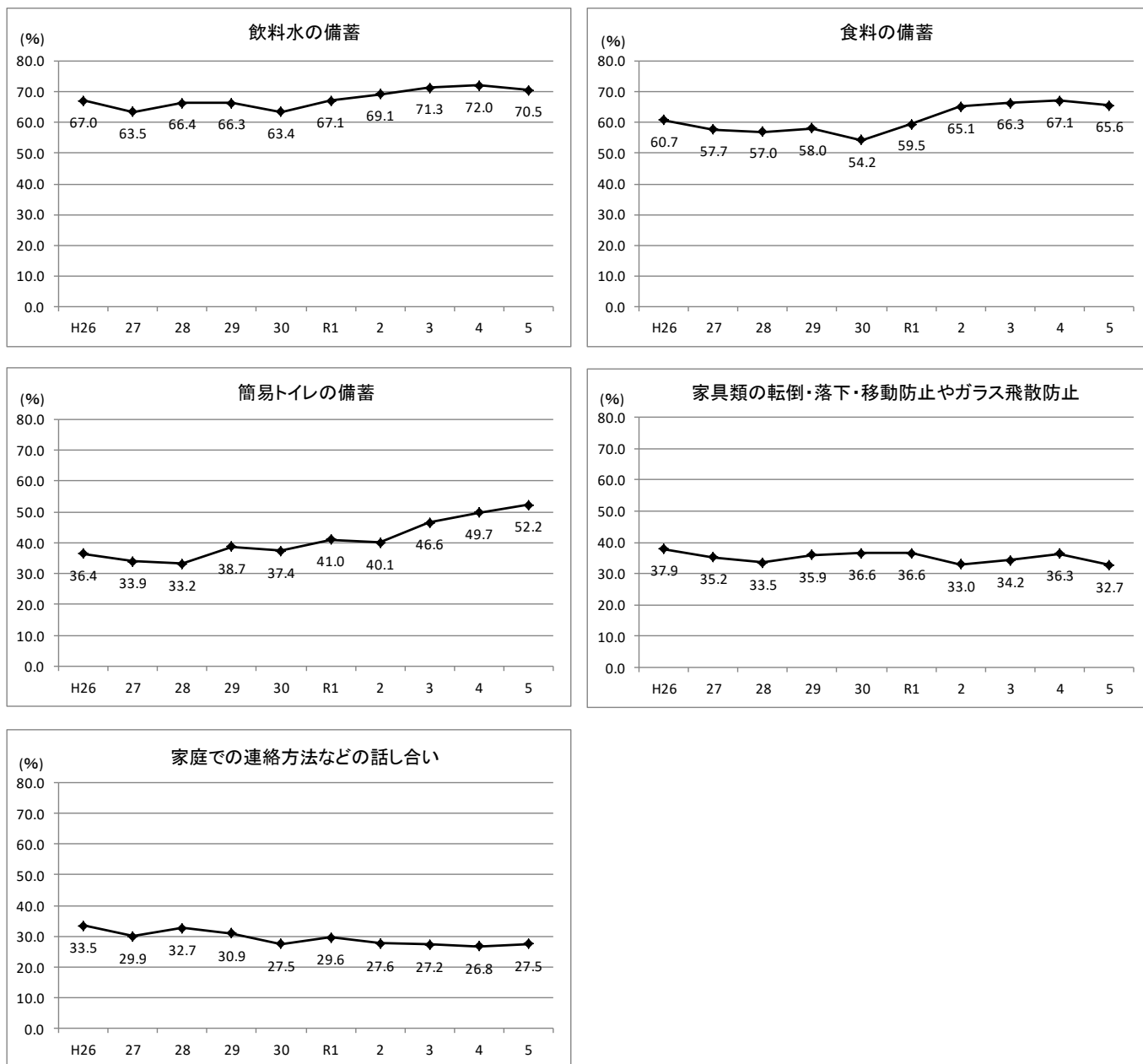
調査年	n	(%)															備え 消火器・救急セットなどの		
		飲料水の備蓄	食料の備蓄	消火器の備え ※	簡易トイレの備蓄	救急セットの備え ※	避難方法、避難場所の確認	家具類の転倒・落下・移動防止やガラス飛散防止	話し合い	家庭での連絡方法などの	貴重品を持ち出す準備	風呂などへの水のため置き	防災訓練への参加	町会・自治会などの地域の	救助用工具の備え	パールやハンマーなどの		救命救助の講習会への参加	建物の補強
令和5年	850	70.5	65.6	55.3	52.2	37.1	36.1	32.7	27.5	18.7	17.1	14.4	13.2	8.7	4.5	2.7	9.5	0.6	※
令和4年	1,004	72.0	67.1	※	49.7	※	38.4	36.3	26.8	22.0	20.5	13.0	13.5	9.1	5.6	2.6	9.8	0.9	47.3
令和3年	1,101	71.3	66.3	※	46.6	※	38.3	34.2	27.2	22.4	20.7	11.3	11.7	6.7	4.6	1.8	8.7	1.7	50.6
令和2年	1,161	69.1	65.1	※	40.1	※	34.4	33.0	27.6	20.2	17.6	13.6	11.6	9.3	4.2	2.1	11.8	1.3	45.4
令和元年	956	67.1	59.5	※	41.0	※	35.7	36.6	29.6	21.2	19.5	15.5	12.9	12.6	4.6	2.6	11.0	1.3	49.5
平成30年	1,056	63.4	54.2	※	37.4	※	33.0	36.6	27.5	18.8	18.2	15.2	11.0	11.4	5.0	2.3	12.5	1.8	46.6
平成29年	1,056	66.3	58.0	※	38.7	※	32.2	35.9	30.9	21.1	20.5	15.4	12.5	10.9	4.7	1.2	11.9	2.7	47.7
平成28年	1,036	66.4	57.0	※	33.2	※	36.0	33.5	32.7	19.6	23.5	16.0	12.5	12.7	4.5	2.6	11.1	1.1	44.8
平成27年	1,027	63.5	57.7	※	33.9	※	35.3	35.2	29.9	23.8	20.4	16.6	11.3	10.5	5.6	2.5	14.4	0.5	47.0
平成26年	1,041	67.0	60.7	※	36.4	※	37.7	37.9	33.5	22.1	25.5	16.8	12.5	14.2	4.0	2.5	10.2	3.4	50.1
平成25年	1,047	67.1	60.6	※	30.0	※	36.9	37.0	34.7	24.7	28.5	18.6	13.1	11.2	4.8	3.1	8.8	1.5	49.5
平成24年	1,123	67.7	58.9	※	23.5	※	35.5	40.1	36.2	26.2	27.0	16.5	13.1	11.0	4.2	2.2	9.0	1.8	51.6
平成23年	1,097	63.1	51.0	※	19.3	※	30.5	36.7	35.1	31.6	28.4	11.5	8.5	6.2	2.3	1.9	7.1	2.0	39.5
平成22年	1,004	42.8	37.3	※	※	※	26.7	※	21.2	17.5	21.8	16.6	6.7	7.2	5.8	1.9	19.9	2.0	39.5
平成21年	1,001	41.0	36.4	※	※	※	24.3	21.0	23.1	13.4	19.9	14.2	4.7	7.5	3.0	0.9	20.3	1.4	37.2
平成20年	1,065	41.1	24.8	※	※	※	29.6	23.6	26.1	11.0	19.5	14.3	4.2	6.5	2.1	1.6	20.5	1.9	31.7
平成19年	686	42.6	26.5	※	※	※	24.3	21.3	16.9	12.8	22.6	14.0	4.5	6.0	1.6	0.7	25.8	0.7	36.7

- * 太枠内が今回の調査の選択肢。
- * ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。
- * 「家具類の転倒・落下・移動防止やガラス飛散防止」の選択肢は、令和2年以前は「家具類の転倒防止」としていた。
- * 「消火器の備え」、「救急セットの備え」の選択肢は、令和4年以前は「消火器・救急セットなどの備え」としていた。

「飲料水の備蓄」、「食料の備蓄」、「簡易トイレの備蓄」、「家具類の転倒・落下・移動防止やガラス飛散防止」、「家庭での連絡方法などの話し合い」について過去の調査結果と比較すると、「簡易トイレの備蓄」は増加傾向にあり、「飲料水の備蓄」、「食料の備蓄」、「家具類の転倒・落下・移動防止やガラス飛散防止」、「家庭での連絡方法などの話し合い」は横ばいで推移している。

(図表 2-1-6)

図表 2-1-6 家庭での災害に対する備え一過年度比較



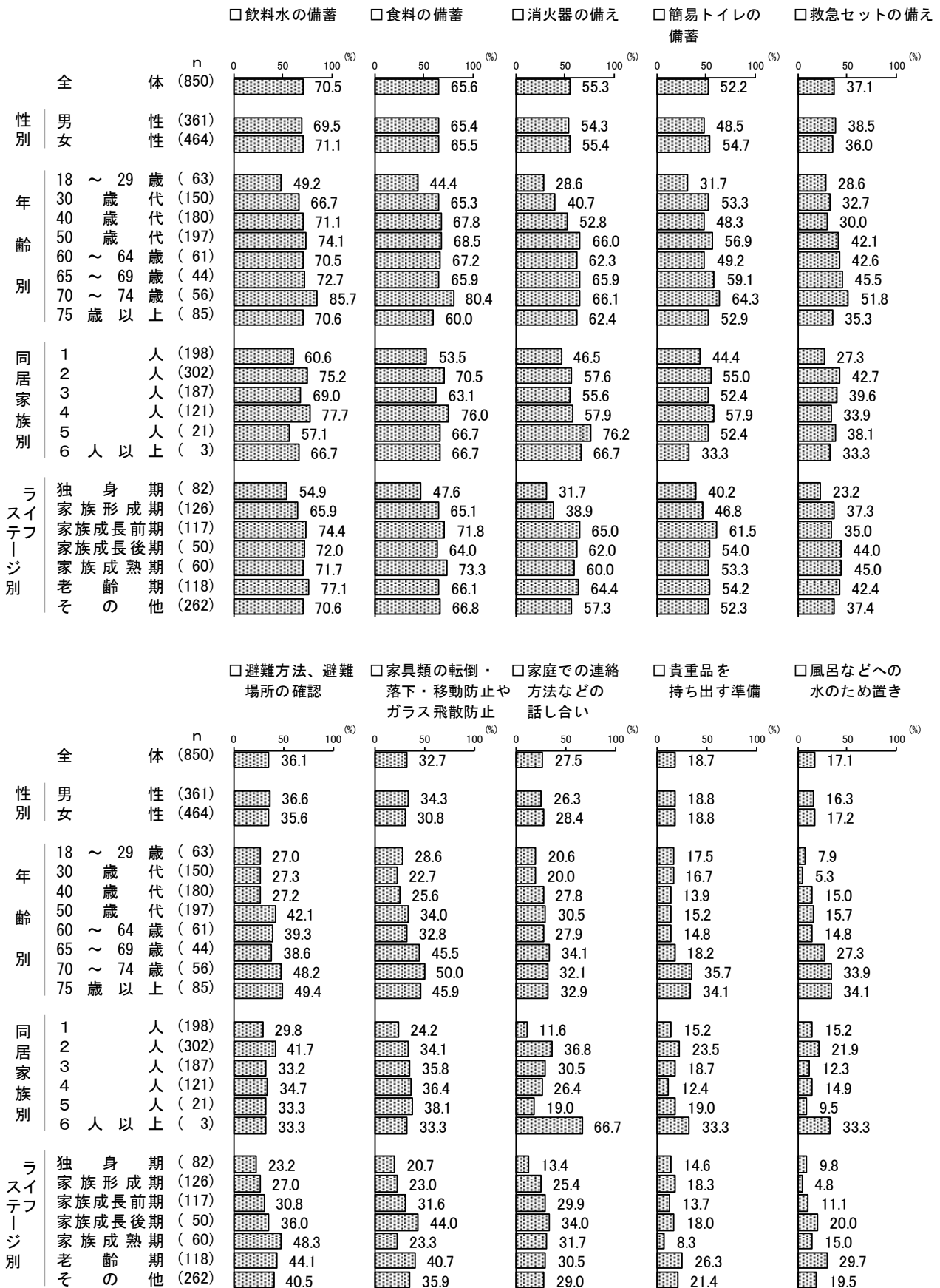
性別でみると、男性の方が女性よりも「家具類の転倒・落下・移動防止やガラス飛散防止」で3.5ポイント、「救急セットの備え」で2.5ポイント、それぞれ高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「簡易トイレの備蓄」で6.2ポイント、「家庭での連絡方法などの話し合い」で2.1ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「飲料水の備蓄」は70～74歳で8割台半ばと高くなっている。「食料の備蓄」は70～74歳で8割と高くなっている。「消火器の備え」は50歳代、65～69歳、70～74歳で6割台半ばと高くなっている。「簡易トイレの備蓄」は70～74歳で6割台半ばと高くなっている。

同居家族別でみると、「飲料水の備蓄」は同居家族4人で8割近くと高くなっている。「消火器の備え」は同居家族5人で7割台半ばと高くなっている。

ライフステージ別でみると、「飲料水の備蓄」は老齢期で8割近くと高くなっている。「食料の備蓄」は家族成熟期と家族成長前期で7割を超え高くなっている。(図表2-1-7)

図表 2-1-7 家庭での災害に対する備えー性別・年齢別・同居家族別・ライフステージ別
(上位10項目)



(2) 防災拠点の認知度

◇「知っている」が6割台半ば

問5 区では区立の小・中学校などを「防災拠点」とし、食料や毛布などの備蓄や井戸を整備しています。この「防災拠点」は避難所や救護所などの機能を持っています。
あなたは、ご自分の地域の「防災拠点」を知っていますか。(〇は1つ)

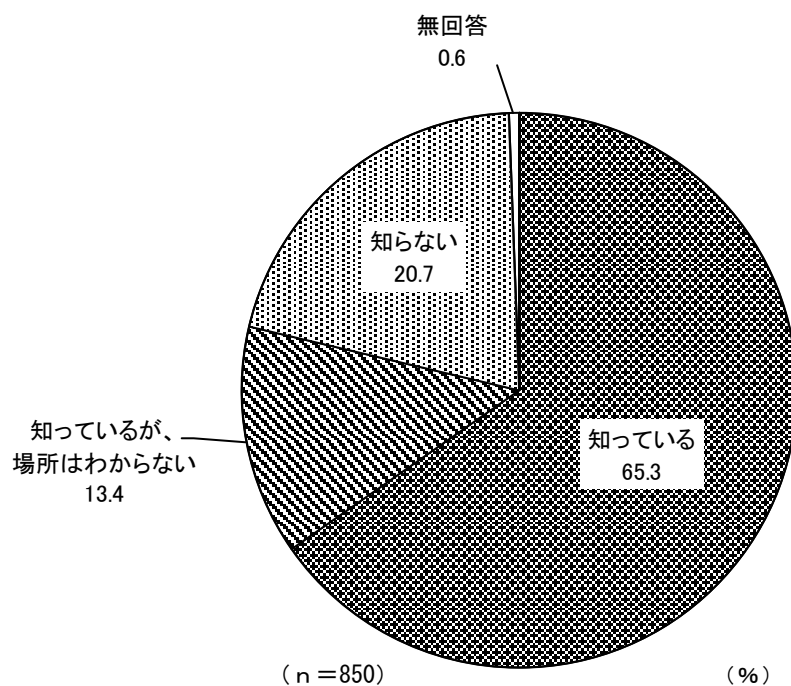
n = 850

1	知っている	65.3%	3	知らない	20.7
2	知っているが、場所はわからない	13.4		(無回答)	0.6

防災拠点の認知度は、「知っている」(65.3%)が6割台半ばで最も高くなっている。「知っているが、場所はわからない」(13.4%)は1割を超え、「知らない」(20.7%)は約2割となっている。

(図表2-2-1)

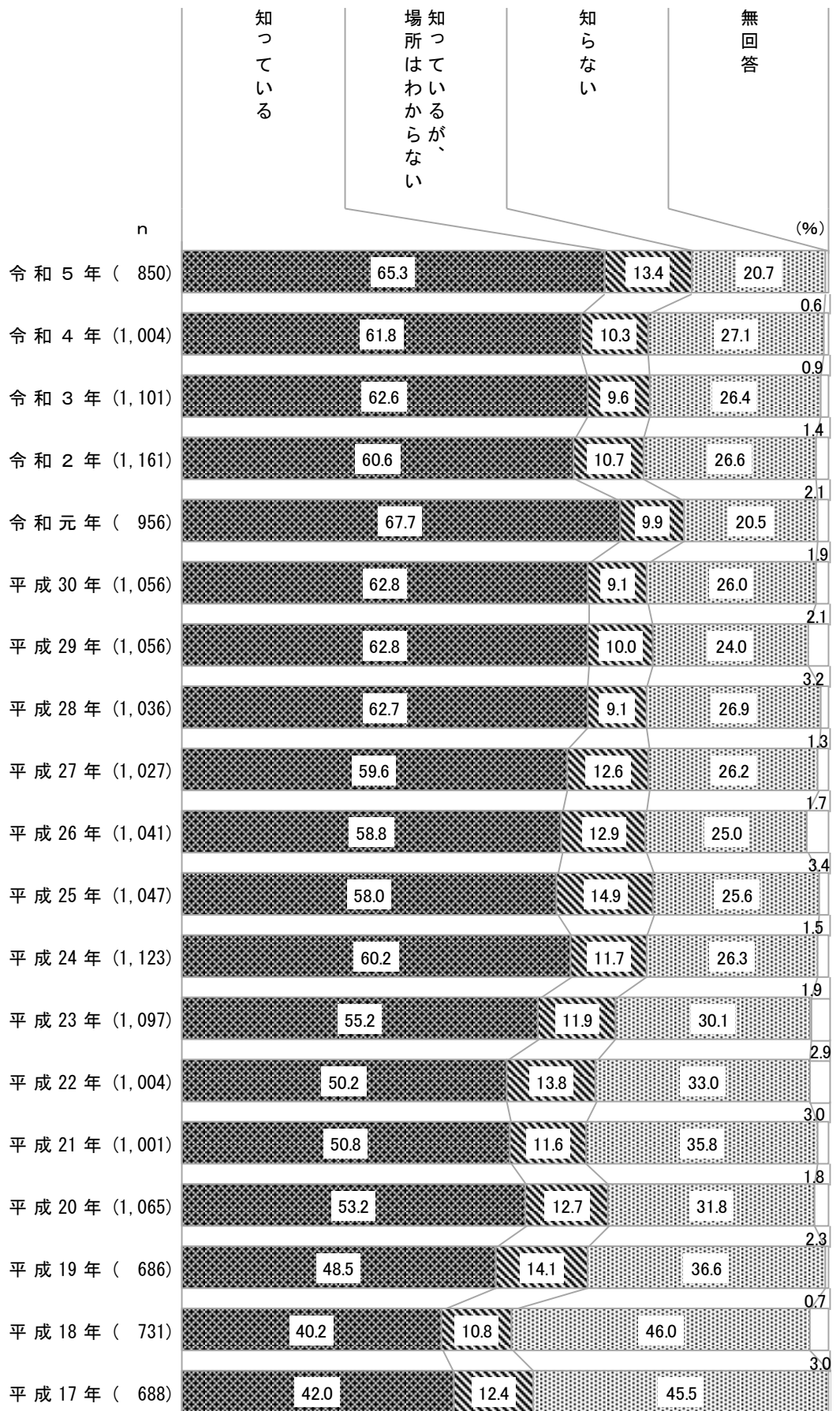
図表2-2-1 防災拠点の認知度



過去の調査結果と比較すると、「知っている」は平成28年以降6割台で推移している。

(図表2-2-2)

図表2-2-2 防災拠点の認知度一過年度比較

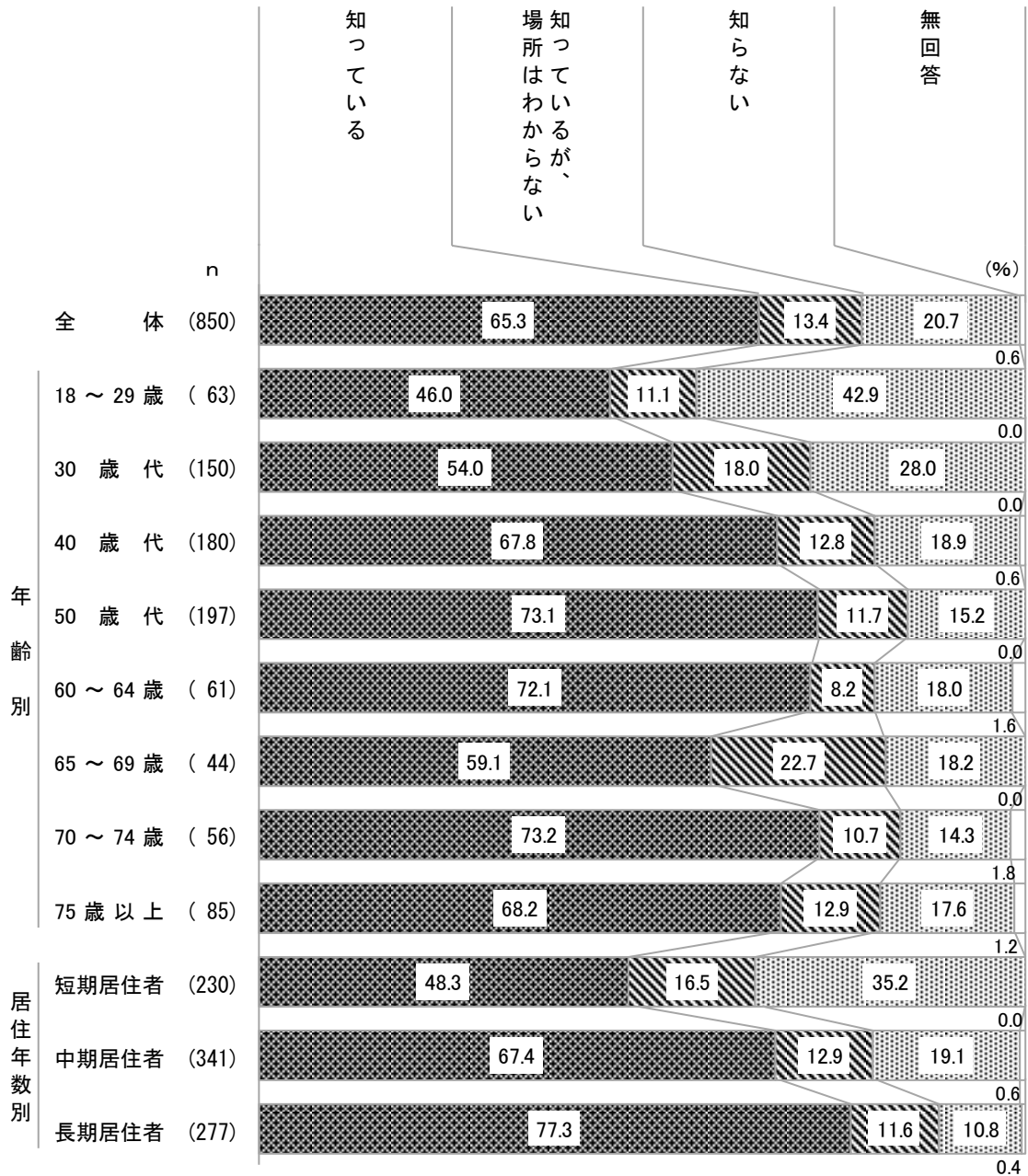


年齢別でみると、「知っている」は50歳代、60～64歳、70～74歳で7割を超えて高くなっている。

居住年数別でみると、「知っている」は長期居住者で8割近くと高くなっている。

(図表2-2-3)

図表2-2-3 防災拠点の認知度—年齢別・居住年数別



(3) 災害に備えた地域の協力体制

◇「知っている」が2割を超える

(問5で、「1 知っている」または「2 知っているが、場所はわからない」とお答えの方に)
問5-1 この防災拠点の災害時の運営を円滑に進めるため、町会・自治会や防災区民組織が
防災拠点運営委員会をつくり、防災訓練の実施や日頃から防災について話し合うなど、
災害に備えた協力体制をとっていることをあなたは知っていますか。(〇は1つ)

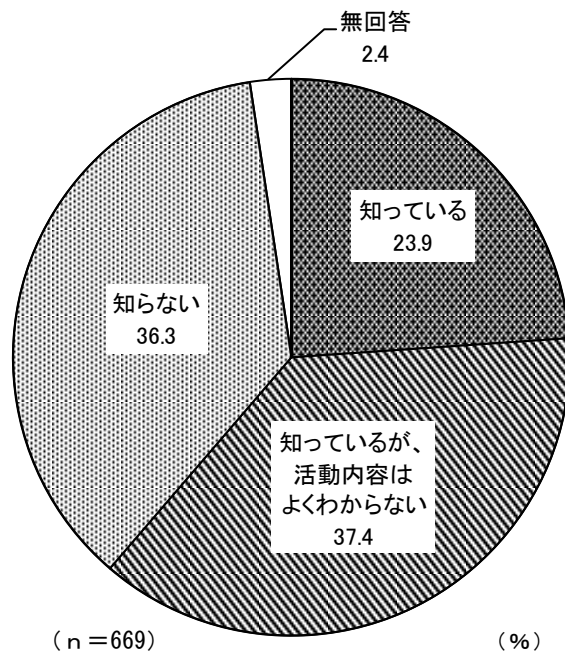
n = 669

1 知っている	23.9%	3 知らない	36.3
2 知っているが、活動内容はよくわからない	37.4	(無回答)	2.4

問5で、「知っている」または「知っているが、場所はわからない」と回答した方の、災害に備えた地域の協力体制は、「知っている」(23.9%)が2割を超えている。「知っているが、活動内容はよくわからない」(37.4%)は4割近く、「知らない」(36.3%)は3割台半ばとなっている。

(図表2-3-1)

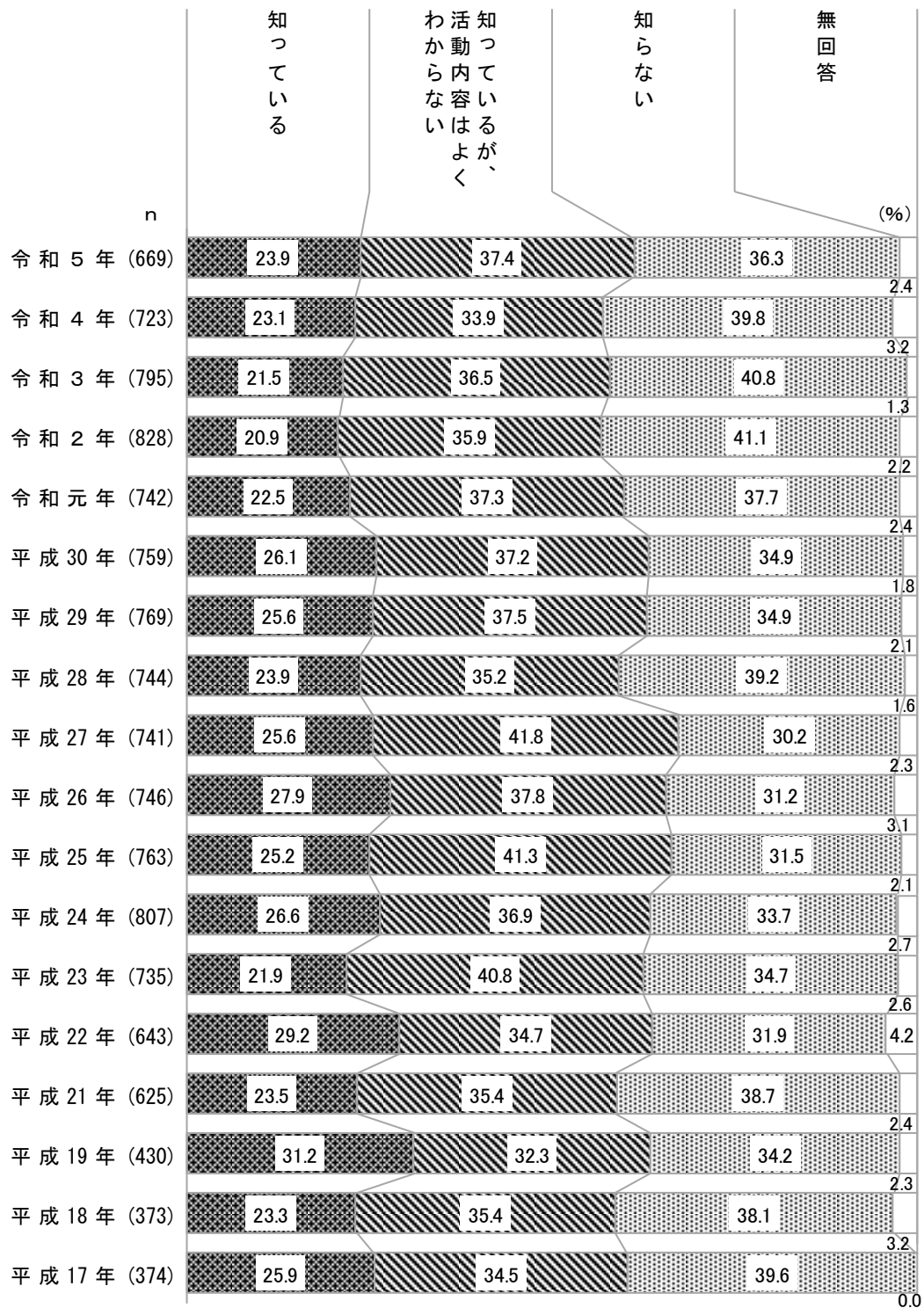
図表2-3-1 災害に備えた地域の協力体制



過去の調査結果と比較すると、「知っている」は令和2年以降増加傾向がみられる。

(図表2-3-2)

図表2-3-2 災害に備えた地域の協力体制一過年度比較



(4) 災害時に協力したいと思う活動

◇「救援物資の仕分けなどの防災活動への協力」が5割台半ば

問6 大震災などの災害が起こったら、お住まいの近くで、あなたが協力したいと思う活動には何がありますか。(〇はいくつでも)

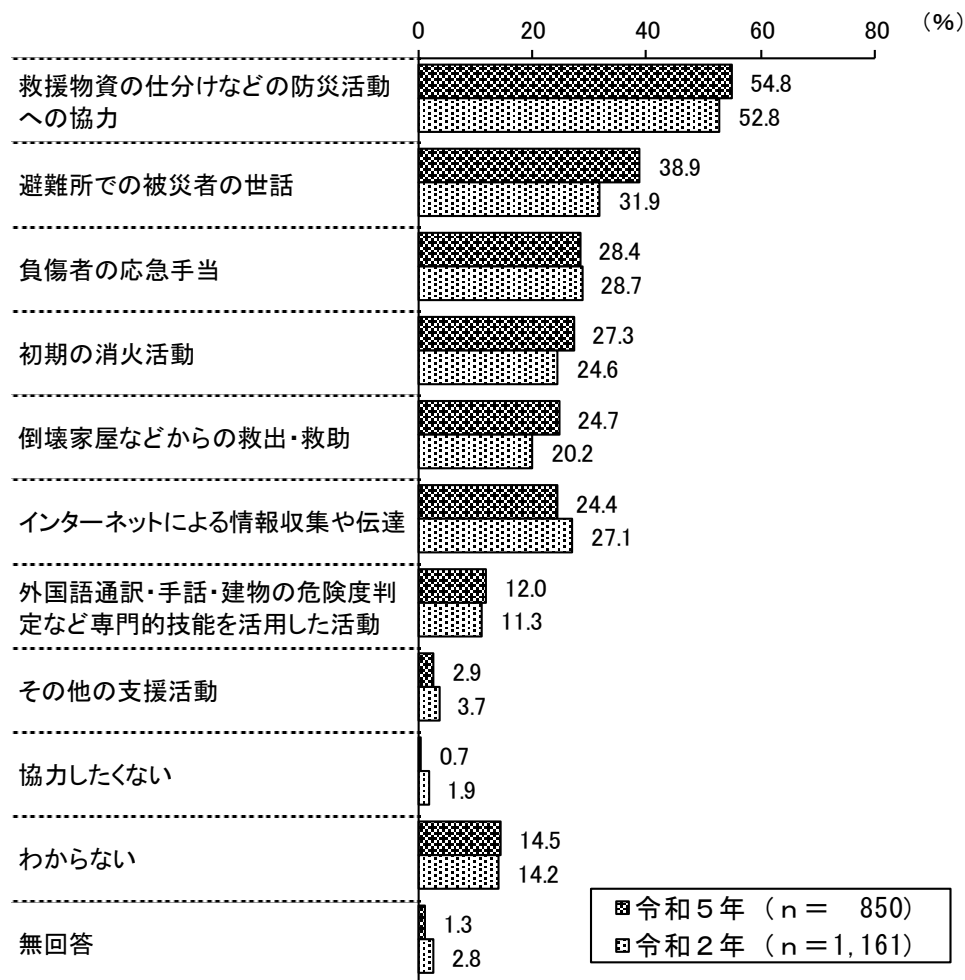
n = 850

1	負傷者の応急手当	28.4%
2	倒壊家屋などからの救出・救助	24.7
3	初期の消火活動	27.3
4	避難所での被災者の世話	38.9
5	救援物資の仕分けなどの防災活動への協力	54.8
6	外国語通訳・手話・建物の危険度判定など専門的スキルを活用した活動	12.0
7	インターネットによる情報収集や伝達	24.4
8	その他の支援活動	2.9
9	協力したくない	0.7
10	わからない	14.5
	(無回答)	1.3

災害時に協力したいと思う活動は、「救援物資の仕分けなどの防災活動への協力」(54.8%)が5割台半ばで最も高くなっている。次いで、「避難所での被災者の世話」(38.9%)、「負傷者の応急手当」(28.4%)、「初期の消火活動」(27.3%)、「倒壊家屋などからの救出・救助」(24.7%)などとなっている。

令和2年の調査結果と比較すると、「避難所での被災者の世話」は7.0ポイント、「倒壊家屋などからの救出・救助」は4.5ポイント、「初期の消火活動」は2.7ポイント、それぞれ増加している。一方、「インターネットによる情報収集や伝達」は2.7ポイント減少している。(図表2-4-1)

図表2-4-1 災害時に協力したいと思う活動(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、平成30年以前の調査では、いずれも災害時に協力できると思う活動について質問していたため、単純に比較することはできないが、「救援物資の仕分けなどの防災活動への協力」と「避難所での被災者の世話」が上位2項目となっている傾向に違いはみられない。

(図表2-4-2)

図表2-4-2 災害時に協力したいと思う活動一過年度比較

調査年	n	(%)											
		救援物資の仕分けなどの協力	避難所での被災者の世話	負傷者の応急手当	初期の消火活動	倒壊家屋などからの救出・救助	インターネットによる情報収集や伝達	危険度判定など専門的技術を活用した活動	外国語通訳・手話・建物の危険度判定など専門的技術の活用	その他の支援活動	協力したくない	わからない	無回答
令和5年	850	54.8	38.9	28.4	27.3	24.7	24.4	12.0	2.9	0.7	14.5	1.3	※
令和2年	1,161	52.8	31.9	28.7	24.6	20.2	27.1	11.3	3.7	1.9	14.2	2.8	※
令和元年	956	53.1	36.0	29.2	26.3	24.5	22.1	14.0	4.7	0.7	13.7	3.2	※
平成30年	1,056	53.7	41.8	24.1	29.7	19.8	30.0	13.0	2.7	※	8.7	1.1	8.2
平成29年	1,056	57.3	42.1	22.1	29.0	22.0	23.6	11.9	2.5	※	9.8	1.9	8.0
平成28年	1,036	59.6	42.6	23.7	33.0	23.4	24.1	11.3	4.3	※	7.3	1.3	8.6
平成27年	1,027	55.6	46.5	25.0	35.5	26.2	23.7	11.9	3.4	※	10.4	1.9	8.5
平成26年	1,041	54.9	46.2	23.2	34.7	23.7	26.1	10.1	4.0	※	8.3	2.8	6.8
平成25年	1,047	59.9	48.2	26.2	34.6	26.4	25.0	10.5	3.2	※	7.2	1.5	7.1
平成24年	1,123	55.2	45.2	25.4	34.6	25.7	23.1	9.9	3.8	※	7.1	2.0	6.7
平成23年	1,097	61.7	50.9	23.3	33.2	23.8	28.1	10.9	3.4	※	6.2	2.0	7.5
平成22年	1,004	49.0	41.9	27.0	35.7	23.6	19.1	8.6	1.9	※	8.3	1.9	11.1
平成21年	1,001	52.2	41.2	27.4	35.0	25.1	17.8	9.0	1.3	※	10.1	1.6	10.8
平成20年	1,065	52.2	39.3	22.4	33.4	24.5	15.9	7.8	1.5	※	11.2	2.5	8.5
平成19年	686	43.6	41.5	31.3	37.5	29.5	15.6	5.6	1.9	※	10.1	1.6	8.5

* 太枠内が今回の調査の選択肢。

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

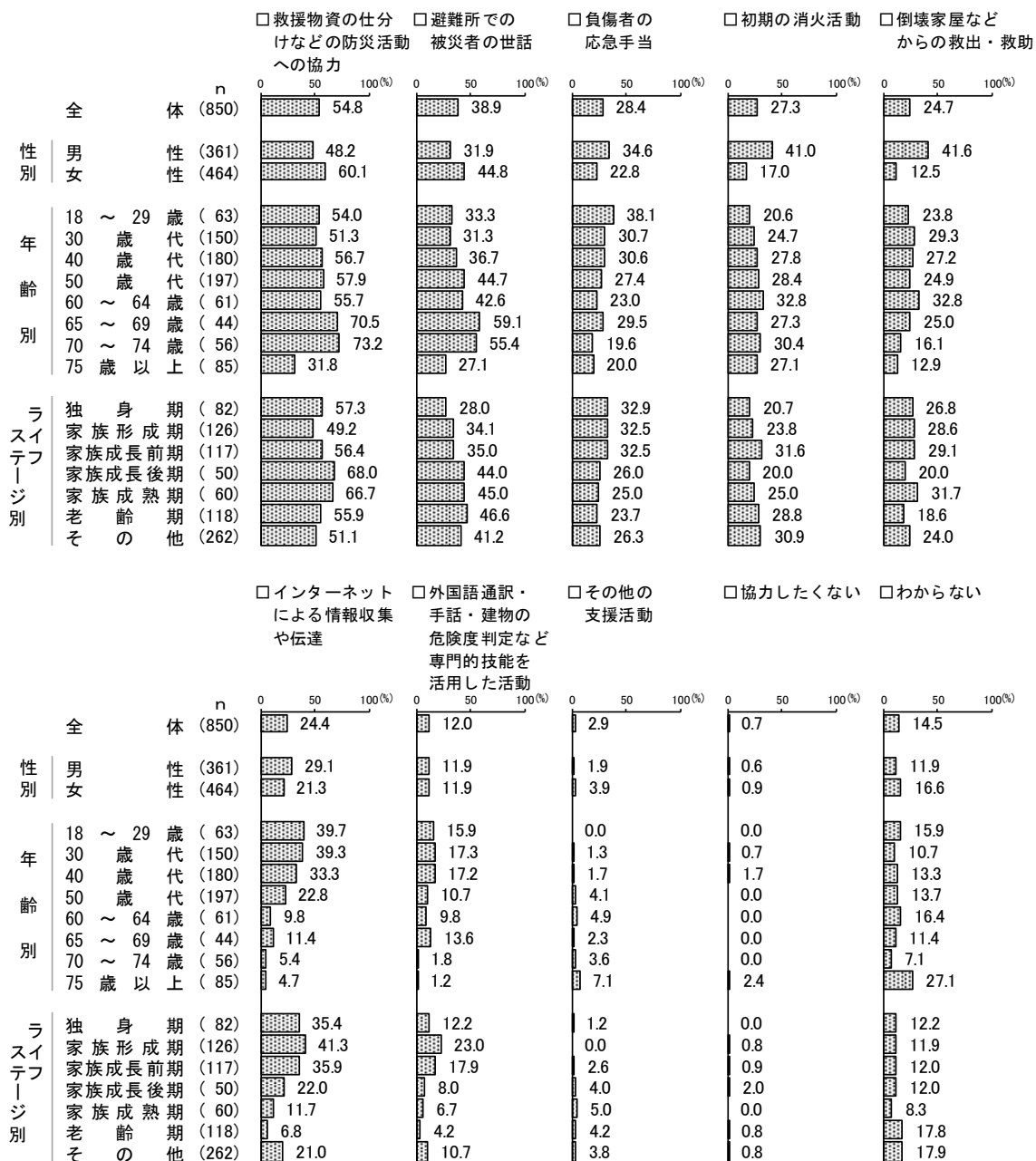
* 平成30年以前は、「大震災などの災害が起こったら、お住いの近くであなたが協力できると思う活動には何がありますか。(〇はいくつでも)と質問していた。

性別でみると、男性の方が女性よりも「倒壊家屋などからの救出・救助」で29.1ポイント、「初期の消火活動」で24.0ポイント、「負傷者の応急手当」で11.8ポイント、「インターネットによる情報収集や伝達」で7.8ポイントそれぞれ高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「避難所での被災者の世話」で12.9ポイント、「救援物資の仕分けなどの防災活動への協力」で11.9ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「救援物資の仕分けなどの防災活動への協力」は70～74歳で7割を超えて高くなっている。「避難所での被災者の世話」は65～69歳で約6割と高くなっている。「インターネットによる情報収集や伝達」はおおむね低い年代ほど割合が高くなっており、18～29歳と30歳代で約4割と高くなっている。

ライフステージ別でみると、「救援物資の仕分けなどの防災活動への協力」は家族成長後期と家族成熟期で7割近くと高くなっている。「避難所での被災者の世話」は老齢期で5割近くと高くなっている。(図表2-4-3)

図表2-4-3 災害時に協力したいと思う活動—性別・年齢別・ライフステージ別



(5) 災害情報を得る手段として有効だと思うもの

◇「インターネット」が6割近く

問7 災害時に区内の災害情報を得る手段として、一般のテレビ・ラジオ以外にあなたが有効だと思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

n = 850

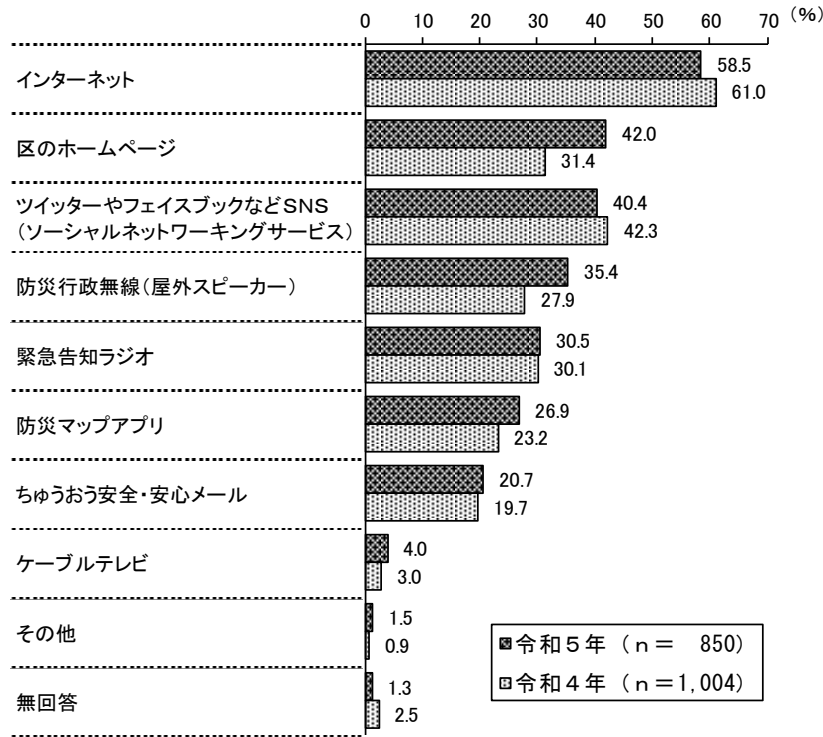
1	区のホームページ	42.0%
2	防災マップアプリ	26.9
3	ちゅうおう安全・安心メール	20.7
4	インターネット	58.5
5	ツイッターやフェイスブックなどSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)	40.4
6	防災行政無線(屋外スピーカー)	35.4
7	緊急告知ラジオ*	30.5
8	ケーブルテレビ	4.0
9	その他	1.5
	(無回答)	1.3

(※) 緊急告知ラジオ 大きな地震や水害など緊急を要する災害の発生時に自動的に電源が入り、災害情報や避難情報などの緊急放送を受信できるラジオです。区では、平成23年度より区民の皆さんへ有償頒布を実施しています。

災害情報を得る手段として有効だと思うものは、「インターネット」(58.5%)が6割近くで最も高くなっている。次いで、「区のホームページ」(42.0%)、「ツイッターやフェイスブックなどSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)」(40.4%)、「防災行政無線(屋外スピーカー)」(35.4%)、「緊急告知ラジオ」(30.5%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「区のホームページ」は10.6ポイント、「防災行政無線（屋外スピーカー）」は7.5ポイント、それぞれ増加している。一方、「インターネット」は2.5ポイント減少している。（図表2-5-1）

図表2-5-1 災害情報を得る手段として有効だと思うもの（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「インターネット」は平成27年以降5割以上で推移している。（図表2-5-2）

図表2-5-2 災害情報を得る手段として有効だと思うもの一過年度比較

調査年	n	インターネット	区のホームページ	ツイッターやフェイスブックなどSNS (ソーシャルネットワーキングサービス)	防災行政無線(屋外スピーカー)	緊急告知ラジオ	防災マップアプリ	ちゅうおう安全・安心メール	ケーブルテレビ	その他	無回答
令和5年	850	58.5	42.0	40.4	35.4	30.5	26.9	20.7	4.0	1.5	1.3
令和4年	1,004	61.0	31.4	42.3	27.9	30.1	23.2	19.7	3.0	0.9	2.5
令和3年	1,101	53.0	42.6	39.0	33.8	28.7	27.2	22.2	3.8	2.5	2.3
令和2年	1,161	56.2	35.8	40.7	33.0	32.6	24.7	22.0	3.9	1.3	2.5
令和元年	956	51.4	28.7	36.3	38.1	36.1	25.2	20.6	3.8	1.9	3.9
平成30年	1,056	54.6	29.9	38.9	37.2	37.3	19.0	18.4	6.0	1.8	3.2
平成29年	1,056	52.0	26.9	38.9	38.8	42.0	※	19.0	4.6	1.8	3.0
平成28年	1,036	52.7	27.5	38.3	40.6	40.2	※	18.5	6.9	2.4	2.2
平成27年	1,027	50.1	28.6	31.6	39.6	42.7	※	14.1	7.9	1.9	3.7
平成26年	1,041	49.4	25.4	30.5	40.7	45.6	※	16.5	7.0	2.3	4.1
平成25年	1,047	46.7	26.7	29.5	47.3	47.3	※	16.1	9.9	2.8	2.9
平成24年	1,123	45.5	22.1	27.6	44.5	48.8	※	15.0	7.2	3.0	3.9

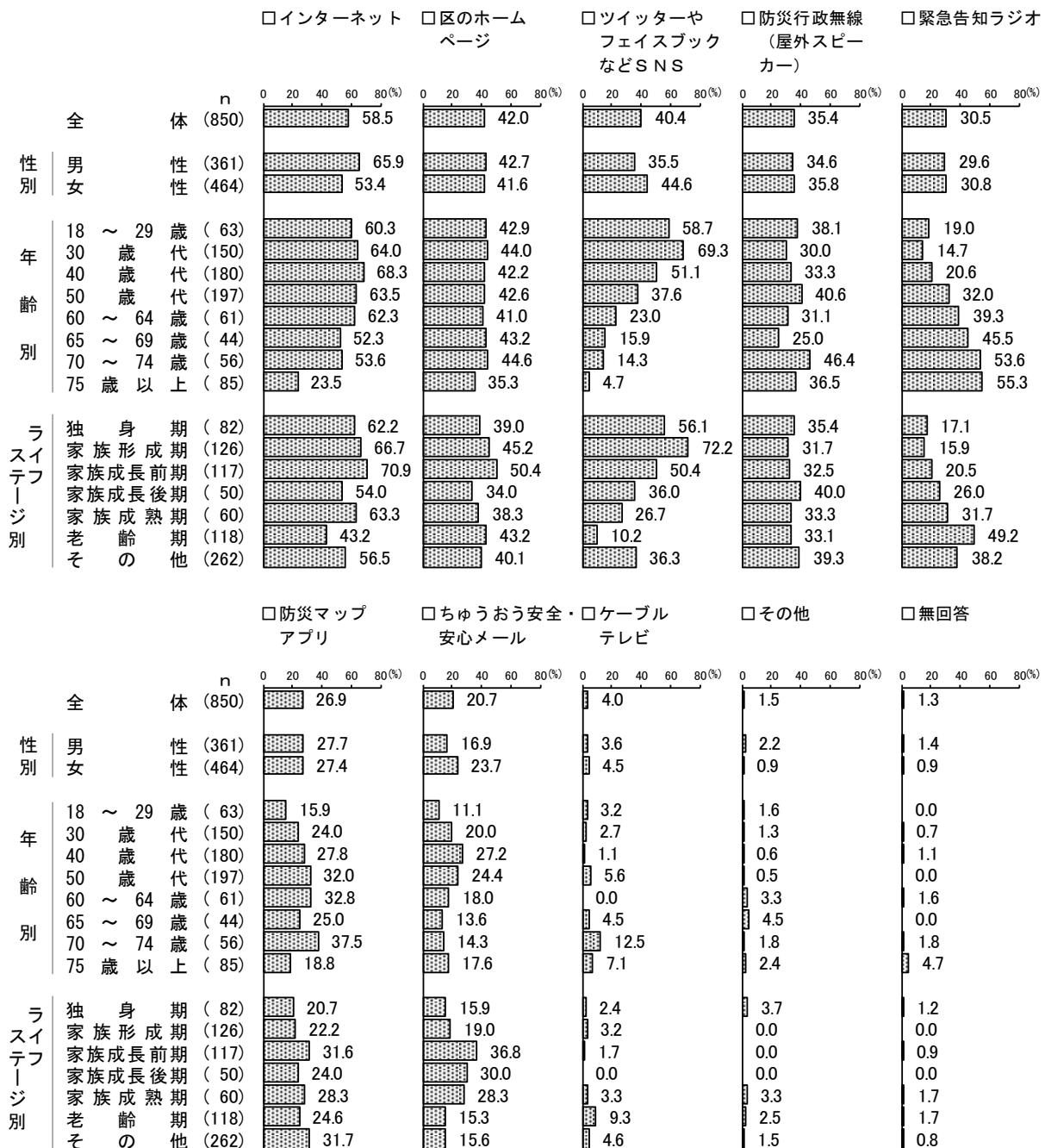
* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

性別でみると、男性の方が女性よりも「インターネット」で12.5ポイント高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「ツイッターやフェイスブックなどSNS」で9.1ポイント、「ちゅうおう安全・安心メール」で6.8ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「インターネット」は40歳代で7割近くと高くなっている。「ツイッターやフェイスブックなどSNS」はおおむね年代が下がるほど割合が高くなっており、30歳代で約7割と高くなっている。「緊急告知ラジオ」は75歳以上で5割台半ばと高くなっている。

ライフステージ別でみると、「インターネット」は家族成長前期で約7割と高くなっている。「ツイッターやフェイスブックなどSNS」は家族形成期で7割を超えて高くなっている。「緊急告知ラジオ」は老齢期で約5割と高くなっている。(図表2-5-3)

図表2-5-3 災害情報を得る手段として有効だと思うもの—性別・年齢別・ライフステージ別



【3 健康診査】

(※) 健康診査 勤務先で実施する定期健康診断、区や加入している健康保険で実施している健康診査、人間ドックなどです。

(1) 健康診査の受診状況

◇「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」が約5割

問8 あなたは、この1年間に健康診査（健康診断）を受けましたか。（〇はいくつでも）

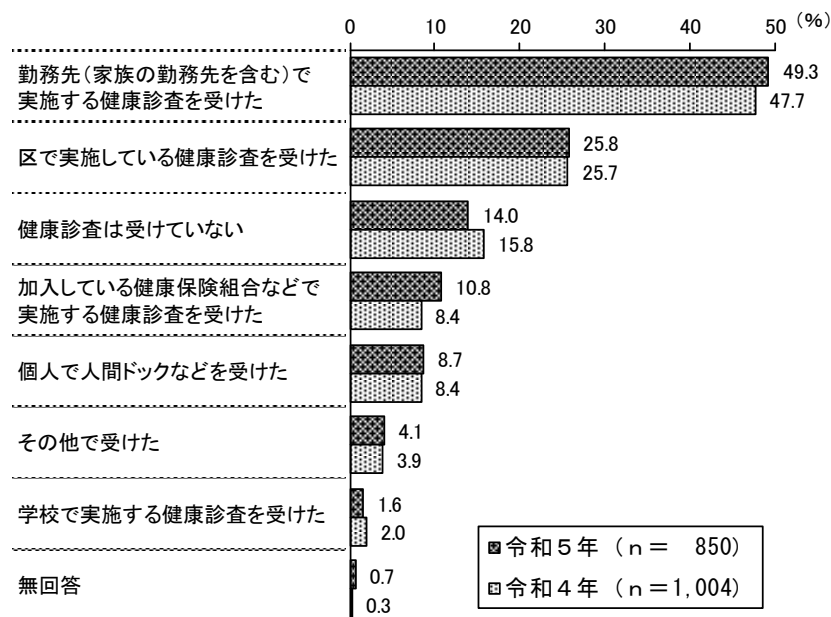
n = 850

1 区で実施している健康診査を受けた	25.8%
2 勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた	49.3
3 加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた	10.8
4 個人で人間ドックなどを受けた	8.7
5 学校で実施する健康診査を受けた	1.6
6 その他で受けた	4.1
7 健康診査は受けていない	14.0
(無回答)	0.7

健康診査の受診状況は、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」（49.3%）が約5割で最も高くなっている。次いで、「区で実施している健康診査を受けた」（25.8%）、「加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた」（10.8%）、「個人で人間ドックなどを受けた」（8.7%）などとなっている。一方、「健康診査は受けていない」（14.0%）は1割台半ばとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた」は2.4ポイント増加している。（図表3-1-1）

図表3-1-1 健康診査の受診状況（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」と「区で実施している健康診査を受けた」が引き続き上位2項目となっている。（図表3-1-2）

図表3-1-2 健康診査の受診状況一過年度比較

調 査 年	n	(%)							
		勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた	区で実施している健康診査を受けた	加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた	個人で人間ドックなどを受けた	学校で実施する健康診査を受けた	その他で受けた	健康診査は受けていない	無回答
令和5年	850	49.3	25.8	10.8	8.7	1.6	4.1	14.0	0.7
令和4年	1,004	47.7	25.7	8.4	8.4	2.0	3.9	15.8	0.3
令和3年	1,101	47.3	21.8	8.1	9.8	1.7	3.9	18.5	0.7
令和2年	1,161	45.0	19.0	10.2	7.2	1.1	3.5	21.3	0.9
令和元年	956	44.2	25.3	10.0	8.9	1.8	4.8	16.5	0.6
平成30年	1,056	44.7	25.7	9.8	8.8	1.3	3.4	16.1	0.6
平成29年	1,056	42.9	24.6	8.6	8.5	2.2	4.5	17.8	1.8
平成28年	1,036	42.5	27.2	8.9	9.0	1.5	4.2	17.2	0.6
平成27年	1,027	40.9	27.3	8.8	7.8	1.7	3.8	18.7	1.3
平成26年	1,041	38.9	25.8	6.8	8.1	1.5	4.7	21.1	2.0
平成25年	1,047	39.5	27.8	8.9	9.6	1.0	4.0	19.0	1.9

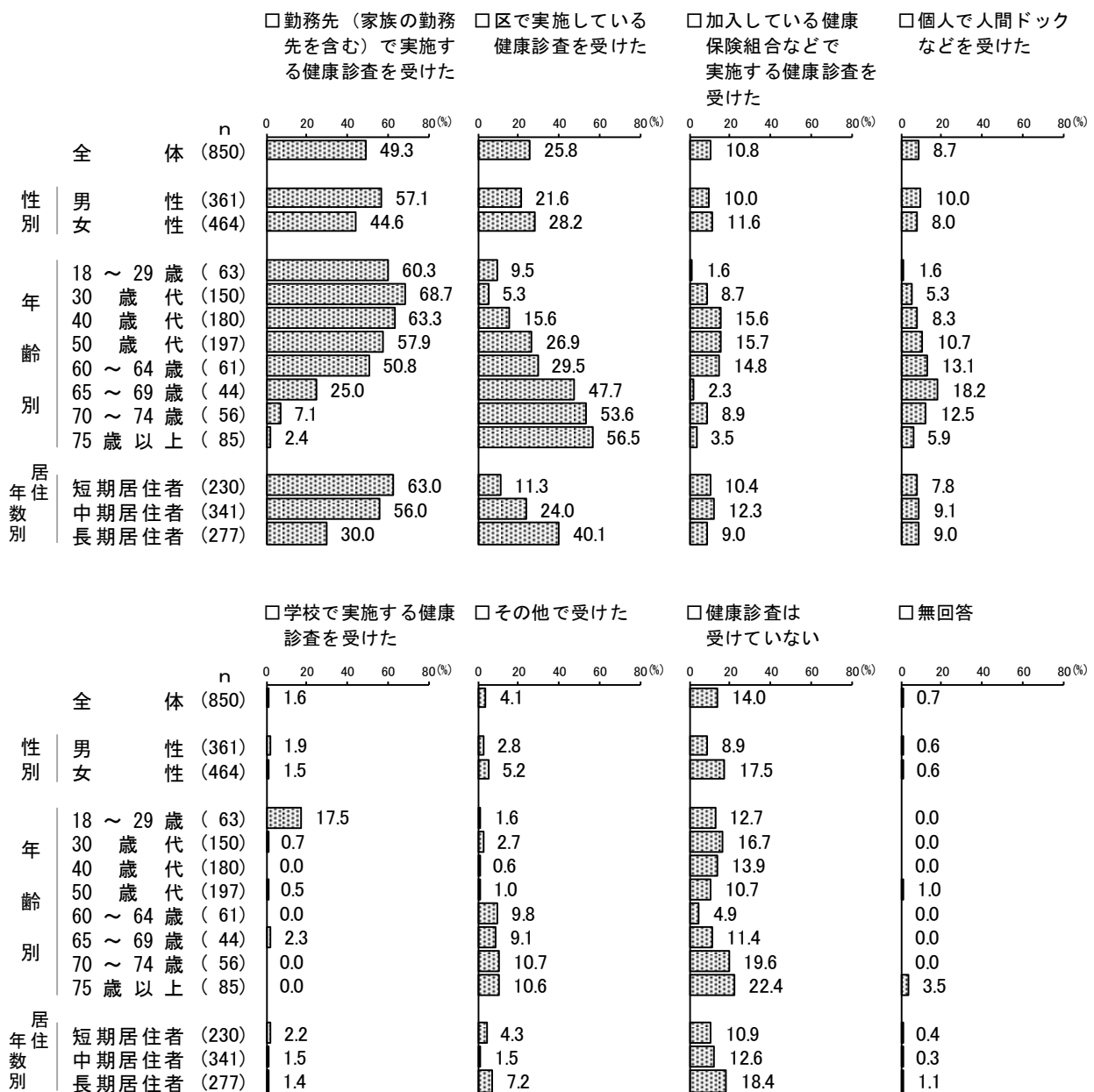
* 「加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた」は、平成25年は「加入している健康保険で実施する健康診査を受けた」としていた。

性別でみると、女性の方が男性よりも「健康診査は受けていない」で8.6ポイント、「区で実施している健康診査を受けた」で6.6ポイント、それぞれ高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」で12.5ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」は30歳代で7割近くと高くなっている。「区で実施している健康診査を受けた」は75歳以上で6割近く、70～74歳で5割を超えて高くなっている。

居住年数別でみると、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」は短期居住者で6割を超えて高くなっている。「区で実施している健康診査を受けた」は長期居住者で4割と高くなっている。（図表3-1-3）

図表3-1-3 健康診査の受診状況－性別・年齢別・居住年数別



(2) 健康診査を受けなかった理由

◇「時間がない」が3割台半ば

(問8で、「7 健康診査は受けていない」とお答えの方に)

問8-1 あなたが健康診査を受けなかった理由は何ですか。(○はいくつでも)

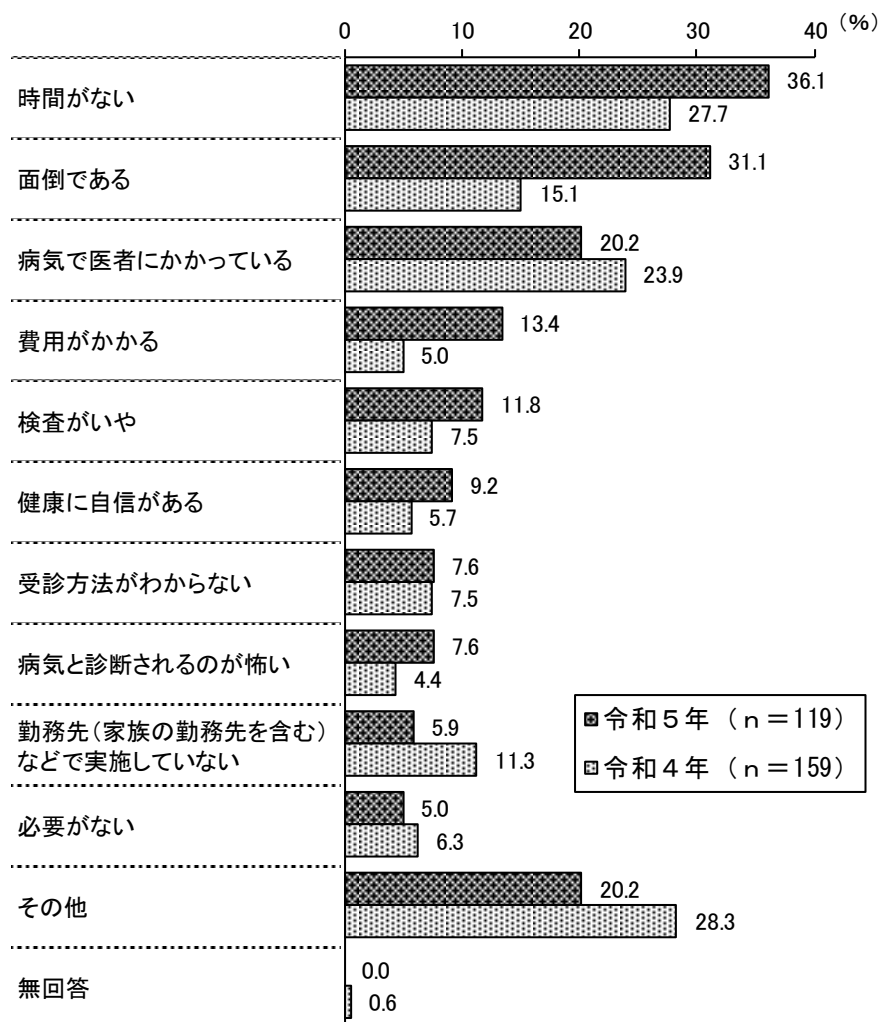
n = 119

1 勤務先(家族の勤務先を含む)などで実施していない	5.9%
2 受診方法がわからない	7.6
3 必要がない	5.0
4 時間がない	36.1
5 面倒である	31.1
6 健康に自信がある	9.2
7 病気で医者にかかっている	20.2
8 検査がいや	11.8
9 病気と診断されるのが怖い	7.6
10 費用がかかる	13.4
11 その他	20.2
(無回答)	0.0

問8で、「健康診査は受けていない」と回答した方の、健康診査を受けなかった理由は、「時間がない」(36.1%)が3割台半ばで最も高くなっている。次いで、「面倒である」(31.1%)、「病気で医者にかかっている」(20.2%)、「費用がかかる」(13.4%)などとなっている。また、「その他」の回答として、「コロナ禍のため控えた」、「今年は受ける予定」などが多くあげられている。

昨年の調査結果と比較すると、「面倒である」は16.0ポイント、「時間がない」と「費用がかかる」は8.4ポイント、それぞれ増加している。一方、「勤務先（家族の勤務先を含む）などで実施していない」は5.4ポイント減少している。（図表3-2-1）

図表3-2-1 健康診査を受けなかった理由（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、第2位以下の項目の順位には変動がみられるが、「時間がない」は引き続き第1位となっている。(図表3-2-2)

図表3-2-2 健康診査を受けなかった理由—過年度比較

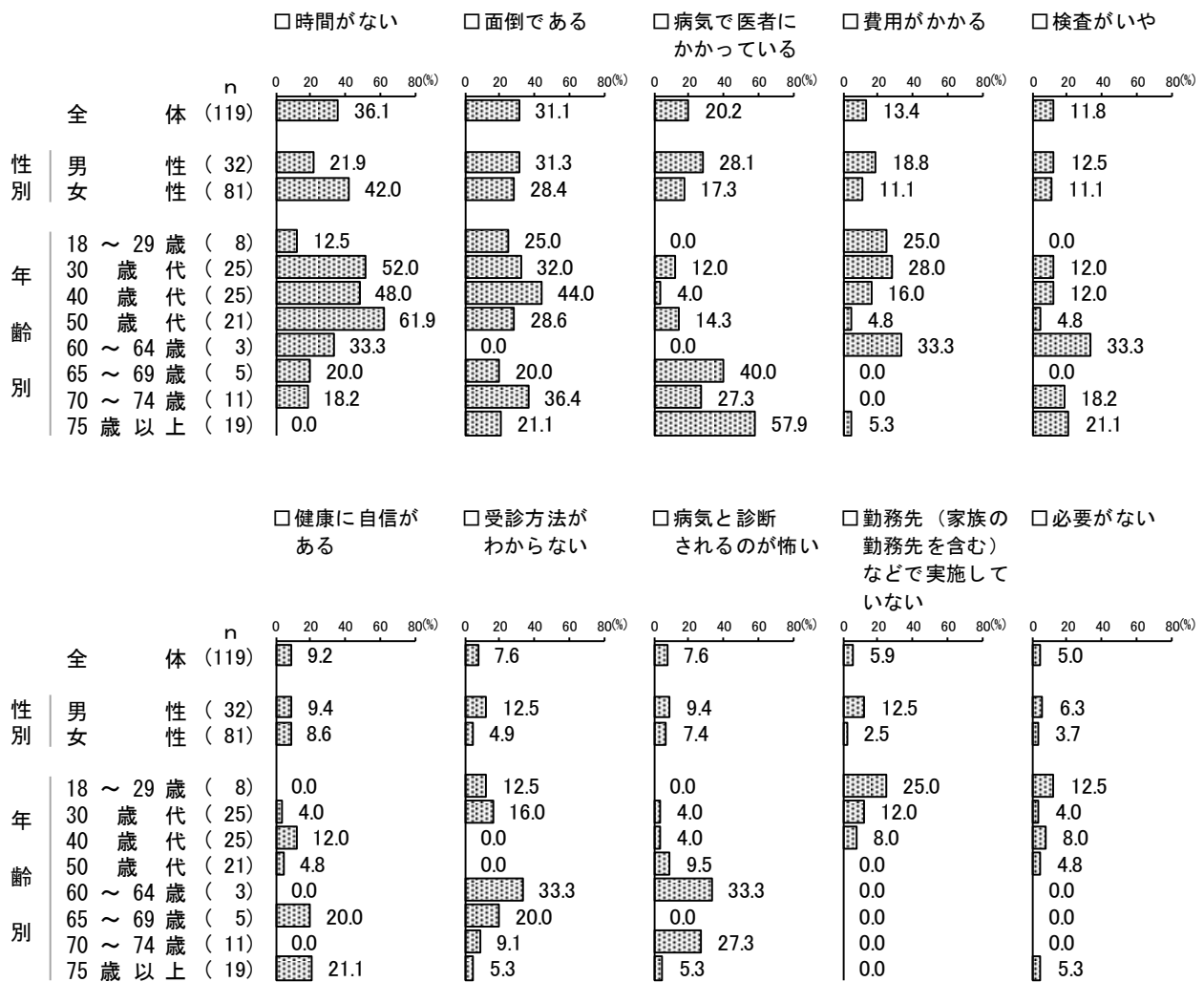
(%)

調査年	n	時間がない	面倒である	病気で医者にかかっている	費用がかかる	検査がいや	健康に自信がある	受診方法がわからない	病気と診断されるのが怖い	勤務先(家族の勤務先を含む)などで実施していない	必要がない	その他	無回答
令和5年	119	36.1	31.1	20.2	13.4	11.8	9.2	7.6	7.6	5.9	5.0	20.2	0.0
令和4年	159	27.7	15.1	23.9	5.0	7.5	5.7	7.5	4.4	11.3	6.3	28.3	0.6
令和3年	204	20.6	20.1	20.6	8.3	10.8	6.4	3.9	6.9	11.8	3.9	28.9	0.0
令和2年	247	28.7	18.6	17.4	6.9	11.3	7.3	4.5	7.7	10.5	4.0	31.6	0.8
令和元年	158	33.5	22.2	20.3	9.5	11.4	7.6	4.4	10.8	10.8	7.0	13.3	0.6
平成30年	170	28.2	13.5	25.3	9.4	4.1	7.1	5.9	3.5	13.5	6.5	14.7	1.2
平成29年	188	26.1	21.3	22.3	12.2	12.8	8.0	5.9	10.1	10.1	6.9	17.0	2.1
平成28年	178	27.5	19.1	16.9	12.9	14.6	8.4	4.5	6.2	14.6	6.7	16.9	1.1
平成27年	192	32.3	23.4	15.6	14.6	14.1	9.4	6.3	9.9	9.9	7.3	12.0	3.1
平成26年	220	29.1	14.5	18.2	14.1	12.3	4.1	6.4	6.8	15.0	5.9	18.2	0.0
平成25年	199	34.7	17.1	16.6	9.5	7.5	7.0	6.5	6.0	12.6	7.5	19.1	0.5

性別でみると、男性の方が女性よりも「病気で医者にかかっている」で10.8ポイント、「勤務先（家族の勤務先を含む）などで実施していない」で10.0ポイント、「費用がかかる」で7.7ポイント、「受診方法がわからない」で7.6ポイント、それぞれ高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「時間がない」で20.1ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「時間がない」は50歳代で6割を超えて高くなっている。「病気で医者にかかっている」は75歳以上で6割近くと高くなっている。（図表3-2-3）

図表3-2-3 健康診査を受けなかった理由—性別・年齢別



【4 高齢者施策】

(1) 要介護時における暮らし方

◇「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」が4割近く

問9 あなたは、介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいですか。

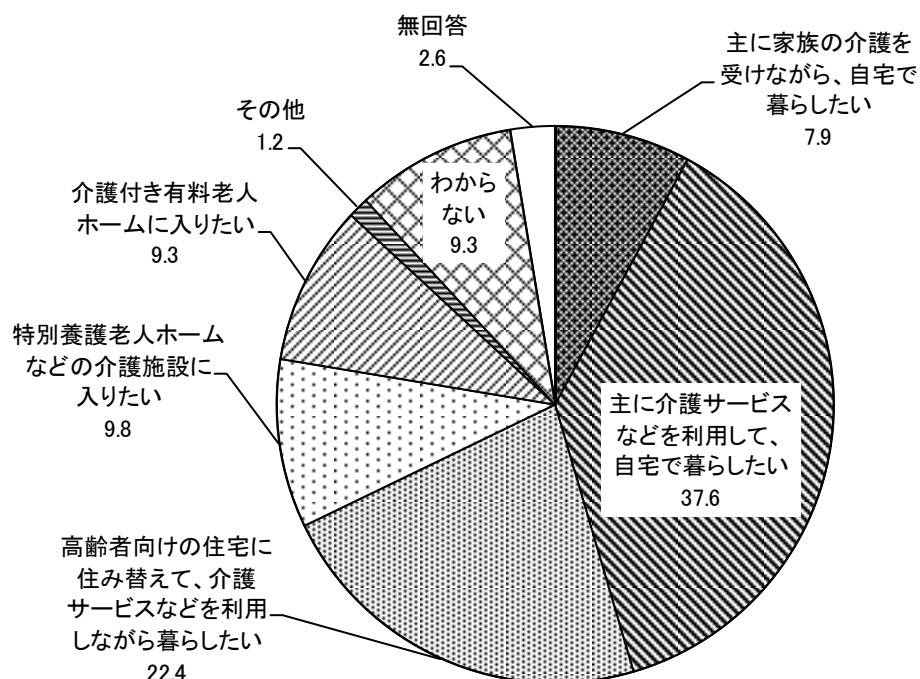
(もっとも近い考え1つに○)

n = 850

1	主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい	7.9%
2	主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい	37.6
3	高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい	22.4
4	特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい	9.8
5	介護付き有料老人ホームに入りたい	9.3
6	その他	1.2
7	わからない	9.3
	(無回答)	2.6

要介護時における暮らし方は、「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」(37.6%)が4割近くで最も高くなっている。次いで、「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」(22.4%)、「特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい」(9.8%)、「介護付き有料老人ホームに入りたい」(9.3%) などとなっている。(図表4-1-1)

図表4-1-1 要介護時における暮らし方

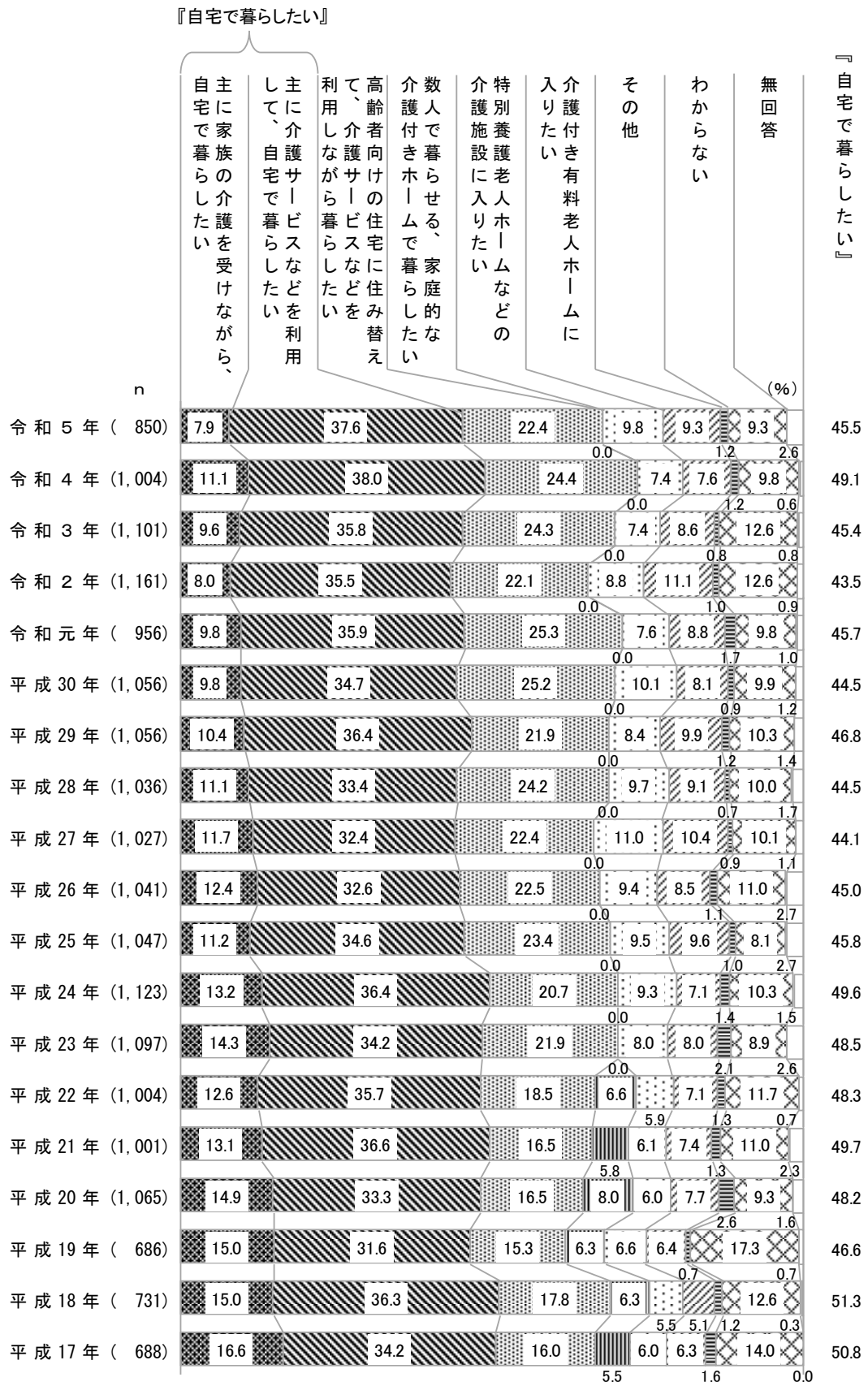


(n=850)

(%)

過去の調査結果と比較すると、「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」は平成17年以降3割台で推移している。(図表4-1-2)

図表4-1-2 要介護時における暮らし方一過年度比較

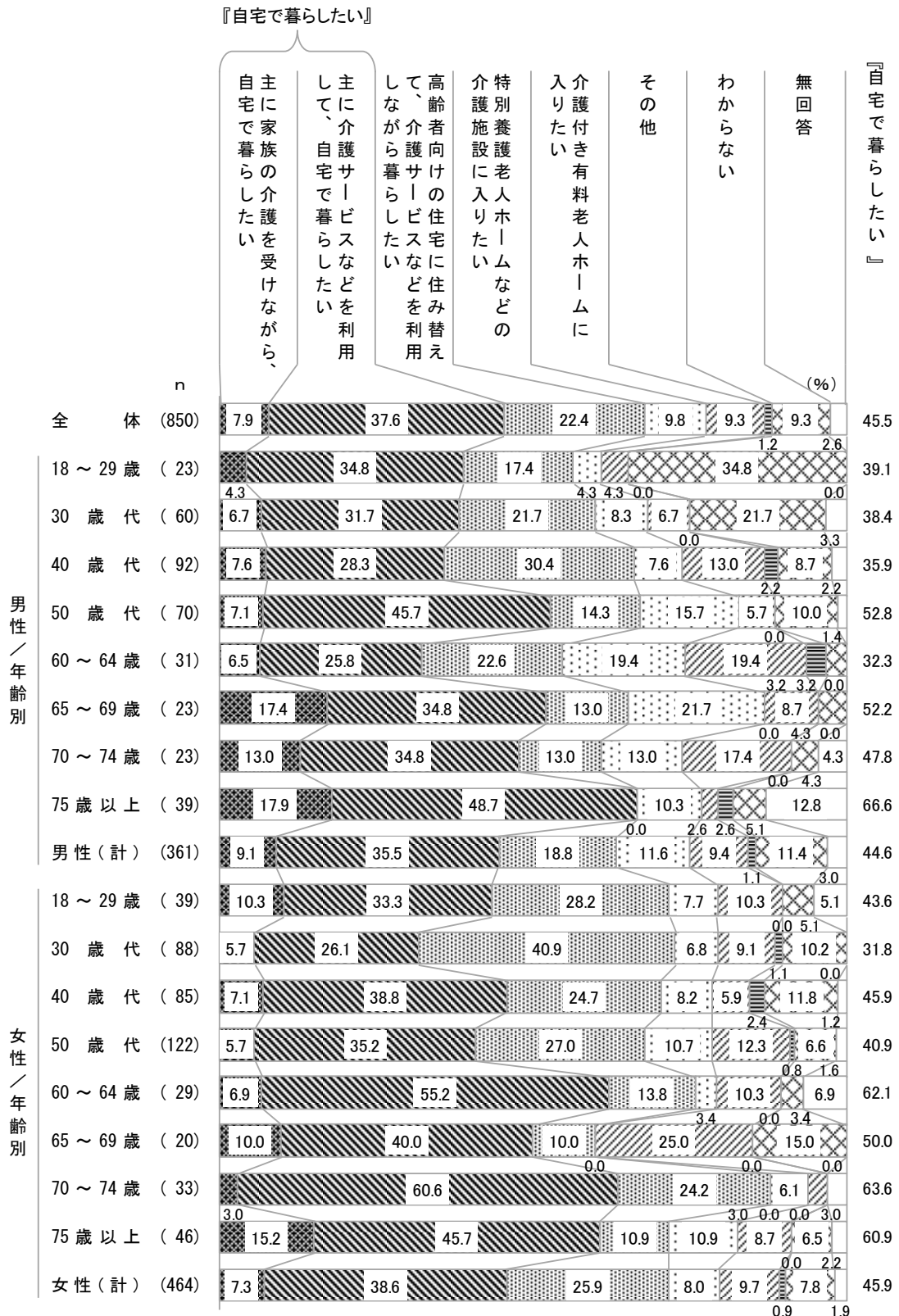


* 「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホームで暮らしたい」は、平成23年以降選択肢に含まれていない。

性／年齢別でみると、『自宅で暮らしたい』は男性の75歳以上で7割近く、女性60～64歳と70～74歳で6割を超え、女性75歳以上で約6割と高くなっている。「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」は女性70～74歳で約6割と高くなっている。「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」は女性の30歳代で約4割と高くなっている。

(図表4-1-3)

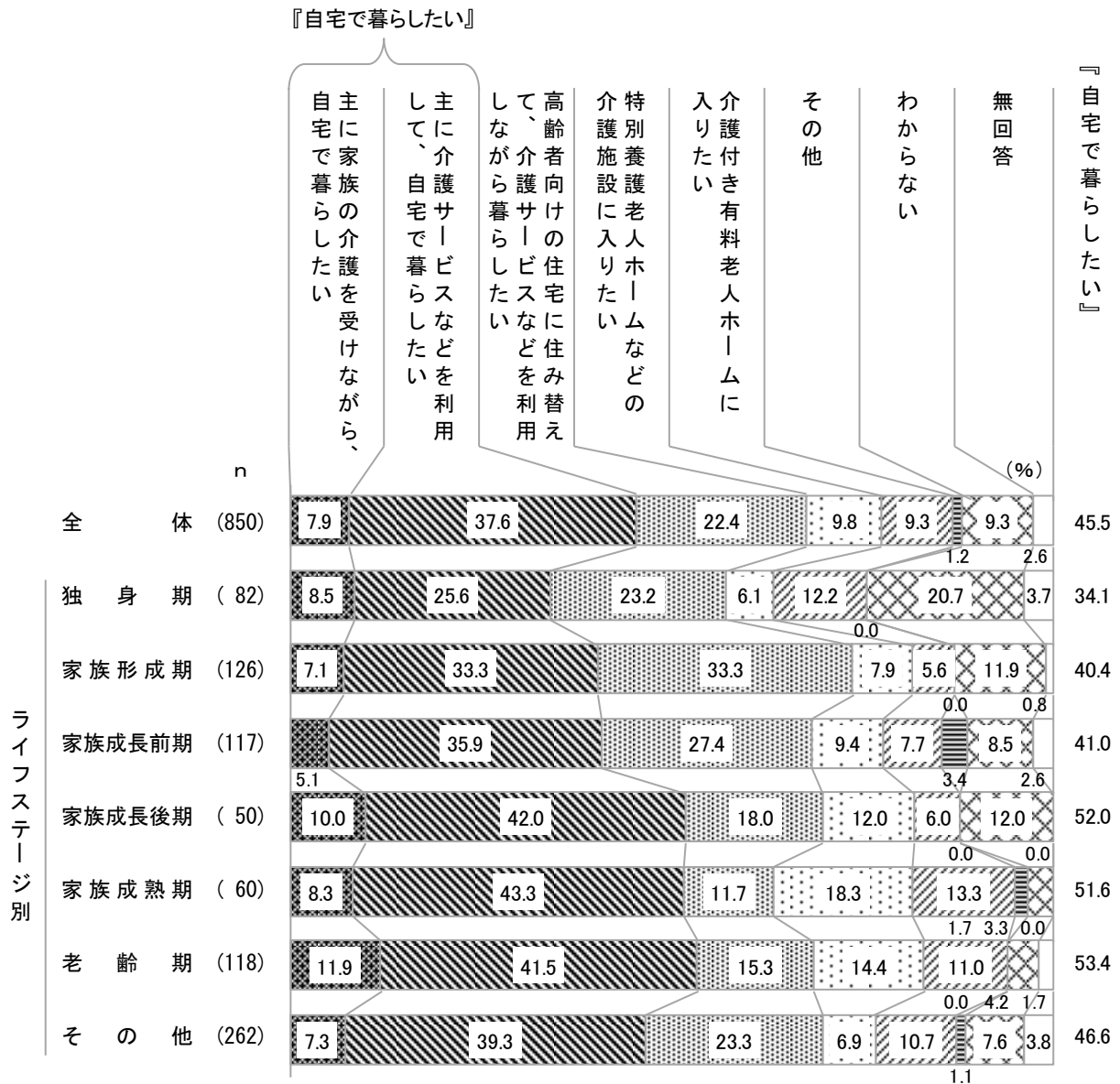
図表4-1-3 要介護時における暮らし方—性／年齢別



ライフステージ別で見ると、「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」は家族成長後期、家族成熟期、老齢期で4割を超えて高くなっている。「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」は家族形成期で3割を超えて高くなっている。

(図表4-1-4)

図表4-1-4 要介護時における暮らし方—ライフステージ別



(2) 区に望む高齢者保健福祉サービス

◇「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」が6割近く

問10 あなたは、住み慣れた地域で暮らし続けるために、これから高齢者保健福祉施策で、区が力を入れていくべきものは何だと思いますか。（〇はいくつでも）

n = 850

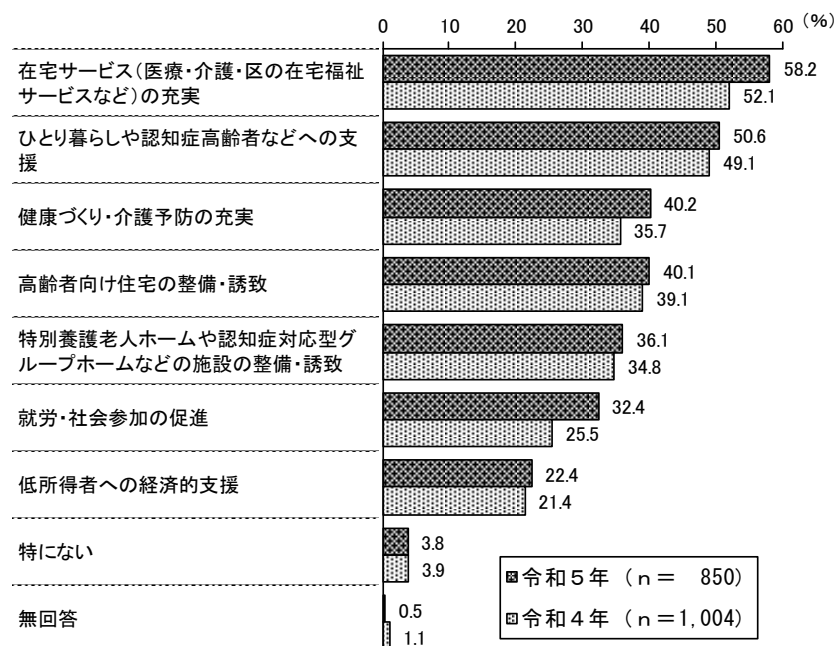
1	健康づくり・介護予防の充実	40.2%
2	就労・社会参加の促進	32.4
3	在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実	58.2
4	特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致	36.1
5	高齢者向け住宅の整備・誘致	40.1
6	ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援	50.6
7	低所得者への経済的支援	22.4
8	特にない	3.8
	（無回答）	0.5

区に望む高齢者保健福祉サービスは、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」（58.2%）が6割近くと最も高くなっている。次いで、「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」（50.6%）、「健康づくり・介護予防の充実」（40.2%）、「高齢者向け住宅の整備・誘致」（40.1%）、「特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致」（36.1%）などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「就労・社会参加の促進」は6.9ポイント、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」は6.1ポイント、それぞれ増加している。

（図表4-2-1）

図表4-2-1 区に望む高齢者保健福祉サービス（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」と「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」が引き続き上位2項目となっている。

(図表4-2-2)

図表4-2-2 区に望む高齢者保健福祉サービス一過年度比較

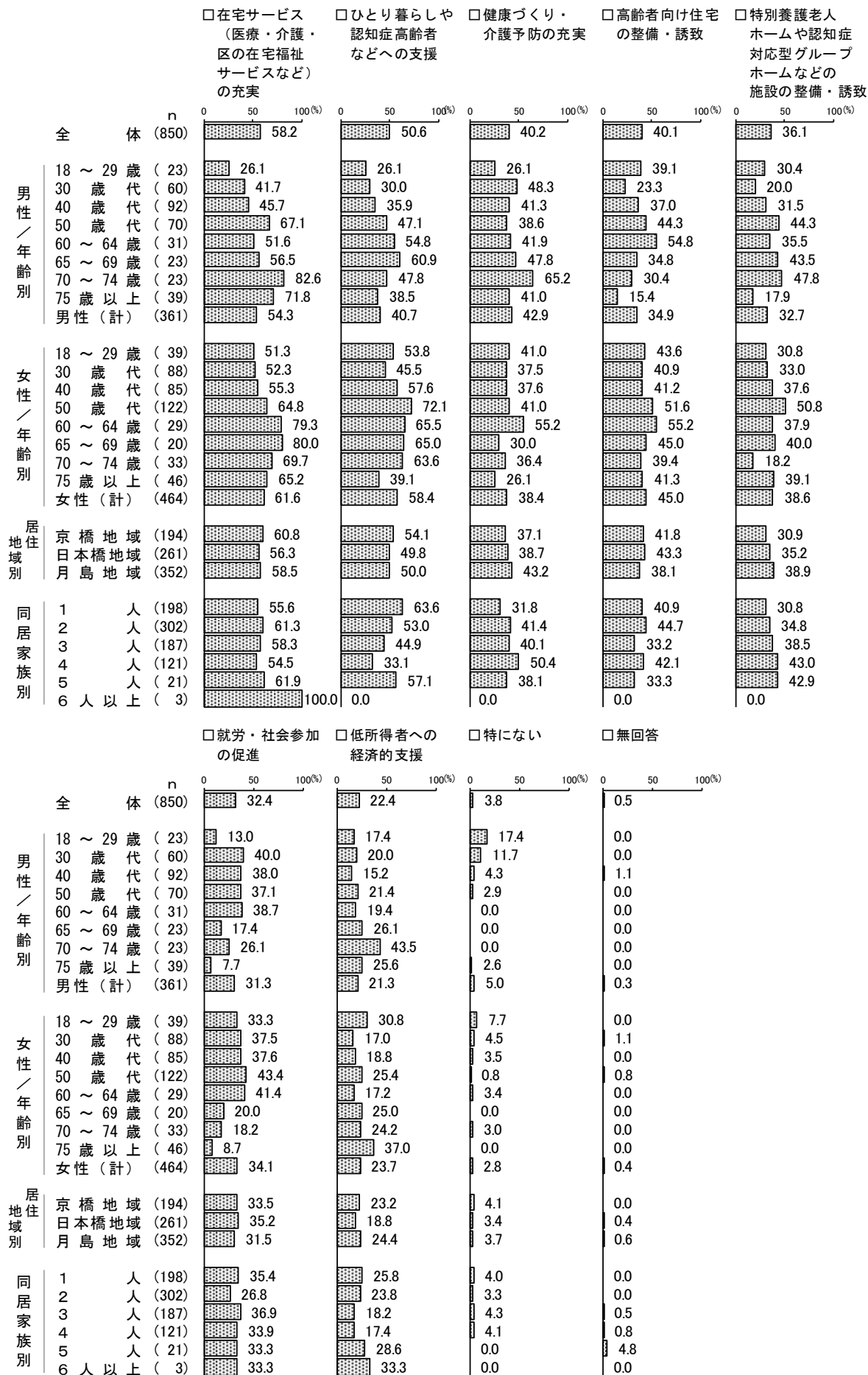
調査年	n	(%)								
		在宅福祉サービス（医療・介護・区の充実）	ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援	健康づくり・介護予防の充実	高齢者向け住宅の整備・誘致	特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設整備・誘致	就労・社会参加の促進	低所得者への経済的支援	特になし	無回答
令和5年	850	58.2	50.6	40.2	40.1	36.1	32.4	22.4	3.8	0.5
令和4年	1,004	52.1	49.1	35.7	39.1	34.8	25.5	21.4	3.9	1.1
令和3年	1,101	53.6	48.6	37.1	38.2	36.9	28.5	23.0	3.2	1.4
令和2年	1,161	51.8	46.3	35.4	39.5	36.3	28.3	23.3	4.2	1.1
令和元年	956	52.7	48.1	38.0	37.2	35.6	28.0	20.9	3.3	1.4
平成30年	1,056	49.5	44.4	41.3	41.1	37.5	27.1	21.3	2.9	1.2
平成29年	1,056	54.5	44.3	35.0	36.9	38.9	26.5	21.5	2.6	1.7
平成28年	1,036	50.8	46.1	37.2	40.5	40.7	28.3	23.4	2.8	2.0
平成27年	1,027	48.7	45.8	37.9	38.5	37.8	28.1	21.9	3.5	1.4
平成26年	1,041	54.9	47.0	34.7	39.1	39.9	28.1	24.7	2.2	3.1

性／年齢別でみると、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」は男性の70～74歳で8割を超えて高くなっている。「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」は女性の50歳代で7割を超えて高くなっている。「高齢者向け住宅の整備・誘致」は男女とも60～64歳で5割台半ばと高くなっている。

居住地域別でみると、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」は京橋地域で約6割と高くなっている。「健康づくり・介護予防の充実」は月島地域で4割を超えて高くなっている。

同居家族別でみると、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」は同居家族2人と5人で6割を超えて高くなっている。「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」は同居家族1人で6割を超えて高くなっている。(図表4-2-3)

図表 4-2-3 区に望む高齢者保健福祉サービス一性／年齢別・居住地域別・同居家族別



(3) 区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス

問10-1 問10で、あなたが○をした選択肢を含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスを自由に記述していただいたところ、311人から延べ354件の回答が寄せられた。問10の区に望む高齢者保健福祉サービスにおおむね沿った形で整理した。

(ご意見の一部)

■健康づくり・介護予防の充実 (35件)

- ・ 高齢者の健康づくり・ひとり暮らしの支援として、スポーツセンターで実施している高齢者向けの健康体操の周知を強化してほしい。ひとり暮らしの高齢者の参加も多く見られたのでコミュニティの形成にも役立っていると考えます。コロナ禍以降、屋内での実施が難しいとは考えている。また屋外では隅田川テラスをウォーキングしている高齢者は多くなったと感じているため、運動するニーズは再度高まっていると感じている。
- ・ フレイル防止に向けた啓発。
- ・ 予防のための体操、ヨガ、気功などのサービス設備の充実 (特に人的)。
- ・ ウォーキングコースの整備。休憩所。雨の日でも公園に屋根付きのベンチや簡単なトレーニングなどができる所を作ってほしい。
- ・ 佃島には、景色の良い公園がたくさんあるが、暑い時に休める場所がない。日陰に座って、水分補給するのみ。喫茶店すらなく、ウォーキングもできない。
- ・ 健康づくりのための利用できる施設の使用方法がよく分からない。例えば学校プールなどの使い方をホームページなどに詳しく掲載してほしい。働く高齢者も増えていることから、夜間のスポーツ教室も増やしてほしい。

■就労・社会参加の促進 (52件)

- ・ 高齢になっても生きがい、やりがいを感じられる高齢者向けの仕事整備 (地方ではシルバー人材センターがあるが、中央区では知らない)。
- ・ 子育て中の家族も、シングルマザーもひとり暮らしの高齢者も独身の人も老若男女が楽しく交流しながら暮らせるコミュニティハウスのようなものがあると嬉しいです。現在子育て中ですが、気軽に子どもを誰かに預けて外出ということができません。そんな時、同じコミュニティの中で助け合いながら生活できる居場所がほしいです。
- ・ 高齢者を老人扱いせず、現役世代として社会参加できるような施策・サービスを充実させてほしい。
- ・ 76歳になっても健康ですが、仕事をしたくてもない状況。生活に不安をかかえ、日々過ごしたくない。高齢者が全て経済的に楽ではない。

■在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実（40件）

- ・ 軽い認知症の人と重い認知症の人を同じ介護施設で一律にデイサービスでケアすると軽い人の自尊心を傷つけたり症状が進んでしまう。軽い認知症の人にはそれ以上進行しないような普通の生活の延長にある趣味を支えるケアが必要。習い事への送迎や付き添い、日帰り旅行の補助など、介護保険で使えるような付き添いや寄り添いヘルパーの制度があるとありがたい。
- ・ 在宅サービスを週2、3回ずつやってほしい。
- ・ 各々の生活スタイルを尊重しながら、在宅サービスを充実させることが必要だと思う。医療、介護、ケアマネ、理学療法士など、資格はあるが経験値の乏しい方が多くなっている気がする。サービスを提供しているといっても本当にその人に合ったサービスを提供できているか、管理してほしい。
- ・ 介護者の人手不足がいられていますので、介護報酬の引き上げのため、区が財政援助を行ってほしい。中央区で働く介護者に経済的支援をする方法を考えてほしい。
- ・ 介護や福祉サービスについて理解できていない人がいるので、だれでも介護福祉が受けられることを周知してほしい。高齢者だけでなく子どもも含め将来介護を受ける人、することになる人に知ってほしいと思う。知らなくて苦勞している人がたくさんいる。また、「はずかしい」と介護を受けたがらない高齢者が多いのであたりまえに介護を受けることができる、はずかしくない、といった気持ちになれるような方法を考えてほしい。

■特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致（30件）

- ・ どの介護施設も人手不足と聞きます。それは給料が低すぎるというのも要因だと思います。中央区で介護職員として良い人材を確保するためには給料をあげるような支援が必要だと思います。
- ・ 特養などを作ってもらい、介護をしなくてはいけない人が働きながら介護ができるような施設があるとよい。
- ・ 年金で入れる高齢者用グループホームの拡充。
- ・ 特別養護老人ホーム等の誘致。低所得者でも入所可能な施設の増を願いたい。
- ・ 親族が入居するため、老人ホームを探していた事があったが、すぐみつかるわけでも、入れるわけでもなく困った。老人ホームの数を増やしてほしい。中央区だけの問題ではなく、東京都、日本全体で。

■高齢者向け住宅の整備・誘致（40件）

- ・ 退職後の住居への不安がある。なるべく自力で居住できるような経済的な支援（管理費のかからない物件）。
- ・ 高齢者への住宅支援について、情報はもちろん、安心して住める住宅などを増やしてほしい。今は賃貸物件ですが、高齢者への賃貸物件は審査が厳しくなると聞いているため、今後がとても不安です。
- ・ ある程度の所得がないと中央区に住み続けられない。高齢者用区営住宅はほぼない。晴海などまだ開発できる地域に1万人程入れる住宅が必要。100人くらい入れる住宅では意味がない。

- ・ 夫婦のどちらかが欠けたら、子どもとの生活ではなく高齢者向けの住宅に入居を考えた方がよいのではと思います。所得別に補助金の制度などを考える必要があると思います。資産があれば有料の施設に入りますが、その時になってはじめていろいろ必要であることに思い至ります。今は正直わかりませんが資金面で補っていただければありがたいです。
- ・ 高齢化社会に向けて、区の高齢者向け住宅の整備は喫緊の政策課題と思われます。現在の状況では全く無いに等しいです。暮らしやすい街づくりのためには子育て支援同様に重きを置いてください。

■ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援（42件）

- ・ ひとり暮らしの高齢者に対する、すでに契約している墓・家財の処分方針などの情報を事前に有償で預かり、死後に必要な処理を行う。
- ・ 独居者でも受けられるサービスの情報発信（勤労世代については、独居者に向けたサービスはほぼないように思われます）。
- ・ ひとり暮らしの人に対して、生活の手伝い・介護・入院時の手伝い・保証人がいなくても手術を受けられるようにする仕組み。
- ・ 近くのひとり世帯の高齢者と顔見知りであった方が、災害時などの万が一の時に気にかけて、安心できる部分もあると思うので、区のイベントなどあればいいなと思う。

■低所得者への経済的支援（11件）

- ・ 経済的にどんな状態になっても生活が保障されることを希望します。
- ・ 低所得者や高齢者でも入居できる賃貸住居の提供、低所得者や高齢者が働けなくなった場合のサポート（経済的、受診、相談窓口等）。
- ・ 食料品や生活資材の配布。

■その他（104件）

- ・ 高齢者が子どもの遊びや活動に対して苦情を言わないような工夫。子どもの行動を制限しないようにしてほしい。例えば公園での大声の禁止やボール遊びの禁止などはあり得ない。このような規制をするのであれば子育てを捨てている街だと感じる。
- ・ プライバシーポリシーを明確にしながら、当該者に踏みこんでいく、見守りが行き届く設備や仕組みの構築。
- ・ 他県在住の母が都内に滞在しながら両市の連携で手厚い介護サービスを受けられたのがありがたかった。中央区でも同様の取り組みがあると安心して住める街だと思います。
- ・ 身近な人間がこの立場になって初めて高齢者福祉について考える人が大半だと思います。そしてその時は突然やってきましたりもします。相談窓口の充実、情報の提供の仕方を考えてほしいです。

【5 子育て支援】

(1) 子育てに関する悩みの相談

◇「配偶者・パートナー」が4割近く

問11 あなたは、子育てに関する悩みや不安をどこに相談しましたか。(〇は2つまで)

n = 850

1	配偶者・パートナー	37.2%
2	その他の親族	18.1
3	職場の人	5.6
4	隣近所の人、知人、友人	12.8
5	保育園・認定こども園 [※] ・幼稚園・学校の保護者の仲間	6.0
6	保育園・認定こども園 [※] ・幼稚園・学校の先生	5.6
7	子ども家庭支援センター、児童館、あかちゃん天国など子育て支援施設	3.3
8	(健診時などで)保健所、保健センターの担当者	3.4
9	その他	2.0
10	特に相談しない	8.8
11	子育てを経験していない	39.6
	(無回答)	5.6

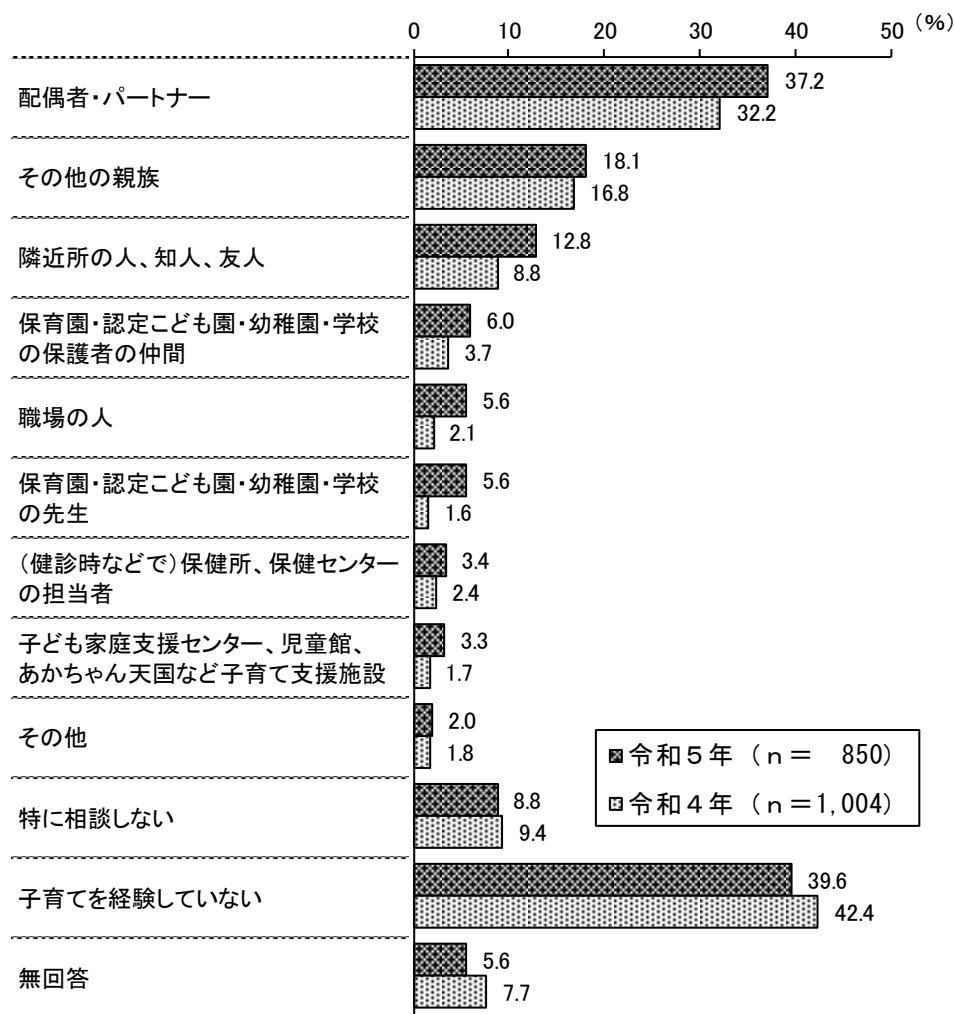
(※) 認定こども園 小学校に就学する前の子どもの教育・保育・子育て支援を一体的に行う施設で、幼稚園と保育所の両方の役割を果たします。

子育てに関する悩みの相談は、「配偶者・パートナー」(37.2%)が4割近くと最も高くなっている。次いで、「その他の親族」(18.1%)、「隣近所の人、知人、友人」(12.8%)、「保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間」(6.0%)などとなっている。

昨年との調査結果と比較すると、「配偶者・パートナー」は5.0ポイント、「隣近所の人、知人、友人」と「保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生」は4.0ポイント、「職場の人」は3.5ポイント、それぞれ増加している。

(図表5-1-1)

図表5-1-1 子育てに関する悩みの相談（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「配偶者・パートナー」と「その他の親族」、「隣近所の人、知人、友人」が引き続き上位3項目となっている。

(図表5-1-2)

図表5-1-2 子育てに関する悩みの相談一過年度比較

調査年	n	(%)												
		配偶者・パートナー	その他の親族	隣近所の人、知人、友人	学校の保護者の仲間 保育園・認定こども園・幼稚園・	職場の人	保育園・認定こども園・幼稚園・ 学校の先生	（健診時などで）保健所、保健センターの担当者	あかちゃん天国など子育て支援施設、児童館、	子ども家庭支援センター、	その他	特に相談しない	子育てを経験していない	無回答
令和5年	850	37.2	18.1	12.8	6.0	5.6	5.6	3.4	3.3	2.0	8.8	39.6	5.6	※
令和4年	1,004	32.2	16.8	8.8	3.7	2.1	1.6	2.4	1.7	1.8	9.4	42.4	7.7	※
令和3年	1,101	37.3	19.7	9.0	3.8	3.6	1.6	1.0	1.5	0.6	7.4	41.6	5.6	※
令和2年	1,161	35.3	18.2	7.8	3.3	3.5	3.3	1.4	1.0	1.3	8.2	41.9	6.5	※
令和元年	956	34.3	20.2	9.2	3.1	3.3	2.3	1.7	1.0	1.0	8.4	39.3	7.9	※
平成30年	1,056	35.0	18.8	7.9	3.7	3.7	2.8	1.3	1.6	0.9	7.9	39.7	8.5	※
平成29年	1,056	33.5	20.0	8.5	4.8	4.0	2.6	1.8	1.9	0.5	6.4	38.8	10.2	※
平成28年	1,036	33.9	17.4	9.4	3.2	4.2	2.6	1.5	1.5	1.9	9.2	37.8	8.8	※
平成27年	1,027	35.7	19.2	10.7	5.7	4.4	4.2	2.7	1.9	1.9	8.9	38.0	9.0	※
平成26年	1,041	35.0	18.9	9.7	4.9	2.2	3.6	2.2	1.2	1.3	8.3	34.6	11.0	※
平成25年	1,047	34.8	19.2	10.8	4.6	2.7	3.2	2.1	2.5	1.4	8.1	33.8	11.7	※
平成24年	1,123	32.8	17.5	10.2	5.1	2.2	2.4	1.3	1.5	1.7	6.8	38.1	11.5	※
平成23年	1,097	31.4	17.1	11.8	5.7	3.0	2.6	1.5	0.9	0.9	7.6	36.6	12.9	※
平成22年	1,004	35.2	17.9	12.4	4.9	3.1	3.1	1.8	1.2	0.9	9.2	35.6	7.9	※
平成21年	1,001	31.4	15.0	9.9	3.8	2.5	3.0	2.5	※	4.1	8.9	34.0	12.5	1.0
平成20年	1,065	30.8	15.4	12.7	4.2	1.3	2.9	2.7	※	1.8	8.5	34.8	12.4	2.1
平成19年	686	28.4	13.8	11.1	8.0	2.2	5.0	※	※	1.0	13.0	38.2	6.3	1.7

* 太枠内が今回の調査の選択肢。

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

* 「保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間」の選択肢は、平成22年以前は「保育園、幼稚園、学校の保護者の仲間」としていた。

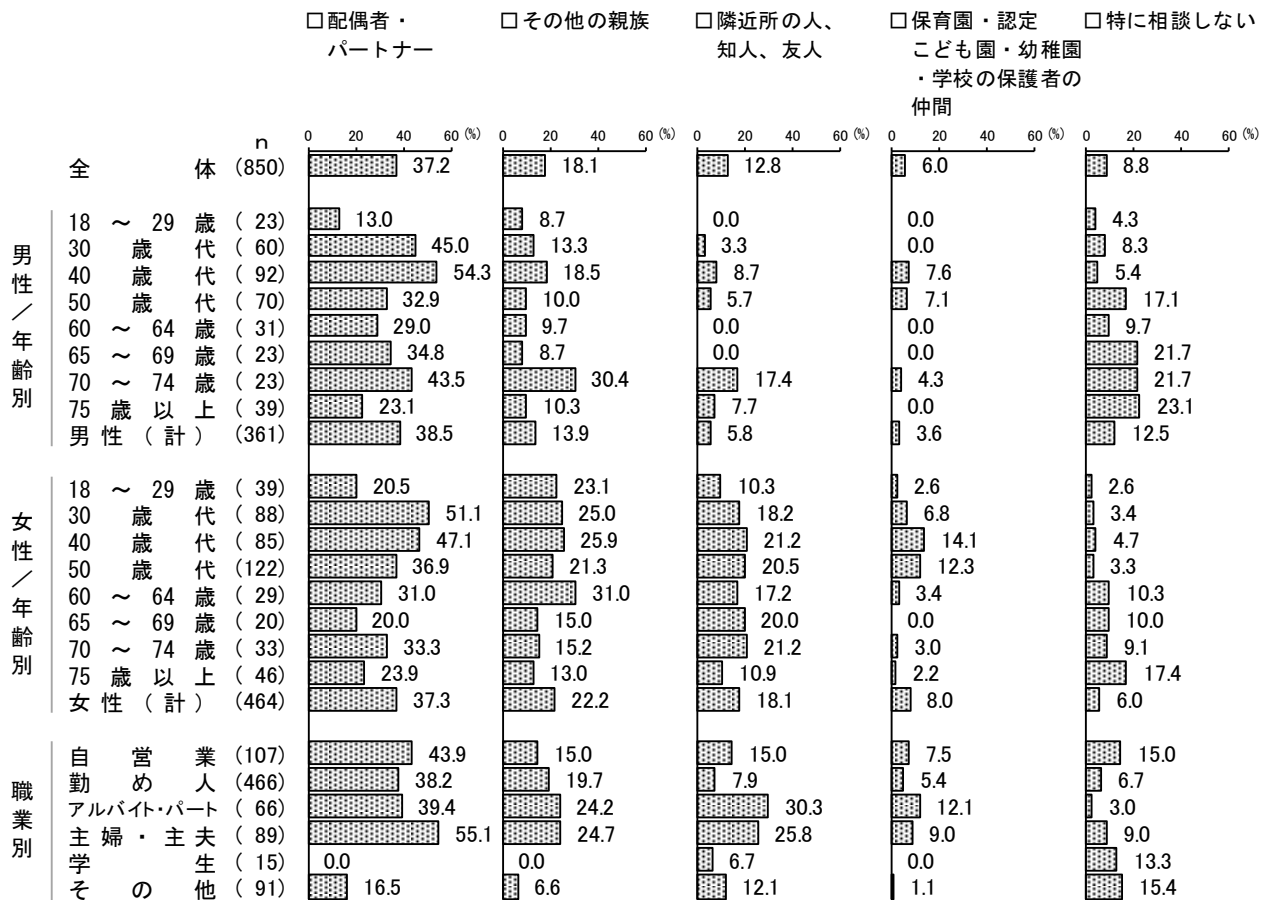
* 「保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生」の選択肢は、平成22年以前は「保育士、幼稚園・学校の先生」としていた。

性／年齢別でみると、「配偶者・パートナー」は男性の40歳代で5割台半ばと高くなっている。「その他の親族」は女性の60～64歳で3割を超えて高くなっている。「特に相談しない」は男性の65～69歳、70～74歳、75歳以上で2割を超えて高くなっている。

職業別でみると、「配偶者・パートナー」は主婦・主夫で5割台半ばと高くなっている。「その他の親族」は主婦・主夫とアルバイト・パートタイマーで2割台半ばと高くなっている。

(図表5-1-3)

図表5-1-3 子育てに関する悩みの相談—性／年齢別・職業別（上位5項目）



(2) 重要と考える子育て支援策

◇「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」が3割を超える

問12 あなたがこれからの区の子育て支援で重要と考えるものを選んでください。

(○は2つまで)

n = 850

1	保育園・認定こども園・地域型保育事業所*・幼稚園などの施設整備	29.8%
2	一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス	33.3
3	子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	3.4
4	子どもの健やかな成長のための教育環境の整備	11.2
5	放課後などにおける児童の遊びや生活の場	14.7
6	情報の提供や相談サービス	3.3
7	公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備	12.4
8	母親と乳幼児などの健康の確保および増進	1.4
9	職業生活と家庭生活との両立の支援	22.1
10	児童虐待防止対策	9.9
11	経済的な支援	16.2
12	特にない	5.4
	(無回答)	11.4

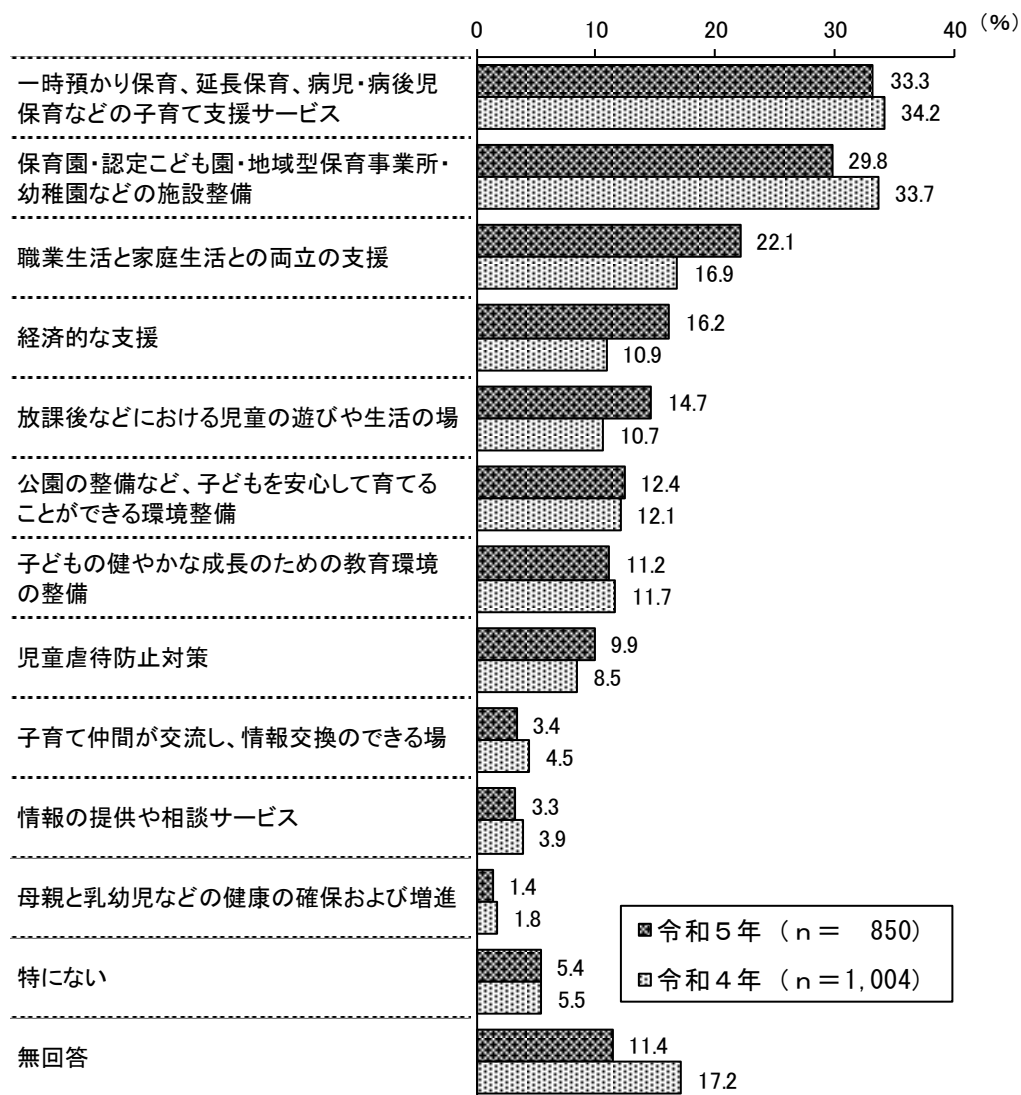
(※) 地域型保育事業所 少人数の単位で0～2歳の子どもを預かる保育事業所です。

(家庭的保育事業・小規模保育事業・事業所内保育事業・居宅訪問型保育事業)

重要と考える子育て支援策は、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」(33.3%)が3割を超えて最も高くなっている。次いで、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」(29.8%)、「職業生活と家庭生活との両立の支援」(22.1%)、「経済的な支援」(16.2%)、「放課後などにおける児童の遊びや生活の場」(14.7%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「経済的な支援」は5.3ポイント、「職業生活と家庭生活との両立の支援」は5.2ポイント、「放課後などにおける児童の遊びや生活の場」は4.0ポイント、それぞれ増加している。(図表5-2-1)

図表5-2-1 重要と考える子育て支援策（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」と「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」が引き続き上位2項目となっている。(図表5-2-2)

図表5-2-2 重要と考える子育て支援策一過年度比較

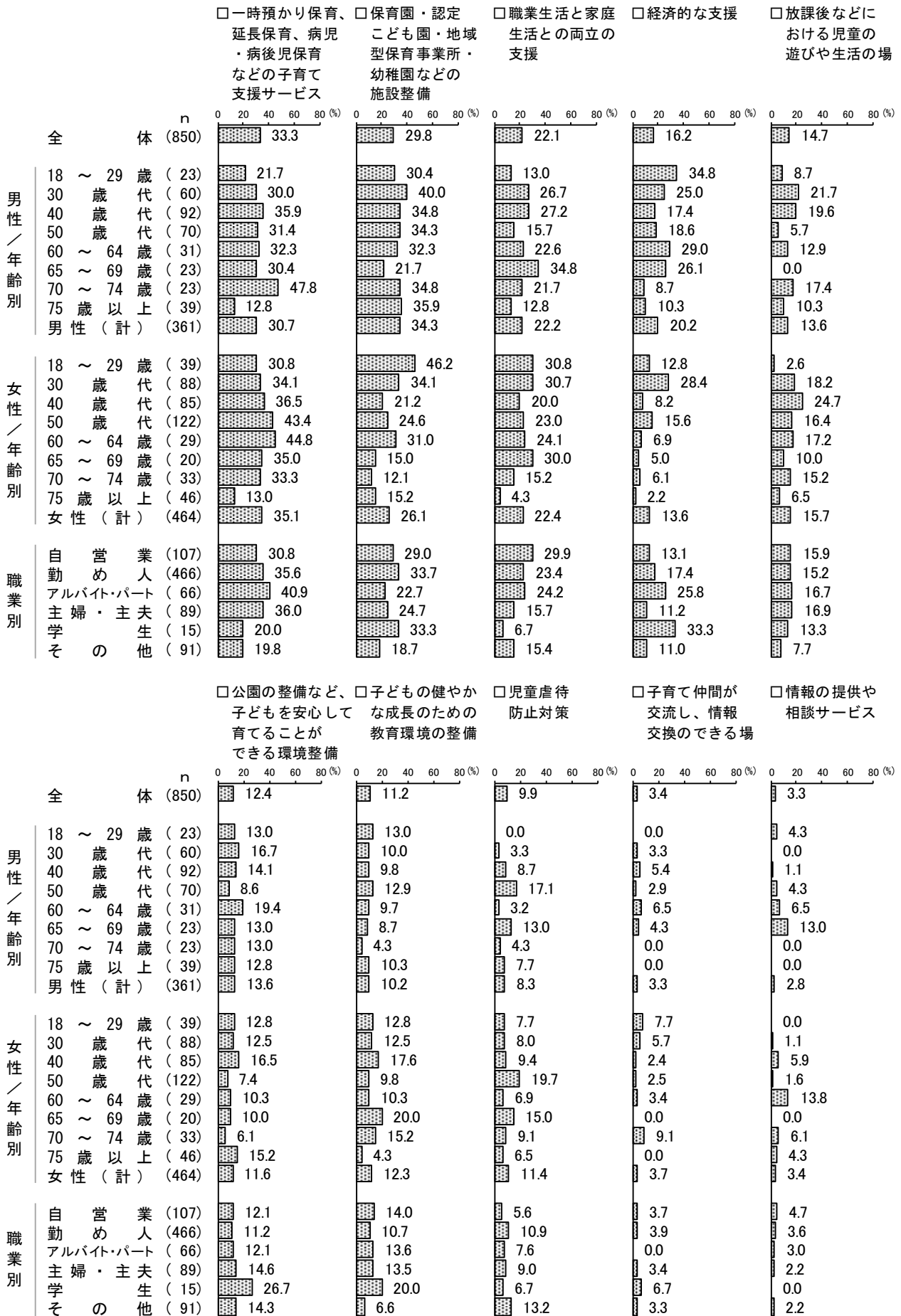
調査年	n	(%)													
		援児一時整備保育支	児時預かり保	育園・認定こ	業生活と家庭	経済的な支援	や放課後など	備して育てる	公園の整備な	教育環境の健	児童虐待防止	の子育て仲間	情報の提供や	および増進	特にな
令和5年	850	33.3	29.8	22.1	16.2	14.7	12.4	11.2	9.9	3.4	3.3	1.4	5.4	11.4	※
令和4年	1,004	34.2	33.7	16.9	10.9	10.7	12.1	11.7	8.5	4.5	3.9	1.8	5.5	17.2	※
令和3年	1,101	35.1	36.4	16.6	11.5	12.6	15.4	9.5	8.6	4.2	4.0	1.5	4.4	14.7	※
令和2年	1,161	33.7	38.8	15.1	12.2	11.8	12.1	11.8	9.0	4.4	4.1	1.9	4.8	14.7	※
令和元年	956	37.0	34.5	16.7	7.5	11.7	10.6	9.3	11.6	4.9	3.8	1.8	4.4	17.4	※
平成30年	1,056	40.2	42.8	14.6	9.7	11.3	11.3	8.5	6.6	3.0	2.8	1.6	4.4	15.8	※
平成29年	1,056	36.4	42.6	16.6	8.3	12.6	11.5	10.4	6.8	3.5	2.7	1.1	4.1	16.1	※
平成28年	1,036	36.0	44.3	15.9	10.2	12.4	11.3	8.8	7.9	4.5	1.8	2.2	3.8	15.8	※
平成27年	1,027	38.9	41.1	19.7	10.4	※	17.7	14.3	7.5	7.1	6.5	4.3	9.8	9.8	※
平成26年	1,041	42.5	40.6	14.4	8.0	※	12.3	11.9	4.2	6.3	5.0	2.3	8.5	11.6	※
平成25年	1,047	43.7	46.2	12.4	9.0	※	12.4	10.7	5.2	6.2	4.9	2.9	6.5	11.6	※
平成24年	1,123	※	53.7	28.6	15.9	※	15.3	17.2	4.9	13.4	7.5	3.7	4.7	7.5	2.8
平成23年	1,097	※	52.4	30.5	15.5	※	14.7	19.7	5.4	10.8	7.5	4.3	4.3	8.4	2.3
平成22年	1,004	※	59.4	31.9	15.4	※	15.7	19.9	7.4	9.2	6.0	3.6	3.9	4.1	3.1
平成21年	1,001	※	42.9	30.0	26.1	※	13.2	15.4	3.1	8.0	5.2	3.2	4.5	8.1	9.9
平成20年	1,065	※	39.6	31.4	22.3	※	18.6	20.2	3.7	12.5	7.8	3.2	3.3	7.1	6.1
平成19年	686	※	34.1	30.3	24.6	※	20.6	20.6	4.7	9.3	5.4	3.6	12.5	4.2	1.3

- * 太枠内が今回の調査の選択肢。
- * ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。
- * 「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」の選択肢は、平成23年から平成26年までは「保育園・認定こども園・幼稚園などの施設整備」、平成22年以前は「保育所・幼稚園などの施設整備」としていた。
- * 「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」の選択肢は、平成27年以前は「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの保育サービスの充実」としていた。
- * 「職業生活と家庭生活との両立の支援」の選択肢は、平成27年以前は「職業生活と家庭生活との両立の推進」としていた。

性／年齢別でみると、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」は男性の70～74歳で5割近くと高くなっている。「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」は女性の18～29歳で4割台半ばと高くなっている。

職業別でみると、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」はアルバイト・パートタイマーで約4割と高くなっている。「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」は勤め人で3割を超えて高くなっている。(図表5-2-3)

図表5-2-3 重要と考える子育て支援策一性／年齢別・職業別（上位10項目）



(3) さらに充実を図る必要がある子育て支援策

◇「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」が3割台半ば

問12 また、さらに充実を図る必要があると考えるものを選んでください。(〇はいくつでも)

n = 850

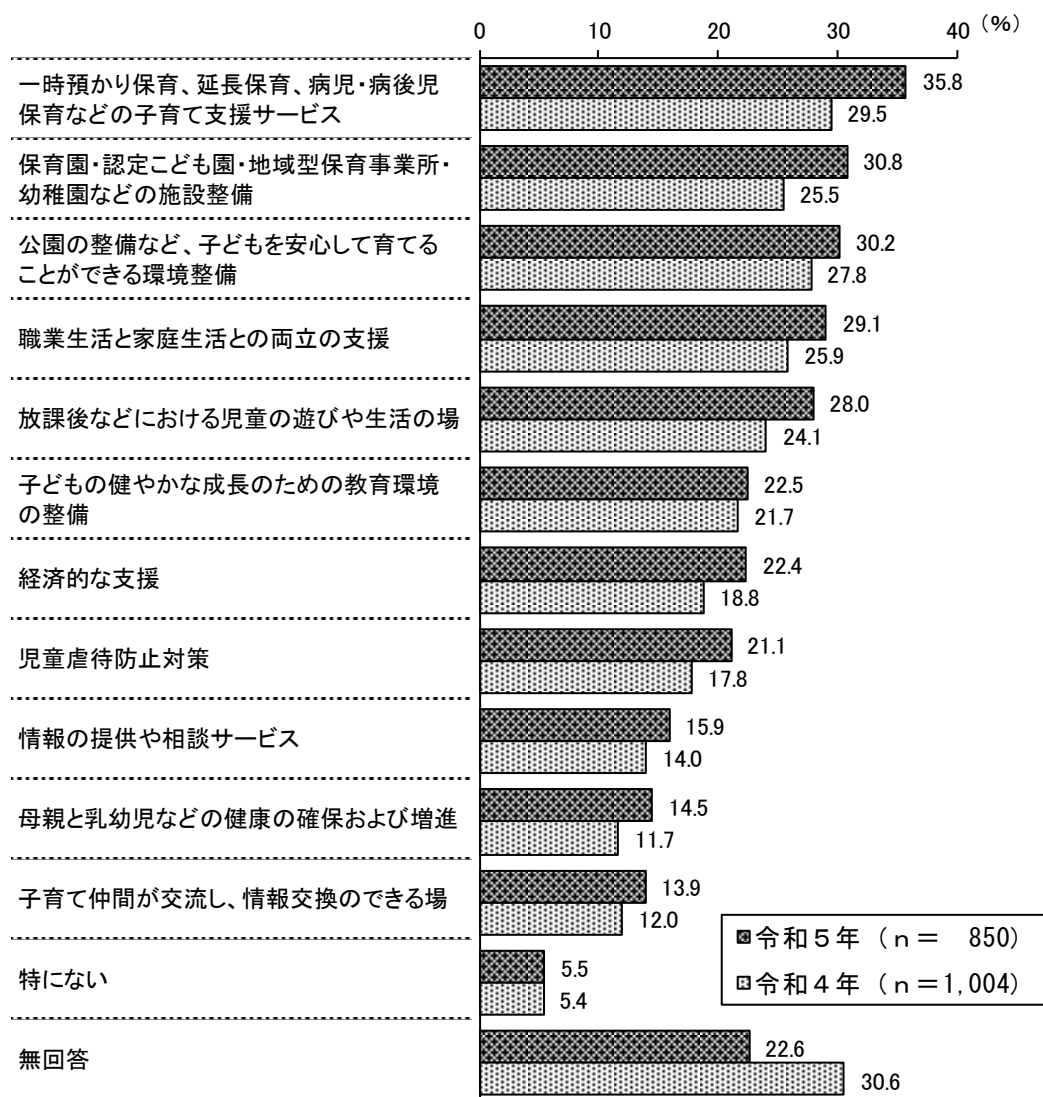
1	保育園・認定こども園・地域型保育事業所*・幼稚園などの施設整備	30.8%
2	一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス	35.8
3	子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	13.9
4	子どもの健やかな成長のための教育環境の整備	22.5
5	放課後などにおける児童の遊びや生活の場	28.0
6	情報の提供や相談サービス	15.9
7	公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備	30.2
8	母親と乳幼児などの健康の確保および増進	14.5
9	職業生活と家庭生活との両立の支援	29.1
10	児童虐待防止対策	21.1
11	経済的な支援	22.4
12	特にない	5.5
	(無回答)	22.6

(※) 地域型保育事業所 少人数の単位で0～2歳の子どもを預かる保育事業所です。
(家庭的保育事業・小規模保育事業・事業所内保育事業・居宅訪問型保育事業)

さらに充実を図る必要がある子育て支援策は、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」(35.8%)が3割台半ばで最も高くなっている。次いで、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」(30.8%)、「公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備」(30.2%)、「職業生活と家庭生活との両立の支援」(29.1%)、「放課後などにおける児童の遊びや生活の場」(28.0%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」は6.3ポイント、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」は5.3ポイント、「放課後などにおける児童の遊びや生活の場」は3.9ポイント、それぞれ増加している。(図表5-3-1)

図表5-3-1 さらに充実を図る必要がある子育て支援策（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、第2位以下の項目の順位には変動がみられるが、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」は引き続き第1位となっている。

(図表5-3-2)

図表5-3-2 さらに充実を図る必要がある子育て支援策—過年度比較

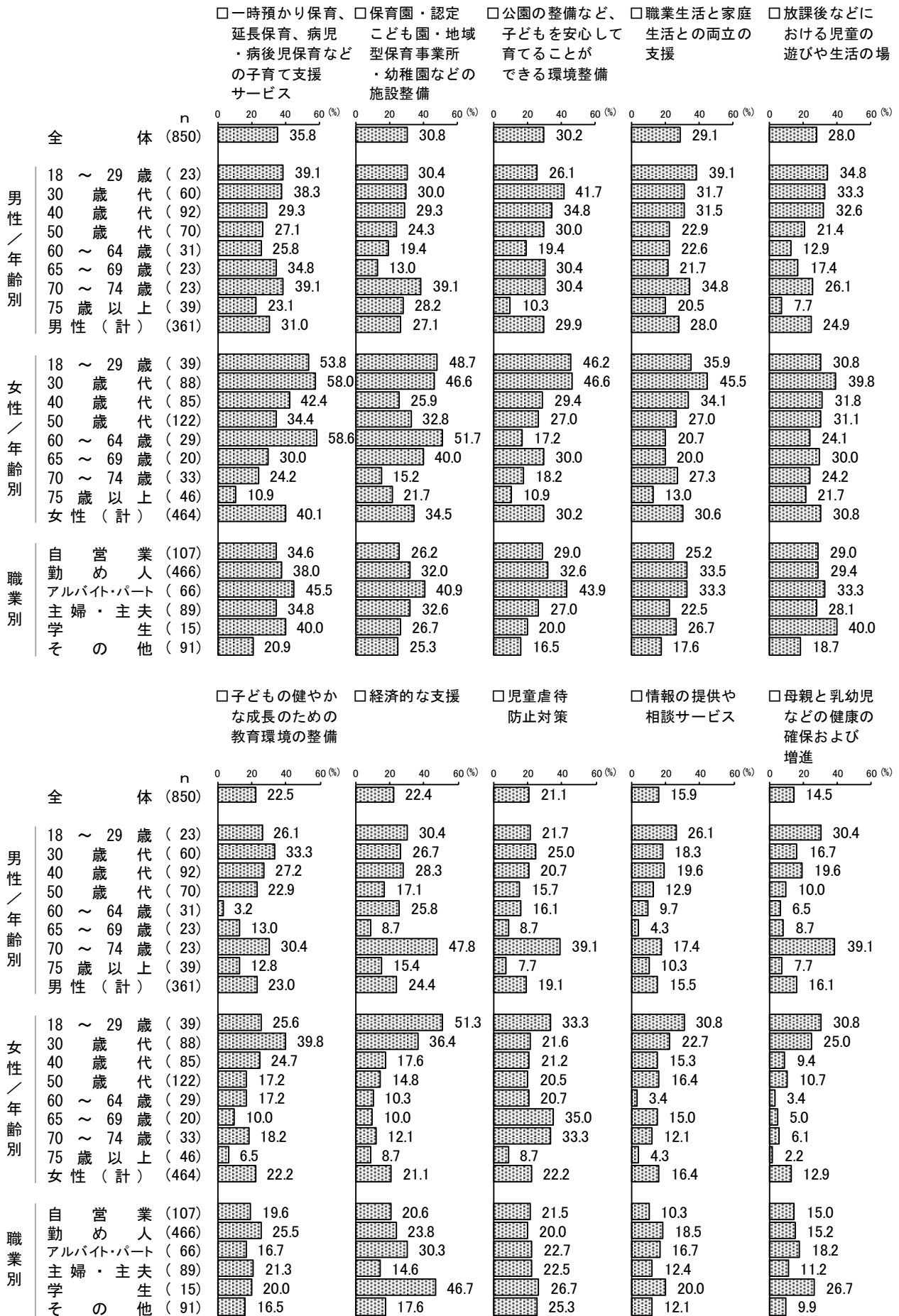
(%)

調査年	n	一時預かり保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス	保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備	公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備	職業生活と家庭生活との両立の支援	放課後などにおける児童の遊びや生活の場	子どもの健全な成長のための教育環境の整備	経済的な支援	児童虐待防止対策	情報の提供や相談サービス	母親と乳幼児などの健康の確保および増進	子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	特になし	無回答
令和5年	850	35.8	30.8	30.2	29.1	28.0	22.5	22.4	21.1	15.9	14.5	13.9	5.5	22.6
令和4年	1,004	29.5	25.5	27.8	25.9	24.1	21.7	18.8	17.8	14.0	11.7	12.0	5.4	30.6
令和3年	1,101	31.8	27.1	27.2	25.2	26.2	21.8	20.3	21.2	13.6	10.0	12.5	4.3	25.4
令和2年	1,161	33.9	29.2	28.9	27.6	28.3	23.4	20.5	21.2	12.9	11.5	10.5	5.2	23.5
令和元年	956	32.6	27.4	26.2	25.5	27.0	20.4	16.3	24.4	13.0	11.7	11.1	4.5	27.5
平成30年	1,056	33.6	30.6	27.3	26.8	27.7	19.4	17.4	16.3	13.3	10.4	13.1	4.8	24.2
平成29年	1,056	33.3	28.5	24.6	25.8	27.7	19.2	17.1	16.0	12.5	11.5	12.5	3.4	25.9
平成28年	1,036	36.2	32.4	26.7	28.3	26.4	20.7	16.4	20.0	13.8	11.1	12.2	3.7	26.3

性／年齢別でみると、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」は女性の30歳代と60～64歳で6割近くと高くなっている。「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」は女性の60～64歳で5割を超えて高くなっている。

職業別でみると、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」はアルバイト・パートタイマーで4割台半ばと高くなっている。「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」はアルバイト・パートタイマーで約4割と高くなっている。「職業生活と家庭生活との両立の支援」は勤め人とアルバイト・パートタイマーで3割を超えて高くなっている。(図表5-3-3)

図表5-3-3 さらに充実を図る必要がある子育て支援策一性／年齢別・職業別（上位10項目）



(4) 区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス

問12-1 あなたが問12で重要と考えるものに○をした選択肢も含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスを自由に記述していただいたところ、239人から延べ317件の回答が寄せられた。問12の重要と考える子育て支援策におおむね沿った形で整理した。

(ご意見の一部)

■保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備 (34件)

- ・ 隣接する区との境に住んでいる人に対して、隣接する区の保育園にも0歳児でも通えるようにしてほしい。中央区の保育園が遠いため、通勤途中に預けるのが難しい。
- ・ 4月入園でなくても、0~2歳の子どもが認可保育所に入れるくらい余裕があるとうれしいです。0歳4月じゃないと入れないとなると、せっかく育休とれても子どもと1年たたずに離れて、仕事復帰しなくてはいけないので。
- ・ 保育園などの施設や支援サービスにおける区内の地域格差を減らしてほしい。
- ・ 保育士の数と待遇改善が一番必要だろうと感じています。

■一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス (43件)

- ・ 〈学童保育の強化〉学童保育で待機児童が出ないようにしてほしい。学童保育に高学年でも入れるようにしてほしい。学童保育の内容を、宿題、自宅学習のサポートなど、充実させてほしい。どの小学校の周辺でも学童またはプレディを用意してほしいなど。
- ・ 会社をリタイアした人（基本ボランティアだが何かしらの報酬があると人の質が向上すると思う）で子どもを世話できる場所。時間の融通が利くほど、預ける人の助けになると思う。
- ・ 急な残業にもフレキシブルに対応してくれる保育サービス。公共・文化・飲食施設内のシッターサービス（親が、一時的かつ安全に子どもの看護から離れられる機会の提供）。
- ・ 病院の早期診療。病児・病後児の預ける人数（定員）の増員。突然発生する延長保育や一時預かりなどに対して、手続きを簡略化して、すぐに支援サービスが受けられるようにしてほしい。

■子育て仲間が交流し、情報交換のできる場 (10件)

- ・ 地域コミュニティーの活性化をのぞみます。子育て中の親御さんの意見を聞くことだと思う。
- ・ 父親学級の開催や、子育てを終えた世代との交流など、家族全体や地域で子育てができる環境づくり。古い小さい公園の改装。

■子どもの健やかな成長のための教育環境の整備（8件）

- ・ 子育て知識や情報、交流はオンラインでできるので、教育や健康などの直接的な子どもの成長に関わる部分を強化してほしい。
- ・ 子どもたちが健やかに、そして伸びのびと遊んだりする環境を増やしたり安心して育つことができる場所が必要だと思う。

■放課後などにおける児童の遊びや生活の場（24件）

- ・ 小学校のプレディ利用をコロナ以前に戻してもらえると助かる家庭が多いと思います。長期休暇期間の校庭はプレディとの兼ね合いで自由に使えずもったいないと思っています。
- ・ 子どもがひとりにならないよう学童や遊びや習い事など無料で参加できる場を作るといいと思います。
- ・ 就学児の居場所、行き場ない子どもが習い事をせざるをえない現状。自由な成長を促すことができない中央区の状況は将来が不安。

■情報の提供や相談サービス（17件）

- ・ 一時預かり保育など助成されることをもっとわかりやすくアナウンスしてほしい。よく調べないとわからない子育て支援が多すぎる。
- ・ 区として、どのような問題がどのくらい発生しているのか、状況を区民と共有し、地域社会一体となって、具体的な改善に区民が参加できるような施策やサービス。
- ・ 区の施設やサービスを相談するための制度や手続きが面倒臭すぎて利用しづらかった。また利用時間が働く人向けではなかったのを考えてほしかった。

■公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備（38件）

- ・ 小さな公園も喫煙者が非常に多く、子どもが思い切り遊べる公園などが不足している。
- ・ 共同住宅世帯が多いので、公園などの広場の整備は大切だと思います。
- ・ 田舎とは違って屋外で遊べる場所が少ないので、自然のある遊び場を増やしてほしい。

■母親と乳幼児などの健康の確保および増進（5件）

- ・ 中央区に産科（お産できる病院）が聖路加しかなく、費用がとても高い。安心して、近所でお産できる病院があれば良い。
- ・ 小児科が少ないので増やしてほしい。
- ・ 産後の助産師の自宅訪問（他区では無料で実施している）。

■職業生活と家庭生活との両立の支援（23件）

- ・ 小1の壁、小学校に上がるタイミングで離職せざるを得ない環境をなんとかしてほしい。小学校の午前授業、保護者会PTA活動など、仕事をしながらできるわけがない。
- ・ 区立幼稚園に働きながらでも通わせられるように、給食や預かり保育のサービスを充実させてほしいです。
- ・ 子育てしながらでも働きやすい職場のマッチング。

■児童虐待防止対策（6件）

- ・ 虐待をなくすため、家庭、幼稚園、保育園内で異常を早く見つけたり、相談できるような対策。
- ・ 児童虐待に対して、学校・教育委員会などが不正、隠ぺいできない対策。

■経済的な支援（32件）

- ・ 少子化の問題は小さな子どものことではなく高校大学の経済的理由によるものが大きいはず。
- ・ 多子世帯への経済的支援の拡充。小中学校で引き落としになっている諸経費の無償化。
- ・ 仕事をしながら幼い子の育児は難しい。シッターを使いたい時もあるので、金銭的な援助があったら嬉しい。働いても働いた分、子どもの教育費に消えてしまうので、区での補助金があったら子育て世帯には嬉しい。港区は充実している。

■その他（77件）

- ・ 子育て支援をするのは賛成だが、とにかくマナー教育をしてほしい。ママチャリがとにかく危険。騒いでも叱らない親が多すぎる。
- ・ 働く親ももちろんですが、家族の介護やボランティア活動などを行っている方々の子どもも見てもらえるプレディのような場所をより充実させてほしいと思います。世代を越えた交流の場もよいと思います。
- ・ 浜町児童館の施設も有馬小学校も古すぎる、同じ区の施設であるなら、同一のクオリティーのものを提供できるよう、差をなくす努力をもっとすべき（例えば、有馬のプールは昔ながらのものであるため、プールの授業がよく中止になり全然大きく受けられません）。
- ・ ひとり親でも安心して生活できる支援を希望。中央区は貧富の差が大きいので、低所得者世帯にも目を配ってほしい。子どもに罪はない。平等に育つ権利はあるはず。これからは、子育てに力を入れてほしい。
- ・ 子育て支援を支援と言ってますが、本当に必要な家庭かどうかきちんと調べてから支援などをしてほしい。不正に受給している家庭があると聞いてますので。

【6 男女共同参画社会】

(※) 男女共同参画社会 男女が、その人権を尊重しつつ喜びも責任も分かち合い、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる社会です。

(1) 男女の地位の平等感

◇「平等になっている」と感じるのは、“学校教育の場では”で6割台半ば

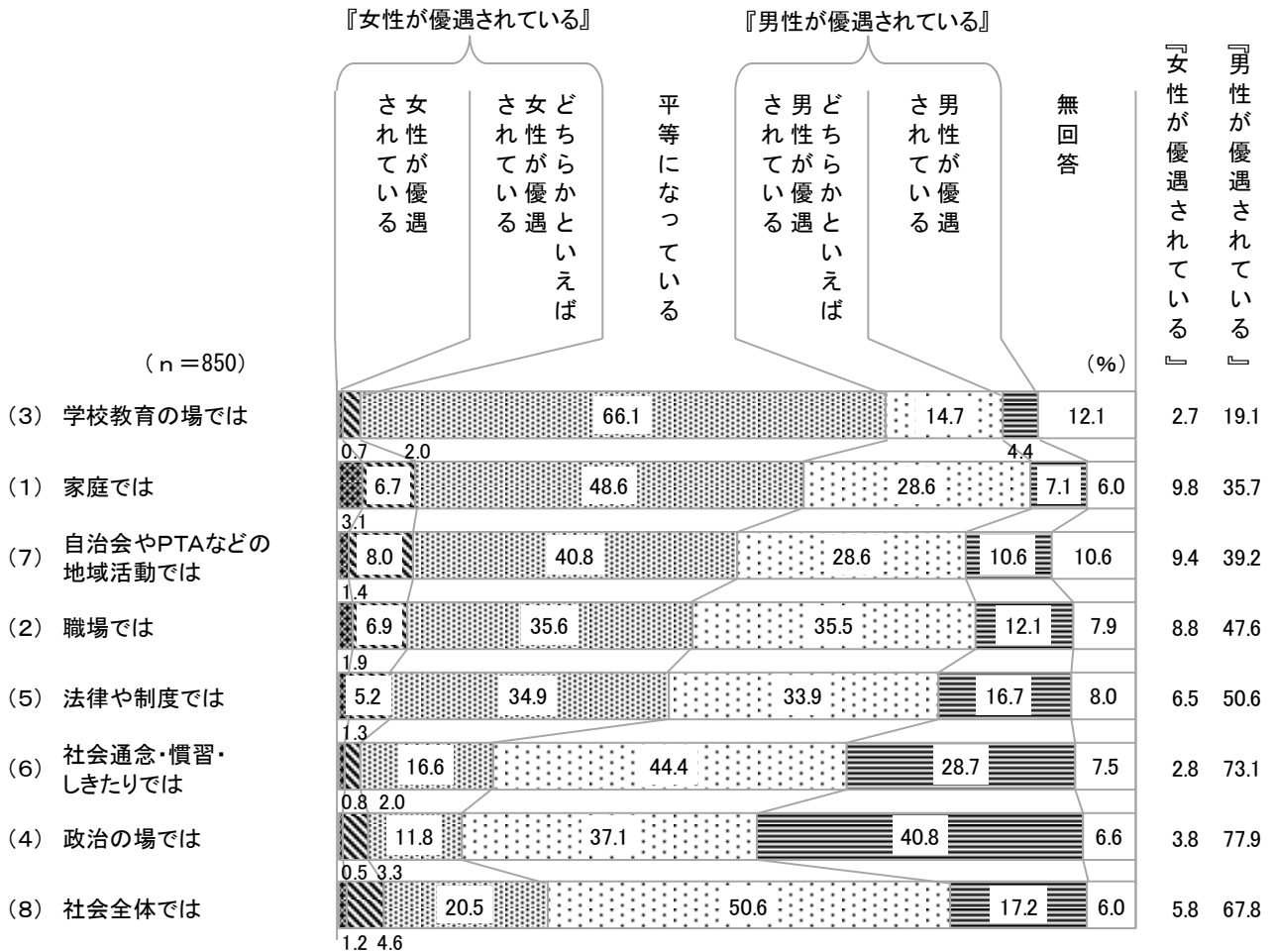
◇「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」と感じるのは、“政治の場では”で8割近く

問13 あなたは、次にあげる分野の男女の平等についてどのように感じていますか。		(○はそれぞれ1つずつ)					(%)
		1	2	3	4	5	無回答
		女性が優遇されている	どちらかといえば女性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば男性が優遇されている	男性が優遇されている	
n = 850							
(1) 家庭では		3.1	6.7	48.6	28.6	7.1	6.0
(2) 職場では		1.9	6.9	35.6	35.5	12.1	7.9
(3) 学校教育の場では		0.7	2.0	66.1	14.7	4.4	12.1
(4) 政治の場では		0.5	3.3	11.8	37.1	40.8	6.6
(5) 法律や制度では		1.3	5.2	34.9	33.9	16.7	8.0
(6) 社会通念・慣習・しきたりでは		0.8	2.0	16.6	44.4	28.7	7.5
(7) 自治会やPTAなどの地域活動では		1.4	8.0	40.8	28.6	10.6	10.6
(8) 社会全体では		1.2	4.6	20.5	50.6	17.2	6.0

男女の地位の平等感について、「平等になっている」と感じるのは、“学校教育の場では”（66.1%）で6割台半ばで最も高く、次いで“家庭では”（48.6%）で5割近くとなっている。

「どちらかといえば男性が優遇されている」と「男性が優遇されている」を合わせた『男性が優遇されている』と感じるのは、“政治の場では”（77.9%）で8割近くと最も高く、次いで“社会通念・慣習・しきたりでは”（73.1%）で7割を超えている。（図表6-1-1）

図表6-1-1 男女の地位の平等感

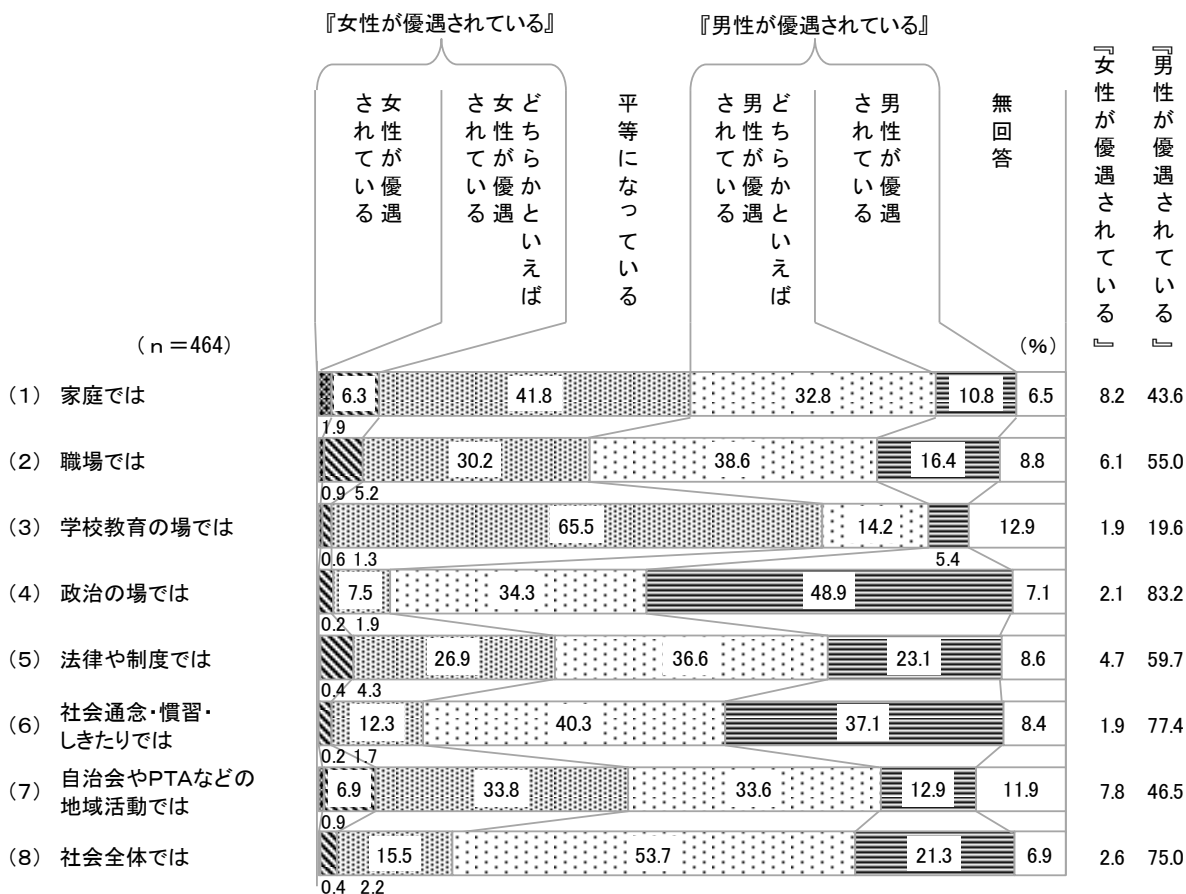


性別でみると、「平等になっている」と感じる割合は、男性の方が女性よりも“法律や制度では”で18.8ポイント、“自治会やPTAなどの地域活動では”で16.9ポイント、“家庭では”で16.1ポイント、それぞれ高くなっている。

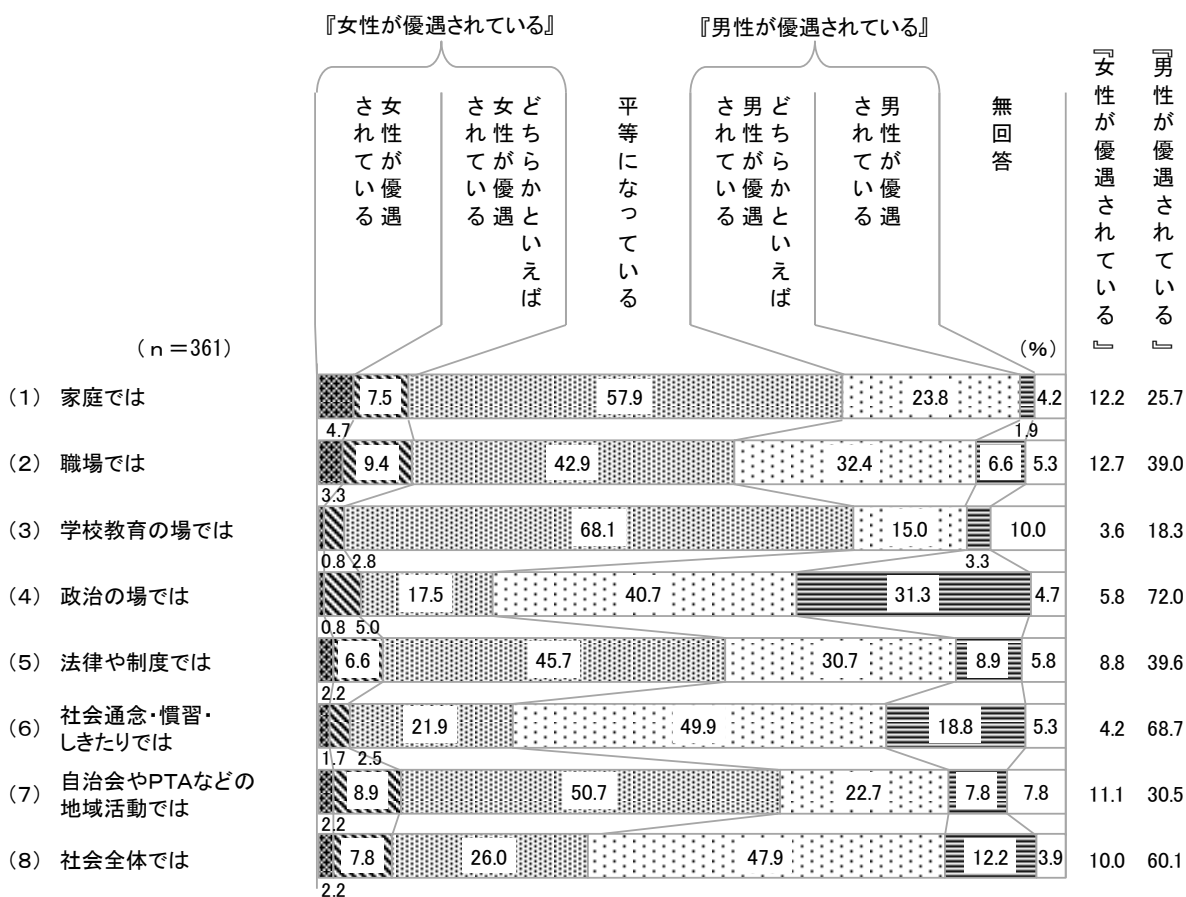
一方、『男性が優遇されている』と感じる割合は、女性の方が男性よりも“法律や制度では”で20.1ポイント、“家庭では”で17.9ポイント、それぞれ高くなっている。

また、“社会全体では”でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が14.9ポイント高くなっている。（図表6-1-2、図表6-1-3）

図表 6-1-2 男女の地位の平等感—女性



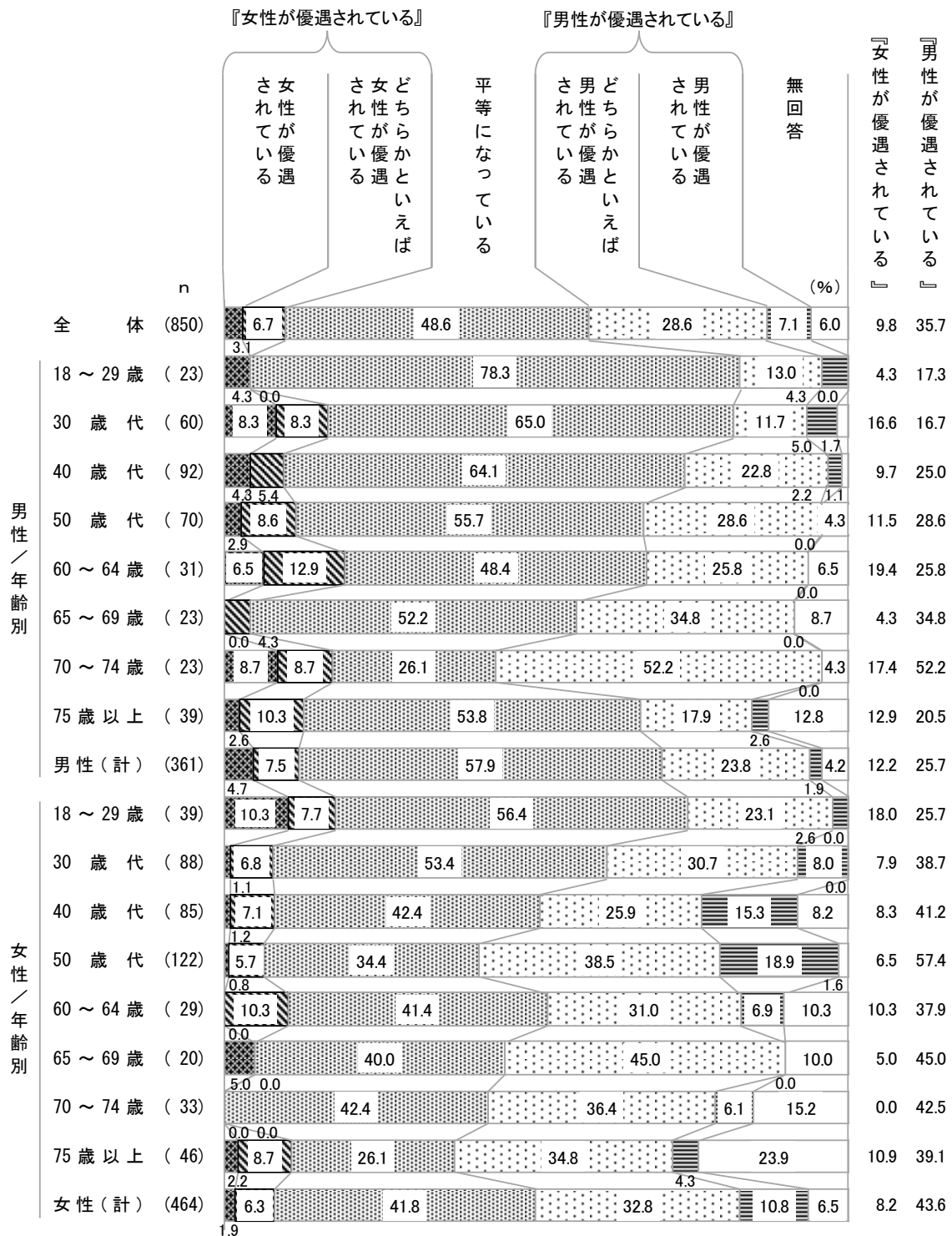
図表 6-1-3 男女の地位の平等感—男性



“家庭では”について性別でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が17.9ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が16.1ポイント高くなっている。

“家庭では”について性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の50歳代で6割近くと高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の18～29歳で8割近くと高くなっている。(図表6-1-4)

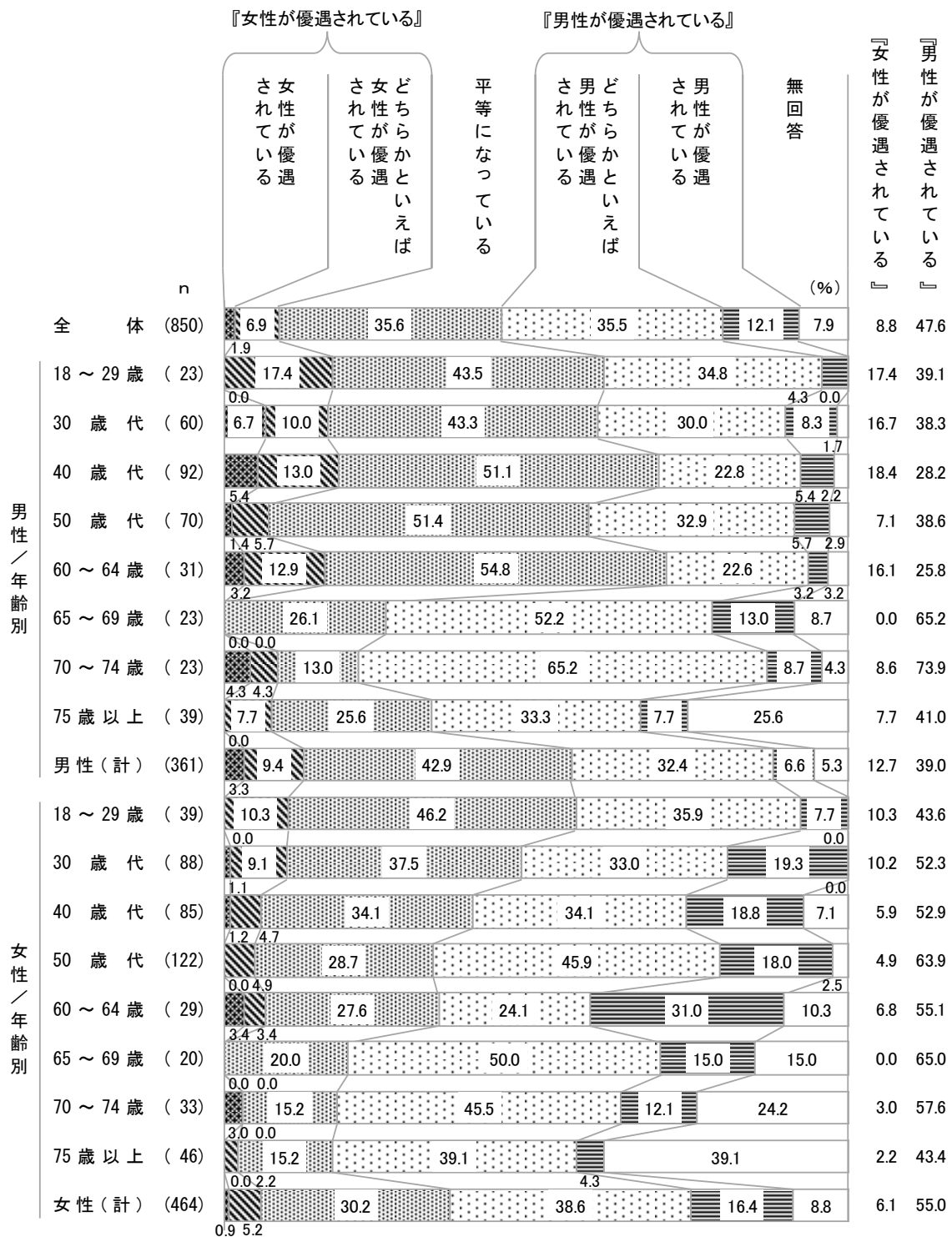
図表6-1-4 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(1) 家庭では」



“職場では”について性別でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が16.0ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が12.7ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は男性の70～74歳で7割を超えて高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の60～64歳で5割台半ばと高くなっている。(図表6-1-5)

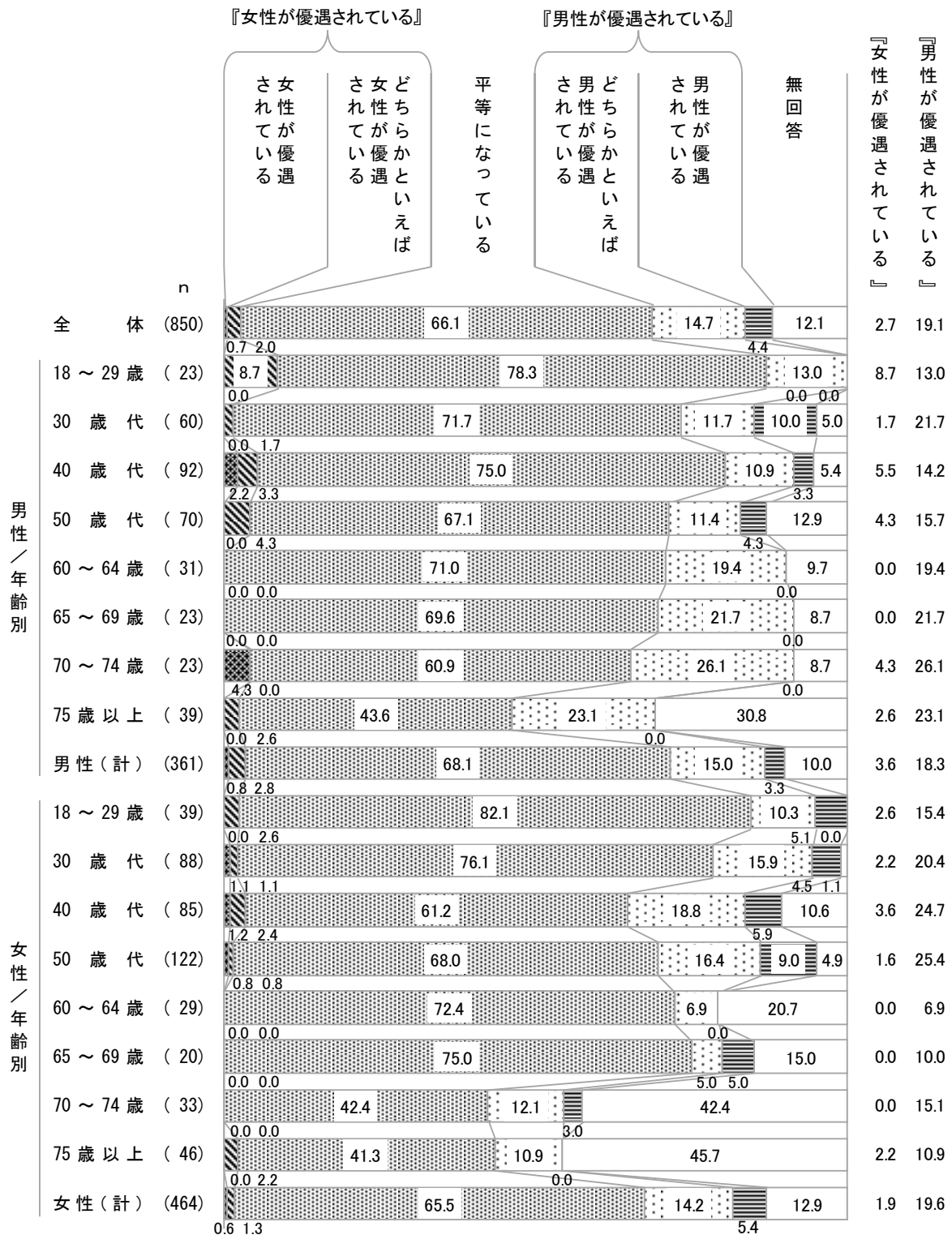
図表6-1-5 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(2) 職場では」



“学校教育の場では”について性別でみると、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が2.6ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は男性の70～74歳、女性の40歳代、50歳代で2割台半ばと高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は女性の18～29歳で8割を超え高くなっている。(図表6-1-6)

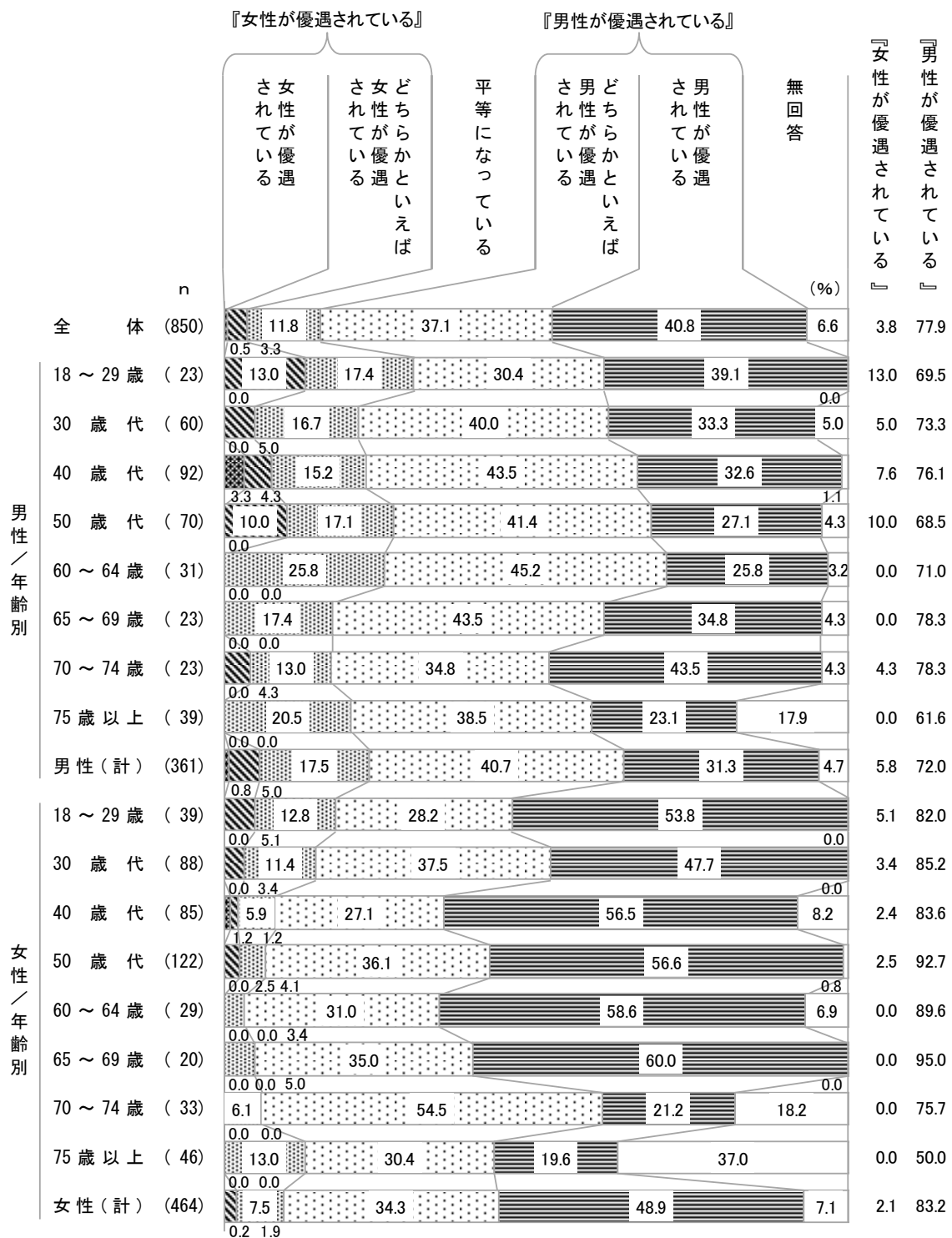
図表6-1-6 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(3) 学校教育の場では」



“政治の場では”について性別でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が11.2ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が10.0ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の65～69歳で9割台半ばと高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の60～64歳で2割台半ばと高くなっている。(図表6-1-7)

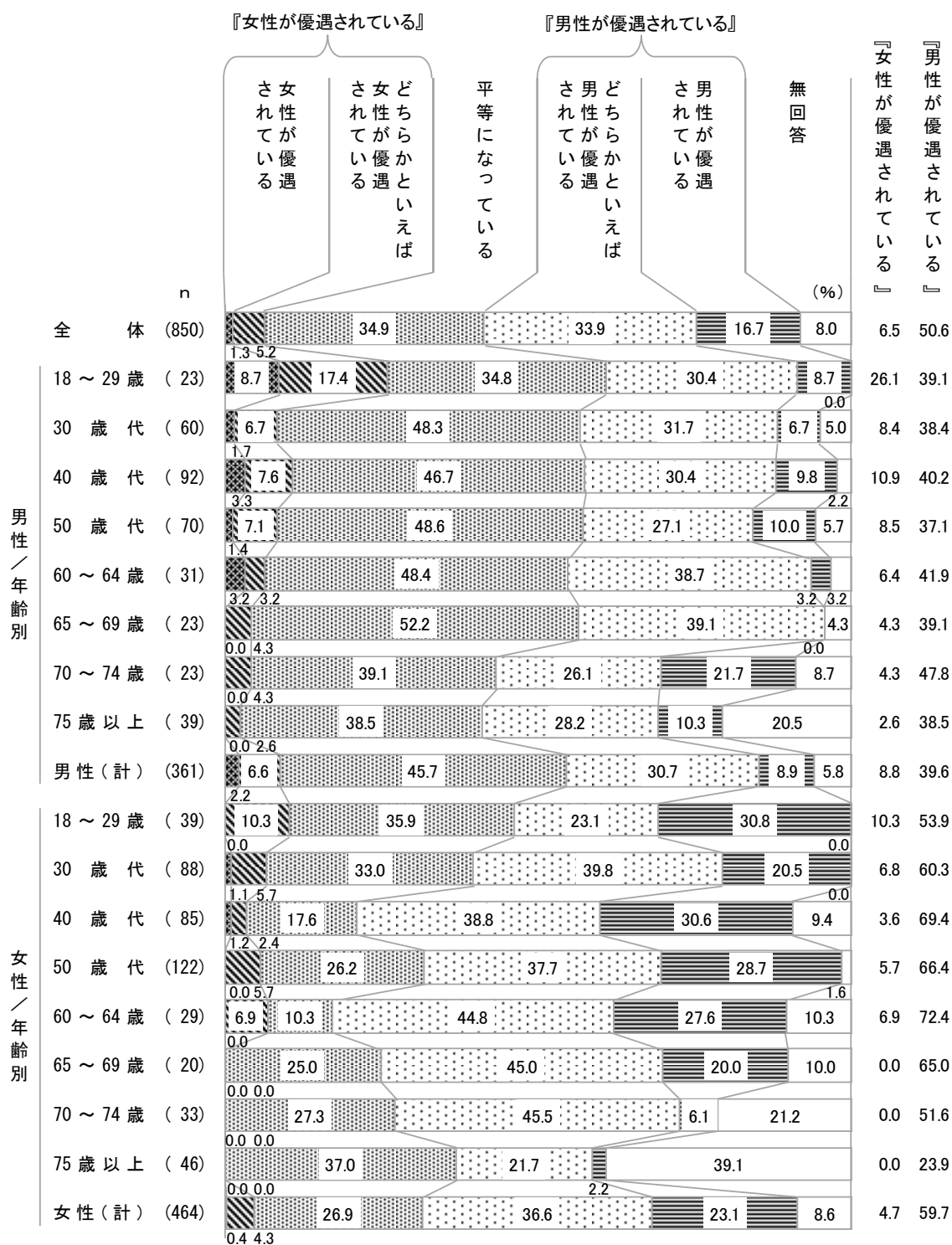
図表6-1-7 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(4) 政治の場では」



“法律や制度では”について性別でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が20.1ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が18.8ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の60～64歳で7割を超えて高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の65～69歳で5割を超えて高くなっている。(図表6-1-8)

図表6-1-8 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(5) 法律や制度では」

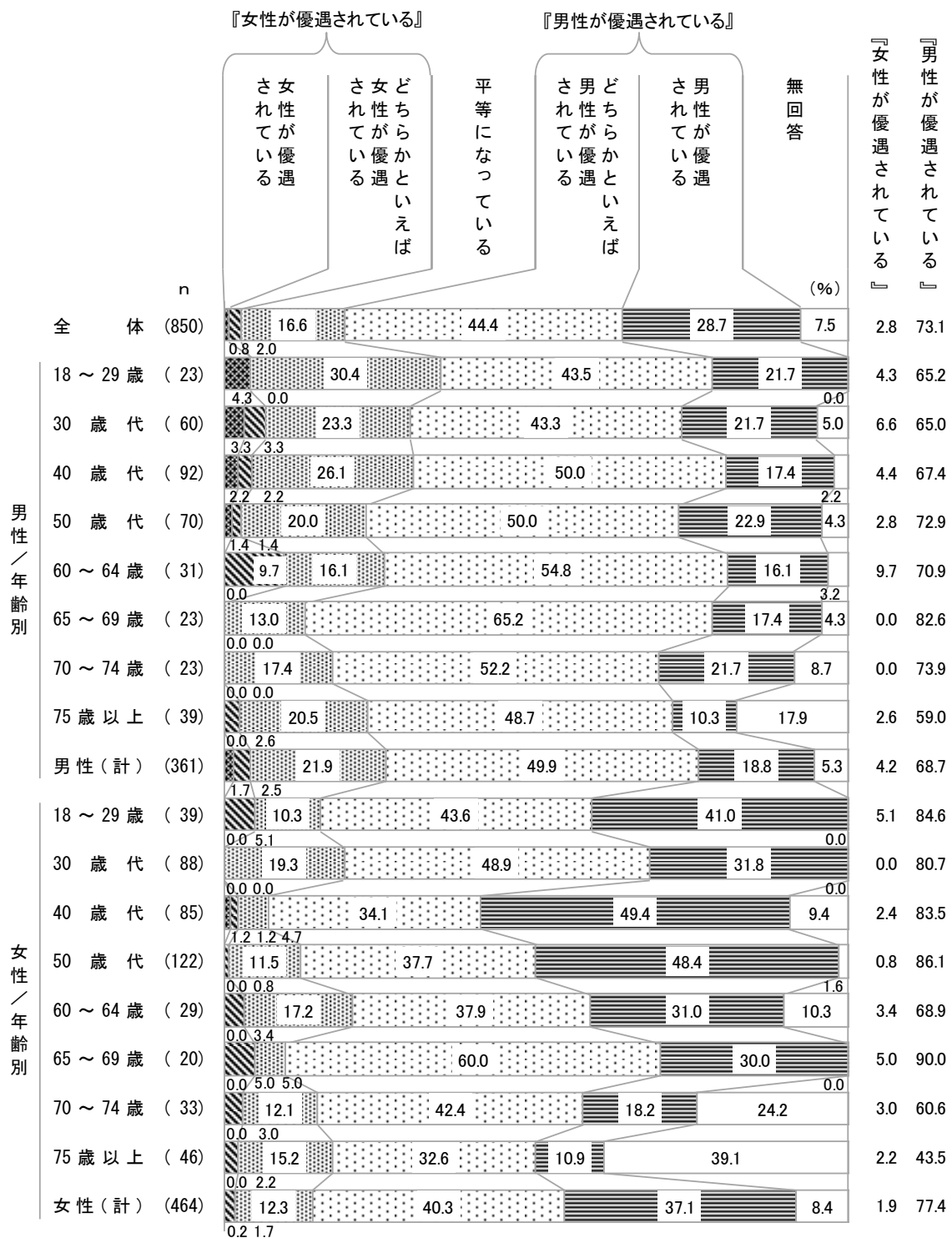


“社会通念・慣習・しきたりでは”について性別でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が8.7ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が9.6ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の65～69歳で9割と高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の18～29歳で3割と高くなっている。

(図表6-1-9)

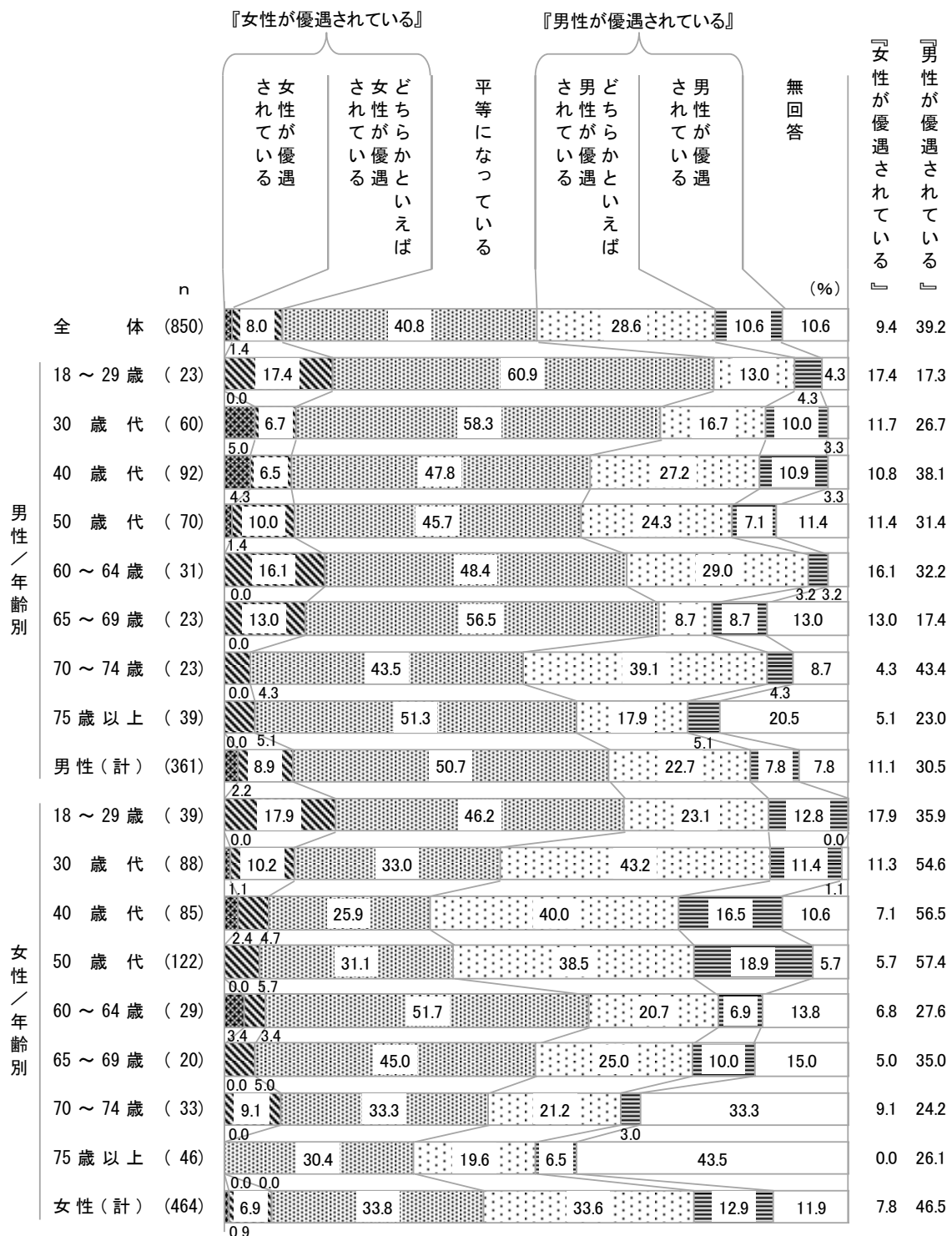
図表6-1-9 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(6) 社会通念・慣習・しきたりでは」



“自治体やPTAなどの地域活動では”について性別でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が16.0ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が16.9ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の40歳代と50歳代で6割近くと高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の18～29歳で約6割と高くなっている。(図表6-1-10)

図表6-1-10 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(7)自治体やPTAなどの地域活動では」

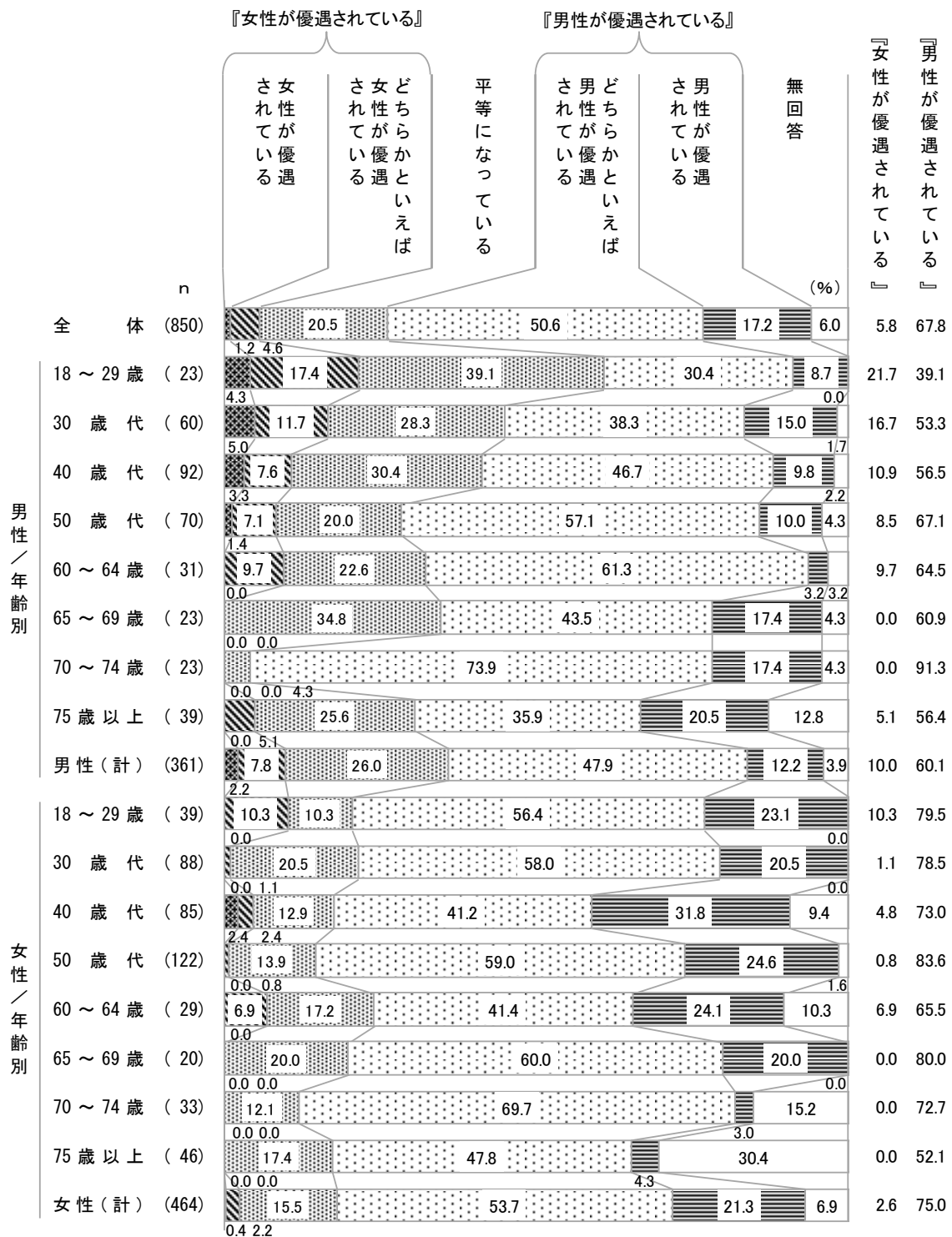


“社会全体では”について性別でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が14.9ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が10.5ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は男性の70～74歳で9割を超えて高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の18～29歳で約4割と高くなっている。

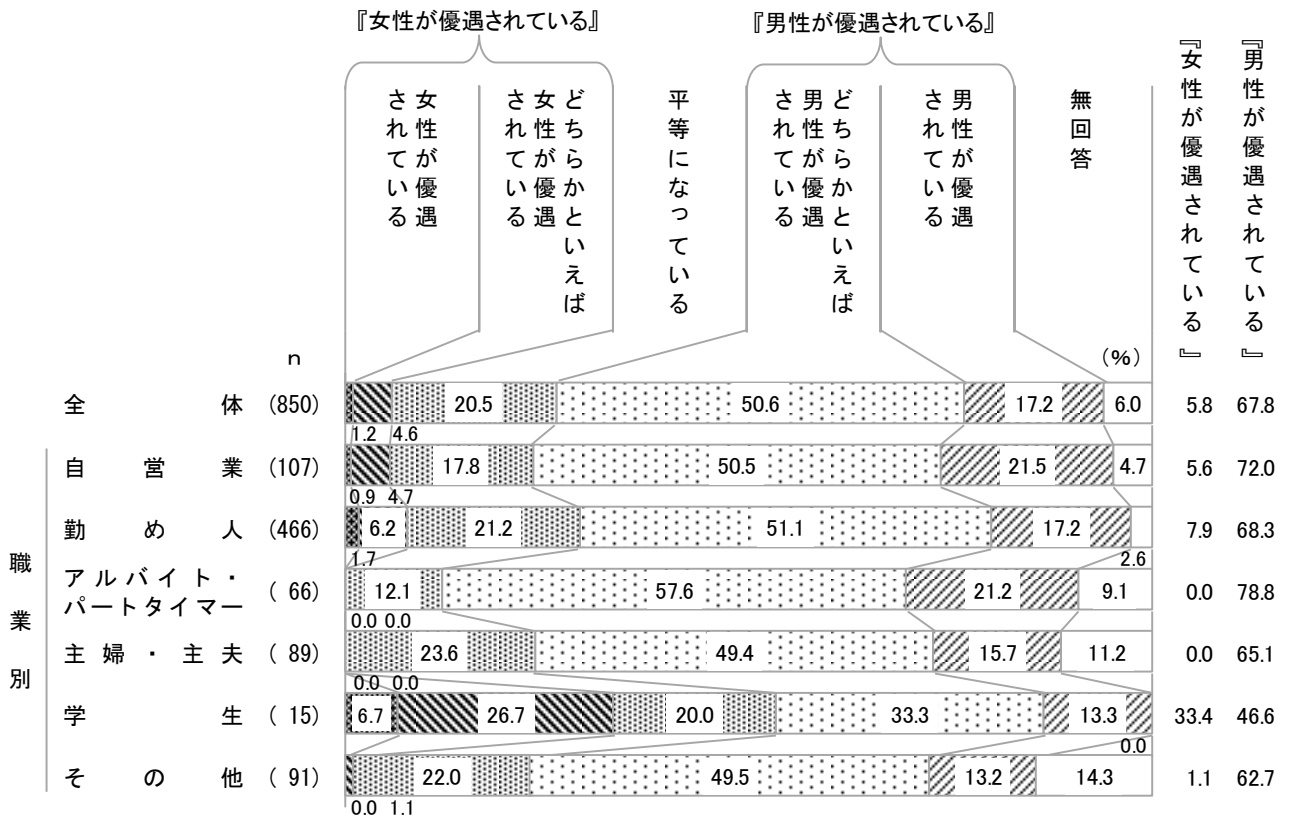
(図表6-1-11)

図表6-1-11 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(8) 社会全体では」



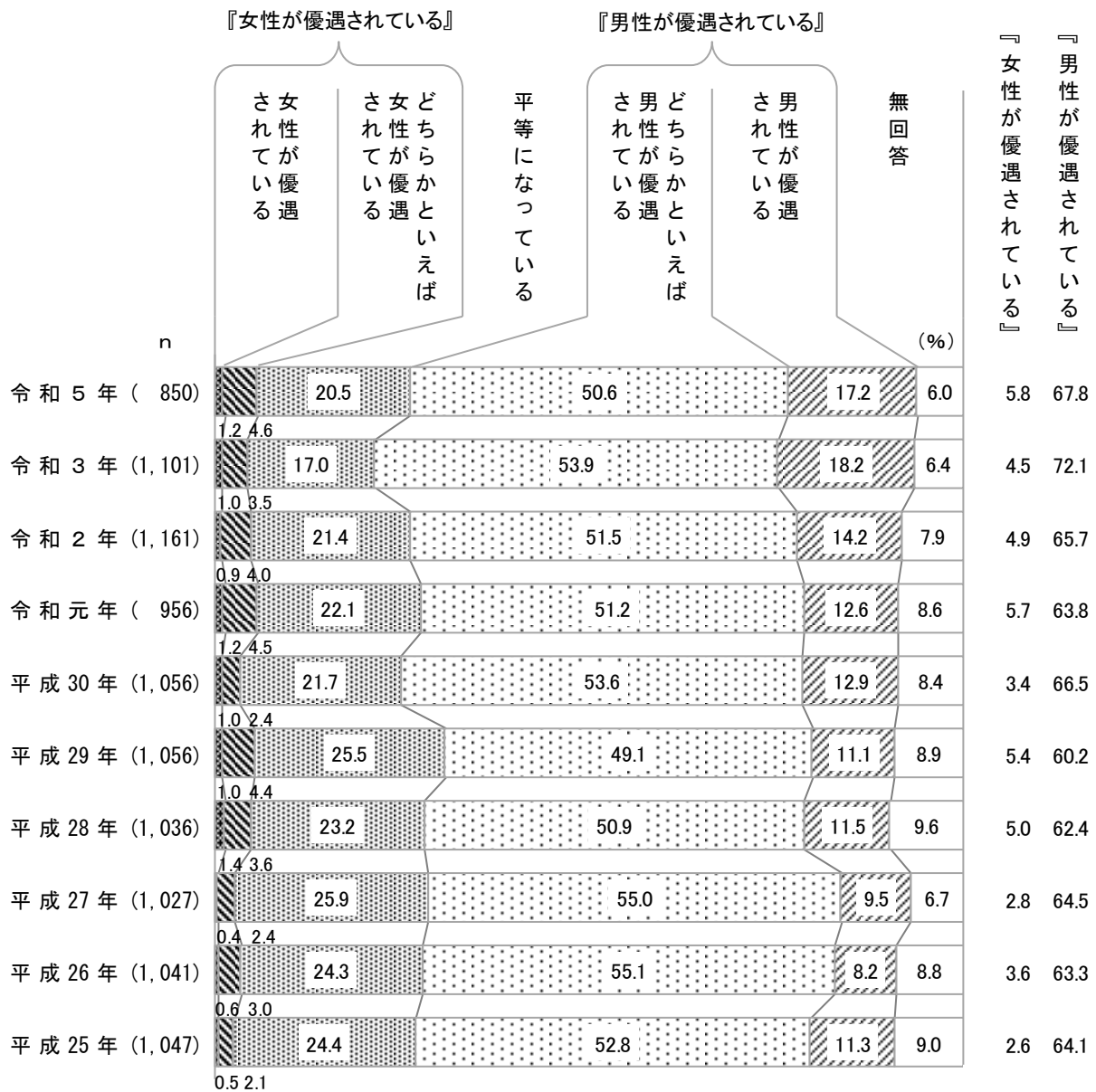
“社会全体では”について職業別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合はアルバイト・パートタイマーで8割近くと高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は勤め人と主婦・主夫で2割を超えて高くなっている。(図表6-1-12)

図表6-1-12 男女の地位の平等感—職業別「(8) 社会全体では」



“社会全体では”について過去の調査と比較すると、『男性が優遇されている』と感じる割合は令和3年と比べて4.3ポイント減少している。一方、「平等になっている」と感じる割合は3.5ポイント増加している。(図表6-1-13)

図表6-1-13 男女の地位の平等感一過年度比較「(8) 社会全体では」



(2) ワーク・ライフ・バランスの現在の状況

◇「仕事と家庭生活を同じように両立させている」が2割を超える

問14 あなた自身のワーク・ライフ・バランス※（「仕事」と「家庭生活」の調和）について、現状は次のどれにあてはまりますか。（○は1つ）

n = 850

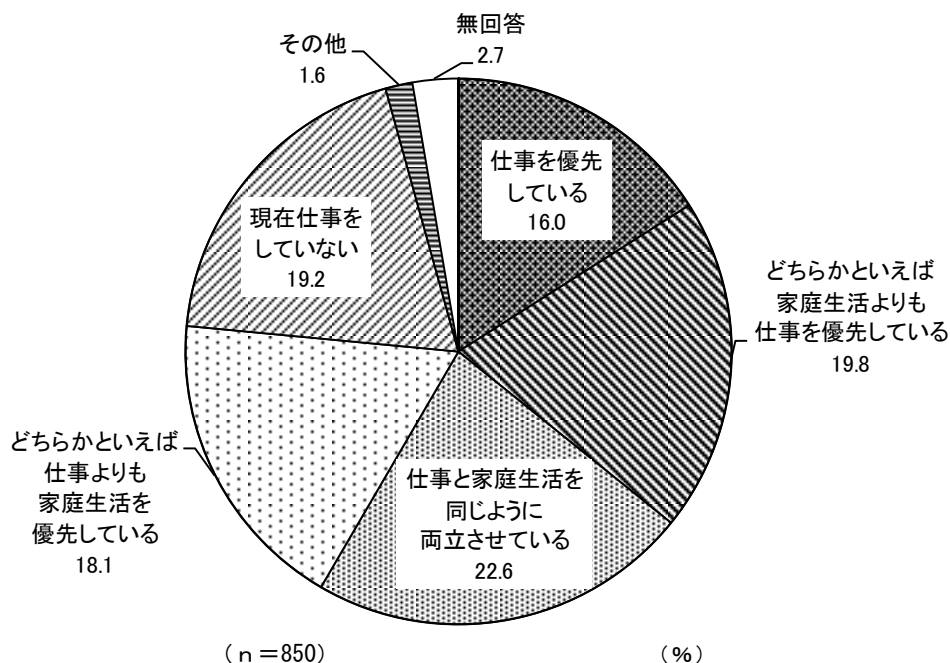
1	仕事を優先している	16.0%
2	どちらかといえば家庭生活よりも仕事を優先している	19.8
3	仕事と家庭生活を同じように両立させている	22.6
4	どちらかといえば仕事よりも家庭生活を優先している	18.1
5	現在仕事をしていない	19.2
6	その他	1.6
	(無回答)	2.7

(※) ワーク・ライフ・バランス 仕事と仕事以外の家庭生活とのバランスを図ることにより、家庭や地域活動などに参加できる時間を確保しながら充実した生活を送ることが重要であるという考え方です。

ワーク・ライフ・バランスの現在の状況は、「仕事と家庭生活を同じように両立させている」(22.6%)が2割を超えて最も高くなっている。次いで、「どちらかといえば家庭生活よりも仕事を優先している」(19.8%)、「どちらかといえば仕事よりも家庭生活を優先している」(18.1%)などとなっている。また、「現在仕事をしていない」(19.2%)は約2割となっている。

(図表6-2-1)

図表6-2-1 ワーク・ライフ・バランスの現在の状況



過去の調査結果との比較は、平成30年以前とは選択肢が異なり単純に比較することはできないが、「どちらかといえば仕事より家庭生活を優先している」は令和3年と比べて4.8ポイント増加し、「仕事と家庭生活を同じように両立させている」が4.5ポイント減少している。(図表6-2-2)

図表6-2-2 ワーク・ライフ・バランスの現在の状況－過年度比較

調 査 年	n	(%)						
		仕事を優先している	どちらかともいえない 仕事も優先して 家庭生活	仕事と家庭生活を 同じように	どちらかともいえない 家庭生活を優先して 仕事より	現在仕事をしていない	その他	無回答
令和5年	850	16.0	19.8	22.6	18.1	19.2	1.6	2.7
令和3年	1,101	15.9	19.7	27.1	13.3	20.7	0.9	2.5
令和2年	1,161	15.3	19.6	25.8	14.7	19.2	1.5	3.8
令和元年	956	15.4	21.1	23.4	13.6	22.4	0.7	3.3
平成30年	1,056	9.0	30.3	20.5	13.5	22.7	0.9	3.0
平成29年	1,056	8.1	29.8	23.9	11.2	20.6	1.5	4.8
平成28年	1,036	10.2	28.8	23.7	12.4	19.6	1.0	4.3
平成27年	1,027	9.7	30.1	20.6	12.8	21.0	2.2	3.5
平成26年	1,041	7.5	31.6	20.2	12.2	24.1	0.5	3.9
平成25年	1,047	9.1	31.6	20.2	11.3	21.0	1.6	5.2

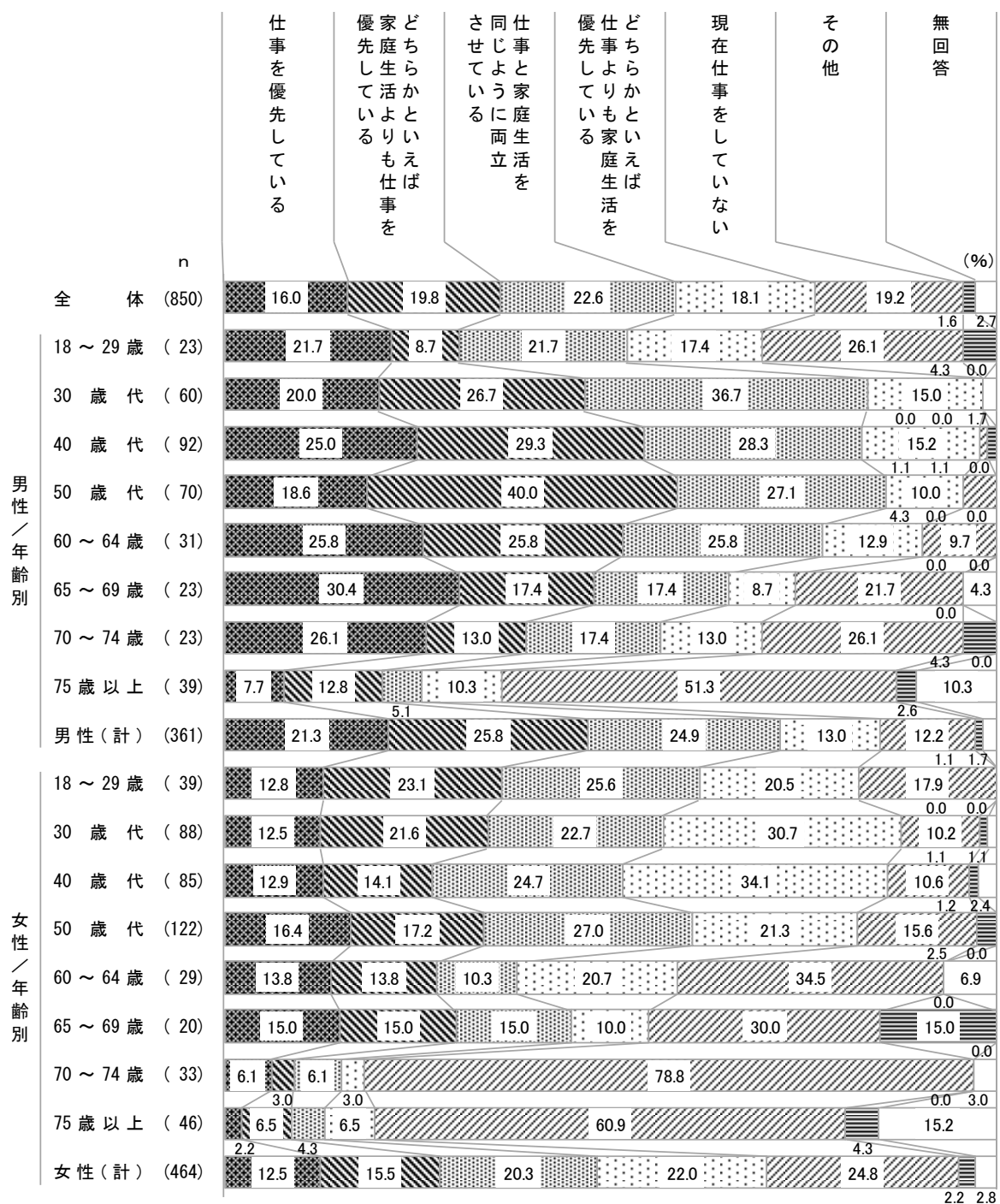
- * 「仕事を優先している」の選択肢は、平成30年以前は「仕事に専念している」としていた。
- * 「どちらかといえば家庭生活よりも仕事を優先している」の選択肢は、平成30年以前は「どちらかといえば、仕事の方を優先している」としていた。
- * 「仕事と家庭生活を同じように両立させている」の選択肢は、平成30年以前は「仕事と生活を同じように両立させている」としていた。
- * 「どちらかといえば仕事よりも家庭生活を優先している」の選択肢は、平成30年以前は「どちらかといえば仕事よりも、生活の方を優先させている」としていた。

性別でみると、女性の方が男性よりも「現在仕事をしていない」で12.6ポイント、「どちらかといえば仕事よりも家庭生活を優先している」で9.0ポイント、それぞれ高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「どちらかといえば家庭生活よりも仕事を優先している」で10.3ポイント、「仕事を優先している」で8.8ポイント、それぞれ高くなっている。

性／年齢別でみると、「仕事を優先している」は男性の65～69歳で3割と高くなっている。「どちらかといえば家庭生活よりも仕事を優先している」は男性の50歳代で4割と高くなっている。「仕事と家庭生活を同じように両立させている」は男性の30歳代で4割近くと高くなっている。

(図表6-2-3)

図表6-2-3 ワーク・ライフ・バランスの現在の状況－性別・性／年齢別

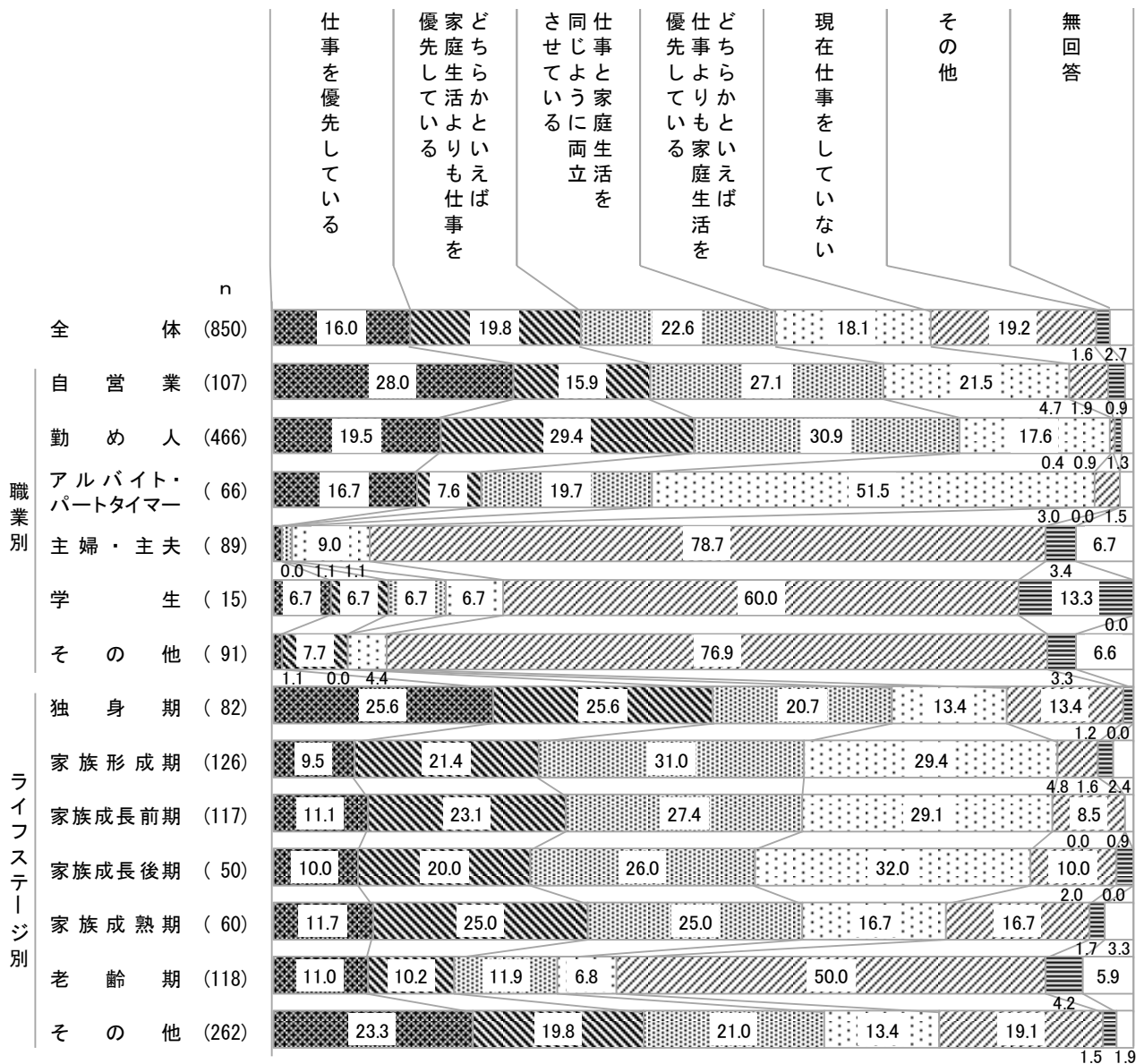


職業別でみると、「仕事を優先している」は自営業で3割近くと高くなっている。「どちらかといえば家庭生活よりも仕事を優先している」と「仕事と家庭生活を同じように両立させている」は勤め人で3割前後と高くなっている。「どちらかといえば仕事よりも家庭生活を優先している」はアルバイト・パートタイマーで5割を超えて高くなっている。

ライフステージ別でみると、「仕事を優先している」は独身期で2割台半ばと高くなっている。「仕事と家庭生活を同じように両立させている」は家族形成期で3割を超えて高くなっている。

(図表6-2-4)

図表6-2-4 ワーク・ライフ・バランスの現在の状況－職業別・ライフステージ別



【7 防犯対策】

(1) 不安を感じる犯罪

◇特殊詐欺（振り込め詐欺など）が3割近く

問15 あなたの住む地域で不安を感じる具体的犯罪は何ですか。（○は2つまで）

n = 850

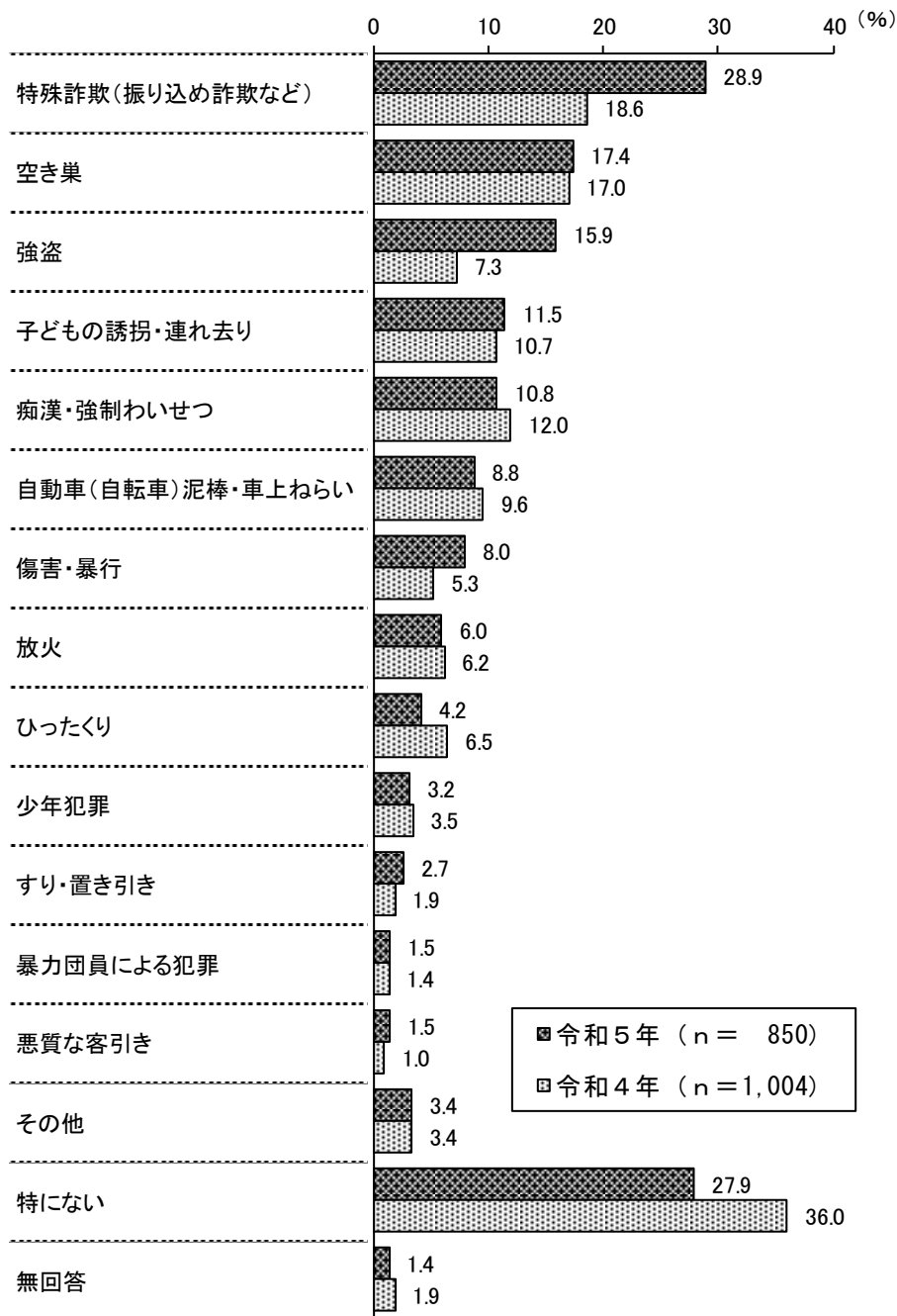
1	ひったくり	4.2%	9	痴漢・強制わいせつ	10.8
2	空き巣	17.4	10	少年犯罪	3.2
3	強盗	15.9	11	子どもの誘拐・連れ去り	11.5
4	すり・置き引き	2.7	12	暴力団員による犯罪	1.5
5	自動車（自転車）泥棒・車上ねらい	8.8	13	悪質な客引き	1.5
6	特殊詐欺（振り込め詐欺など）	28.9	14	その他	3.4
7	傷害・暴行	8.0	15	特にない	27.9
8	放火	6.0		（無回答）	1.4

不安を感じる犯罪は、「特殊詐欺（振り込め詐欺など）」（28.9%）が3割近くで最も高くなっている。次いで、「空き巣」（17.4%）、「強盗」（15.9%）、「子どもの誘拐・連れ去り」（11.5%）、「痴漢・強制わいせつ」（10.8%）などとなっている。一方、「特にない」（27.9%）は3割近くとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「特殊詐欺（振り込め詐欺など）」は10.3ポイント、「強盗」は8.6ポイント、それぞれ増加している。一方、「特にない」は8.1ポイント減少している。

(図表7-1-1)

図表7-1-1 不安に感じる犯罪（複数回答）



※ 「特殊詐欺（振り込め詐欺など）」の選択肢は、令和4年では「振り込め詐欺」としていた。

過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、令和2年以降は「特殊詐欺（振り込め詐欺など）」が第1位となっている。（図表7-1-2）

図表7-1-2 不安に感じる犯罪一過年度比較

調査年	n	(%)															
		特殊詐欺（振り込め詐欺など）	空き巣	強盗	子どもの誘拐・連れ去り	痴漢・強制わいせつ	自動車（自転車）泥棒・車上ねらい	傷害・暴行	放火	ひったくり	少年犯罪	すり・置き引き	暴力団員による犯罪	悪質な客引き	その他	特にない	無回答
令和5年	850	28.9	17.4	15.9	11.5	10.8	8.8	8.0	6.0	4.2	3.2	2.7	1.5	1.5	3.4	27.9	1.4
令和4年	1,004	18.6	17.0	7.3	10.7	12.0	9.6	5.3	6.2	6.5	3.5	1.9	1.4	1.0	3.4	36.0	1.9
令和3年	1,101	20.4	16.0	6.2	10.6	11.4	9.6	4.9	3.9	6.5	3.6	3.5	0.9	0.9	3.1	36.2	2.1
令和2年	1,161	19.8	17.7	8.7	11.0	14.4	9.2	5.9	3.9	7.1	2.4	3.7	0.7	1.3	4.0	32.3	2.2
令和元年	956	18.1	23.6	7.8	9.8	10.8	7.1	6.3	5.1	5.9	3.3	2.7	1.7	1.9	4.0	32.5	2.4
平成30年	1,056	16.8	22.1	4.7	14.1	9.0	8.4	7.5	6.9	8.4	3.5	2.9	1.2	1.7	4.1	32.1	2.3
平成29年	1,056	13.6	22.2	5.9	13.2	8.3	10.6	5.2	6.4	9.8	3.1	3.0	1.0	1.7	3.3	31.5	4.0
平成28年	1,036	12.4	21.7	6.4	14.0	10.0	12.2	6.0	5.2	6.0	3.6	2.7	2.0	1.4	3.8	33.4	3.2
平成27年	1,027	15.1	26.4	6.5	14.1	7.4	10.8	6.5	8.7	7.7	7.6	3.8	1.7	0.8	4.2	29.7	2.0
平成26年	1,041	21.4	40.1	11.9	16.9	11.8	17.5	11.1	13.8	16.0	8.8	8.4	3.9	※	4.1	※	15.9
平成25年	1,047	21.5	37.8	12.0	11.4	11.4	22.1	11.9	16.4	22.6	7.6	8.2	4.7	※	4.9	※	11.7
平成24年	1,123	13.1	41.7	16.9	11.9	10.5	21.1	16.8	17.8	21.5	10.2	7.5	8.2	※	5.9	※	9.3
平成23年	1,097	14.2	43.6	15.4	12.8	9.9	23.2	11.9	15.6	23.4	7.8	7.5	5.7	※	6.3	※	10.4
平成22年	1,004	17.1	41.8	12.8	13.9	10.3	20.9	12.2	16.7	20.3	11.3	6.5	7.0	※	4.5	※	11.5
平成21年	1,001	12.2	44.8	17.7	14.2	10.2	21.1	9.7	21.9	27.7	9.5	6.3	4.8	※	6.6	※	7.4
平成20年	1,065	18.0	42.6	18.1	16.9	18.6	13.9	17.7	18.9	19.8	15.0	4.5	10.4	※	5.9	※	7.6
平成19年	686	18.4	43.7	20.6	16.5	15.9	16.0	14.0	22.6	20.6	16.3	5.0	8.7	※	1.9	※	5.4

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

* 平成26年以前は、3つまで回答可能としていた。

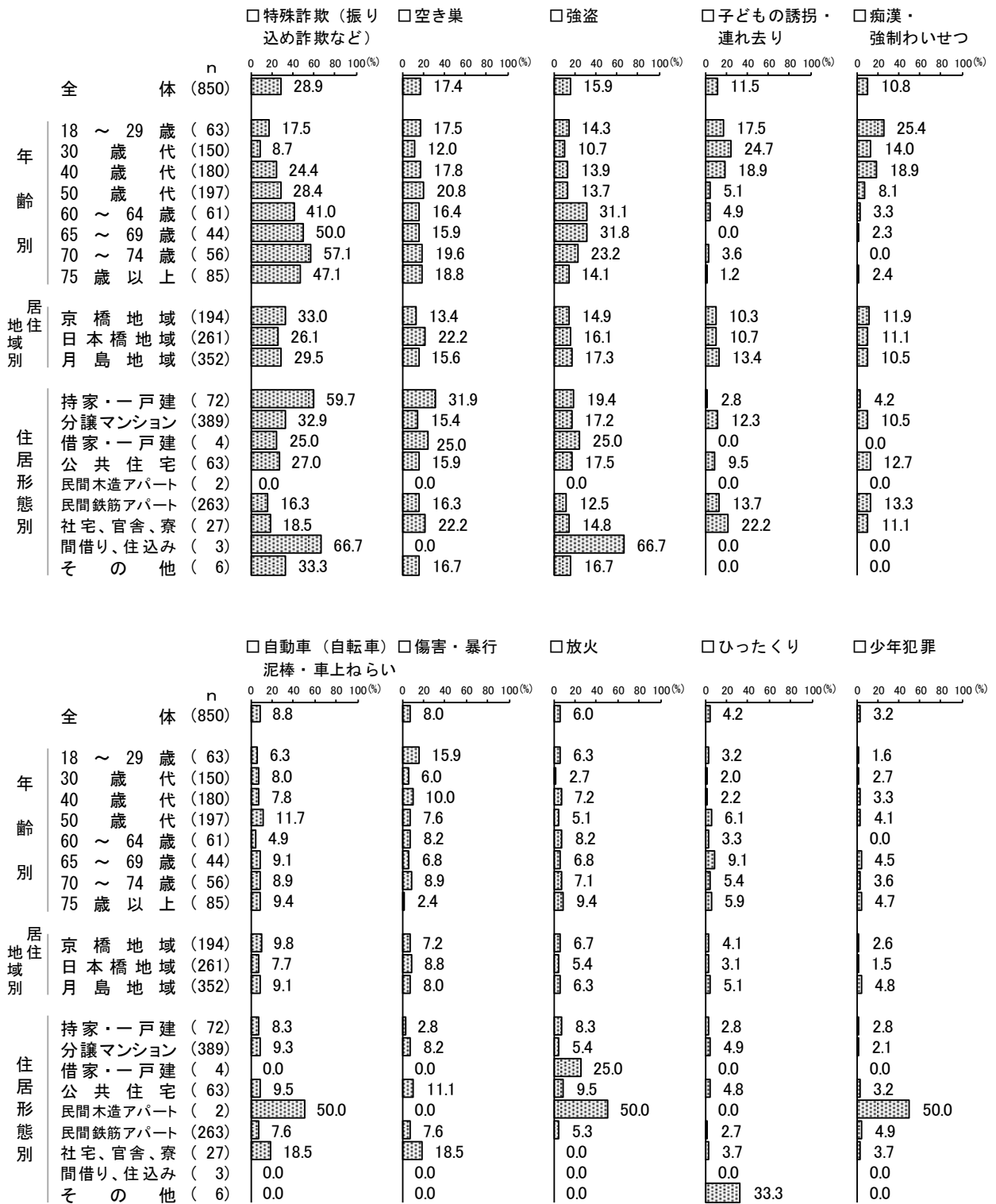
* 「特殊詐欺（振り込め詐欺など）」の選択肢は、令和4年以前は「振り込め詐欺」としていた。

年齢別でみると、「特殊詐欺（振り込め詐欺など）」は70～74歳で6割近くと高くなっている。「強盗」は60～64歳と65～69歳で3割を超えて高くなっている。

居住地域別でみると、「特殊詐欺（振り込め詐欺など）」は京橋地域で3割を超えて高くなっている。「空き巣」は日本橋地域で2割を超えて高くなっている。

住居形態別でみると、「特殊詐欺（振り込め詐欺など）」は持家・一戸建てで6割と高くなっている。「空き巣」は持家・一戸建てで3割を超えて高くなっている。（図表7-1-3）

図表 7-1-3 不安に感じる犯罪一年齢別・居住地域別・住居形態別（上位10項目）



(2) 防犯のために行っていること

◇「エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている」が6割近く

問16 あなたが防犯のために実行していること、心掛けていることは何ですか。

(○はいくつでも)

n = 850

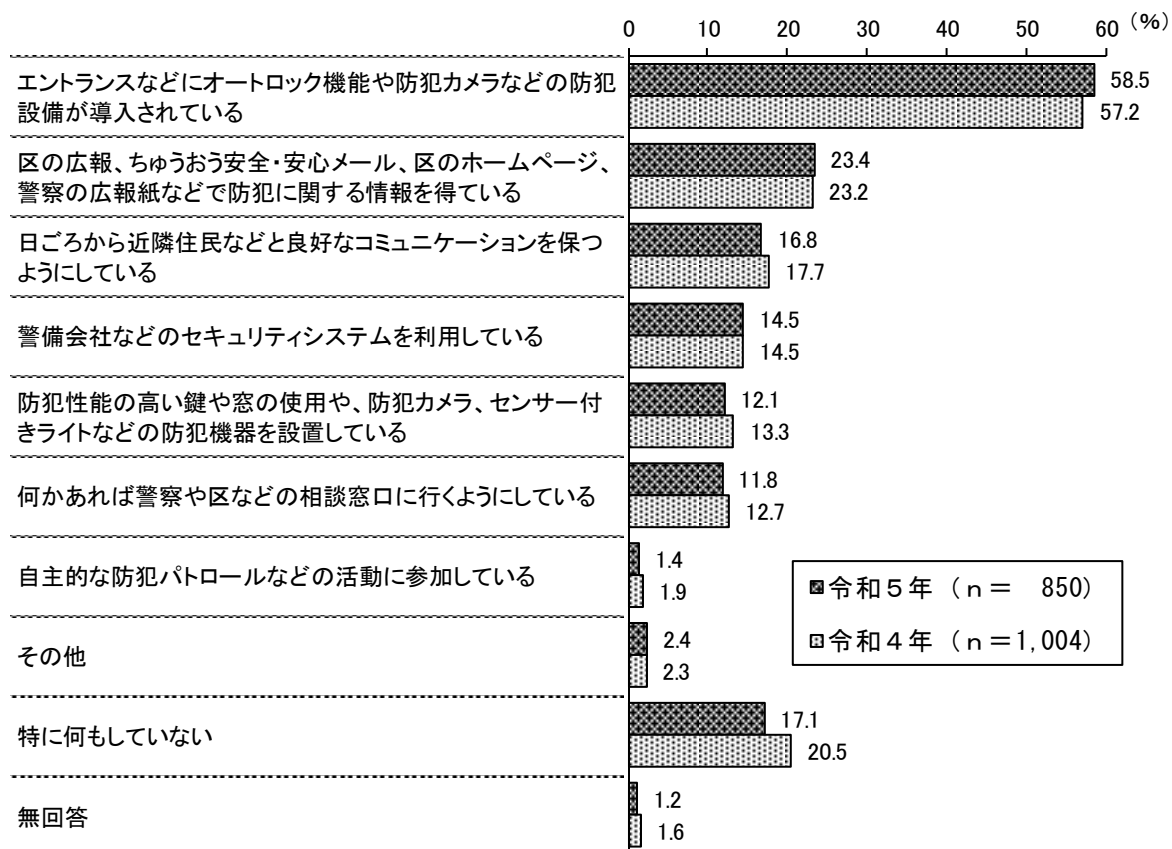
1	自主的な防犯パトロールなどの活動に参加している	1.4%
2	区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている	23.4
3	何かあれば警察や区などの相談窓口に行くようにしている	11.8
4	日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている	16.8
5	防犯性能の高い鍵や窓の使用や、防犯カメラ、センサー付きライトなどの防犯機器を設置している	12.1
6	警備会社などのセキュリティシステムを利用している	14.5
7	エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている	58.5
8	その他	2.4
9	特に何もしていない	17.1
	(無回答)	1.2

防犯のために行っていることは、「エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている」(58.5%)が6割近くで最も高くなっている。次いで、「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」(23.4%)、「日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている」(16.8%)、「警備会社などのセキュリティシステムを利用している」(14.5%)、「防犯性能の高い鍵や窓の使用や、防犯カメラ、センサー付きライトなどの防犯機器を設置している」(12.1%)などとなっている。一方、「特に何もしていない」(17.1%)は2割近くとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「特に何もしていない」は3.4ポイント減少している。

(図表7-2-1)

図表7-2-1 防犯のために行っていること(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている」と「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」、「日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている」が令和2年以降上位3項目となっている。(図表7-2-2)

図表7-2-2 防犯のために行っていること一過年度比較

調査年	n	(%)											
		防犯カメラなどの防犯設備が導入されている	エントランスなどにオートロック機能	や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている	区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている	日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている	警備会社などのセキュリティシステム	防犯カメラ、センサー付きライトなどの防犯機器を設置している	防犯性能の高い鍵や窓の使用や、防犯	行くよければ警察や区などの相談窓口	何かあれば警察や区などの相談窓口	自主的な防犯パトロールなどの活動に参加している	その他
令和5年	850	58.5	23.4	16.8	14.5	12.1	11.8	1.4	2.4	17.1	1.2		
令和4年	1,004	57.2	23.2	17.7	14.5	13.3	12.7	1.9	2.3	20.5	1.6		
令和3年	1,101	58.2	25.1	16.8	13.9	11.7	12.1	1.1	2.6	17.1	2.5		
令和2年	1,161	59.6	25.7	16.0	14.3	10.9	13.3	1.2	1.8	16.9	2.0		
令和元年	956	※	21.1	20.5	16.7	16.3	13.7	1.6	2.4	40.5	2.4		
平成30年	1,056	※	19.8	19.6	14.7	11.6	13.3	1.5	3.9	42.1	2.1		
平成29年	1,056	※	21.3	19.1	14.6	15.9	13.2	1.4	3.0	38.0	3.6		
平成28年	1,036	※	19.8	20.3	15.2	15.5	13.5	1.2	2.2	41.0	2.6		
平成27年	1,027	※	20.0	20.1	14.2	14.1	13.0	1.6	3.0	41.6	1.9		
平成26年	1,041	※	17.5	19.5	13.6	14.9	14.4	1.2	3.7	41.6	3.2		
平成25年	1,047	※	18.4	22.3	11.9	16.1	15.2	2.1	3.9	36.8	4.7		
平成24年	1,123	※	19.6	20.1	12.0	15.2	16.3	1.6	2.8	40.5	2.4		
平成23年	1,097	※	17.7	22.0	11.9	14.8	15.3	1.8	3.2	39.7	3.4		
平成22年	1,004	※	20.3	27.5	14.0	19.2	19.2	2.6	2.8	33.0	2.1		
平成21年	1,001	※	13.7	26.8	15.4	19.4	16.2	2.6	3.5	35.2	2.2		
平成20年	1,065	※	12.7	29.8	14.1	19.7	17.2	3.4	3.3	36.2	2.3		
平成19年	686	※	9.0	27.7	10.5	19.2	13.0	2.9	2.5	41.5	2.0		

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

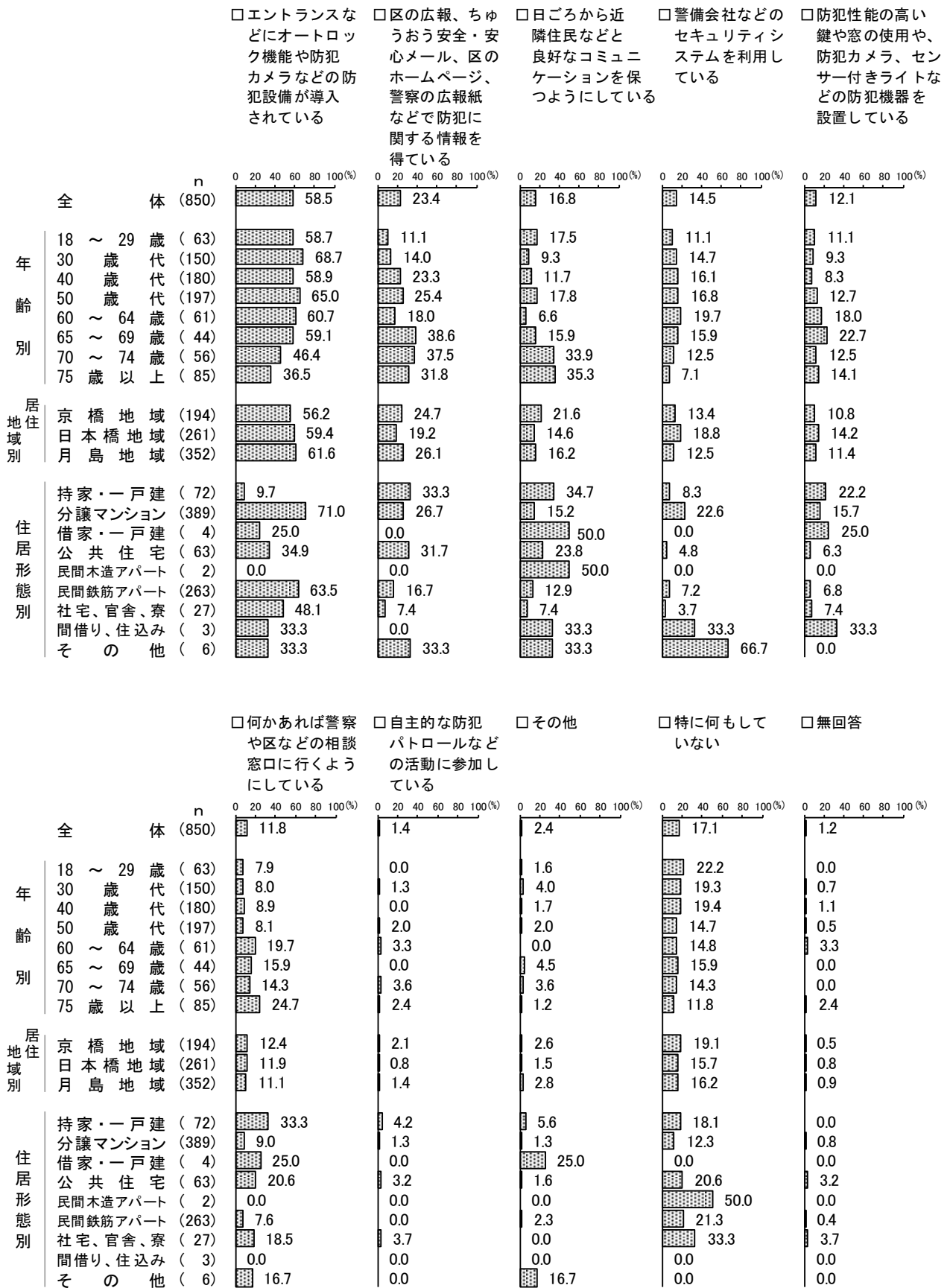
* 「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」の選択肢は、平成21年以前は「子ども安全安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」としていた。

年齢別で見ると、「エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている」は30歳代で7割近くと高くなっている。

居住地域別で見ると、「エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている」は月島地域で6割を超えて高くなっている。

住居形態別で見ると、「エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている」は分譲マンションで7割を超えて高くなっている。(図表7-2-3)

図表 7-2-3 防犯のために行っていること一年齢別・居住地域別・住居形態別



(3) 区に特に力を入れてほしい施策

◇「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」が5割近く

問17 今後、あなたが区に特に力を入れてほしいと考える施策は何ですか。(〇は2つまで)

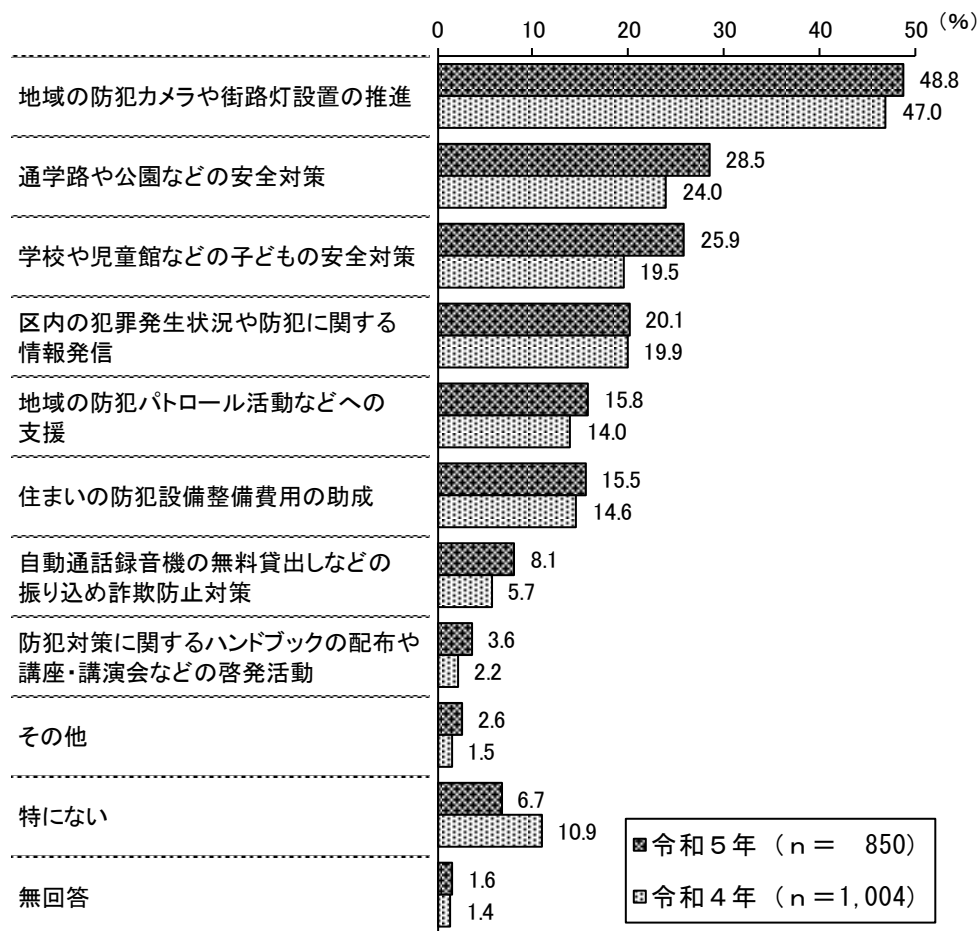
n = 850

1	区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信	20.1%
2	住まいの防犯設備整備費用の助成	15.5
3	自動通話録音機の無料貸出しなどの振り込め詐欺防止対策	8.1
4	地域の防犯カメラや街路灯設置の推進	48.8
5	防犯対策に関するハンドブックの配布や講座・講演会などの啓発活動	3.6
6	学校や児童館などの子どもの安全対策	25.9
7	通学路や公園などの安全対策	28.5
8	地域の防犯パトロール活動などへの支援	15.8
9	その他	2.6
10	特にない	6.7
	(無回答)	1.6

区に特に力を入れてほしい施策は、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」(48.8%)が5割近くで最も高くなっている。次いで、「通学路や公園などの安全対策」(28.5%)、「学校や児童館などの子どもの安全対策」(25.9%)、「区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」(20.1%)、「地域の防犯パトロール活動などへの支援」(15.8%)などとなっている。

昨年との調査結果と比較すると、「学校や児童館などの子どもの安全対策」は6.4ポイント、「通学路や公園などの安全対策」は4.5ポイント、それぞれ増加している。(図表7-3-1)

図表7-3-1 区に特に力を入れてほしい施策(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」は平成27年以降第1位となっている。(図表7-3-2)

図表7-3-2 区に特に力を入れてほしい施策一過年度比較

調査年	n	(%)										
		地域の防犯カメラや街路灯設置の推進	通学路や公園などの安全対策	学校や児童館などの子ども安全対策	区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信	地域への防犯パトロール活動への支援	住まいの防犯設備整備費用の助成	防犯対策の録音機材の無償貸出	防犯対策に関するハンドブックの配布や講座・講演会などの啓発活動	その他	特になし	無回答
令和5年	850	48.8	28.5	25.9	20.1	15.8	15.5	8.1	3.6	2.6	6.7	1.6
令和4年	1,004	47.0	24.0	19.5	19.9	14.0	14.6	5.7	2.2	1.5	10.9	1.4
令和3年	1,101	44.1	23.8	20.8	24.2	13.9	15.3	7.0	2.4	2.0	9.2	2.4
令和2年	1,161	45.9	22.7	21.7	22.0	12.6	15.2	7.9	1.1	2.2	10.0	2.6
令和元年	956	43.7	25.0	20.6	24.2	16.0	11.9	8.5	1.9	1.8	7.6	2.8
平成30年	1,056	51.1	26.9	20.4	20.1	17.0	14.2	※	2.7	2.7	6.4	2.1
平成29年	1,056	47.1	26.2	22.1	24.1	16.3	11.7	※	2.5	2.1	8.0	4.5
平成28年	1,036	46.9	25.5	22.0	24.0	18.8	11.5	※	2.2	1.2	8.5	3.1
平成27年	1,027	50.6	30.1	23.5	21.3	22.1	12.8	※	2.9	2.4	5.6	2.7
平成26年	1,041	26.9	35.8	22.9	14.6	22.4	21.3	※	4.4	3.2	※	8.9
平成25年	1,047	30.7	34.4	19.5	14.9	21.0	23.3	※	4.6	3.5	※	8.3
平成24年	1,123	14.2	38.1	24.0	20.7	28.9	11.0	※	5.9	3.9	※	9.3
平成23年	1,097	13.7	38.6	24.2	15.6	30.8	12.4	※	5.7	4.6	※	10.6
平成22年	1,004	14.4	42.4	29.3	14.9	31.1	10.8	※	5.0	3.7	※	7.3
平成21年	1,001	16.3	39.3	23.6	14.5	28.6	11.4	※	5.0	7.1	※	9.0

* ※印は、その年の調査では開かれていない選択肢。

* 「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」の選択肢は、平成25年から平成26年までは「町会、自治会などに対する防犯アドバイザーの派遣および防犯カメラなどの設置費用の助成」、平成24年以前は「町会、自治会等に対する街の防犯対策に関するアドバイザーの派遣相談及び費用の助成」としていた。

* 「地域の防犯パトロール活動などへの支援」の選択肢は、平成29年と平成27年では「地域の防犯パトロール活動への支援」、平成26年以前は「地域の自主的防犯パトロール活動や子ども見守り活動への支援」としていた。

* 「区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」の選択肢は、平成26年以前は「メールによる犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」としていた。

* 「住まいの防犯設備整備費用の助成」の選択肢は、平成25年から平成26年までは「住まいの防犯アドバイザーの派遣および防犯性能の高い鍵やセンサー付きライトなどの設置費用の助成」、平成24年以前は「住まいの防犯対策に関するアドバイザーの派遣相談及び費用の助成」としていた。

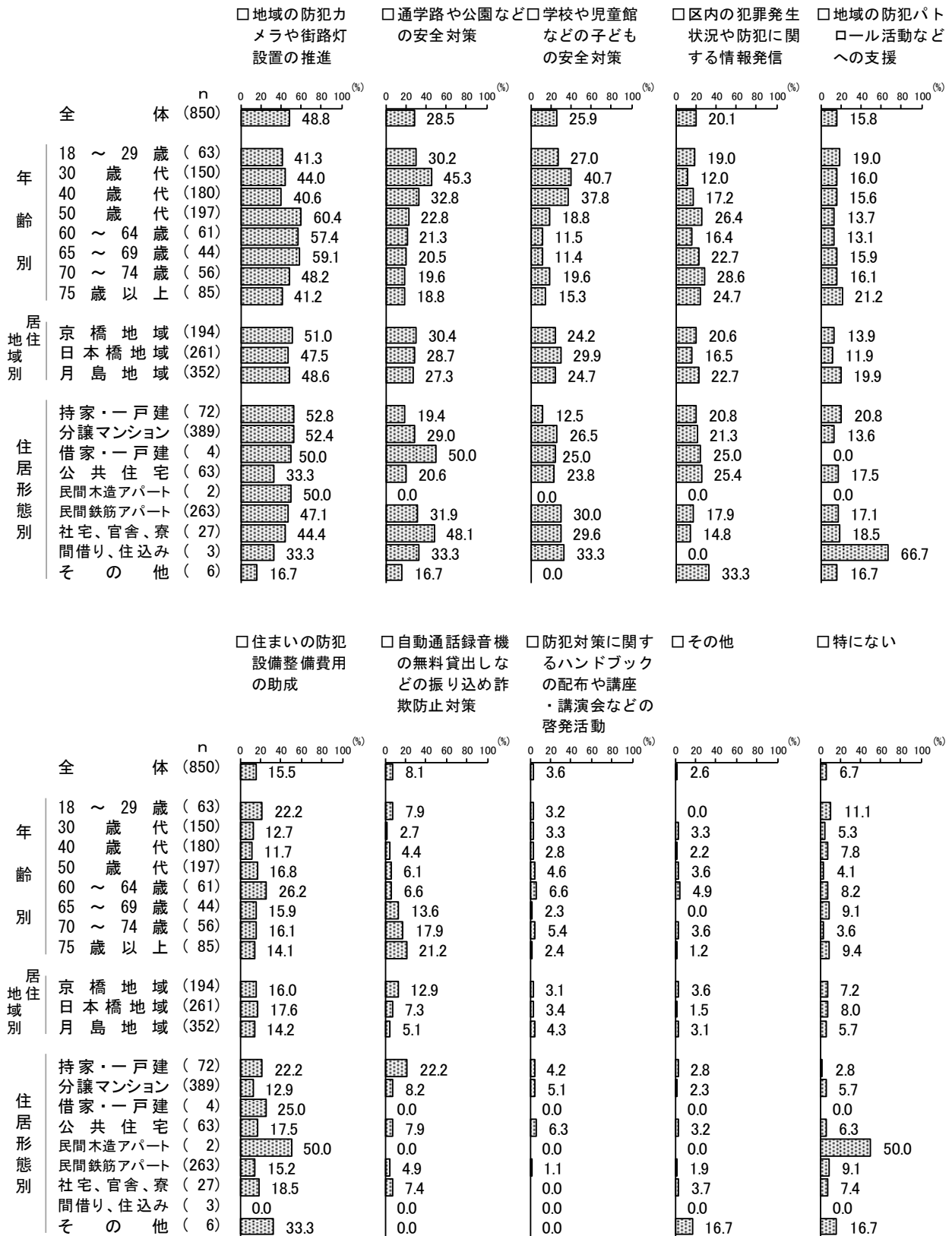
* 「防犯対策に関するハンドブックの配付や講座・講演会などの啓発活動」の選択肢は、平成26年以前は「防犯や子どもの安全に関する講座・講演会」としていた。

年齢別で見ると、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」は50歳代で約6割と高くなっている。「通学路や公園などの安全対策」は30歳代で4割台半ばと高くなっている。

居住地域別で見ると、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」は京橋地域で5割を超えて高くなっている。

住居形態別で見ると、「通学路や公園などの安全対策」は社宅、官舎、寮で5割近くと高くなっている。(図表7-3-3)

図表 7-3-3 区に特に力を入れてほしい施策一年齢別・居住地域別・住居形態別



【8 スポーツ】

(1) 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類

◇「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」が6割台半ば

問18 あなたがこの1年間に行ったスポーツや運動は何ですか。（○はいくつでも）

※ 運動の量や時間の条件はありません。

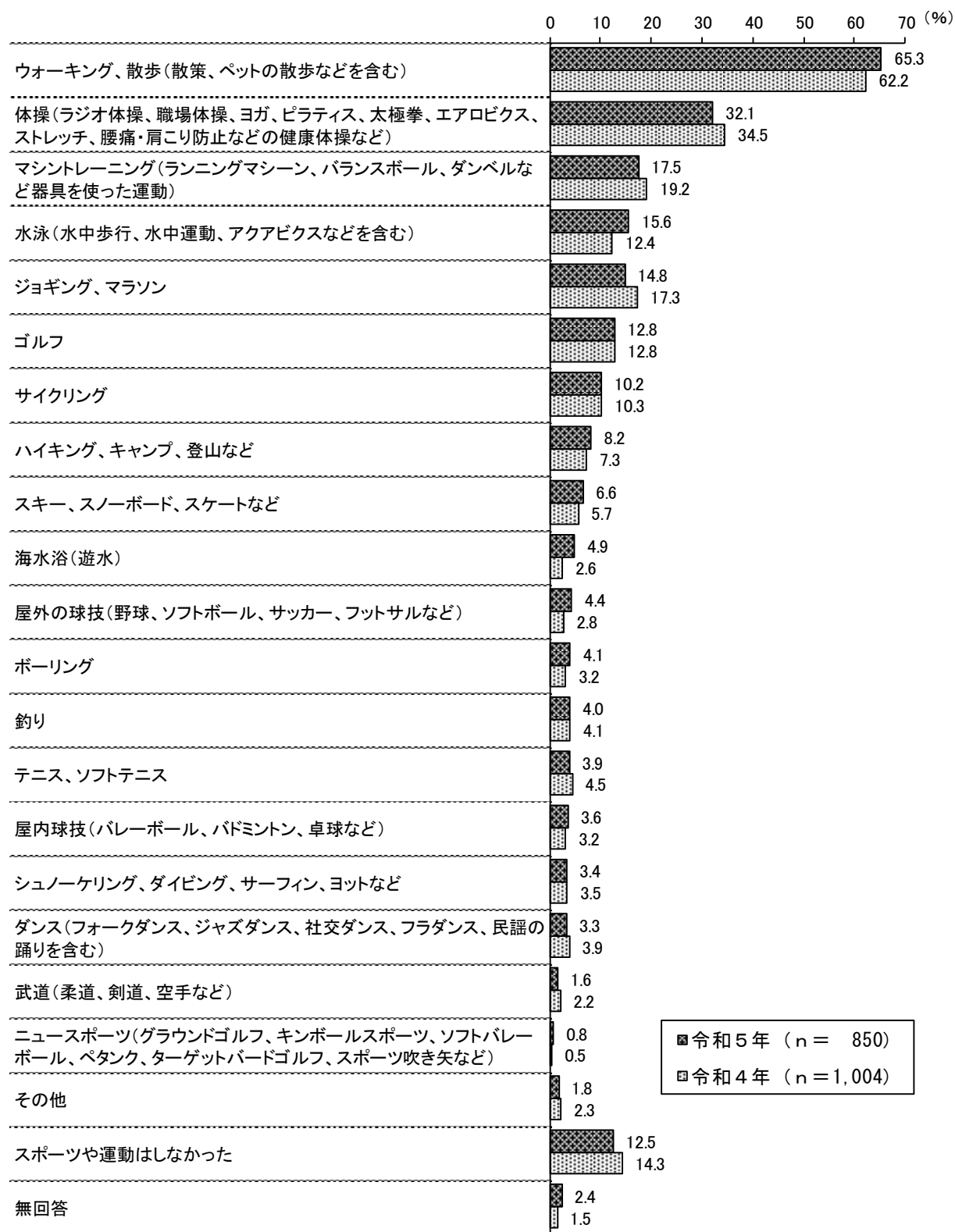
n = 850

1	水泳（水中歩行、水中運動、アクアビクスなどを含む）	15.6%
2	体操（ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など）	32.1
3	ジョギング、マラソン	14.8
4	ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）	65.3
5	マシントレーニング（ランニングマシン、バランスボール、ダンベルなど器具を使った運動）	17.5
6	武道（柔道、剣道、空手など）	1.6
7	テニス、ソフトテニス	3.9
8	屋内球技（バレーボール、バドミントン、卓球など）	3.6
9	屋外の球技（野球、ソフトボール、サッカー、フットサルなど）	4.4
10	ゴルフ	12.8
11	ハイキング、キャンプ、登山など	8.2
12	スキー、スノーボード、スケートなど	6.6
13	海水浴（遊水）	4.9
14	シュノーケリング、ダイビング、サーフィン、ヨットなど	3.4
15	釣り	4.0
16	ボーリング	4.1
17	サイクリング	10.2
18	ニュースポーツ（グラウンドゴルフ、キンボールスポーツ、ソフトバレーボール、ペタンク、ターゲットバードゴルフ、スポーツ吹き矢など）	0.8
19	ダンス（フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、民謡の踊りを含む）	3.3
20	その他	1.8
21	スポーツや運動はしなかった （無回答）	12.5 2.4

過去1年間に行ったスポーツや運動の種類は、「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」（65.3%）が6割台半ばと最も高くなっている。次いで、「体操（ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など）」（32.1%）、「マシントレーニング（ランニングマシン、バランスボール、ダンベルなど器具を使った運動）」（17.5%）、「水泳（水中歩行、水中運動、アクアビクスなどを含む）」（15.6%）などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「水泳（水中歩行、水中運動、アクアビクスなどを含む）」は3.2ポイント、「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」は3.1ポイント、「海水浴（遊水）」は2.3ポイント、それぞれ増加している。一方、「ジョギング、マラソン」は2.5ポイント、「体操（ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など）」は2.4ポイント、それぞれ減少している。（図表8-1-1）

図表8-1-1 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「ウォーキング、散歩」と「体操」が引き続き上位2項目となっている。(図表8-1-2)

図表8-1-2 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類—過年度比較

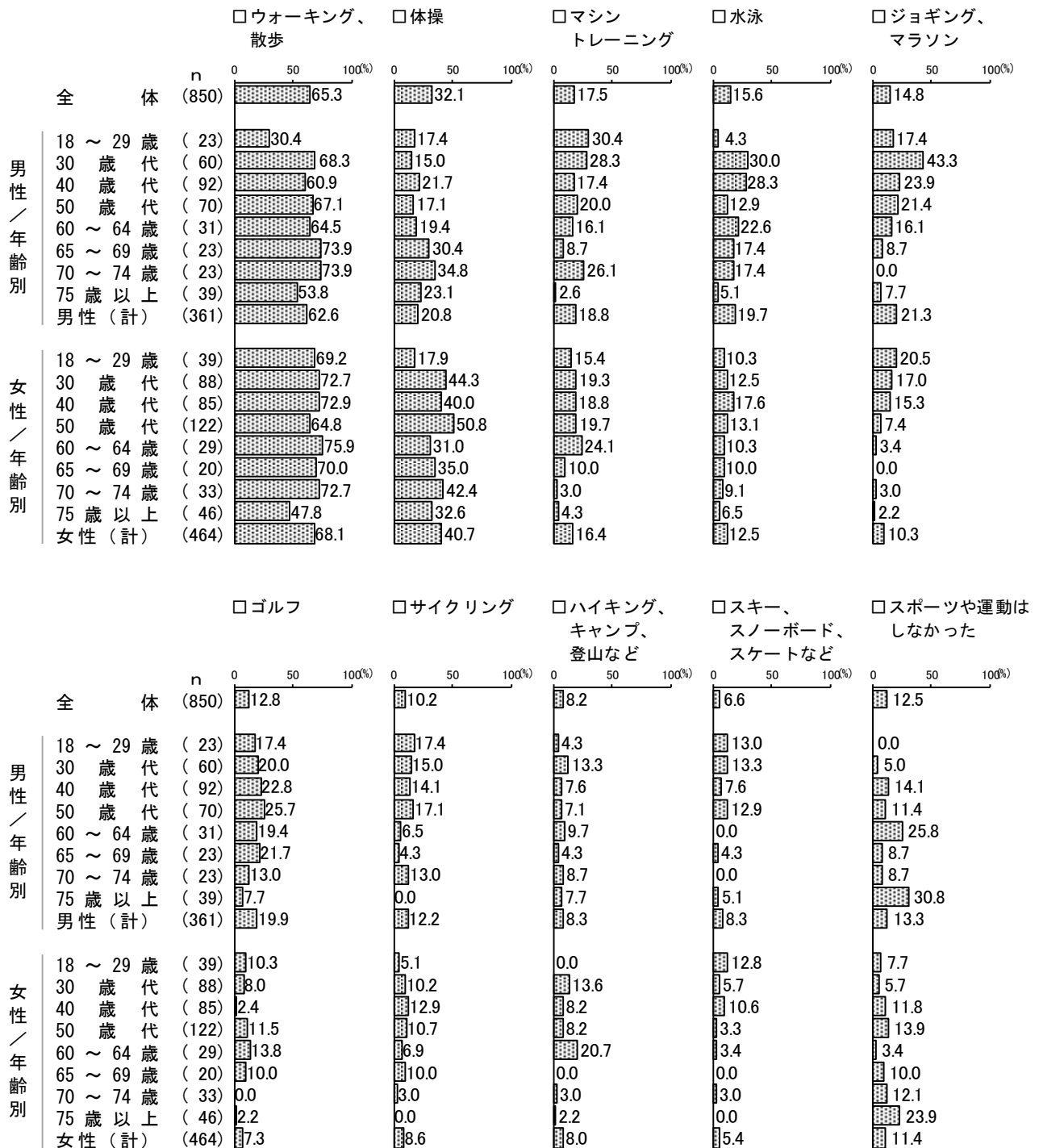
調査年	n	(%)																					
		ウォーキング、散歩	体操	マシントレーニング	水泳	ジョギング、マラソン	ゴルフ	サイクリング	ハイキング、キャンプ、登山など	スキー、スノーボード、スケートなど	海水浴(遊水)	屋外の球技	ボーリング	釣り	テニス、ソフトテニス	屋内球技	フィン、ヨットなど	ダンス	武道	ニュースポーツ	その他	スポーツや運動はしなかった	無回答
令和5年	850	65.3	32.1	17.5	15.6	14.8	12.8	10.2	8.2	6.6	4.9	4.4	4.1	4.0	3.9	3.6	3.4	3.3	1.6	0.8	1.8	12.5	2.4
令和4年	1,004	62.2	34.5	19.2	12.4	17.3	12.8	10.3	7.3	5.7	2.6	2.8	3.2	4.1	4.5	3.2	3.5	3.9	2.2	0.5	2.3	14.3	1.5
令和3年	1,101	66.1	38.2	17.4	12.0	20.3	12.5	12.0	6.8	3.7	2.5	3.0	3.5	4.0	3.2	3.3	2.3	3.5	0.8	0.3	2.5	12.8	0.7
令和2年	1,161	62.9	40.1	18.1	16.6	20.1	12.4	12.6	8.2	4.7	5.8	5.3	3.5	3.5	3.9	3.5	5.2	3.7	1.4	0.4	3.1	13.4	1.8
平成30年	1,056	57.5	37.9	20.3	17.0	18.8	12.2	13.7	11.6	6.2	7.2	4.5	6.6	3.5	3.6	4.3	6.0	5.7	1.1	0.9	1.2	11.9	2.0
平成29年	1,056	56.7	40.0	17.4	17.6	16.4	12.7	13.0	11.2	6.0	8.6	4.9	6.7	3.9	4.4	5.6	5.6	5.8	1.3	1.0	0.9	12.7	3.5
平成28年	1,036	58.3	36.2	18.8	21.9	20.6	14.3	15.9	11.3	6.9	11.0	5.5	8.7	4.7	5.4	5.3	7.4	5.3	1.4	1.5	1.0	12.6	3.4
平成27年	1,027	50.2	30.0	14.0	16.9	16.8	15.1	10.2	8.3	7.4	6.2	3.9	4.6	3.1	3.8	3.3	5.1	3.3	1.5	0.9	1.8	15.5	2.8
平成26年	1,041	57.8	37.8	15.0	21.3	17.2	13.9	14.6	11.6	7.4	8.5	5.2	7.3	4.9	4.2	5.2	3.7	5.0	1.1	1.0	1.2	12.1	2.2
平成25年	1,047	57.0	36.1	14.3	20.9	15.6	13.0	12.3	9.6	5.9	7.6	5.2	7.1	4.2	5.3	4.8	4.9	5.3	1.3	1.1	1.5	12.1	2.7
平成24年	1,123	43.6	27.2	9.8	20.1	17.7	13.2	※	11.2	※	※	4.0	※	※	4.1	5.3	※	※	※	1.0	7.1	19.4	2.2

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢

* 「ニュースポーツ(グラウンドゴルフ、キンボールスポーツ、ソフトバレーボール、ペタンク、ターゲットバードゴルフ、スポーツ吹き矢など)」の選択肢は、平成29年では「ニュースポーツ(グラウンドゴルフ、キンボール、ソフトバレー、ペタンク、スポーツ吹き矢など)」としていた。

性／年齢別でみると、「ウォーキング、散歩」は女性の60～64歳で7割台半ばと高くなっている。「体操」は女性の50歳代で約5割と高くなっている。「マシントレーニング」は男性の18～29歳で3割と高くなっている。(図表8-1-3)

図表8-1-3 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類一性／年齢別（上位10項目）

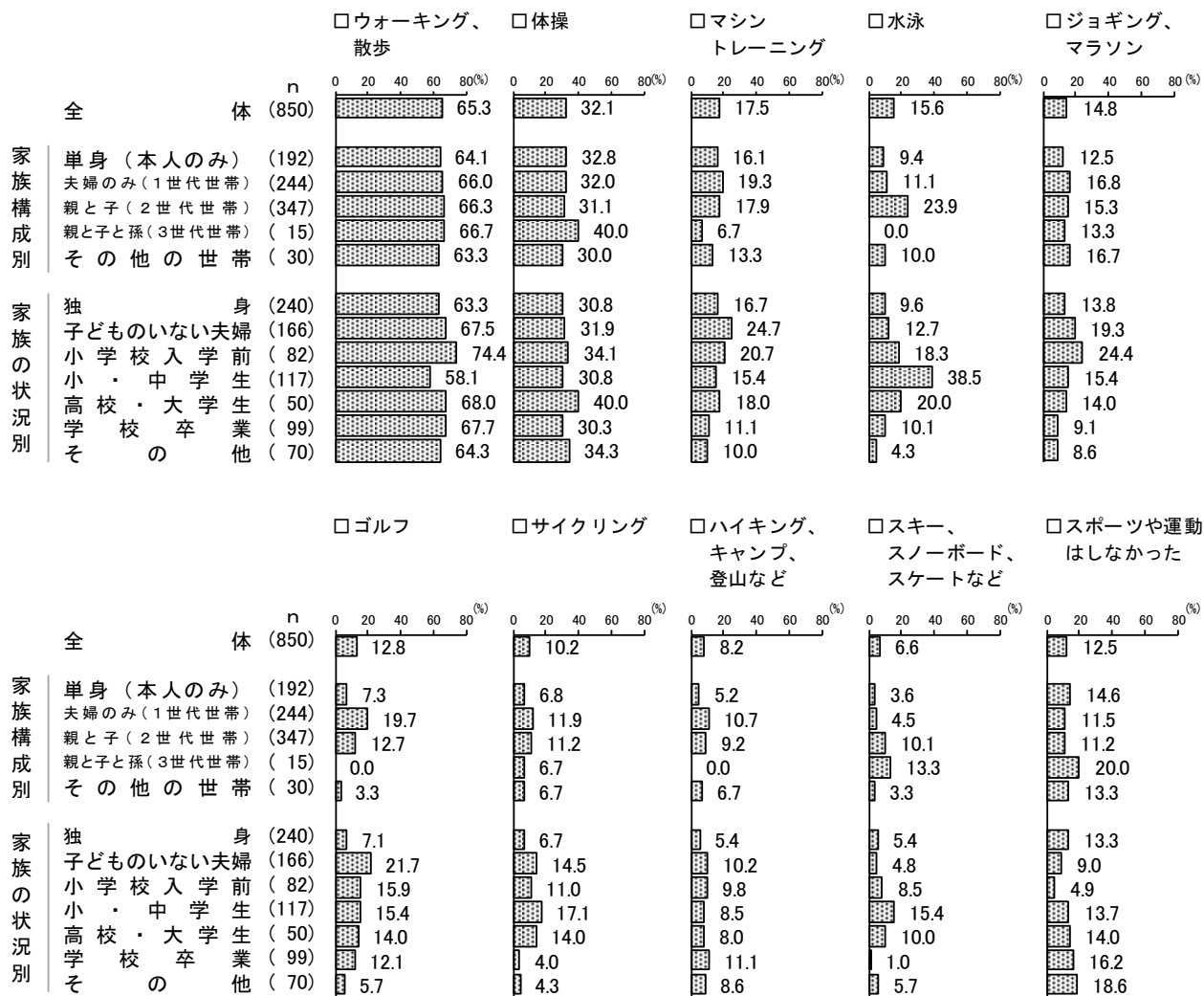


家族構成別でみると、「水泳」は親と子（2世代世帯）で2割を超えて高くなっている。

家族の状況別でみると、「ウォーキング、散歩」が一番上の子どもが小学校入学前の家族で7割台半ばと高くなっている。「体操」が一番上の子どもが高校・大学生の家族で4割と高くなっている。「マシントレーニング」は子どものいない夫婦で2割台半ばと高くなっている。

(図表8-1-4)

図表8-1-4 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類—家族構成別・家族の状況別（上位10項目）



(2) 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度

◇「週に1～2日程度」が3割台半ば

(問18で、「1 水泳」から「20 その他」のいずれかにお答えの方に)

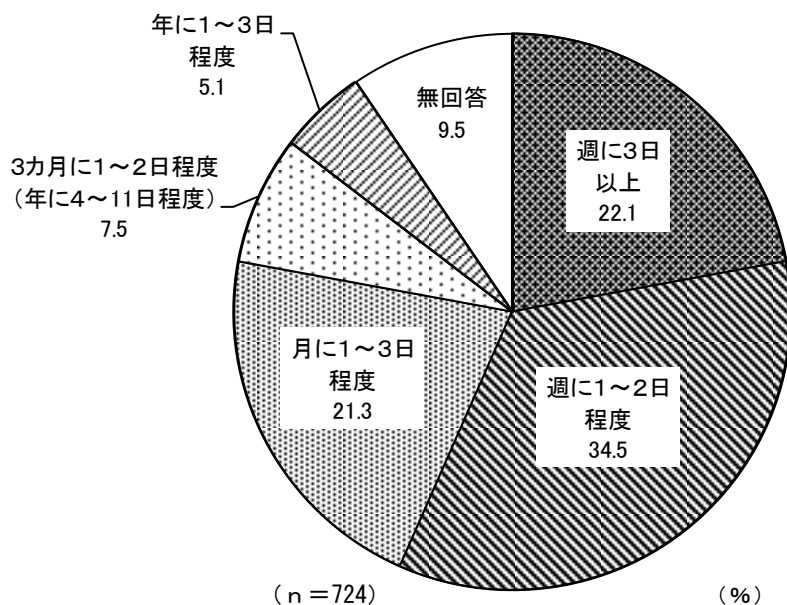
問18-1 あなたは、この1年間にどのくらいスポーツや運動をしましたか。(○は1つ)

n = 724

1 週に3日以上	22.1%
2 週に1～2日程度	34.5
3 月に1～3日程度	21.3
4 3カ月に1～2日程度 (年に4～11日程度)	7.5
5 年に1～3日程度	5.1
(無回答)	9.5

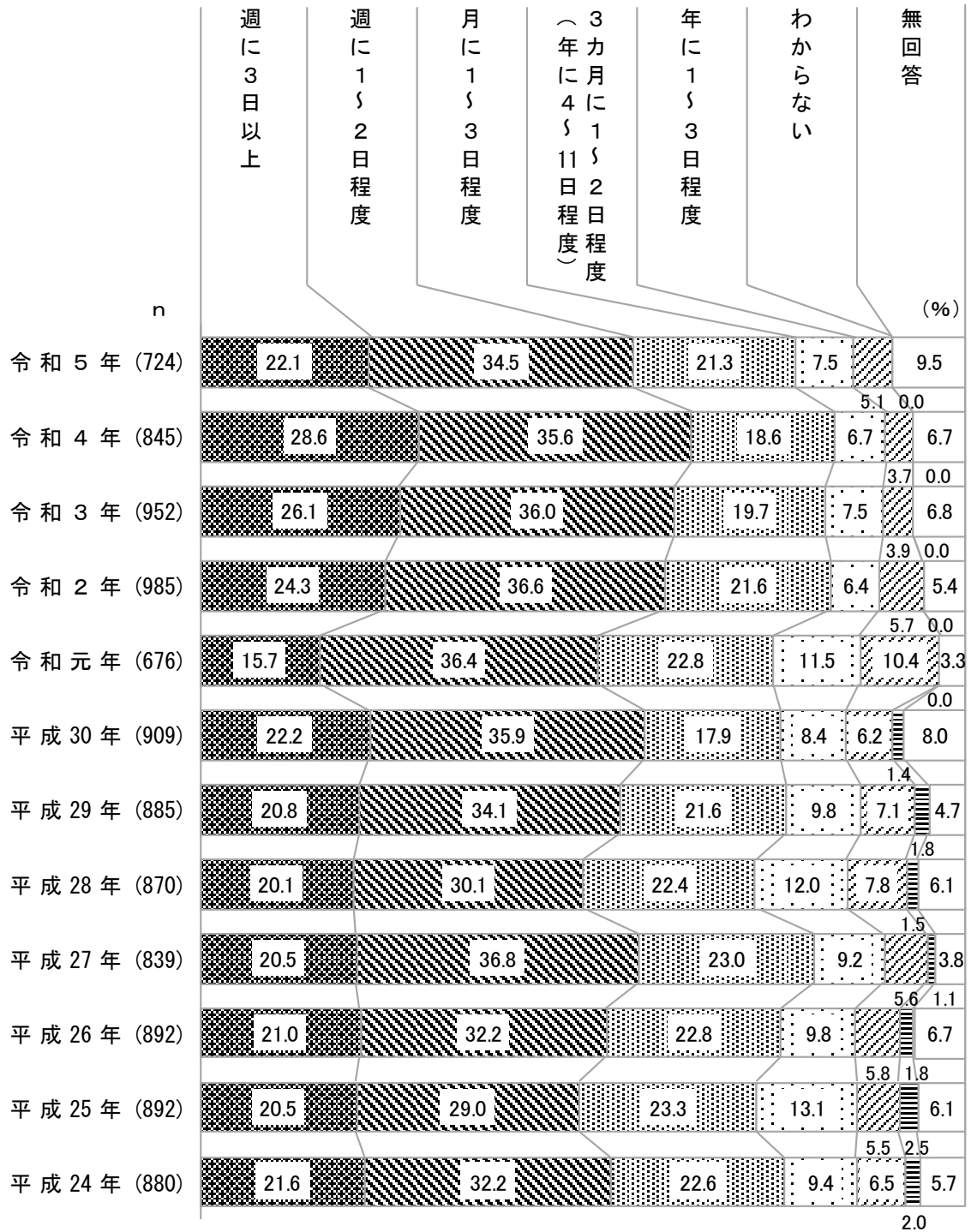
問18で、いずれかのスポーツや運動をしたことがあると回答した方の、過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度は、「週に1～2日程度」(34.5%)が3割台半ばで最も高くなっている。次いで、「週に3日以上」(22.1%)、「月に1～3日程度」(21.3%)、「3カ月に1～2日程度 (年に4～11日程度)」(7.5%)などとなっている。(図表8-2-1)

図表8-2-1 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、令和4年と比べて大きな傾向の違いはみられない。(図表8-2-2)

図表8-2-2 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度－過年度比較

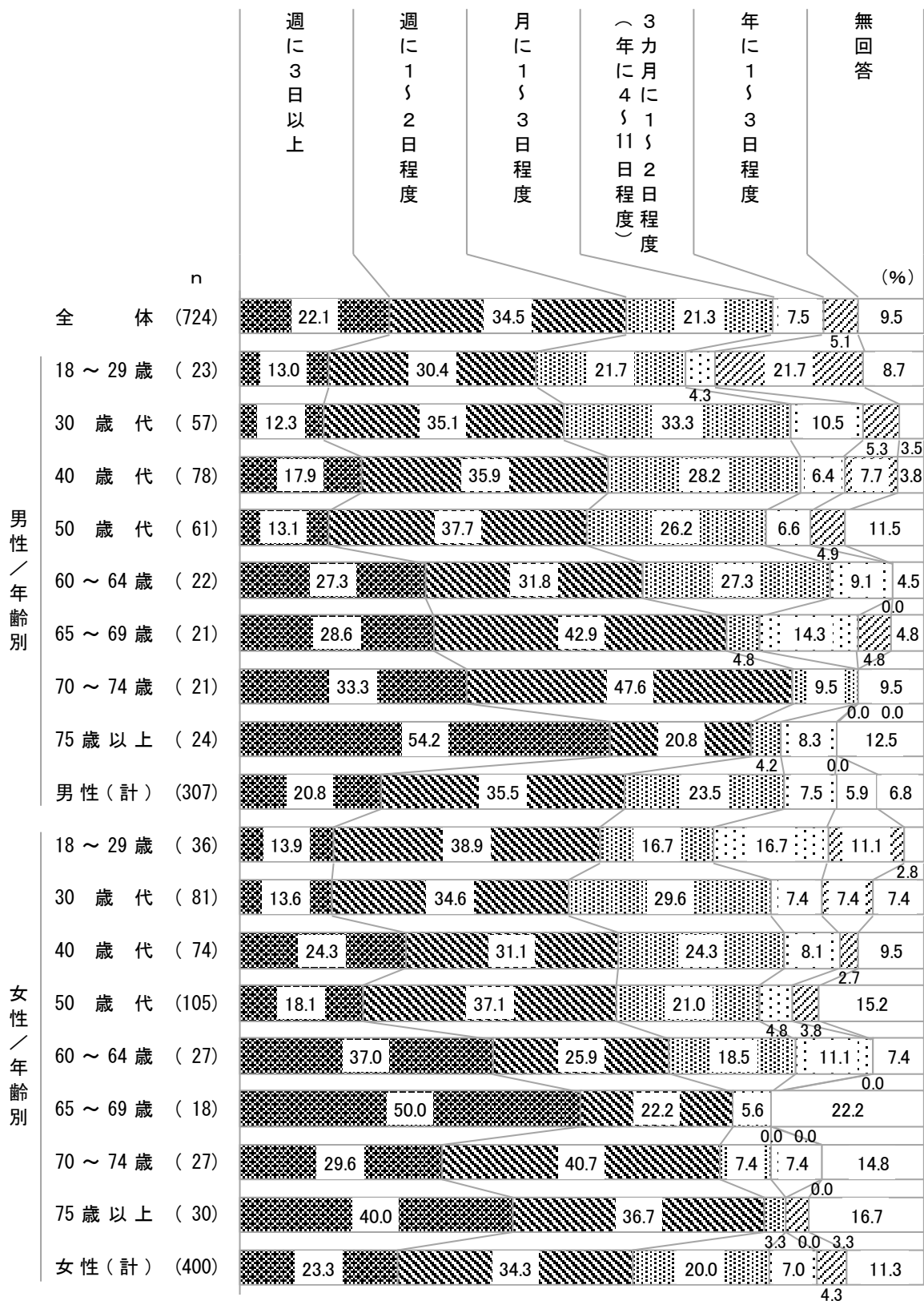


* 「わからない」は、令和元年調査から選択肢に含まれていない。

* 令和元年の調査では、「あなたは、この1年間にどのくらいスポーツや運動をしましたか。(〇は1つ)」と全員に対してこの質問を聞いた。図表8-2-2における令和元年の比率は、「スポーツや運動はしなかった」と答えた数を除いて再計算した比率を示す。

性／年齢別で見ると、「週に3日以上」は男性の75歳以上で5割台半ばと高くなっている。「週に1～2日程度」は男性の70～74歳で5割近くと高くなっている。「月に1～3日程度」は男性の30歳代で3割を超えて高くなっている。(図表8-2-3)

図表8-2-3 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度－性／年齢別

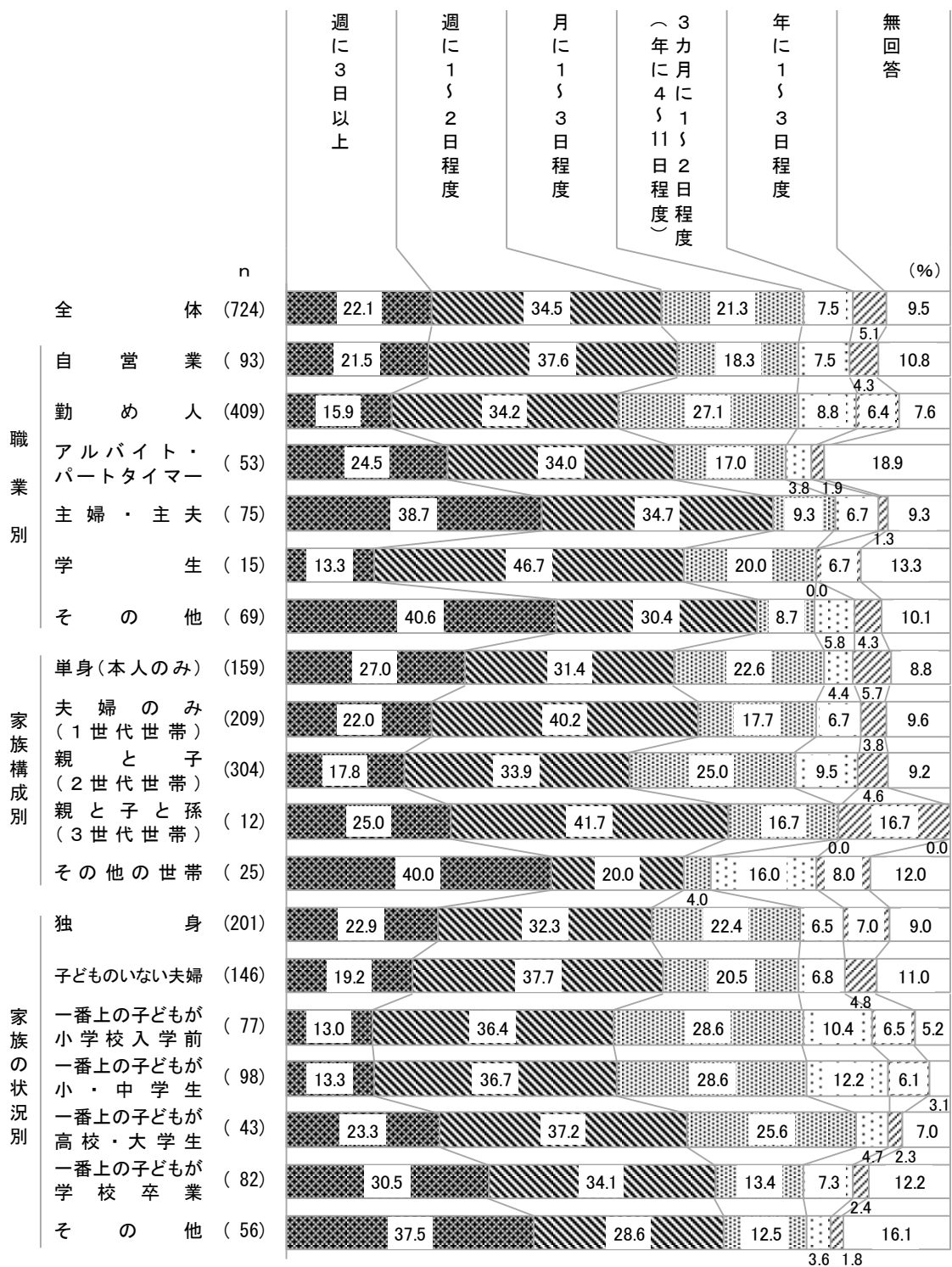


職業別でみると、「週に3日以上」は主婦・主夫で4割近くと高くなっている。「週に1～2日程度」は自営業（家族従業を含む）で4割近くと高くなっている。

家族構成別でみると、「週に1～2日程度」は夫婦のみ（1世代世帯）で4割と高くなっている。

家族の状況別でみると、「週に3日以上」が一番上の子どもが学校卒業の家族で約3割と高くなっている。「週に1～2日程度」は子どものいない夫婦と一番上の子どもが高校・大学生、一番上の子どもが小・中学生の家族で4割近くと高くなっている。（図表8-2-4）

図表8-2-4 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度－職業別・家族構成別・家族の状況別



(3) 過去1年間にウォーキングや散歩をした場所

◇「水辺や公園などの屋外空間」が8割近く

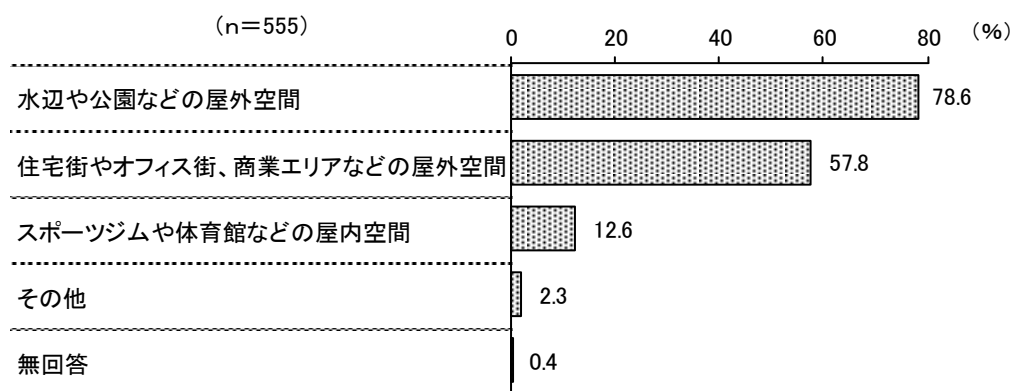
(問18で、「4 ウォーキング、散歩(散策、ペットの散歩などを含む)」とお答えの方に)
 問18-2 あなたは、この1年間に区内のどのような場所でウォーキングや散歩をしましたか。
 (〇はいくつでも)

n = 555

1	水辺や公園などの屋外空間	78.6%
2	住宅街やオフィス街、商業エリアなどの屋外空間	57.8
3	スポーツジムや体育館などの屋内空間	12.6
4	その他	2.3
	(無回答)	0.4

問18で、「ウォーキング、散歩(散策、ペットの散歩などを含む)」をしたことがあると回答した方の、ウォーキングや散歩をした場所は「水辺や公園などの屋外空間」(78.6%)が8割近くと最も高くなっている。次いで、「住宅街やオフィス街、商業エリアなどの屋外空間」(57.8%)、「スポーツジムや体育館などの屋内空間」(12.6%)となっている。(図表8-3-1)

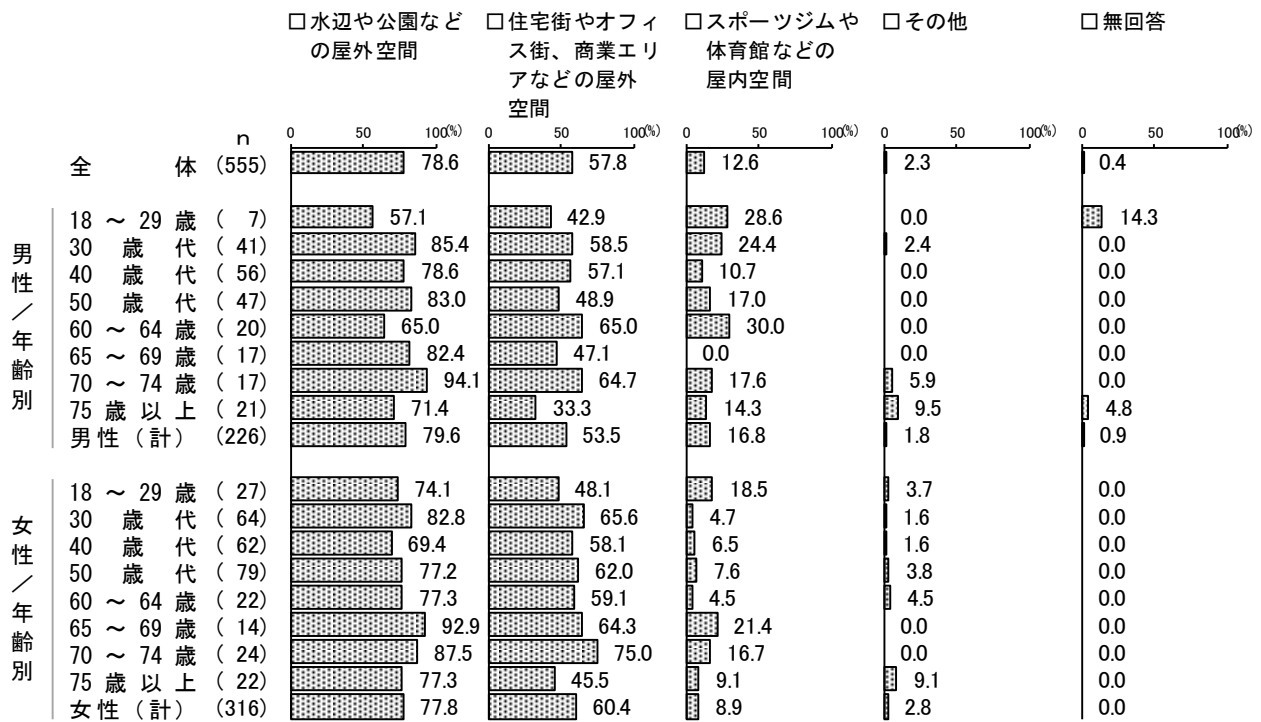
図表8-3-1 過去1年間にウォーキングや散歩をした場所(複数回答)



性／年齢別でみると、「水辺や公園などの屋外空間」は女性の70～74歳で9割近くと高くなっている。「住宅街やオフィス街、商業エリアなどの屋外空間」は女性の70～74歳で7割台半ばと高くなっている。「スポーツジムや体育館などの屋内空間」は男性の60～64歳で3割と高くなっている。

(図表8-3-2)

図表8-3-2 過去1年間にウォーキングや散歩をした場所－性／年齢別

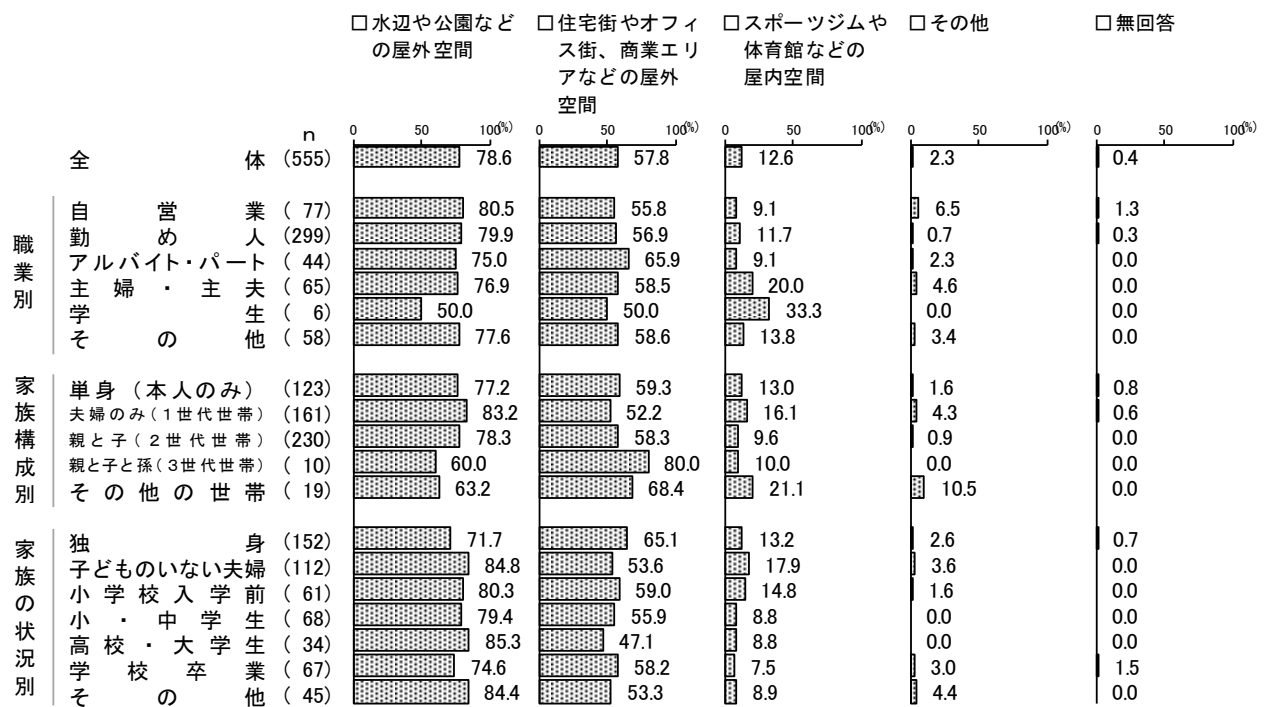


職業別でみると、「水辺や公園などの屋外空間」は自営業（家族従業を含む）で約8割と高くなっている。「住宅街やオフィス街、商業エリアなどの屋外空間」はアルバイト・パートタイマーで6割台半ばと高くなっている。「スポーツジムや体育館などの屋内空間」は主婦・主夫で2割と高くなっている。

家族構成別でみると、「水辺や公園などの屋外空間」は夫婦のみ（1世代）で8割を超えて高くなっている。

家族の状況別でみると、「水辺や公園などの屋外空間」が一番上の子どもが高校・大学生の家族と一番上の子どものいない夫婦で8割台半ばと高くなっている。「住宅街やオフィス街、商業エリアなどの屋外空間」は独身で6割台半ばと高くなっている。（図表8-3-3）

図表8-3-3 過去1年間にウォーキングや散歩をした場所—職業別・家族構成別・家族の状況別



【9 築地魚河岸】

(※) 築地魚河岸 築地市場が移転しても築地の活気とにぎわいを絶やさないために、区が『食のプロに支持され、一般客・観光客にも親しまれる、食のまち「築地」のにぎわいの拠点となる施設』として築地場外に開設した生鮮市場です。目利きのプロが厳選した高品質の水産物や青果物などを販売しています。

(1) 「築地魚河岸」への来場経験

◇『来場経験あり』が6割台半ば

問19 あなたは、「築地魚河岸」に行ったことがありますか。(〇は1つ)

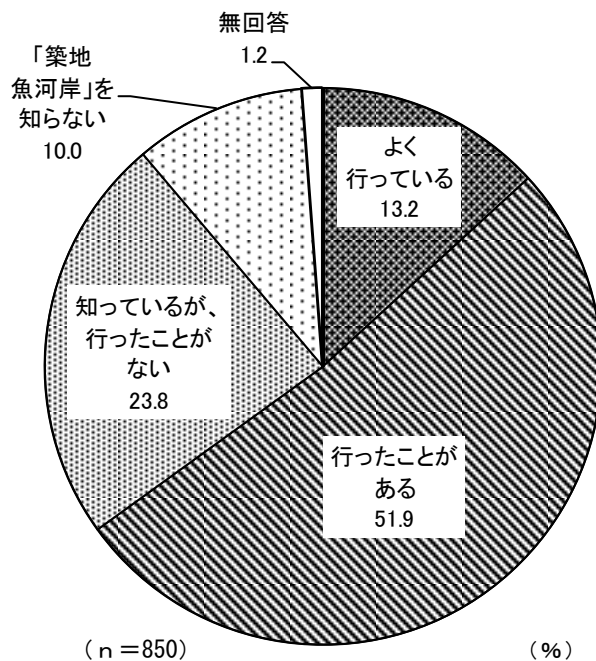
n = 850

1	よく行っている	13.2%	3	知っているが、行ったことがない	23.8
2	行ったことがある	51.9	4	「築地魚河岸」を知らない	10.0
				(無回答)	1.2

「築地魚河岸」への来場経験は、「よく行っている」(13.2%)と「行ったことがある」(51.9%)を合わせた『来場経験あり』(65.1%)が6割台半ばとなっている。

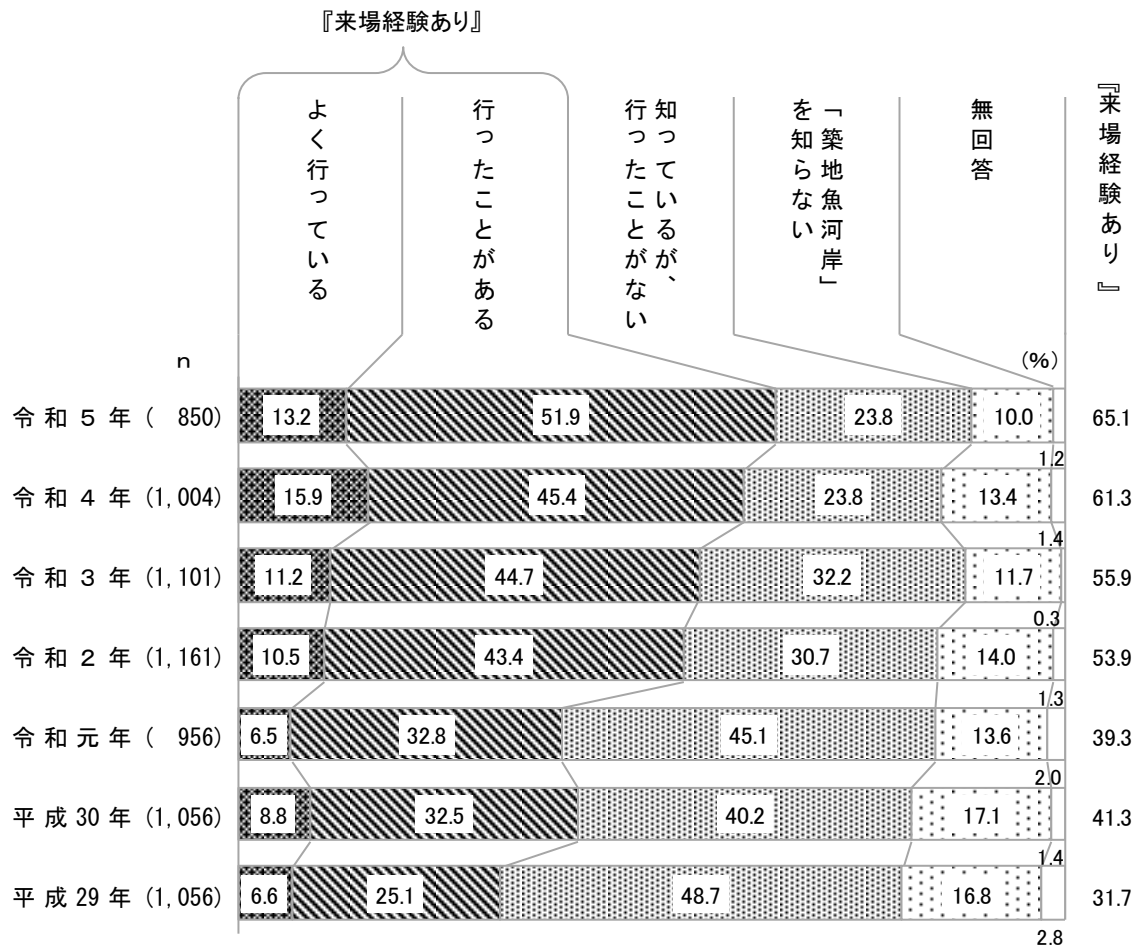
一方、「知っているが、行ったことがない」(23.8%)は2割を超え、「『築地魚河岸』を知らない」(10.0%)は1割となっている。(図表9-1-1)

図表9-1-1 「築地魚河岸」への来場経験



過去の調査結果と比較すると、『来場経験あり』は令和4年と比べて3.8ポイント増加しており、今回調査が過去最高の割合となっている。(図表9-1-2)

図表9-1-2 「築地魚河岸」への来場経験一過年度比較

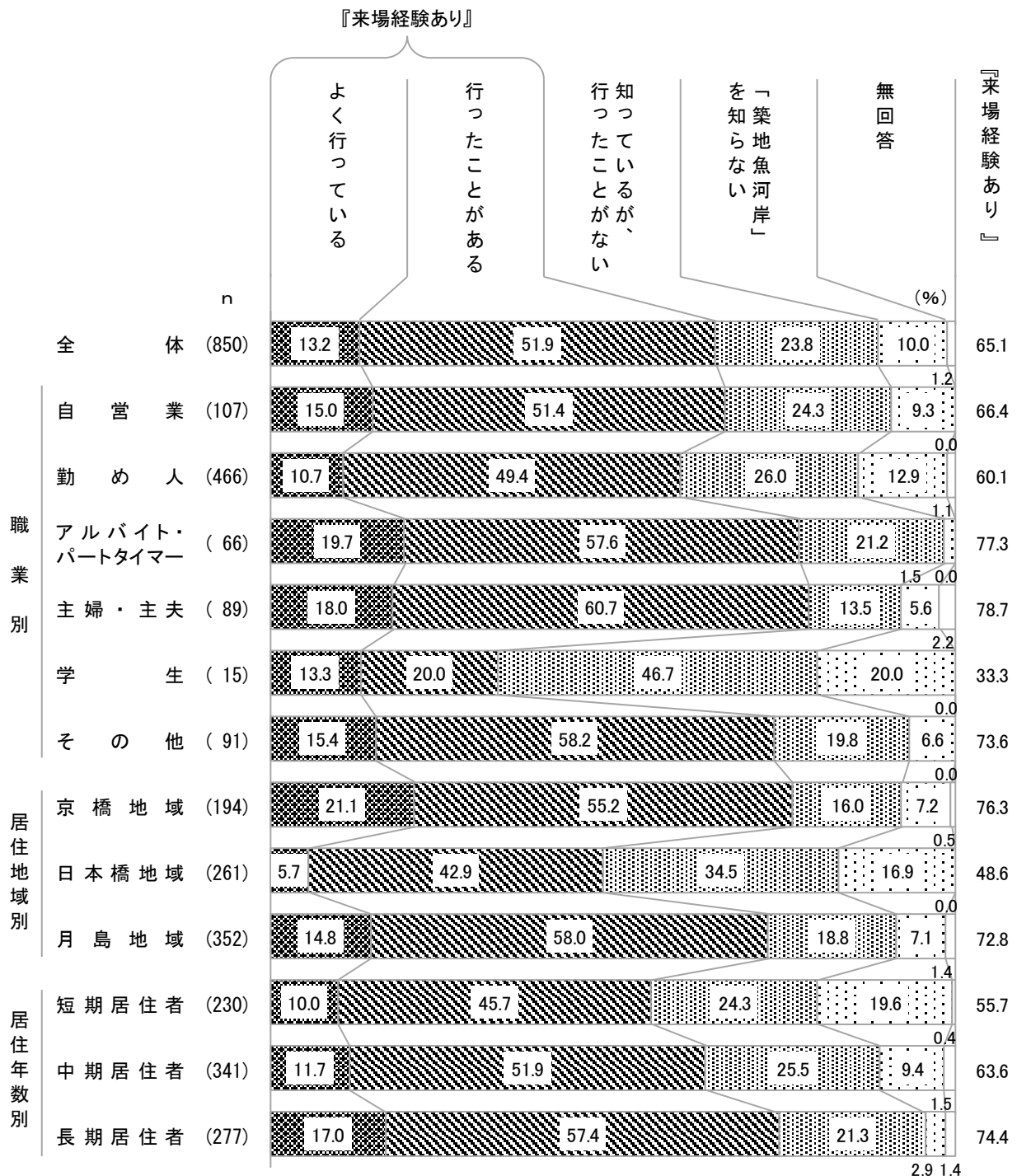


職業別でみると、『来場経験あり』は主婦・主夫とアルバイト・パートタイマーで8割近くと高くなっている。

居住地域別でみると、『来場経験あり』は京橋地域で7割台半ばと高くなっている。一方、『「築地魚河岸」を知らない』は日本橋地域で2割近くと高くなっている。

居住年数別でみると、『来場経験あり』は長期居住者で7割台半ばと高くなっている。一方、『「築地魚河岸」を知らない』は短期居住者で2割と高くなっている。(図表9-1-3)

図表9-1-3 「築地魚河岸」への来場経験—職業別・居住地域別・居住年数別



(2) 「築地魚河岸」への来場目的

◇「1階の店舗で買い物をするため」が7割

(問19で、「1 よく行っている」または「2 行ったことがある」とお答えの方に)
問19-1 あなたが「築地魚河岸」に行った目的は何ですか。(〇はいくつでも)

n = 553

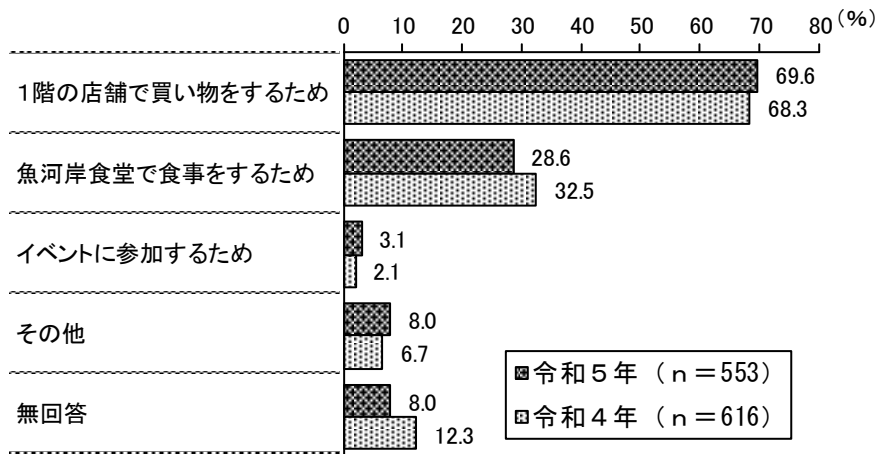
1	1階の店舗で買い物をするため	69.6%	3	イベントに参加するため	3.1
2	魚河岸食堂で食事をするため	28.6	4	その他	8.0
				(無回答)	8.0

問19で、「よく行っている」または「行ったことがある」と回答した方の、「築地魚河岸」への来場目的は、「1階の店舗で買い物をするため」(69.6%)が7割で最も高くなっている。次いで、「魚河岸食堂で食事をするため」(28.6%)、「イベントに参加するため」(3.1%)などとなっている。

昨年との調査結果と比較すると、「魚河岸食堂で食事をするため」は3.9ポイント減少している。

(図表9-2-1)

図表9-2-1 「築地魚河岸」への来場目的(複数回答)



(3) 「築地魚河岸」に対する印象やイメージ

◇<1階の店舗について>では、「新鮮なものが買える」が約5割

◇<魚河岸食堂について>では、「おいしい料理が食べられる」が3割台半ば

◇<その他>では、「いつ、どのようなイベントを開催しているかがわからない」が4割

(問19で、「1 よく行っている」「2 行ったことがある」「3 知っているが、行ったことがない」とお答えの方に)

問19-2 「築地魚河岸」には一般の方が利用できる店舗や食堂などがありますが、その印象やイメージとしてあてはまるものをお答えください。(〇はいくつでも)

n = 755

<1階の店舗について>

1	プロが厳選した商品が販売されており、安心して買い物ができる	26.9%
2	新鮮なものが買える	50.5
3	スーパーでは買えないような珍しいものが買える	33.1
4	同じようなものを扱う店が多く、どこで買っていいかわからない	17.6
5	近くのスーパーなどとの違いを感じない	3.0
6	一般の人でも気軽に利用できる施設であることを知らない	6.0
7	混雑している (イメージがある)	33.1

<魚河岸食堂について>

1	おいしい料理が食べられる	34.4
2	食堂があることを知らない	9.5
3	混雑している (イメージがある)	33.5

<その他>

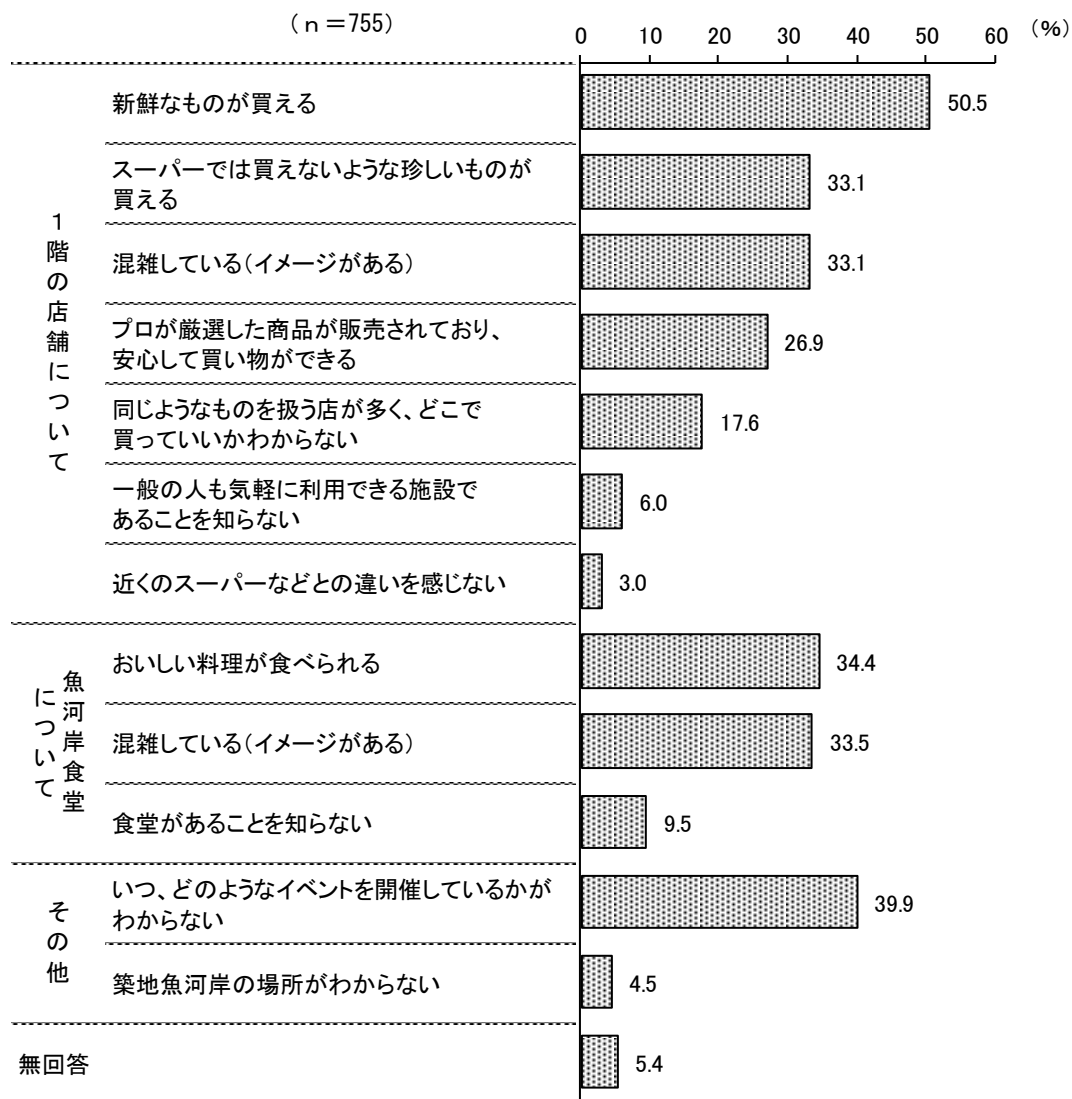
1	いつ、どのようなイベントを開催しているかがわからない	39.9
2	築地魚河岸の場所がわからない	4.5
	(無回答)	5.4

問19で、「よく行っている」「行ったことがある」「知っているが、行ったことがない」と回答した方の、「築地魚河岸」に対する印象やイメージは、<1階の店舗について>では、「新鮮なものが買える」(50.5%)が約5割で最も高くなっている。次いで、「スーパーでは買えないような珍しいものが買える」と「混雑している (イメージがある)」(33.1%)、「プロが厳選した商品が販売されており、安心して買い物ができる」(26.9%) などとなっている。

<魚河岸食堂について>では、「おいしい料理が食べられる」(34.4%)が3割台半ばで最も高くなっている。次いで、「混雑している (イメージがある)」(33.5%)、「食堂があることを知らない」(9.5%) となっている。

<その他>では、「いつ、どのようなイベントを開催しているかがわからない」(39.9%)が4割で、「築地魚河岸の場所がわからない」(4.5%)は1割に満たない。(図表9-3-1)

図表9-3-1 「築地魚河岸」に対する印象やイメージ（複数回答）



【10 受動喫煙防止対策】

(1) 「中央区たばこルール」の認知度

◇『中央区たばこルール』の内容も知っている」が2割台半ば

問20 令和2年7月1日に「中央区受動喫煙防止対策の推進に関する条例」が施行されました。あなたは条例で定めた「中央区たばこルール」*を知っていますか。(○は1つだけ)

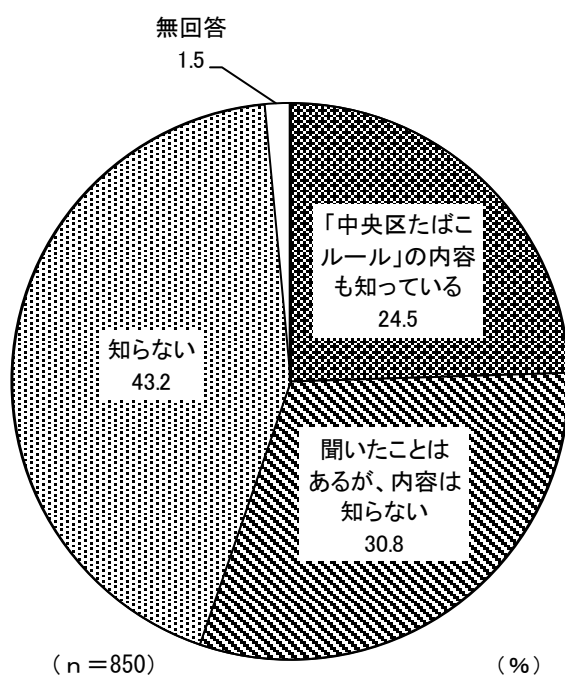
n=850

1 「中央区たばこルール」の内容も知っている	24.5%
2 聞いたことはあるが、内容は知らない	30.8
3 知らない	43.2
(無回答)	1.5

(※) 中央区たばこルール 公共の場所(区内全域の道路、公園、広場)での受動喫煙を防止するため、「喫煙者が守るべきルール」および「灰皿を設置する事業者が守るべきルール」を設けました。ルールには加熱式たばこも含まれます。

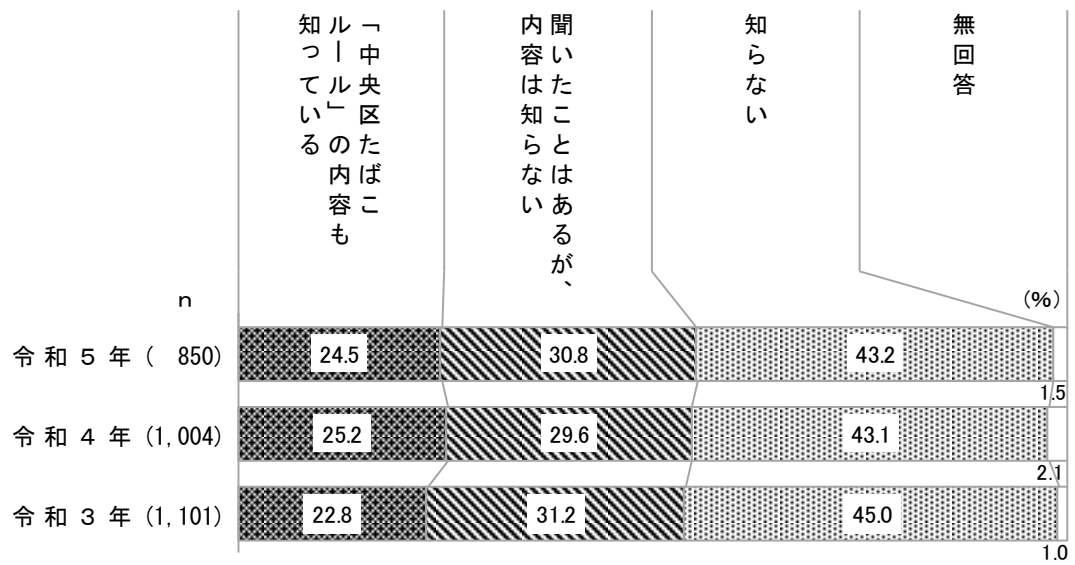
「中央区たばこルール」の認知度は、「『中央区たばこルール』の内容も知っている」(24.5%)が2割台半ばとなっている。「聞いたことはあるが、内容は知らない」(30.8%)は約3割、「知らない」(43.2%)は4割を超えている。(図表10-1-1)

図表10-1-1 「中央区たばこルール」の認知度



昨年(2022年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図表10-1-2)

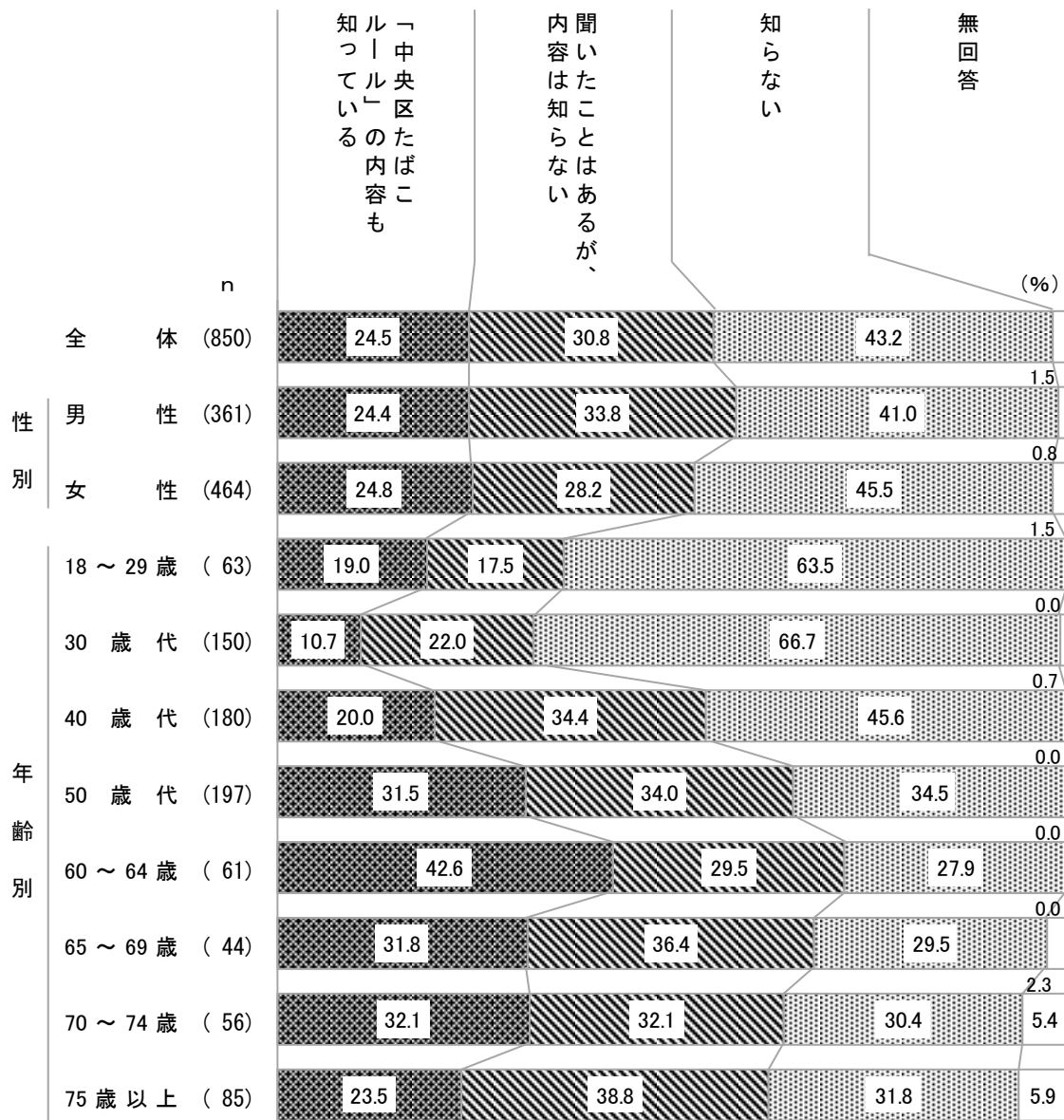
図表10-1-2 「中央区たばこルール」の認知度一過年度比較



性別で見ると、男性の方が女性よりも「聞いたことはあるが、内容は知らない」で5.6ポイント高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「知らない」で4.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『中央区たばこルール』の内容も知っている」は60～64歳で4割を超えて高くなっている。一方、「知らない」は30歳代で7割近くと高くなっている。(図表10-1-3)

図表10-1-3 「中央区たばこルール」の認知度－性別・年齢別



【11 デジタル技術を活用した区民サービス】

(1) 区に進めてほしいデジタル技術を活用した区民サービス

◇「区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる手続きの拡大」が6割

問21 あなたが、区に進めてほしいと考えるデジタル技術を活用した区民サービスはどれですか。(〇はいくつでも)

n = 850

1	窓口手続きにおけるキャッシュレス決済の拡大	36.1%
2	オンライン手続きにおけるキャッシュレス決済の導入	35.5
3	区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる申請・届け出手続きの拡大	60.4
4	マイナンバーカードを利用したオンライン手続きの拡大	37.2
5	スマートフォンなどへの区民サービスの案内の充実	28.4
6	チャットボット*を活用した自動応答サービスの拡大	7.4
7	オンラインでの窓口の混雑状況の配信	17.4
8	デジタルツールなどを活用した窓口サービスの改善*	21.5
9	オンライン対応可能な相談事業の拡大	12.9
10	区が開催する講座や説明会などのオンライン配信	14.7
11	区が保有するデータのオープンデータ化	11.5
12	パソコンやスマートフォンなどの情報通信技術を十分に活用できない方への支援の充実	22.4
13	その他	2.8
14	特にない	10.0
	(無回答)	2.6

(※) チャットボット インターネットを利用し、人間と会話しているような受け答えをロボットが自動で行うしくみです。

(※) デジタルツールなどを活用した窓口サービスの改善

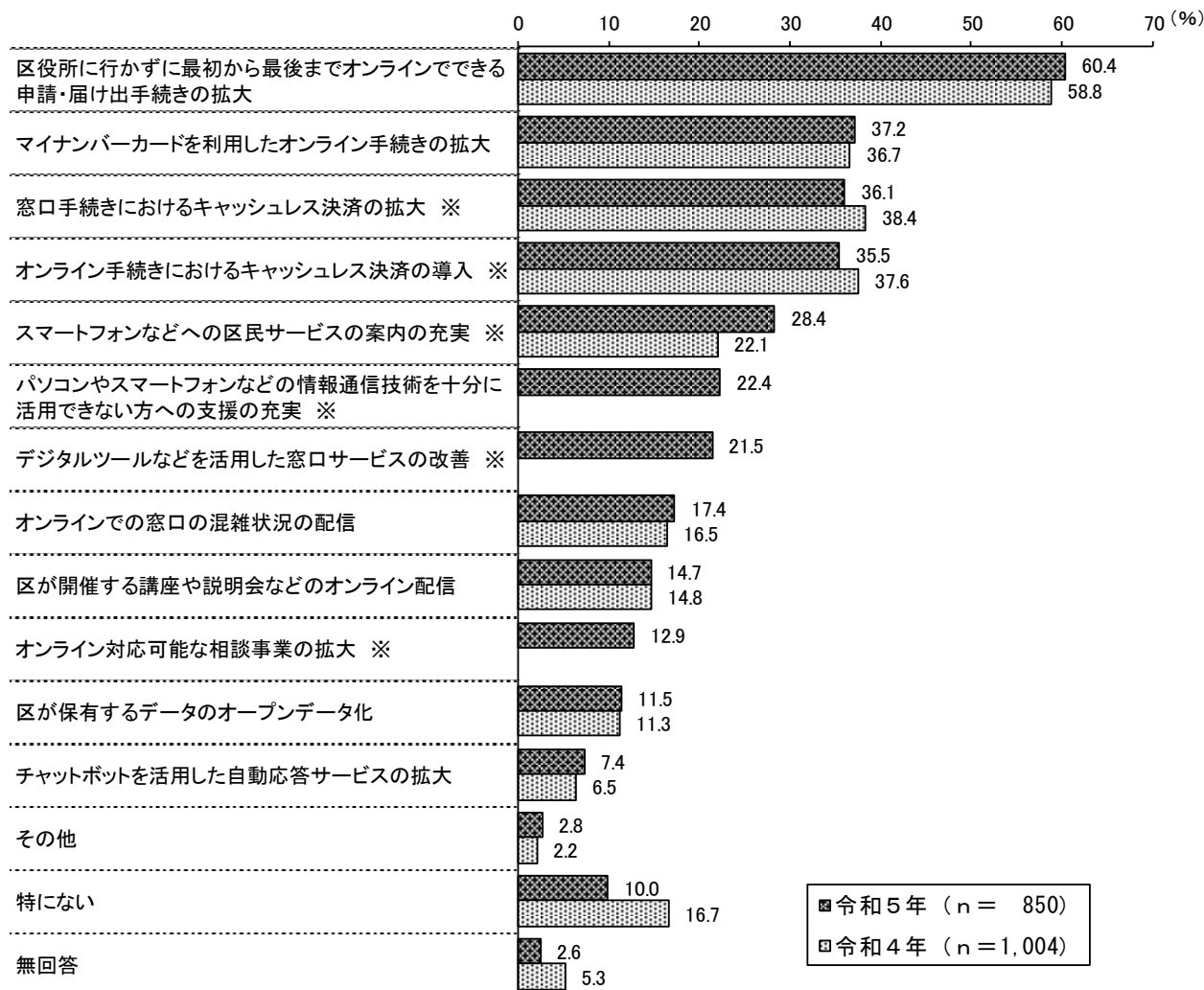
「区役所に行く前にインターネットで自分に必要な手続き、持ち物などの案内を受けられる」「窓口・相談予約ができる」「複数の申請書に何度も同じことを記入しなくてよい」などデジタルツールを活用し、区役所の窓口サービスの利便性を向上する取り組みです。

区に進めてほしいデジタル技術を活用した区民サービスは、「区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる申請・届け出手続きの拡大」(60.4%)が6割で最も高くなっている。次いで、「マイナンバーカードを利用したオンライン手続きの拡大」(37.2%)、「窓口手続きにおけるキャッシュレス決済の拡大」(36.1%)、「オンライン手続きにおけるキャッシュレス決済の導入」(35.5%)、「スマートフォンなどへの区民サービスの案内の充実」(28.4%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「スマートフォンなどへの区民サービスの案内の充実」は6.3ポイント増加している。一方、「窓口手続きにおけるキャッシュレス決済の拡大」は2.3ポイント、「オンライン手続きにおけるキャッシュレス決済の導入」は2.1ポイント、それぞれ減少している。

(図表11-1-1)

図表11-1-1 区に進めてほしいデジタル技術を活用した区民サービス（複数回答）



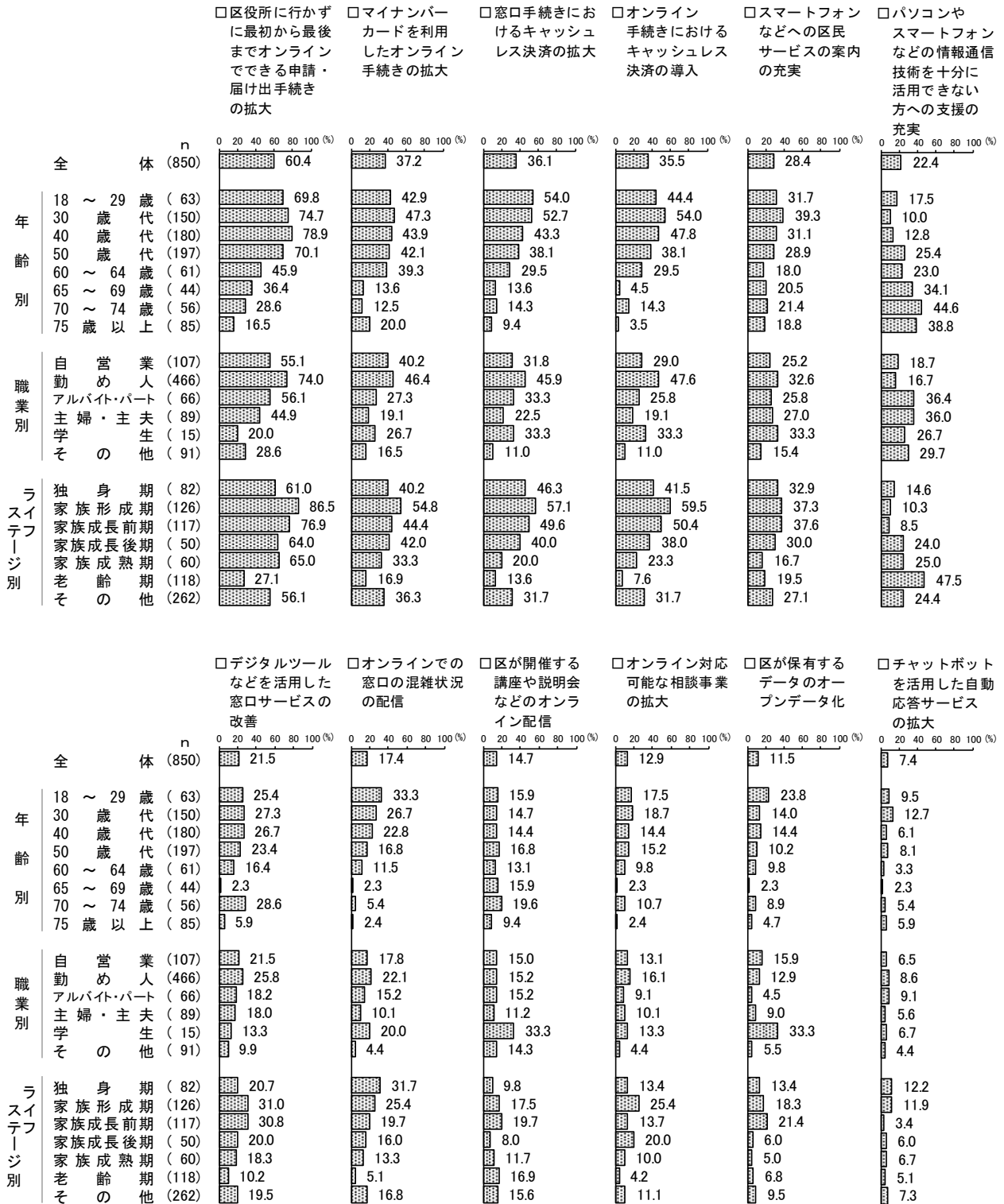
- ※「デジタルツールなどを活用した窓口サービスの改善」、「オンライン対応可能な相談事業の拡大」、「パソコンやスマートフォンなどの情報通信技術を十分に活用できない方への支援の充実」は、令和5年調査から追加された選択肢。
- ※「区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる申請・届け出手続きの拡大」の選択肢は、令和4年では「区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる手続きの拡大」としていた。
- ※「窓口手続きにおけるキャッシュレス決済の拡大」の選択肢は、令和4年では「窓口手続きにおけるキャッシュレス決済」としていた。
- ※「オンライン手続きにおけるキャッシュレス決済の導入」の選択肢は、令和4年では「オンライン手続きにおけるキャッシュレス決済」としていた。
- ※「スマートフォンなどへの区民サービスの案内の充実」の選択肢は、令和4年では「スマートフォンなどへの区民サービスの案内」としていた。

年齢別でみると、「区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる申請・届け出手続きの拡大」は40歳代で8割近くと高くなっている。「窓口手続きにおけるキャッシュレス決済の拡大」は18～29歳で5割台半ばと高くなっている。

職業別でみると、「区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる申請・届け出手続きの拡大」は勤め人で7割台半ばと高くなっている。「オンライン手続きにおけるキャッシュレス決済の導入」は勤め人で5割近くと高くなっている。

ライフステージ別でみると、「区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる申請・届け出手続きの拡大」は家族形成期で9割近くと高くなっている。「オンライン手続きにおけるキャッシュレス決済の導入」は家族形成期で6割と高くなっている。(図表 11-1-2)

図表11-1-2 区に進めてほしいデジタル技術を活用した区民サービス
 一年齢別・職業別・ライフステージ別（上位12項目）



【12 環境】

(1) 区内のみどり

◇「増えたと思う」が1割を超える

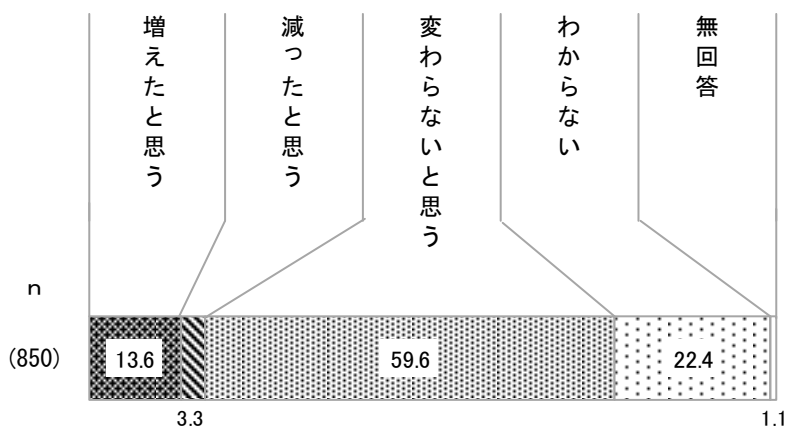
問22 あなたは、この1年間で区内のみどりが増えたと思いますか。(○は1つ)

n = 850

1 増えたと思う	13.6%	3 変わらないと思う	59.6
2 減ったと思う	3.3	4 わからない (無回答)	22.4 1.1

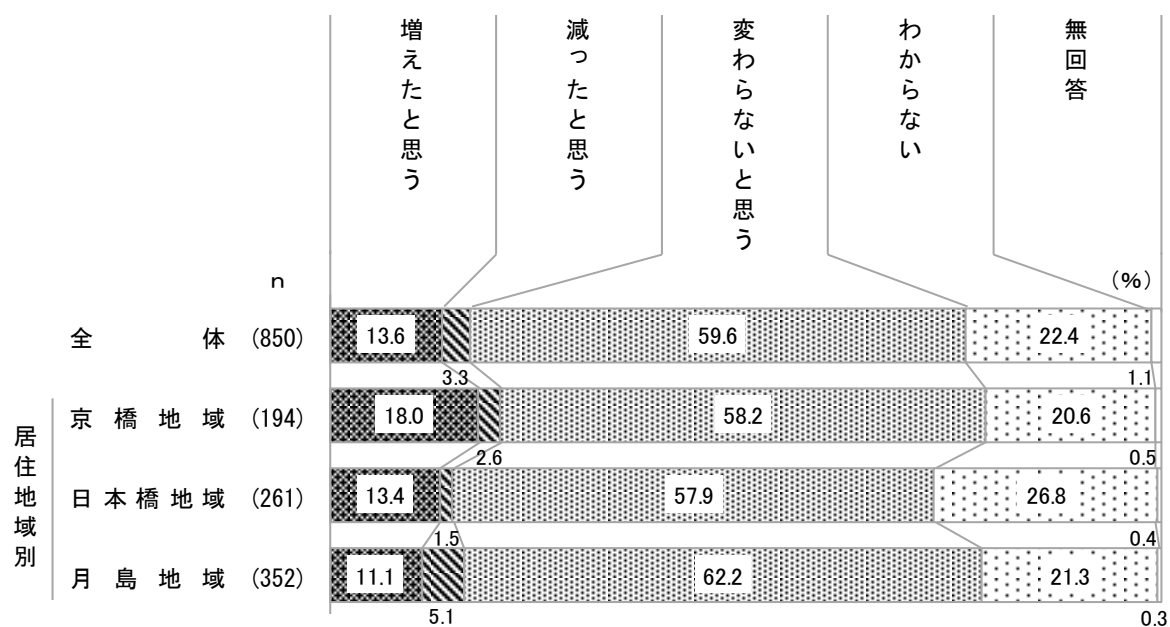
区内のみどりは、「増えたと思う」(13.6%)が1割を超え、「減ったと思う」(3.3%)が1割未満、「変わらないと思う」(59.6%)が6割となっている。(図表12-1-1)

図表12-1-1 区内のみどり



居住地域別でみると、「増えたと思う」は京橋地域で2割近くと高くなっている。「変わらないと思う」は月島地域で6割を超えて高くなっている。(図表12-1-2)

図表12-1-2 区内のみどり-居住地域別



(2) 環境を守るための取り組み

◇「ごみ・資源の分別をしている」が8割を超える

問23 あなたは、環境を守るために、どのような取り組みを行っていますか。

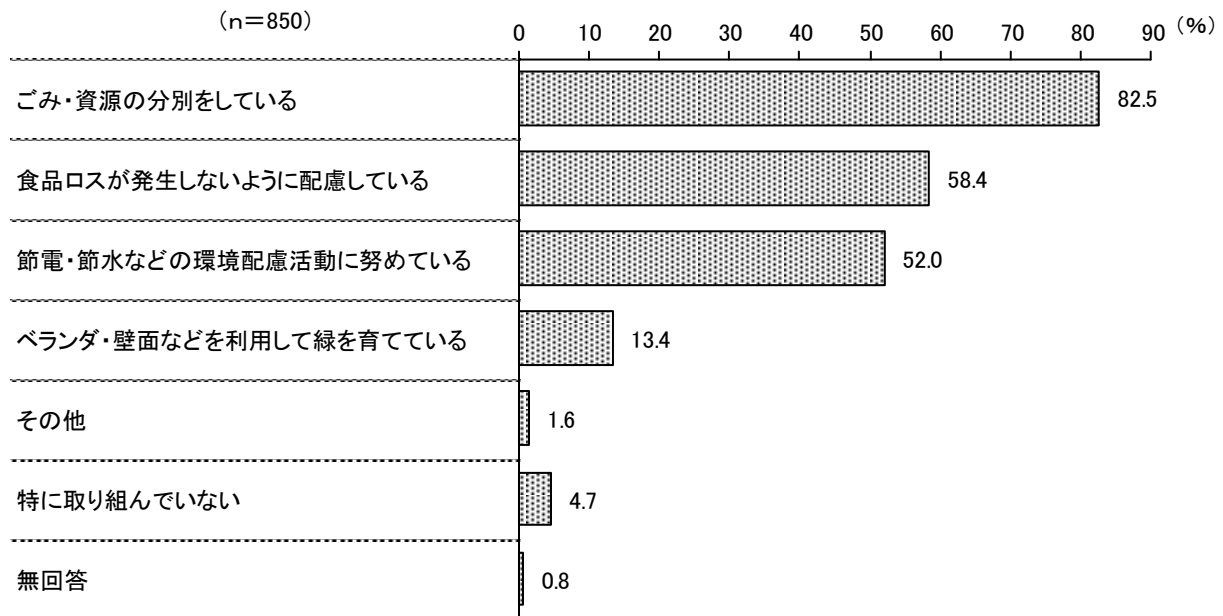
(○はいくつでも)

n = 850

1	節電・節水などの環境配慮活動に努めている	52.0%
2	ごみ・資源の分別をしている	82.5
3	ベランダ・壁面などを利用して緑を育てている	13.4
4	食品ロスが発生しないように配慮している	58.4
5	その他	1.6
6	特に取り組んでいない	4.7
	(無回答)	0.8

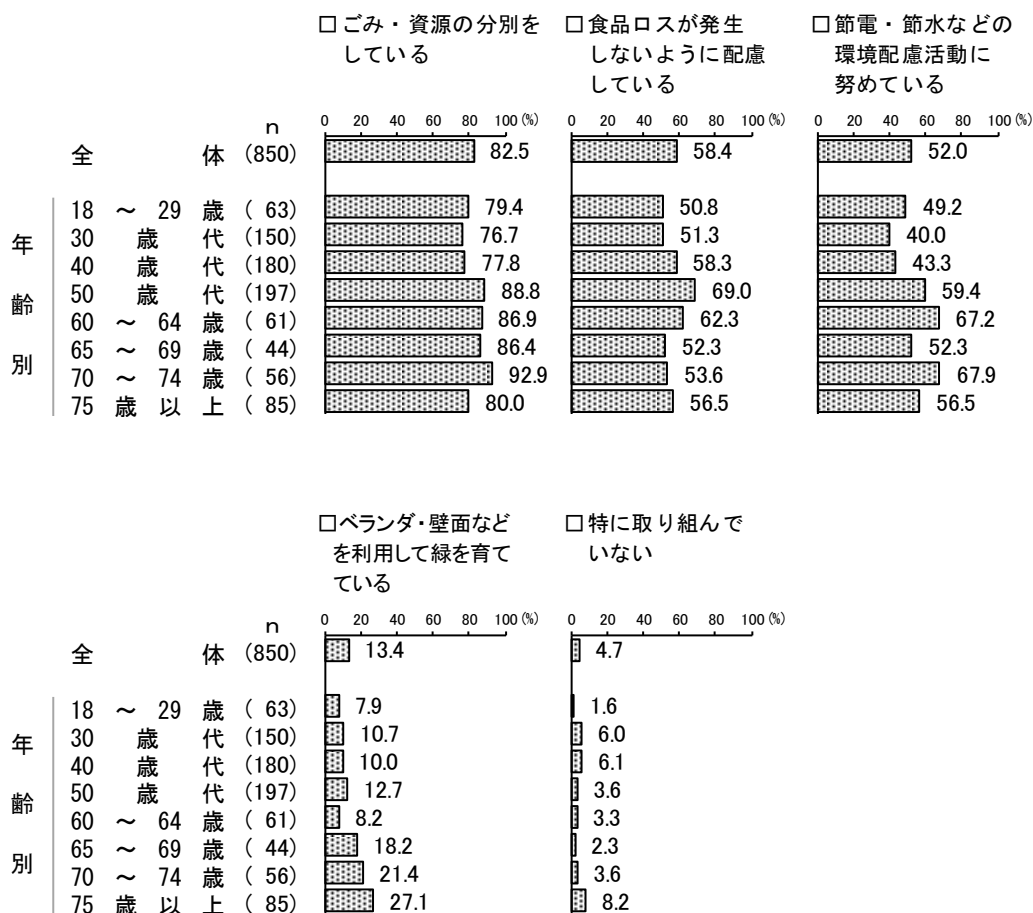
環境を守るための取り組みは、「ごみ・資源の分別をしている」(82.5%)が8割を超えて最も高くなっている。次いで、「食品ロスが発生しないように配慮している」(58.4%)、「節電・節水などの環境配慮活動に努めている」(52.0%)などとなっている。(図表12-2-1)

図表12-2-1 環境を守るための取り組み(複数回答)



年齢別でみると、「ごみ・資源の分別をしている」は70～74歳で9割を超えて高くなっている。「食品ロスが発生しないように配慮している」は50歳代で約7割と高くなっている。「節電・節水などの環境配慮活動に努めている」は60～64歳と70～74歳で7割近くと高くなっている。「ベランダ・壁面などを利用して緑を育てている」は75歳以上で3割近くと高くなっている。(図表12-2-2)

図表12-2-2 環境を守るための取り組み一年齢別



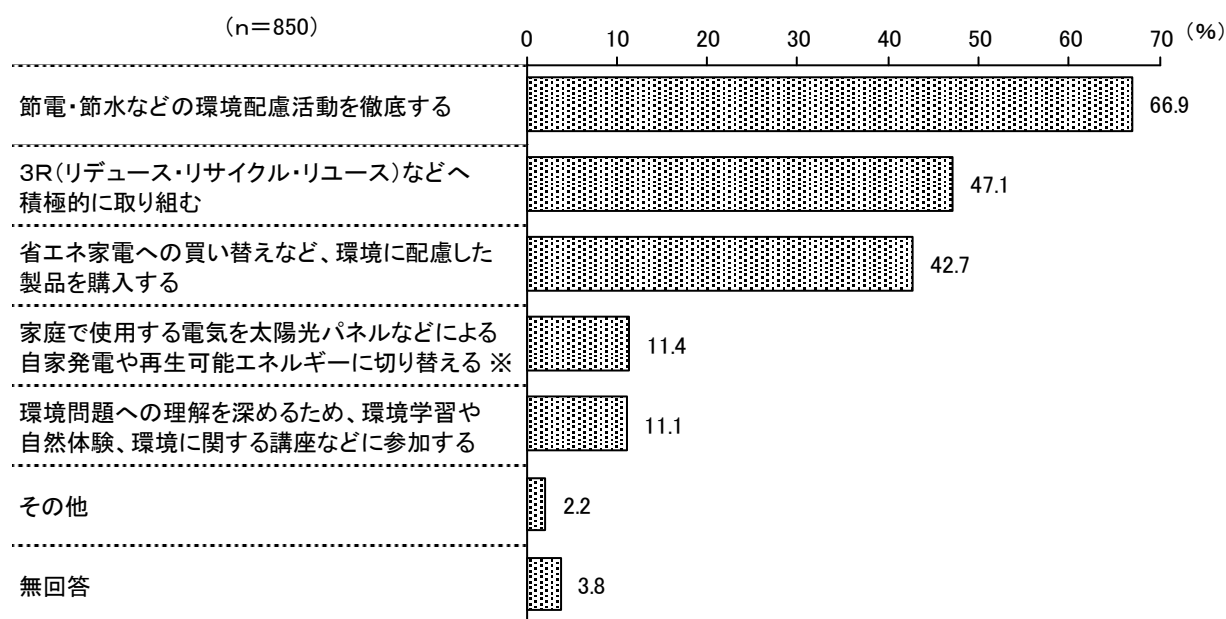
(3) 今後の家庭での取り組み

◇「節電・節水などの環境配慮活動を徹底する」が7割近く

問24 あなたは、環境を守るために、今後どのような家庭での取り組みが必要だと思いますか。 (○はいくつでも)	
n = 850	
1 節電・節水などの環境配慮活動を徹底する	66.9%
2 省エネ家電への買い替えなど、環境に配慮した製品を購入する	42.7
3 3R (リデュース・リサイクル・リユース) などへ積極的に取り組む	47.1
4 環境問題への理解を深めるため、環境学習や自然体験、環境に関する講座などに参加する	11.1
5 家庭で使用する電気を太陽光パネルなどによる自家発電や再生可能エネルギーに切り替える	11.4
6 その他	2.2
(無回答)	3.8

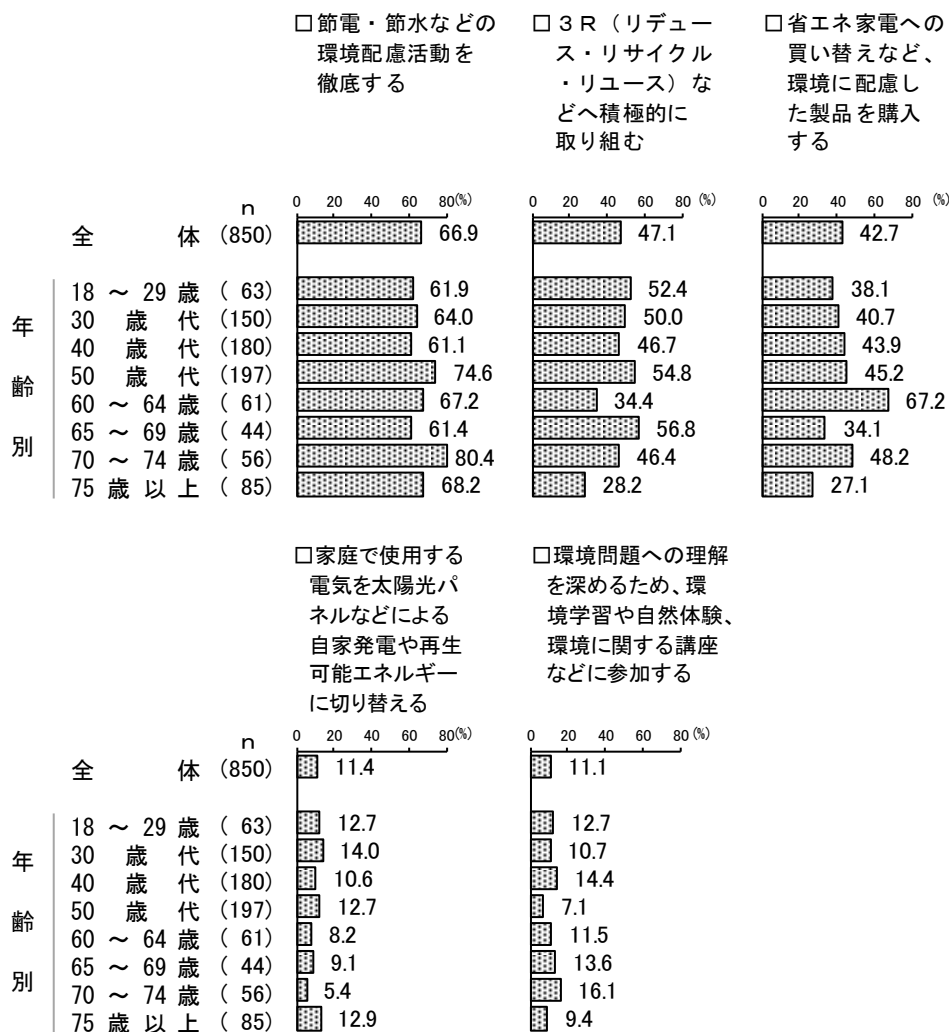
今後の家庭での取り組みは、「節電・節水などの環境配慮活動を徹底する」(66.9%)が7割近くと最も高くなっている。次いで、「3R (リデュース・リサイクル・リユース) などへ積極的に取り組む」(47.1%)、「省エネ家電への買い替えなど、環境に配慮した製品を購入する」(42.7%)、「家庭で使用する電気を太陽光パネルなどによる自家発電や再生可能エネルギーに切り替える」(11.4%) などとなっている。(図表12-3-1)

図表12-3-1 今後の家庭での取り組み (複数回答)



年齢別でみると、「節電・節水などの環境配慮活動を徹底する」は70～74歳で8割と高くなっている。「3R（リデュース・リサイクル・リユース）などへ積極的に取り組む」は65～69歳で6割近くと高くなっている。「省エネ家電への買い替えなど、環境に配慮した製品を購入する」は60～64歳で7割近くと高くなっている。（図表12-3-2）

図表12-3-2 今後の家庭での取り組み一年齢別



(4) 環境配慮を行う上での阻害要因

◇「手間がかかりそうだから」が3割台半ば

問25 あなたは、家庭で環境配慮活動を行う上での阻害要因は何だと思えますか。(○は1つ)

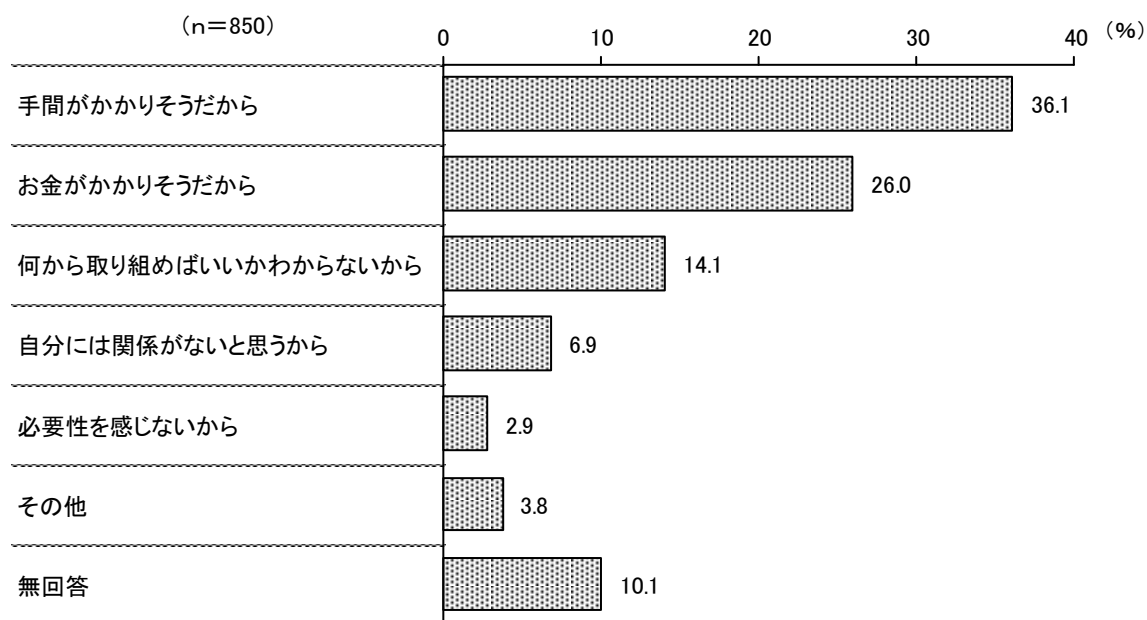
n = 850

1	お金がかかりそうだから	26.0%
2	手間がかかりそうだから	36.1
3	自分には関係がないと思うから	6.9
4	必要性を感じないから	2.9
5	何から取り組めばいいかわからないから	14.1
6	その他	3.8
	(無回答)	10.1

環境配慮を行う上での阻害要因は、「手間がかかりそうだから」(36.1%)が3割台半ばと最も高くなっている。次いで、「お金がかかりそうだから」(26.0%)、「何から取り組めばいいかわからないから」(14.1%)、「自分には関係がないと思うから」(6.9%)などとなっている。

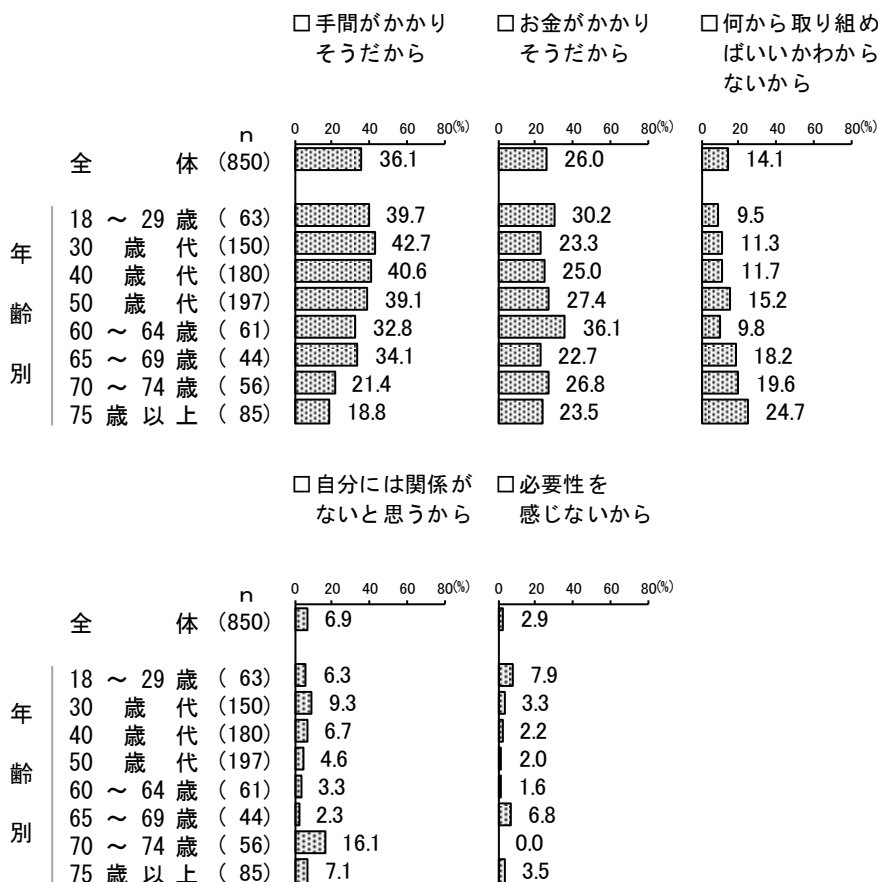
(図表12-4-1)

図表12-4-1 環境配慮を行う上での阻害要因



年齢別でみると、「手間がかかりそうだから」は30歳代で4割を超えて高くなっている。「お金がかかりそうだから」は60～64歳で3割台半ばと高くなっている。「何から取り組めばいいかわからないから」は75歳以上で2割台半ばと高くなっている。「自分には関係がないと思うから」は70～74歳で1割台半ばと高くなっている。(図表12-4-2)

図表12-4-2 環境配慮を行う上での阻害要因一年齢別



(5) 企業の責任としての取り組み

◇「再生可能エネルギー機器や省エネルギー機器の導入」が6割近く

問26 区内には多くの企業がありますが、あなたは、環境を守るために企業の責任として何に取り組む必要があると思いますか。(〇はいくつでも)

n = 850

1	再生可能エネルギー機器や省エネルギー機器の導入	56.7%
2	建物のZEB※(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)化	33.5
3	再生可能エネルギーで発電された電気などの積極的な利用	42.8
4	ZEV※(ゼロエミッション・ビークル)などの積極的な導入	27.9
5	建材などの木質化や屋上緑化などの緑化推進による二酸化炭素排出量の削減	41.2
6	森林整備の支援などによる環境活動への参加	34.1
7	社員などへの環境教育による環境配慮への意識向上	32.5
8	その他	4.1
	(無回答)	5.8

(※) ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)

快適な室内環境を実現しながら、省エネや再生可能エネルギーを利用して建物で消費するエネルギーをゼロにすることを目指した建物のことです。

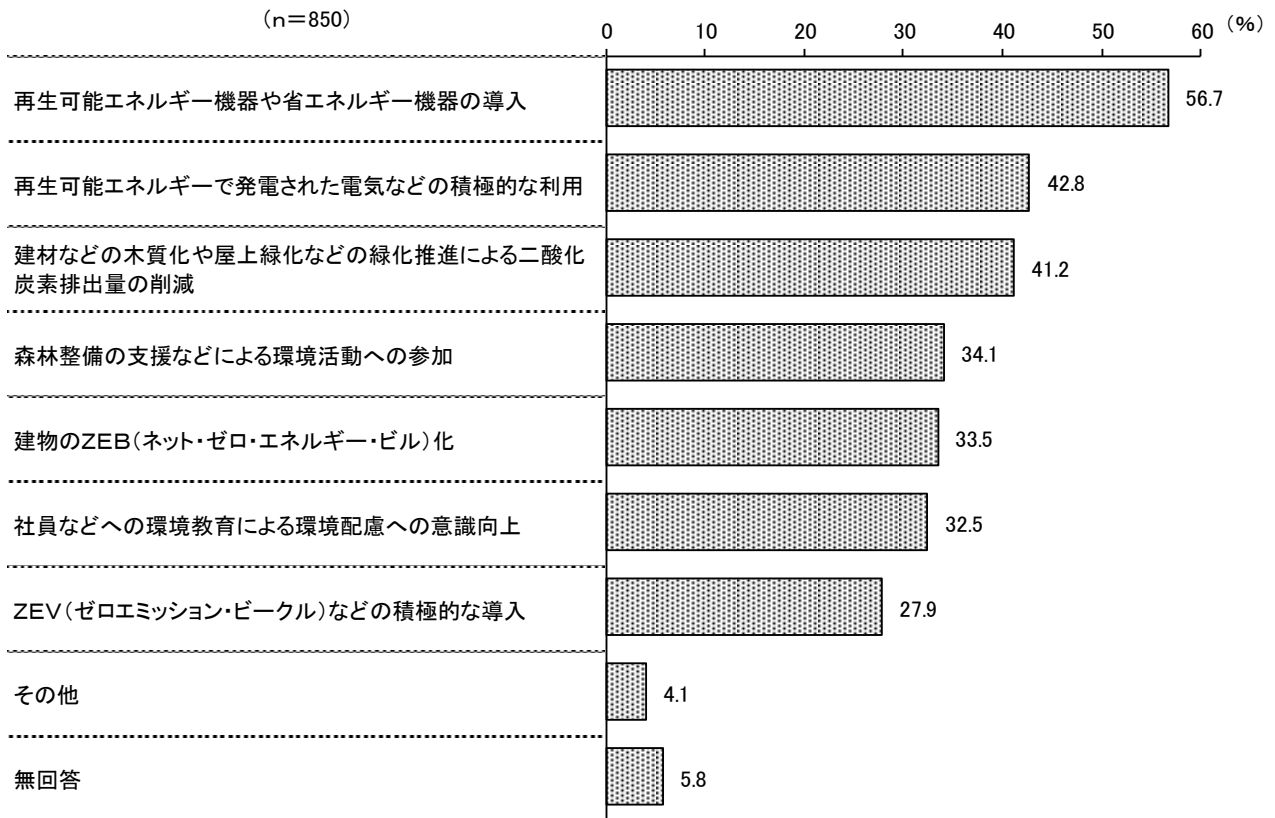
(※) ZEV(ゼロエミッション・ビークル)

走行時に二酸化炭素などの排出ガスを出さない電気自動車(EV)や燃料電池車(FCV)、プラグインハイブリッド自動車(PHV)のことです。

企業の責任としての取り組みは、「再生可能エネルギー機器や省エネルギー機器の導入」(56.7%)が6割近くで最も高くなっている。次いで、「再生可能エネルギーで発電された電気などの積極的な利用」(42.8%)、「建材などの木質化や屋上緑化などの緑化推進による二酸化炭素排出量の削減」(41.2%)、「森林整備の支援などによる環境活動への参加」(34.1%)などとなっている。

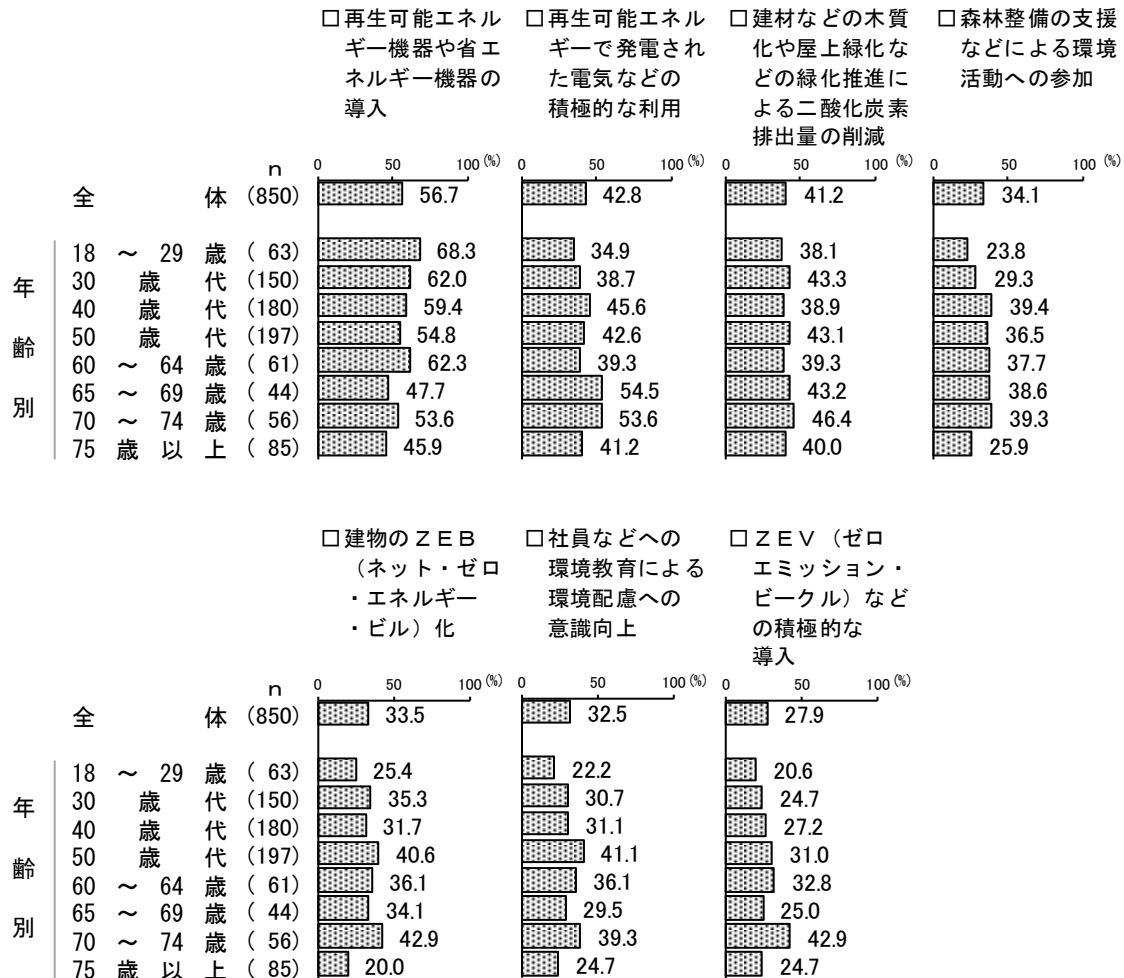
(図表12-5-1)

図表12-5-1 企業の責任としての取り組み（複数回答）



年齢別でみると、「再生可能エネルギー機器や省エネルギー機器の導入」は18～29歳で7割近くと高くなっている。「再生可能エネルギーで発電された電気などの積極的な利用」は65～69歳で5割台半ばと高くなっている。「ZEV（ゼロエミッション・ビークル）などの積極的な導入」は70～74歳で4割を超えて高くなっている。（図表12-5-2）

図表12-5-2 企業の責任としての取り組み一年齢別



【13 シティプロモーション】

(1) 中央区ならではの伝統と文化

◇「歌舞伎や演劇などの伝統芸能」が7割を超える

問27 江戸開府以来、東京の経済・文化の中心として発展を遂げてきた中央区の各エリアは、それぞれの歴史に裏打ちされた特色があり、数多くの有形・無形の文化資源を有しています。あなたが思う「中央区ならではの伝統と文化」とは、どのようなものですか。

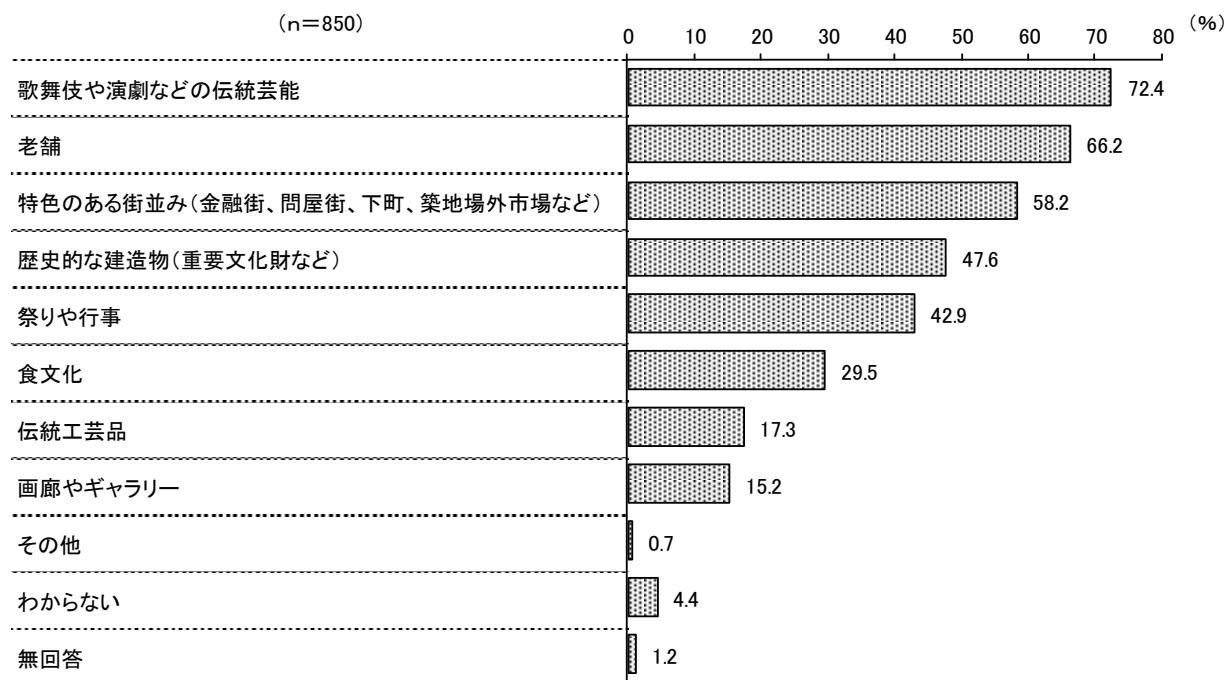
(〇はいくつでも)

n = 850

1	歌舞伎や演劇などの伝統芸能	72.4%	6	画廊やギャラリー	15.2
2	伝統工芸品	17.3	7	食文化	29.5
3	老舗	66.2	8	祭りや行事	42.9
4	歴史的な建造物（重要文化財など）	47.6	8	その他	0.7
5	特色のある街並み（金融街、問屋街、 下町、築地場外市場など）	58.2	10	わからない (無回答)	4.4 1.2

中央区ならではの伝統と文化は、「歌舞伎や演劇などの伝統芸能」(72.4%)が7割を超えて最も高くなっている。次いで、「老舗」(66.2%)、「特色のある街並み(金融街、問屋街、下町、築地場外市場など)」(58.2%)、「歴史的な建造物(重要文化財など)」(47.6%)、「祭りや行事」(42.9%)などとなっている。(図表13-1-1)

図表13-1-1 中央区ならではの伝統と文化（複数回答）



(2) 伝統と文化を身近に感じているか

◇『感じる』が8割

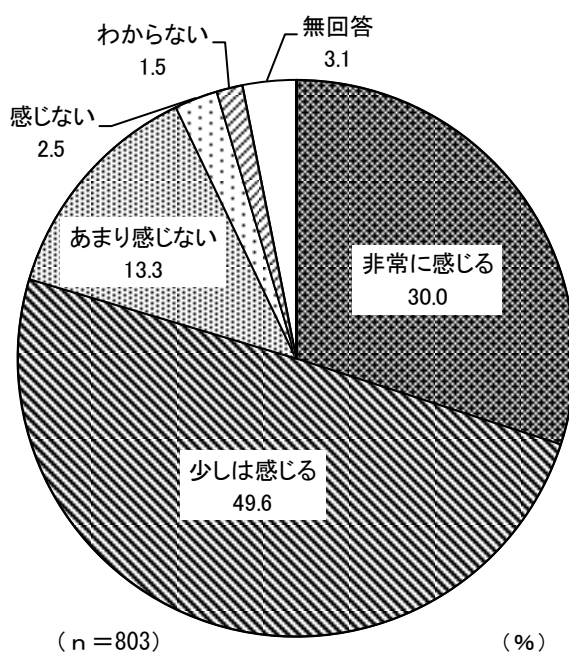
(問27で、「1 歌舞伎や演劇などの伝統芸能」から「9 その他」のいずれかにお答えの方に)
問27-1 あなたは、問27で選択した「中央区ならではの伝統と文化」について、身近に感じていますか。(〇は1つ)

n=803

1 非常に感じる	30.0%	4 感じない	2.5
2 少しは感じる	49.6	5 わからない	1.5
3 あまり感じない	13.3	(無回答)	3.1

伝統と文化を身近に感じているかについて、「非常に感じる」(30.0%)と「少しは感じる」(49.6%)を合わせた『感じる』(79.6%)は8割となっている。一方、「あまり感じない」(13.3%)と「感じない」(2.5%)を合わせた『感じない』(15.8%)は1割台半ばとなっている。(図表13-2-1)

図表13-2-1 伝統と文化を身近に感じているか



(3) 各エリアの特色と各エリアで一番お薦めしたい特色

◇各エリアの特色および一番お薦めしたい特色は、全てのエリアにおいて「グルメ」が上位

問28 あなたが考える各エリアの特色を選んでください。(○はいくつでも)

また、区外や海外の方に一番お薦めしたい各エリアの特色を1つ選んで番号を記入してください。(1~14までの番号)

※エリア名 区内の町名を5エリアに分けています。(日本橋の冠称は省略)

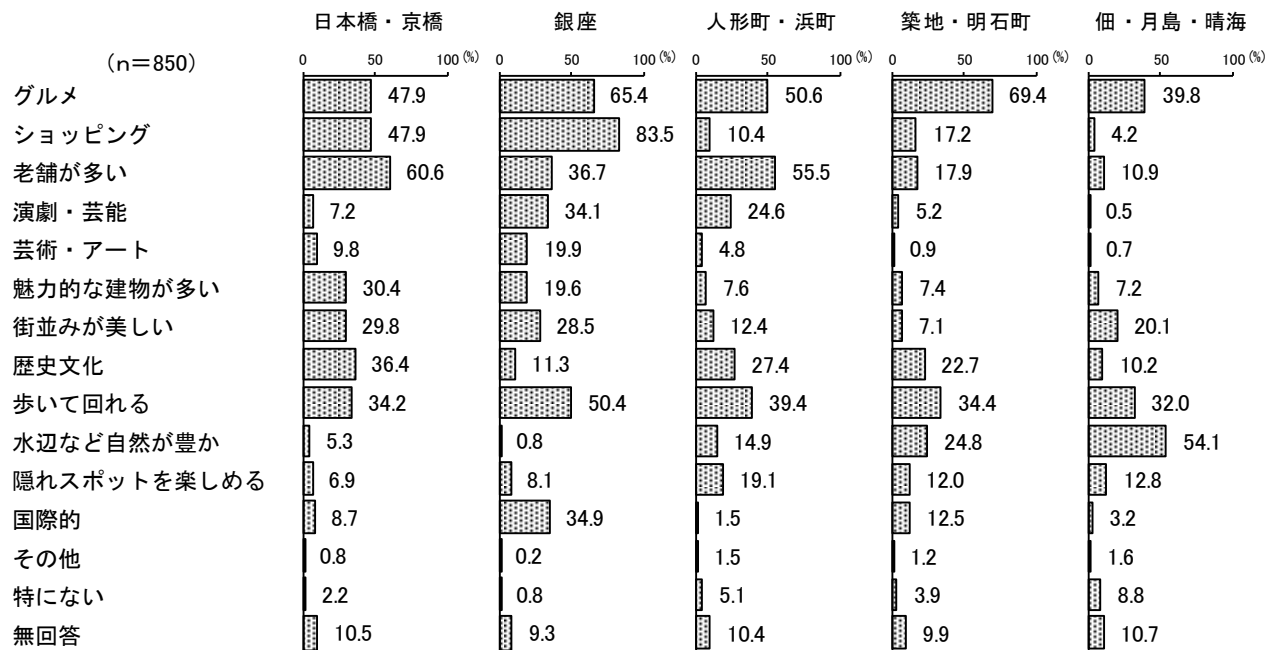
(1)日本橋・京橋	本石町、室町、本町、八重洲、日本橋、茅場町、兜町、京橋
(2)銀座	銀座
(3)人形町・浜町	小舟町、小伝馬町、大伝馬町、堀留町、富沢町、人形町、小網町、蛸殻町、箱崎町、馬喰町、横山町、東日本橋、久松町、浜町、中洲
(4)築地・明石町	新富、入船、湊、明石町、築地、浜離宮庭園、八丁堀、新川
(5)佃・月島・晴海	佃、月島、勝どき、豊海町、晴海

(%)

	エリアの特色					一番お薦めしたい特色				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	日本橋・京橋	銀座	人形町・浜町	築地・明石町	佃・月島・晴海	日本橋・京橋	銀座	人形町・浜町	築地・明石町	佃・月島・晴海
n = 850										
(1) グルメ	47.9	65.4	50.6	69.4	39.8	9.2	10.2	17.5	41.5	18.6
(2) ショッピング	47.9	83.5	10.4	17.2	4.2	8.2	39.2	1.4	2.1	0.9
(3) 老舗が多い	60.6	36.7	55.5	17.9	10.9	21.1	2.0	15.4	1.3	2.6
(4) 演劇・芸能	7.2	34.1	24.6	5.2	0.5	1.3	7.6	5.9	1.9	0.2
(5) 芸術・アート	9.8	19.9	4.8	0.9	0.7	0.7	0.8	0.2	0.1	0.5
(6) 魅力的な建物が多い	30.4	19.6	7.6	7.4	7.2	7.2	0.8	1.2	0.8	1.1
(7) 街並みが美しい	29.8	28.5	12.4	7.1	20.1	5.9	2.2	2.5	1.1	4.0
(8) 歴史文化	36.4	11.3	27.4	22.7	10.2	9.4	0.0	6.2	4.7	1.5
(9) 歩いて回れる	34.2	50.4	39.4	34.4	32.0	1.9	2.7	4.4	3.1	3.9
(10) 水辺など自然が豊か	5.3	0.8	14.9	24.8	54.1	0.5	0.0	2.8	5.5	24.5
(11) 隠れスポットを楽しめる	6.9	8.1	19.1	12.0	12.8	0.4	0.5	4.6	1.3	2.4
(12) 国際的	8.7	34.9	1.5	12.5	3.2	0.6	2.8	0.2	1.8	0.1
(13) その他	0.8	0.2	1.5	1.2	1.6	0.0	0.0	0.7	0.4	0.6
(14) 特にない	2.2	0.8	5.1	3.9	8.8	1.9	0.5	3.3	2.1	4.5
(無回答)	10.5	9.3	10.4	9.9	10.7	31.9	30.6	33.6	32.4	34.7

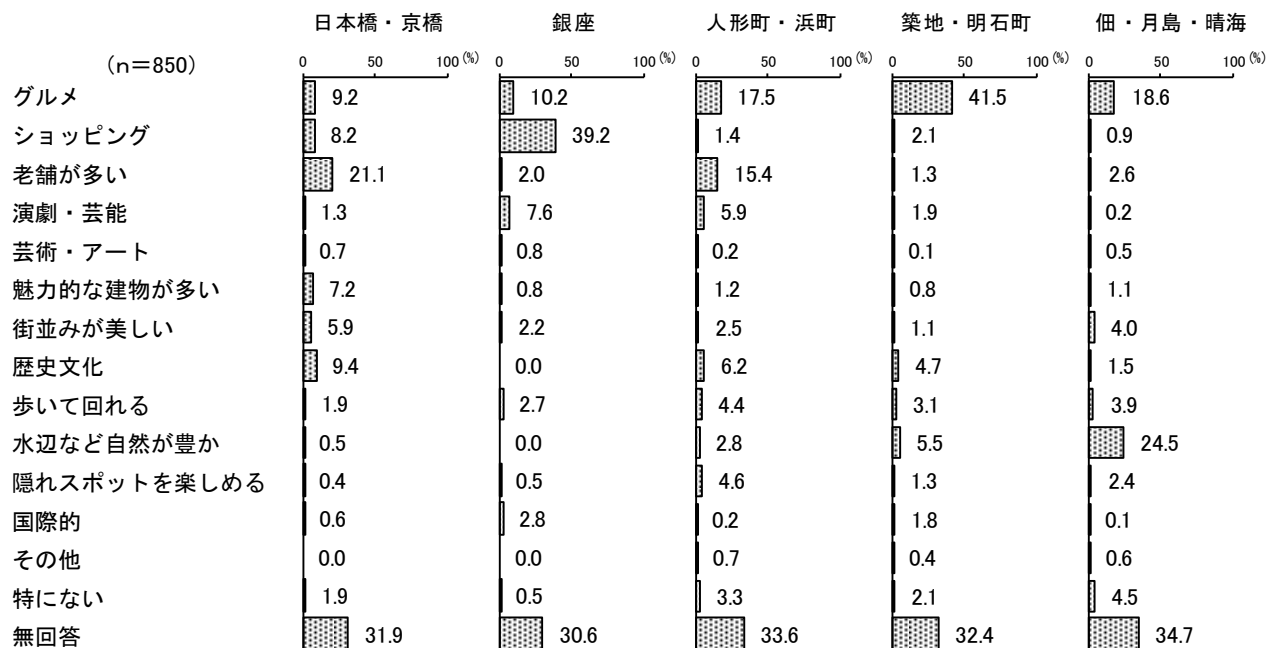
各エリアの特色について、“日本橋・京橋”は「老舗が多い」が約6割、“銀座”は「ショッピング」が8割を超え、“人形町・浜町”は「老舗が多い」が5割台半ば、“築地・明石町”は「グルメ」が約7割、“佃・月島・晴海”は「水辺など自然が豊か」が5割台半ばと、それぞれ最も高くなっている。(図表13-3-1)

図表13-3-1 各エリアの特色(複数回答)



各エリアで一番お薦めしたい特色について、“日本橋・京橋”は「老舗が多い」が2割を超え、“銀座”は「ショッピング」が約4割、“人形町・浜町”は「グルメ」が2割近く、“築地・明石町”は「グルメ」が4割を超え、“佃・月島・晴海”は「水辺など自然が豊か」が2割台半ばと、それぞれ最も高くなっている。(図表13-3-2)

図表13-3-2 各エリアで一番お薦めしたい特色



【14 施策の要望・評価】

(1) 区の施策の満足度と重要度

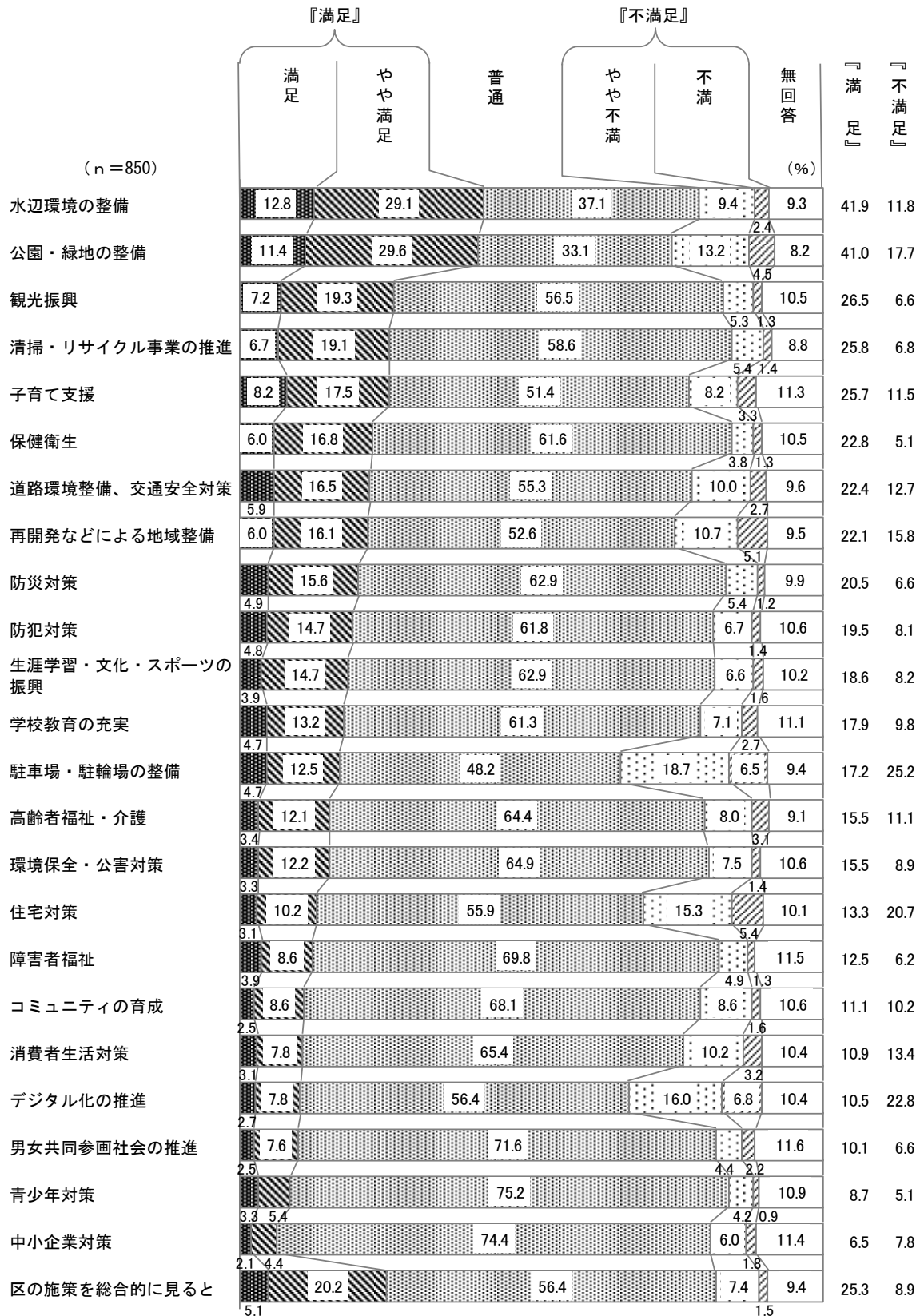
◇満足度が高いのは「水辺環境の整備」、低いのは「駐車場・駐輪場の整備」

◇重要度が高いのは「子育て支援」、低いのは「中小企業対策」

問29 あなたは、区の施策についてどの程度満足していますか。また、その施策をどの程度重視していますか。満足度と重要度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)	満足度					重要度 (%)				
	1 満足	2 やや満足	3 普通	4 やや不満	5 不満	無回答	1 たいへん重要	2 比較的 重要	3 普通	無回答
n = 850										
(1) 子育て支援	8.2	17.5	51.4	8.2	3.3	11.3	49.8	18.7	12.4	19.2
(2) 障害者福祉	3.9	8.6	69.8	4.9	1.3	11.5	26.8	30.7	22.9	19.5
(3) 高齢者福祉・介護	3.4	12.1	64.4	8.0	3.1	9.1	40.5	24.0	17.5	18.0
(4) 保健衛生	6.0	16.8	61.6	3.8	1.3	10.5	23.4	33.8	22.4	20.5
(5) 男女共同参画社会の推進	2.5	7.6	71.6	4.4	2.2	11.6	12.8	27.3	39.4	20.5
(6) 住宅対策	3.1	10.2	55.9	15.3	5.4	10.1	23.3	27.1	29.6	20.0
(7) 公園・緑地の整備	11.4	29.6	33.1	13.2	4.5	8.2	30.0	29.9	21.3	18.8
(8) 水辺環境の整備	12.8	29.1	37.1	9.4	2.4	9.3	29.3	28.8	23.2	18.7
(9) 消費者生活対策	3.1	7.8	65.4	10.2	3.2	10.4	19.8	28.6	32.0	19.6
(10) 環境保全・公害対策	3.3	12.2	64.9	7.5	1.4	10.6	23.3	32.6	24.8	19.3
(11) 清掃・リサイクル事業の推進	6.7	19.1	58.6	5.4	1.4	8.8	22.1	34.6	24.6	18.7
(12) 駐車場・駐輪場の整備	4.7	12.5	48.2	18.7	6.5	9.4	16.4	28.9	35.4	19.3
(13) 道路環境整備、交通安全対策	5.9	16.5	55.3	10.0	2.7	9.6	21.9	30.9	28.0	19.2
(14) 防災対策	4.9	15.6	62.9	5.4	1.2	9.9	40.1	24.2	17.1	18.6
(15) 防犯対策	4.8	14.7	61.8	6.7	1.4	10.6	34.9	27.9	18.4	18.8
(16) 再開発などによる地域整備	6.0	16.1	52.6	10.7	5.1	9.5	18.7	29.9	31.9	19.5
(17) 中小企業対策	2.1	4.4	74.4	6.0	1.8	11.4	10.1	26.1	43.5	20.2
(18) 学校教育の充実	4.7	13.2	61.3	7.1	2.7	11.1	31.3	25.5	23.3	19.9
(19) 青少年対策	3.3	5.4	75.2	4.2	0.9	10.9	18.0	29.3	32.4	20.4
(20) 生涯学習・文化・スポーツの振興	3.9	14.7	62.9	6.6	1.6	10.2	15.3	30.0	35.3	19.4
(21) コミュニティの育成	2.5	8.6	68.1	8.6	1.6	10.6	11.5	27.6	41.1	19.8
(22) 観光振興	7.2	19.3	56.5	5.3	1.3	10.5	16.5	29.9	33.8	19.9
(23) デジタル化の推進	2.7	7.8	56.4	16.0	6.8	10.4	30.0	28.0	22.4	19.6
(24) 区の施策を総合的に見ると	5.1	20.2	56.4	7.4	1.5	9.4				

次のグラフは、「満足」と「やや満足」の合算で、高い順に並べたものである。「水辺環境の整備」は、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』(41.9%)が4割を超えて最も高くなっている。一方、「駐車場・駐輪場の整備」は、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満足』(25.2%)が2割台半ばと最も高くなっている。(図表14-1-1)

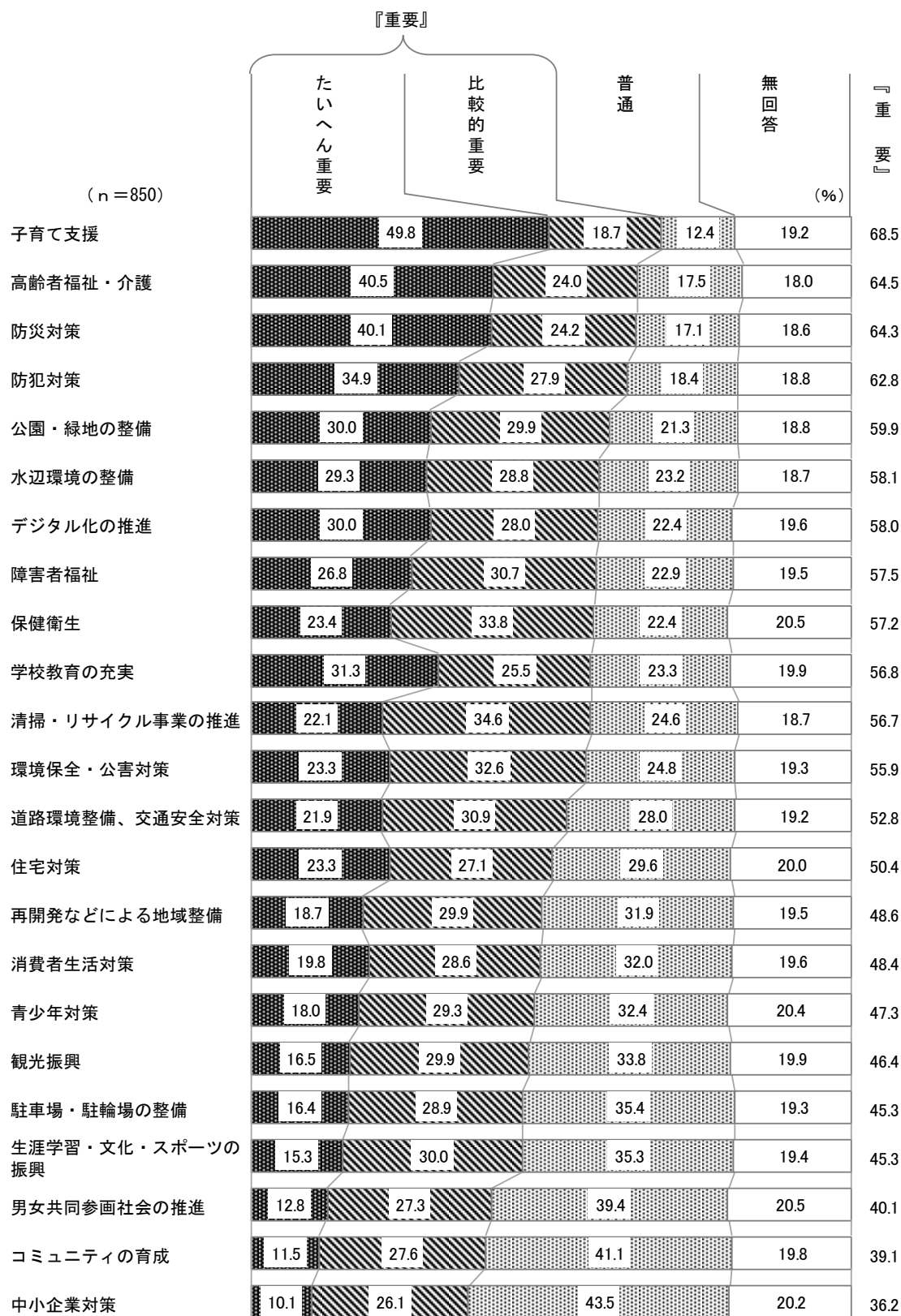
図表14-1-1 区の施策の満足度



次のグラフは、「たいへん重要」と「比較的重要」の合算で高い順に並べたものである。「子育て支援」は、「たいへん重要」と「比較的重要」を合わせた『重要』(68.5%)が7割近くで最も高くなっている。また、「中小企業対策」は、「普通」(43.5%)が4割を超えて最も高くなっている。

(図表14-1-2)

図表14-1-2 区の施策の重要度



■満足度順位

「満足」と「やや満足」の合計を『満足』とし、「やや不満」と「不満」の合計を『不満足』とした場合の、それぞれの上位5項目は次のようになっている。

『満 足』		『不満足』	
①水辺環境の整備	(41.9%)	①駐車場・駐輪場の整備	(25.2%)
②公園・緑地の整備	(41.0%)	②デジタル化の推進	(22.8%)
③観光振興	(26.5%)	③住宅対策	(20.7%)
④清掃・リサイクル事業の推進	(25.8%)	④公園・緑地の整備	(17.7%)
⑤子育て支援	(25.7%)	⑤再開発などによる地域整備	(15.8%)

■重要度順位

「たいへん重要」と「比較的重要」の合計を『重要』とした場合の、上位5項目と下位5項目は次のようになっている。

上 位		下 位	
①子育て支援	(68.5%)	①中小企業対策	(36.2%)
②高齢者福祉・介護	(64.5%)	②コミュニティの育成	(39.1%)
③防災対策	(64.3%)	③男女共同参画社会の推進	(40.1%)
④防犯対策	(62.8%)	④駐車場・駐輪場の整備	(45.3%)
⑤公園・緑地の整備	(59.9%)	④生涯学習・文化・スポーツの振興	(45.3%)

満足度・重要度の比較をより明確にするために、加重平均値を算出した。

$$\text{満足度評価点} = (\text{「満足」の回答者数} \times 10 \text{点} + \text{「やや満足」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「普通」の回答者数} \times 0 \text{点} + \text{「やや不満」の回答者数} \times -5 \text{点} + \text{「不満」の回答者数} \times -10 \text{点}) \div (\text{回答者数} - \text{無回答者数})$$

$$\text{重要度評価点} = (\text{「たいへん重要」の回答者数} \times 10 \text{点} + \text{「比較的重要」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「普通」の回答者数} \times 0 \text{点}) \div (\text{回答者数} - \text{無回答者数})$$

この計算方法では、満足度の場合の評価点は、+10.00点～-10.00点の間に分布し、中間点の0.00点を境に、+10.00点に近くなるほど満足度は高くなり、逆に-10.00点に近くなるほど不満足度が高くなる。一方、重要度は、+10.00点～0.00点の間に分布することになる。

以上の算出方法による評価点の上位5項目、下位5項目は次のようになっている。

【満足度】

上 位		下 位	
①水辺の整備	(2.24)	①デジタル化の推進	(-0.92)
②公園・緑地の整備	(1.65)	②住宅対策	(-0.54)
③観光振興	(1.44)	③駐車場・駐輪場の整備	(-0.54)
④清掃・リサイクル事業の推進	(1.33)	④消費者生活対策	(-0.15)
⑤保健衛生	(1.25)	⑤中小企業対策	(-0.05)

【重要度】

上 位		下 位	
①子育て支援	(7.31)	①中小企業対策	(2.91)
②防災対策	(6.42)	②コミュニティの育成	(3.16)
③高齢者福祉・介護	(6.40)	③男女共同参画社会の推進	(3.33)
④防犯対策	(6.02)	④生涯学習・文化・スポーツの振興	(3.76)
⑤公園・緑地の整備	(5.54)	⑤駐車場・駐輪場の整備	(3.82)

居住地域別に満足度をみると、京橋地域では、「水辺環境の整備」(2.90)、「公園・緑地の整備」(2.54)が比較的高くなっている。また、「駐車場・駐輪場の整備」(-0.25)、「デジタル化の推進」(-0.06)が比較的低くなっている。

日本橋地域では、「水辺環境の整備」(1.65)、「観光振興」(1.36)、「清掃・リサイクル事業の推進」(1.34)が比較的高くなっている。また、「デジタル化の推進」(-1.11)、「駐車場・駐輪場の整備」(-0.72)が比較的低くなっている。

月島地域では、「水辺環境の整備」(2.27)、「公園・緑地の整備」(1.55)が比較的高くなっている。また、「デジタル化の推進」(-1.34)、「住宅対策」(-0.90)が比較的低くなっている。

居住地域別に重要度をみると、「子育て支援」は全ての地域で第1位となっている。「防災対策」は日本橋地域と月島地域でともに第2位となっている。「高齢者福祉・介護」は京橋地域で第2位となっている。(図表14-1-3)

図表14-1-3 区の施策の満足度評価点と重要度評価点一居住地域別

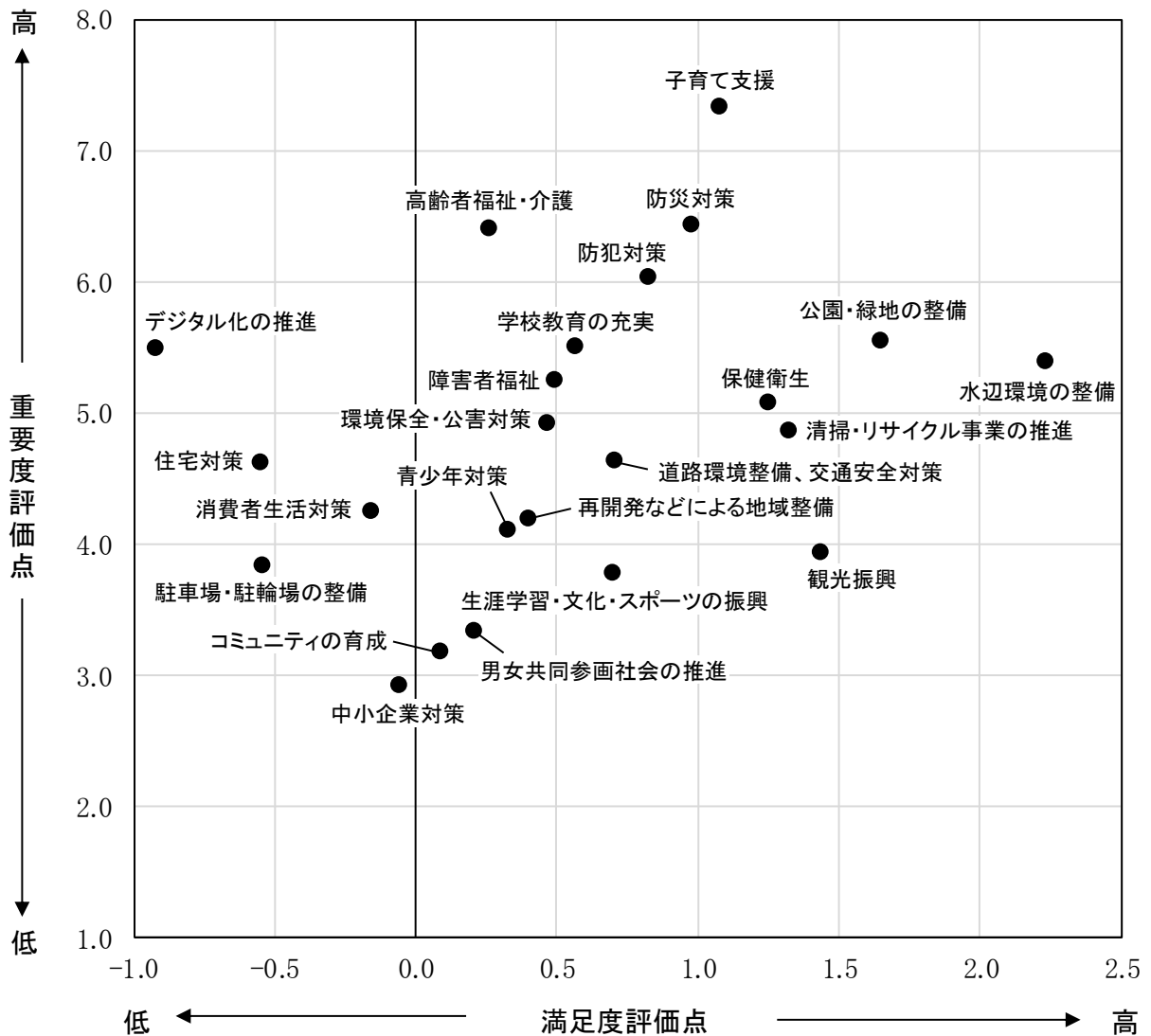
項目	満足度				重要度			
	全 体	京 橋 地 域	日 本 橋 地 域	月 島 地 域	全 体	京 橋 地 域	日 本 橋 地 域	月 島 地 域
(1) 子育て支援	1.08	1.47	1.16	0.87	7.31	7.60	7.26	7.14
(2) 障害者福祉	0.50	0.89	0.36	0.29	5.24	6.11	4.69	5.05
(3) 高齢者福祉・介護	0.27	0.51	0.45	-0.08	6.40	7.24	5.98	6.20
(4) 保健衛生	1.25	1.56	1.08	1.18	5.07	5.39	4.96	4.95
(5) 男女共同参画社会の推進	0.21	0.45	-0.02	0.19	3.33	3.52	3.44	3.08
(6) 住宅対策	-0.54	0.22	-0.72	-0.90	4.60	4.73	4.11	4.86
(7) 公園・緑地の整備	1.65	2.54	1.23	1.55	5.54	5.26	5.22	5.84
(8) 水辺環境の整備	2.24	2.90	1.65	2.27	5.38	5.32	4.80	5.80
(9) 消費者生活対策	-0.15	0.11	-0.42	-0.11	4.24	4.57	4.16	3.96
(10) 環境保全・公害対策	0.47	0.78	0.44	0.32	4.91	5.33	4.82	4.65
(11) 清掃・リサイクル事業の推進	1.33	1.26	1.34	1.28	4.85	5.32	4.61	4.76
(12) 駐車場・駐輪場の整備	-0.54	-0.25	-0.72	-0.68	3.82	4.05	3.68	3.81
(13) 道路環境整備、交通安全対策	0.71	0.90	0.79	0.46	4.62	4.61	4.32	4.82
(14) 防災対策	0.99	1.18	0.83	0.98	6.42	6.57	6.09	6.52
(15) 防犯対策	0.83	0.91	0.72	0.81	6.02	6.11	5.76	6.11
(16) 再開発などによる地域整備	0.40	0.74	0.96	-0.23	4.18	4.00	3.72	4.55
(17) 中小企業対策	-0.05	0.31	-0.11	-0.24	2.91	3.36	3.03	2.58
(18) 学校教育の充実	0.57	1.00	0.53	0.40	5.50	5.53	5.46	5.51
(19) 青少年対策	0.33	0.44	0.21	0.33	4.10	4.14	3.98	4.14
(20) 生涯学習・文化・スポーツの振興	0.70	0.97	0.96	0.37	3.76	3.66	3.68	3.89
(21) コミュニティの育成	0.09	0.30	0.19	-0.10	3.16	3.30	3.00	3.16
(22) 観光振興	1.44	2.02	1.36	1.11	3.92	4.20	3.61	3.93
(23) デジタル化の推進	-0.92	-0.06	-1.11	-1.34	5.48	5.37	5.26	5.54

次の図表は、加重平均値による満足度評価と重要度評価を相関させた散布図である。横軸が満足度評価点、縦軸が重要度評価点になっている。

右に位置するほど満足度が高く、上に位置するほど重要度が高いといえる。満足度評価点が低く、重要度評価点が高い領域（左上方）にある項目が、住民ニーズの高いものと考えられる。

(図表14-1-4)

図表14-1-4 区の施策の満足度評価点と重要度評価点の相関



(2) 区の施策への要望

◇「子育て支援」が4割を超える

問30 問29の施策の中で、あなたが力を入れてほしいものは何ですか。1位から3位までを選んで番号を記入してください。(1～23までの番号)

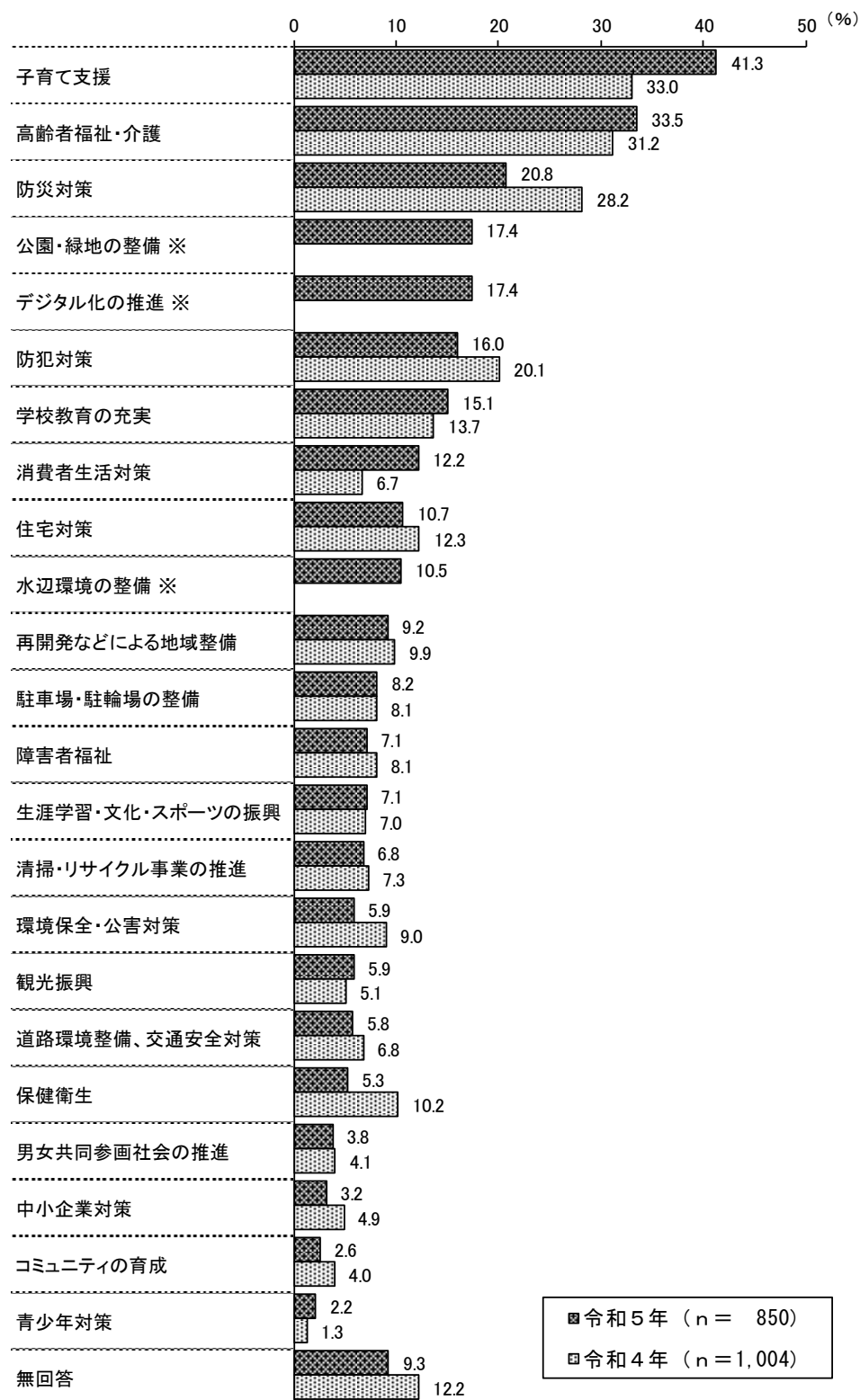
n = 850	(%)			
	第1位	第2位	第3位	全体
(1) 子育て支援	25.6	10.1	5.5	41.3
(2) 障害者福祉	1.9	2.8	2.4	7.1
(3) 高齢者福祉・介護	19.3	7.8	6.5	33.5
(4) 保健衛生	1.2	2.7	1.4	5.3
(5) 男女共同参画社会の推進	0.8	1.6	1.3	3.8
(6) 住宅対策	2.7	4.8	3.2	10.7
(7) 公園・緑地の整備	3.6	7.9	5.9	17.4
(8) 水辺環境の整備	1.9	4.4	4.2	10.5
(9) 消費者生活対策	3.8	3.3	5.2	12.2
(10) 環境保全・公害対策	0.8	2.0	3.1	5.9
(11) 清掃・リサイクル事業の推進	1.1	3.1	2.7	6.8
(12) 駐車場・駐輪場の整備	2.5	2.6	3.2	8.2
(13) 道路環境整備、交通安全対策	1.1	2.0	2.7	5.8
(14) 防災対策	6.2	7.3	7.3	20.8
(15) 防犯対策	3.4	6.8	5.8	16.0
(16) 再開発などによる地域整備	2.1	2.9	4.1	9.2
(17) 中小企業対策	1.1	1.4	0.7	3.2
(18) 学校教育の充実	3.4	6.6	5.1	15.1
(19) 青少年対策	0.1	0.6	1.5	2.2
(20) 生涯学習・文化・スポーツの振興	1.8	1.9	3.4	7.1
(21) コミュニティの育成	0.1	0.5	2.0	2.6
(22) 観光振興	1.3	1.2	3.4	5.9
(23) デジタル化の推進	4.9	5.2	7.3	17.4
(無回答)	9.3	10.6	12.2	9.3

* 全体の無回答の割合は、第1位の割合とした。

区の施策への要望としては、「子育て支援」(41.3%)が4割を超えて高くなっている。次いで、「高齢者福祉・介護」(33.5%)「防災対策」(20.8%)、「公園・緑地の整備」(17.4%)、「デジタル化の推進」(17.4%)、「防犯対策」(16.0%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「子育て支援」は8.3ポイント、「消費者生活対策」は5.5ポイント、それぞれ増加している。一方、「防災対策」は7.4ポイント、「保健衛生」は4.9ポイント、「防犯対策」は4.1ポイント、それぞれ減少している。(図表14-2-1)

図表14-2-1 区の施策への要望（複数回答）



※「公園・緑地の整備」「水辺環境の整備」の選択肢は、令和4年では「公園・緑地・水辺環境の整備」としていた。(24.0%)

※「デジタル化の推進」は、令和4年の調査では聞かれていない選択肢。

性別でみると、女性の方が男性よりも「高齢者福祉・介護」で12.1ポイント、「防災対策」で3.8ポイント、それぞれ高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「デジタル化の推進」で12.1ポイント、「子育て支援」で5.5ポイント、「学校教育の充実」で4.1ポイント、「住宅対策」で2.0ポイント、それぞれ高くなっている。

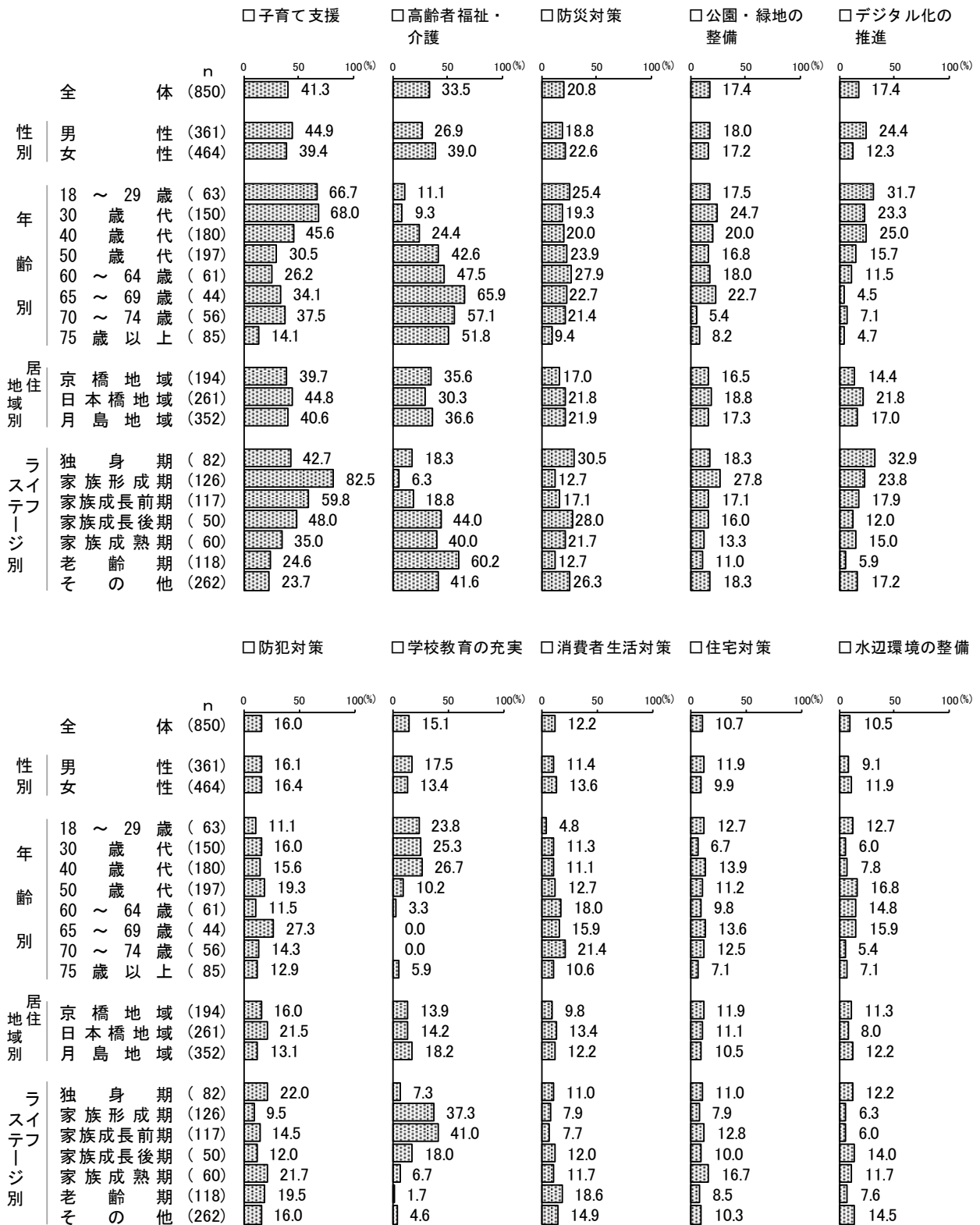
年齢別でみると、「子育て支援」は18～29歳と30歳代で7割近くと高くなっている。「高齢者福祉・介護」は65～69歳で6割台半ばと高くなっている。「防災対策」は60～64歳で3割近くと高くなっている。

居住地域別でみると、「子育て支援」は日本橋地域で4割台半ばと高くなっている。「高齢者福祉・介護」は月島地域で4割近くと高くなっている。

ライフステージ別でみると、「子育て支援」は家族形成期で8割を超え、家族成長前期で6割と高くなっている。「高齢者福祉・介護」は老齢期で6割と高くなっている。「防災対策」は独身期で約3割と高くなっている。「公園・緑地の整備」は家族形成期で3割近くと高くなっている。

(図表14-2-2)

図表 14-2-2 区の施策への要望—性別・年齢別・居住地域別・ライフステージ別（上位 10 項目）



上位5項目にあげられた施策を性別でみると、「子育て支援」は男女ともに第1位となっている。

年齢別でみると、「子育て支援」は40歳代以下の年代で第1位となっており、「高齢者福祉・介護」は50歳代以上の年代で第1位となっている。

居住地域別でみると、すべての地域で「子育て支援」が第1位、「高齢者福祉・介護」が第2位、「防災対策」が同率を含め第3位となっている。

ライフステージ別でみると、「子育て支援」は独身期と家族形成期、家族成長前期、家族成長後期で第1位となっている。「高齢者福祉・介護」は家族成熟期、老齢期、その他で第1位となっている。(図表14-2-3)

図表 14-2-3 区の施策への要望—性別・年齢別・居住地域別・ライフステージ別(上位5項目)

属性		順位	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体			850	子育て支援 41.3	高齢者福祉・介護 33.5	防災対策 20.8	公園・緑地の整備/デジタル化の推進	17.4
性 別	男 性		361	子育て支援 44.9	高齢者福祉・介護 26.9	デジタル化の推進 24.4	防災対策 18.8	公園・緑地の整備 18.0
	女 性		464	子育て支援 39.4	高齢者福祉・介護 39.0	防災対策 22.6	公園・緑地の整備	防犯対策 16.4
年 齢 別	18~29歳		63	子育て支援 66.7	デジタル化の推進 31.7	防災対策 25.4	学校教育の充実 23.8	公園・緑地の整備 17.5
	30歳代		150	子育て支援 68.0	学校教育の充実 25.3	公園・緑地の整備 24.7	デジタル化の推進 23.3	防災対策 19.3
	40歳代		180	子育て支援 45.6	学校教育の充実 26.7	デジタル化の推進 25.0	高齢者福祉・介護 24.4	公園・緑地の整備/ 防災対策 20.0
	50歳代		197	高齢者福祉・介護 42.6	子育て支援 30.5	防災対策 23.9	防犯対策 19.3	公園・緑地の整備/水辺 環境の整備 16.8
	60~64歳		61	高齢者福祉・介護 47.5	防災対策 27.9	子育て支援 26.2	公園・緑地の整備/消費者生活対策	18.0
	65~69歳		44	高齢者福祉・介護 65.9	子育て支援 34.1	防犯対策 27.3	公園・緑地の整備/防災対策	22.7
	70~74歳		56	高齢者福祉・介護 57.1	子育て支援 37.5	消費者生活対策/防災対策 21.4		障害者福祉/ 防犯対策 14.3
	75歳以上		85	高齢者福祉・介護 51.8	子育て支援/障害者福祉 14.1		防犯対策 12.9	清掃・リサイクル 事業の推進 11.8
居 住 地 域 別	京橋地域		194	子育て支援 39.7	高齢者福祉・介護 25.6	防災対策 17.0	公園・緑地の整備 16.5	防犯対策 16.0
	日本橋地域		261	子育て支援 44.8	高齢者福祉・介護 30.3	防災対策/デジタル化の推進 21.8		防犯対策 21.5
	月島地域		352	子育て支援 40.6	高齢者福祉・介護 36.6	防災対策 21.9	学校教育の充実 18.2	公園・緑地の整備 17.3
ラ イ フ ス テ ー ジ 別	独 身 期		82	子育て支援 42.7	デジタル化の推進 32.9	防災対策 30.5	防犯対策 22.0	高齢者福祉・介護 18.3
	家族形成期		126	子育て支援 82.5	学校教育の充実 37.3	公園・緑地の整備 27.8	デジタル化の推進 23.8	再開発などによる 地域整備 13.5
	家族成長前期		117	子育て支援 59.8	学校教育の充実 41.0	高齢者福祉・介護 18.8	デジタル化の推進 17.9	公園・緑地の整備 17.1
	家族成長後期		50	子育て支援 48.0	高齢者福祉・介護 44.0	防災対策 28.0	学校教育の充実 18.0	公園・緑地の整備 16.0
	家族成熟期		60	高齢者福祉・介護 40.0	子育て支援 35.0	防災対策/防犯対策 21.7		住宅対策 16.7
	老 齢 期		118	高齢者福祉・介護 60.2	子育て支援 24.6	防犯対策 19.5	消費者生活対策 18.6	防災対策 12.7
	そ の 他		262	高齢者福祉・介護 41.6	防災対策 26.3	子育て支援 23.7	公園・緑地の整備 18.3	デジタル化の推進 17.2

V 結果の数表

V 結果の数表

1 定住性

上段：件数
下段：%

問1 あなたは、中央区にお住まいになって何年になりますか。(〇は1つ)

全体	3年未満	3～6年未満	6～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	20年以上	生まれてからずっと	無回答	『短期居住者』	『中期居住者』	『長期居住者』
850	123	107	120	118	103	211	66	2	230	341	277
100.0	14.5	12.6	14.1	13.9	12.1	24.8	7.8	0.2	27.1	40.1	32.6

問2 あなたは、中央区に対して「わがまち」というような愛着心を感じていますか。(〇は1つ)

全体	非常に感じる	少しは感じる	あまり感じない	感じない	わからない	無回答
850	347	371	86	20	24	2
100.0	40.8	43.6	10.1	2.4	2.8	0.2

問3 あなたは、中央区に今後もずっと住みたいと思っていますか。(〇は1つ)

全体	住み続けたい	できれば住み続けたい	できれば転出した	転出した	わからない	無回答
850	414	320	16	11	85	4
100.0	48.7	37.6	1.9	1.3	10.0	0.5

2 防災対策

問4 あなたのご家庭では、大地震などの災害が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。(〇はいくつでも)

全体	食料の備蓄 (1人1日3食分)	飲料水の備蓄 (1人1日30分)	簡易トイレの備蓄	家具類の転倒・落下・移動防止やガラス飛散防止	消火器の備え	救急セットの備え	パールやハンマーなどの救助用工具の備え	貴重品を持ち出す準備	風呂などへの水のため置き	救命救助の講習会への参加	防災訓練への参加	町会・自治会などの地域の避難方法、避難場所の確認	家庭での連絡方法などの話し合い	建物の補強	その他	特にな	無回答
850	558	599	444	278	470	315	112	159	145	74	122	307	234	38	23	81	5
100.0	65.6	70.5	52.2	32.7	55.3	37.1	13.2	18.7	17.1	8.7	14.4	36.1	27.5	4.5	2.7	9.5	0.6

(問4で、「1 食料の備蓄」「2 飲料水の備蓄」「3 簡易トイレの備蓄」とお答えの方に)
 問4-1 災害に対する備蓄量

上段：件数
 下段：%

	全 体	1 日 分 以下	2 日 分	3 日 分	4 ～ 6 日 分	1 週 間 分 以上	無 回 答	平均 備蓄 (日数)	最小 備蓄 (日数)	最大 備蓄 (日数)
食料の備蓄	558 100.0	57 10.2	95 17.0	197 35.3	72 12.9	73 13.1	64 11.5	3.75	0.5	30
飲料水の備蓄	599 100.0	62 10.4	91 15.2	165 27.5	91 15.2	119 19.9	71 11.9	4.51	0.5	100
簡易トイレの備蓄	444 100.0	54 12.2	65 14.6	124 27.9	48 10.8	89 20.0	64 14.4	4.79	1.0	50

問5 区では区立の小・中学校などを「防災拠点」とし、食料や毛布などの備蓄や井戸を整備しています。この「防災拠点」は避難所や救護所などの機能を持っています。あなたは、ご自分の地域の「防災拠点」を知っていますか。(〇は1つ)

全 体	知 っ て い る	わ か ら な い が、 場 所 は	知 ら な い	無 回 答
850 100.0	555 65.3	114 13.4	176 20.7	5 0.6

(問5で、「1 知っている」または「2 知っているが、場所はわからない」とお答えの方に)

問5-1 この防災拠点の災害時の運営を円滑に進めるため、町会・自治会や防災区民組織が防災拠点運営委員会をつくり、防災訓練の実施や日頃から防災について話し合うなど、災害に備えた協力体制をとっていることをあなたは知っていますか。(〇は1つ)

全 体	知 っ て い る	は よ く わ か ら な い が、 活 動 内 容	知 ら な い	無 回 答
669 100.0	160 23.9	250 37.4	243 36.3	16 2.4

問6 大地震などの災害が起こったら、お住まいの近くで、あなたが協力したいと思う活動には何がありますか。(〇はいくつでも)

上段：件数
下段：%

全体	負傷者の応急手当	倒壊家屋などからの救出・救助	初期の消火活動	避難所での被災者の世話	救護物資の仕分けなどの防災活動への協力	用いた活動	危険判定など専門的・技能を活かした活動	外国語通訳・手話・建物の危険や伝達	インターネットによる情報収集	その他の支援活動	協力したくない	わからない	無回答
850	241	210	232	331	466	102	207	25	6	123	11		
100.0	28.4	24.7	27.3	38.9	54.8	12.0	24.4	2.9	0.7	14.5	1.3		

問7 災害時に区内の災害情報を得る手段として、一般のテレビ・ラジオ以外にあなたが有効だと思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

全体	区のホームページ	防災マップアプリ	ちゅうおう安全・安心メール	インターネット	スマートフォンやフェイスブックなどのSNS(ソーシャルネットワーク)	ワイキングサービス	防災行政無線(屋外スピーカー)	緊急告知ラジオ	ケーブルテレビ	その他	無回答
850	357	229	176	497	343	301	259	34	13	11	
100.0	42.0	26.9	20.7	58.5	40.4	35.4	30.5	4.0	1.5	1.3	

3 健康診査

問8 あなたは、この1年間に健康診査(健康診断)を受けましたか。(〇はいくつでも)

全体	区で実施している健康診査を受けた	勤務先(家族の勤務先を含む)で実施する健康診査を受けた	加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた	個人で人間ドックなどを受けた	学校で実施する健康診査を受けた	その他で受けた	健康診査は受けていない	無回答
850	219	419	92	74	14	35	119	6
100.0	25.8	49.3	10.8	8.7	1.6	4.1	14.0	0.7

上段：件数
下段：%

(問8で、「7 健康診査は受けていない」とお答えの方に)

問8-1 あなたが健康診査を受けなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

全体	勤務先(家族の勤務先を含む)などで実施していない	受診方法がわからない	必要がない	時間がない	面倒である	健康に自信がある	病気で医者にかかっている	検査がいや	病気と診断されるのが怖い	費用がかかる	その他	無回答
119	7	9	6	43	37	11	24	14	9	16	24	0
100.0	5.9	7.6	5.0	36.1	31.1	9.2	20.2	11.8	7.6	13.4	20.2	0.0

4 高齢者施策

問9 あなたは、介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいですか。(もっとも近い考え1つに〇)

全体	主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい	主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい	しながら暮らしたい	高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用	特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい	介護付き有料老人ホームに入りたい	その他	わからない	無回答
850	67	320	190	83	79	10	79	22	
100.0	7.9	37.6	22.4	9.8	9.3	1.2	9.3	2.6	

問10 あなたは、住み慣れた地域で暮らし続けるために、これからの高齢者保健福祉施策で、区が力を入れていくべきものは何だと思えますか。(〇はいくつでも)

全体	健康づくり・介護予防の充実	就労・社会参加の促進	区の在宅福祉サービスなどの充実	在宅サービス(医療・介護・施設整備・誘致)	特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設整備・誘致	高齢者向け住宅の整備・誘致	ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援	低所得者への経済的支援	特になし	無回答
850	342	275	495	307	341	430	190	32	4	
100.0	40.2	32.4	58.2	36.1	40.1	50.6	22.4	3.8	0.5	

5 子育て支援

上段：件数
下段：%

問11 あなたは、子育てに関する悩みや不安をどこに相談しましたか。（〇は2つまで）

全体	配偶者・パートナー	その他の親族	職場の人	隣近所の人、知人、友人	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生	子ども家庭支援センター、児童館、あかちゃん天国など子育て支援施設	子ども家庭支援センターの担当者	（健診時などで）保健所、保健センター	その他	特に相談しない	子育てを経験していない	無回答
850	316	154	48	109	51	48	28	29	17	75	337	48	
100.0	37.2	18.1	5.6	12.8	6.0	5.6	3.3	3.4	2.0	8.8	39.6	5.6	

問12 あなたがこれからの区の子育て支援で重要と考えるものを選んでください。（〇は2つまで）
また、さらに充実を図る必要があると考えるものを選んでください。（〇はいくつでも）

重要と考えるもの（〇は2つまで）

全体	整備 保育事業所・幼稚園などの施設	保育園・認定こども園・地域型 保育施設	支援 サービス	一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援	子育て仲間が交流し、情報交換 のできる場	子どもの健全な成長のための 教育環境の整備	放課後などにおける児童の遊び や生活の場	情報の提供や相談サービス	備 公園の整備など、子どもを安心して育てることができると環境整備	お母さんと乳幼児などの健康の確保 および増進	職業生活と家庭生活との両立の 支援	児童虐待防止対策	経済的な支援	特 に な い	無 回 答
850	253	283	29	95	125	28	105	12	188	84	138	46	97		
100.0	29.8	33.3	3.4	11.2	14.7	3.3	12.4	1.4	22.1	9.9	16.2	5.4	11.4		

さらに充実を図る必要があると考えるもの（〇はいくつでも）

全体	整備 保育事業所・幼稚園などの施設	保育園・認定こども園・地域型 保育施設	支援 サービス	一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援	子育て仲間が交流し、情報交換 のできる場	子どもの健全な成長のための 教育環境の整備	放課後などにおける児童の遊び や生活の場	情報の提供や相談サービス	備 公園の整備など、子どもを安心して育てることができると環境整備	お母さんと乳幼児などの健康の確保 および増進	職業生活と家庭生活との両立の 支援	児童虐待防止対策	経済的な支援	特 に な い	無 回 答
850	262	304	118	191	238	135	257	123	247	179	190	47	192		
100.0	30.8	35.8	13.9	22.5	28.0	15.9	30.2	14.5	29.1	21.1	22.4	5.5	22.6		

6 男女共同参画社会

上段：件数
下段：%

問13 あなたは、次にあげる分野の男女の平等についてどのように感じていますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

	全 体	女 性 が 優 遇 さ れ て い る	ど ち ら か と い え ば 女 性 が 優 遇 さ れ て い る	平 等 に な っ て い る	ど ち ら か と い え ば 男 性 が 優 遇 さ れ て い る	男 性 が 優 遇 さ れ て い る	無 回 答
(1) 家庭では	850 100.0	26 3.1	57 6.7	413 48.6	243 28.6	60 7.1	51 6.0
(2) 職場では	850 100.0	16 1.9	59 6.9	303 35.6	302 35.5	103 12.1	67 7.9
(3) 学校教育の場では	850 100.0	6 0.7	17 2.0	562 66.1	125 14.7	37 4.4	103 12.1
(4) 政治の場では	850 100.0	4 0.5	28 3.3	100 11.8	315 37.1	347 40.8	56 6.6
(5) 法律や制度では	850 100.0	11 1.3	44 5.2	297 34.9	288 33.9	142 16.7	68 8.0
(6) 社会通念・慣習・しきたりでは	850 100.0	7 0.8	17 2.0	141 16.6	377 44.4	244 28.7	64 7.5
(7) 自治会やPTAなどの地域活動では	850 100.0	12 1.4	68 8.0	347 40.8	243 28.6	90 10.6	90 10.6
(8) 社会全体では	850 100.0	10 1.2	39 4.6	174 20.5	430 50.6	146 17.2	51 6.0

問14 あなた自身のワーク・ライフ・バランス（「仕事」と「家庭生活」の調和）について、
現状は次のどれにあてはまりますか。（○は1つ）

全 体	仕 事 を 優 先 し て い る	ど ち ら か と い え ば 家 庭 生 活 よ り 優 先 し て い る	両 立 さ せ て い る	仕 事 と 家 庭 生 活 を 同 じ よ う に し て い る	家 庭 生 活 を 優 先 し て い る	ど ち ら か と い え ば 仕 事 よ り 優 先 し て い る	現 在 仕 事 を し て い な い	そ の 他	無 回 答
850 100.0	136 16.0	168 19.8	192 22.6	154 18.1	163 19.2	14 1.6	23 2.7		

7 防犯対策

上段：件数
下段：%

問15 あなたの住む地域で不安を感じる具体的な犯罪は何ですか。(〇は2つまで)

全体	ひったくり	空き巣	強盗	すり・置き引き	自動車(自転車)泥棒・車上ねらい	特殊詐欺(振り込め詐欺など)	傷害・暴行	放火	痴漢・強制わいせつ	少年犯罪	子どもの誘拐・連れ去り	暴力団員による犯罪	悪質な客引き	その他	特にない	無回答
850	36	148	135	23	75	246	68	51	92	27	98	13	13	29	237	12
100.0	4.2	17.4	15.9	2.7	8.8	28.9	8.0	6.0	10.8	3.2	11.5	1.5	1.5	3.4	27.9	1.4

問16 あなたが防犯のために実行していること、心掛けていることは何ですか。(〇はいくつでも)

全体	自主的な防犯パトロールなどの活動に参加している	区、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている	区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙など、防犯に関する情報を得ている	何かあれば警察や区などの相談窓口に行くようにしている	近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている	日ごろから防犯カメラや防犯カメラの設置している	防犯性能の高い鍵や窓の使用や、防犯カメラ、センサー付きライトなどの防犯機器を設置している	警備会社などのセキュリティシステムを利用している	防犯カメラなどの防犯設備が導入されている	エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている	その他	特に何もしていない	無回答
850	12	199	100	143	103	123	497	20	145	10			
100.0	1.4	23.4	11.8	16.8	12.1	14.5	58.5	2.4	17.1	1.2			

問17 今後、あなたが区に特に力を入れてほしいと考える施策は何ですか。(〇は2つまで)

全体	区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信	住まいの防犯設備整備費用の助成	自動通話録音機の無料貸出しなどの振り込め詐欺防止対策	地域の防犯カメラや街路灯設置の推進	防犯対策に関するハンドブックの配布や講座・講演会などの啓発活動	学校や児童館などの子どもの安全対策	通学路や公園などの安全対策	地域の防犯パトロール活動などへの支援	その他	特にない	無回答
850	171	132	69	415	31	220	242	134	22	57	14
100.0	20.1	15.5	8.1	48.8	3.6	25.9	28.5	15.8	2.6	6.7	1.6

8 スポーツ

上段：件数
下段：%

問18 あなたがこの1年間に行ったスポーツや運動は何ですか。(〇はいくつでも)

全 体	水泳(水中歩行、水中運動、アクアビクスなどを含む)	体操(ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など)	ジョギング、マラソン	ウォーキング、散歩(散策、ペットの散歩などを含む)	マシントレーニング(ランニングマシン、バランスボール、ダンベルなど器具を使った運動)	武道(柔道、剣道、空手など)	テニス、ソフトテニス	屋内球技(バレーボール、バドミントン、卓球など)	屋外の球技(野球、ソフトボール、サッカー、フットサルなど)	ゴルフ	ハイキング、キャンプ、登山など	スキー、スノーボード、スケートなど	海水浴(遊水)	シュノーケリング、ダイビング、サーフィン、ヨットなど	
	850 100.0	133 15.6	273 32.1	126 14.8	555 65.3	149 17.5	14 1.6	33 3.9	31 3.6	37 4.4	109 12.8	70 8.2	56 6.6	42 4.9	29 3.4
釣り	ボーリング	サイクリング	ゲットボードゴルフ、スポーツ吹き矢など)	バレーボール、ペタンク、ターゲット	フ、キンボール、ソフト	ニューズスポーツ(グラウンドゴルフ)	ダンス(フォークダンス、ジャズダンス、民謡の踊りを含む)	その他	スポーツや運動はしなかった	無回答					
34 4.0	35 4.1	87 10.2		7 0.8		28 3.3	15 1.8	106 12.5	20 2.4						

(問18で、「1 水泳」から「20 その他」のいずれかにお答えの方に)
問18-1 あなたは、この1年間にどのくらいスポーツや運動をしましたか。(〇は1つ)

全 体	週に3日以上	週に1〜2日程度	月に1〜3日程度	3カ月に1〜2日程度(年)	年に1〜3日程度	無回答
	724 100.0	160 22.1	250 34.5	154 21.3	54 7.5	37 5.1

(問18で、「4 ウォーキング、散歩」とお答えの方に)
 問18-2 あなたは、この1年間に区内のどのような場所でウォーキングや散歩を
 しましたか。(〇はいくつでも)

上段：件数
 下段：%

全 体	水 辺 や 公 園 な ど の 屋 外 空 間	住 宅 街 や オ フ イ ス 街 、 商 業 エ リ ア な ど の 屋 外 空 間	の ス ポ ー ツ ジ ム や 体 育 館 な ど の 屋 内 空 間	そ の 他	無 回 答	
	555 100.0	436 78.6	321 57.8	70 12.6	13 2.3	2 0.4

9 築地魚河岸

問19 あなたは、「築地魚河岸」に行ったことがありますか。(〇は1つ)

全 体	よ く 行 っ て い る	行 っ た こ と が あ る	知 っ て い る が 、 行 っ た こ と が な い	「 築 地 魚 河 岸 」 を 知 ら な い	無 回 答	
	850 100.0	112 13.2	441 51.9	202 23.8	85 10.0	10 1.2

(問19で、「1 よく行っている」または「2 行ったことがある」とお答えの方に)
 問19-1 あなたが「築地魚河岸」に行った目的は何ですか。(〇はいくつでも)

全 体	1 階 の 店 舗 で 買 い 物 を す る た め	魚 河 岸 食 堂 で 食 事 を す る た め	メ イ ベ ン ト に 参 加 す る た め	そ の 他	無 回 答	
	553 100.0	385 69.6	158 28.6	17 3.1	44 8.0	44 8.0

(問19で、「1 よく行っている」「2 行ったことがある」「3 知っているが、行ったことがない」とお答えの方に)
 問19-2 「築地魚河岸」には一般の方が利用できる店舗や食堂などがありますが、その印象やイメージとしてあてはまるものをお答えください。(〇はいくつでも)

上段：件数
 下段：%

全 体	1階の店舗について							魚河岸食堂について			その他		無 回 答
	プロが厳選した商品が販売されており、安心して買える物が買える	新鮮なものが買える	スーパーでは買えないような珍しいものが買える	どこで買ってもいいかわからない	同じようなものを扱う店が多く、どこで買ってもいいかわからない	近隣のスーパーなどとの違いを感じない	一般の人も気軽に利用できる施設であることがわからない	混雑している(イメージがある)	おいしい料理が食べられる	食堂があることを知らない	混雑している(イメージがある)	いつ、どのようないベントを開催しているかわからない	
755 100.0	203 26.9	381 50.5	250 33.1	133 17.6	23 3.0	45 6.0	250 33.1	260 34.4	72 9.5	253 33.5	301 39.9	34 4.5	41 5.4

10 受動喫煙防止対策

問20 令和2年7月1日に「中央区受動喫煙防止対策の推進に関する条例」が施行されました。あなたは条例で定めた「中央区たばこルール」を知っていますか。(〇は1つだけ)

全 体	「中央区たばこルール」の内容も知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無 回 答
850 100.0	208 24.5	262 30.8	367 43.2	13 1.5

11 デジタル技術を活用した区民サービス

問21 あなたが、区に進めてほしいと考えるデジタル技術を活用した区民サービスはどれですか。(〇はいくつでも)

全 体	窓口手続きにおけるキャッシュレス決済の拡大	オンライン手続きにおけるキャッシュレス決済の導入	区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる申請・届け出手続きの拡大	マイナンバーカードを利用したオンライン手続きの拡大	スマートフォンなどへの区民サービスの案内の充実	チャットボットを活用した自動応答サービスの拡大	オンラインでの窓口の混雑状況の配信	デジタルツールなどを活用した窓口サービスの改善	オンライン対応可能な相談事業の拡大	区が主催する講座や説明会などのオンライン配信	区が保有するデータのオープンデータ化	実 技 術 を 十 分 に 活 用 で き な い 方 へ の 支 援 の 充 実	パ ン コ ン や ス マ ー ト フ ォ ン な ど の 情 報 通 信	そ の 他	特 に な い	無 回 答
850 100.0	307 36.1	302 35.5	513 60.4	316 37.2	241 28.4	63 7.4	148 17.4	183 21.5	110 12.9	125 14.7	98 11.5	190 22.4	24 2.8	85 10.0	22 2.6	

12 環境

上段：件数
下段：%

問22 あなたは、この1年間で区内のみどりが増えたと思いますか。（〇は1つ）

全 体	増えた と思う	減つた と思う	変化 らない と思う	わか らない	無回 答
850 100.0	116 13.6	28 3.3	507 59.6	190 22.4	9 1.1

問23 あなたは、環境を守るために、どのような取り組みを行っていますか。（〇はいくつでも）

全 体	節電・ 節水な どの環 境配慮 活動に 努めて いる	ごみ・ 資源の 分別を してい る	ペラン ダ・壁 面など を利用 して緑 を育て ている	食品ロ スが発 生しな いよう に配慮 してい る	その他	特に取 り組ん でない	無回 答
850 100.0	442 52.0	701 82.5	114 13.4	496 58.4	14 1.6	40 4.7	7 0.8

問24 あなたは、環境を守るために、今後どのような家庭での取り組みが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

全 体	節電・ 節水な どの環 境配慮 活動を 徹底す る	省エネ 家電へ の買い 替えな ど、環 境に配 慮した 製品の 購入す る	3R（リ デュース） などへ 積極的 に取 り組 む	環境問 題への 理解を 深める ため、 環境学 習や自 然体験、 環境 に関する 講座な どに参 加する	家庭で 使用する 電気や 太陽光 パネル などによる 自家発 電や再 生可能 エネルギー に切り 替える	その他	無回 答
850 100.0	569 66.9	363 42.7	400 47.1	94 11.1	97 11.4	19 2.2	32 3.8

上段：件数
下段：%

問25 あなたは、家庭で環境配慮活動を行う上での阻害要因は何だと思いますか。（〇は1つ）

全体	お金がかかりそうだから	手間がかかりそうだから	自分には関係がないと思うから	必要性を感じないから	何から取り組めばいいかわからないから	その他	無回答
850 100.0	221 26.0	307 36.1	59 6.9	25 2.9	120 14.1	32 3.8	86 10.1

問26 区内には多くの企業がありますが、あなたは、環境を守るために企業の責任として何に取り組む必要があると思いますか。（〇はいくつでも）

全体	再生可能エネルギー機器の導入	建物のZEB（ネット・ゼロエネルギービル）化	再生可能エネルギーなどの積極的な利用	ZEV（ゼロエミッション・ビークル）などの積極的な導入	削減 緑化推進による二酸化炭素排出量の削減	建材などの木質化や屋上緑化などの	森林整備の支援などによる環境活動への参加	社員などへの環境教育による環境配慮への意識向上	その他	無回答
850 100.0	482 56.7	285 33.5	364 42.8	237 27.9	350 41.2	290 34.1	276 32.5	35 4.1	49 5.8	

13 シティプロモーション

問27 江戸開府以来、東京の経済・文化の中心として発展を遂げてきた中央区の各エリアは、それぞれの歴史に裏打ちされた特色があり、数多くの有形・無形の文化資源を有しています。あなたが思う「中央区ならではの伝統と文化」とは、どのようなものですか。

（〇はいくつでも）

全体	歌舞伎や演劇などの伝統芸能	伝統工芸品	老舗	歴史的な建造物（重要文化財など）	問屋街、下町、築地場外市場など	特色のある街並み（金融街、画廊やギャラリー）	食文化	祭りや行事	その他	わからない	無回答
850 100.0	615 72.4	147 17.3	563 66.2	405 47.6	495 58.2	129 15.2	251 29.5	365 42.9	6 0.7	37 4.4	10 1.2

(問27で、「1 歌舞伎や演劇などの伝統芸能」から「9 その他」のいずれかにお答えの方に)
 問27-1 あなたは、問27で選択した「中央区ならではの伝統と文化」について、
 身近に感じていますか。(○は1つ)

上段：件数
 下段：%

全 体	非常に感じる	少しは感じる	あまり感じない	感じない	わからない	無回答
803	241	398	107	20	12	25
100.0	30.0	49.6	13.3	2.5	1.5	3.1

問28 あなたが考える各エリアの特色を選んでください。(○はいくつでも)
 また、区外や海外の方に一番お勧めしたい各エリアの特色を1つ選んで番号を記入してください。(1~14までの番号)

エリアの特色	全 体	グ ル メ	シ ョ ッ ピ ン グ	老 舗 が 多 い	演 劇 ・ 芸 能	芸 術 ・ ア ー ト	魅 力 的 な 建 物 が 多 い	街 並 み が 美 し い	歴 史 文 化	歩 い て 回 れ る	水 辺 な ど 自 然 が 豊 か	隠 れ ス ポ ッ ト を 楽 し め る				
													国 際 的	そ の 他	特 に な い	無 回 答
(1) 日本橋・京橋	850 100.0	407 47.9	407 47.9	515 60.6	61 7.2	83 9.8	258 30.4	253 29.8	309 36.4	291 34.2	45 5.3	59 6.9				
(2) 銀座	850 100.0	556 65.4	710 83.5	312 36.7	290 34.1	169 19.9	167 19.6	242 28.5	96 11.3	428 50.4	7 0.8	69 8.1				
(3) 人形町・浜町	850 100.0	430 50.6	88 10.4	472 55.5	209 24.6	41 4.8	65 7.6	105 12.4	233 27.4	335 39.4	127 14.9	162 19.1				
(4) 築地・明石町	850 100.0	590 69.4	146 17.2	152 17.9	44 5.2	8 0.9	63 7.4	60 7.1	193 22.7	292 34.4	211 24.8	102 12.0				
(5) 佃・月島・晴海	850 100.0	338 39.8	36 4.2	93 10.9	4 0.5	6 0.7	61 7.2	171 20.1	87 10.2	272 32.0	460 54.1	109 12.8				
(1) 日本橋・京橋	74 8.7	7 0.8	19 2.2	89 10.5												
(2) 銀座	297 34.9	2 0.2	7 0.8	79 9.3												
(3) 人形町・浜町	13 1.5	13 1.5	43 5.1	88 10.4												
(4) 築地・明石町	106 12.5	10 1.2	33 3.9	84 9.9												
(5) 佃・月島・晴海	27 3.2	14 1.6	75 8.8	91 10.7												

問28 あなたが考える各エリアの特色を選んでください。(〇はいくつでも)
 また、区外や海外の方に一番お薦めしたい各エリアの特色を1つ選んで番号を記入して
 ください。(1~14までの番号)

上段：件数
 下段：%

一番お薦めしたい エリアの特色	全 体	グ ル メ	シ ョ ッ ピ ン グ	老 舗 が 多 い	演 劇 ・ 芸 能	芸 術 ・ ア ー ト	魅 力 的 な 建 物 が 多 い	街 並 み が 美 し い	歴 史 文 化	歩 い て 回 れ る	水 辺 な ど 自 然 が 豊 か	隠 れ ス ポ ッ ト を 楽 し め る
(1) 日本橋・京橋	850 100.0	78 9.2	70 8.2	179 21.1	11 1.3	6 0.7	61 7.2	50 5.9	80 9.4	16 1.9	4 0.5	3 0.4
(2) 銀座	850 100.0	87 10.2	333 39.2	17 2.0	65 7.6	7 0.8	7 0.8	19 2.2	0 0.0	23 2.7	0 0.0	4 0.5
(3) 人形町・浜町	850 100.0	149 17.5	12 1.4	131 15.4	50 5.9	2 0.2	10 1.2	21 2.5	53 6.2	37 4.4	24 2.8	39 4.6
(4) 築地・明石町	850 100.0	353 41.5	18 2.1	11 1.3	16 1.9	1 0.1	7 0.8	9 1.1	40 4.7	26 3.1	47 5.5	11 1.3
(5) 佃・月島・晴海	850 100.0	158 18.6	8 0.9	22 2.6	2 0.2	4 0.5	9 1.1	34 4.0	13 1.5	33 3.9	208 24.5	20 2.4
		国 際 的	そ の 他	特 に な い	無 回 答							
(1) 日本橋・京橋	5 0.6	0 0.0	16 1.9	271 31.9								
(2) 銀座	24 2.8	0 0.0	4 0.5	260 30.6								
(3) 人形町・浜町	2 0.2	6 0.7	28 3.3	286 33.6								
(4) 築地・明石町	15 1.8	3 0.4	18 2.1	275 32.4								
(5) 佃・月島・晴海	1 0.1	5 0.6	38 4.5	295 34.7								

14 施策の要望・評価

上段：件数
下段：%

問29 あなたは、区の施策についてどの程度満足していますか。満足度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

	全 体	満 足	や や 満 足	普 通	や や 不 満	不 満	無 回 答	評 価 点 （ 点 数 ）
(1) 子育て支援	850 100.0	70 8.2	149 17.5	437 51.4	70 8.2	28 3.3	96 11.3	1.08
(2) 障害者福祉	850 100.0	33 3.9	73 8.6	593 69.8	42 4.9	11 1.3	98 11.5	0.50
(3) 高齢者福祉・介護	850 100.0	29 3.4	103 12.1	547 64.4	68 8.0	26 3.1	77 9.1	0.27
(4) 保健衛生	850 100.0	51 6.0	143 16.8	524 61.6	32 3.8	11 1.3	89 10.5	1.25
(5) 男女共同参画社会の推進	850 100.0	21 2.5	65 7.6	609 71.6	37 4.4	19 2.2	99 11.6	0.21
(6) 住宅対策	850 100.0	26 3.1	87 10.2	475 55.9	130 15.3	46 5.4	86 10.1	-0.54
(7) 公園・緑地の整備	850 100.0	97 11.4	252 29.6	281 33.1	112 13.2	38 4.5	70 8.2	1.65
(8) 水辺環境の整備	850 100.0	109 12.8	247 29.1	315 37.1	80 9.4	20 2.4	79 9.3	2.24
(9) 消費者生活対策	850 100.0	26 3.1	66 7.8	556 65.4	87 10.2	27 3.2	88 10.4	-0.15
(10) 環境保全・公害対策	850 100.0	28 3.3	104 12.2	552 64.9	64 7.5	12 1.4	90 10.6	0.47
(11) 清掃・リサイクル事業の推進	850 100.0	57 6.7	162 19.1	498 58.6	46 5.4	12 1.4	75 8.8	1.33
(12) 駐車場・駐輪場の整備	850 100.0	40 4.7	106 12.5	410 48.2	159 18.7	55 6.5	80 9.4	-0.54
(13) 道路環境整備、交通安全対策	850 100.0	50 5.9	140 16.5	470 55.3	85 10.0	23 2.7	82 9.6	0.71
(14) 防災対策	850 100.0	42 4.9	133 15.6	535 62.9	46 5.4	10 1.2	84 9.9	0.99
(15) 防犯対策	850 100.0	41 4.8	125 14.7	525 61.8	57 6.7	12 1.4	90 10.6	0.83
(16) 再開発などによる地域整備	850 100.0	51 6.0	137 16.1	447 52.6	91 10.7	43 5.1	81 9.5	0.40
(17) 中小企業対策	850 100.0	18 2.1	37 4.4	632 74.4	51 6.0	15 1.8	97 11.4	-0.05
(18) 学校教育の充実	850 100.0	40 4.7	112 13.2	521 61.3	60 7.1	23 2.7	94 11.1	0.57
(19) 青少年対策	850 100.0	28 3.3	46 5.4	639 75.2	36 4.2	8 0.9	93 10.9	0.33
(20) 生涯学習・文化・スポーツの振興	850 100.0	33 3.9	125 14.7	535 62.9	56 6.6	14 1.6	87 10.2	0.70
(21) コミュニティの育成	850 100.0	21 2.5	73 8.6	579 68.1	73 8.6	14 1.6	90 10.6	0.09
(22) 観光振興	850 100.0	61 7.2	164 19.3	480 56.5	45 5.3	11 1.3	89 10.5	1.44
(23) デジタル化の推進	850 100.0	23 2.7	66 7.8	479 56.4	136 16.0	58 6.8	88 10.4	-0.92
(24) 区の施策を総合的に見ると	850 100.0	43 5.1	172 20.2	479 56.4	63 7.4	13 1.5	80 9.4	1.10

満足度の比較をより明確にするために、加重平均値を算出した。

$$\text{満足度評価点} = (\text{「満足」の回答者数} \times 10 + \text{「やや満足」の回答者数} \times 5 + \text{「普通」の回答者数} \times 0 + \text{「やや不満」の回答者数} \times -5 + \text{「不満」の回答者数} \times -10) \div (\text{回答者数} - \text{無回答者数})$$

この計算方法では、満足度の場合の評価点は、+10.00点～-10.00点の間に分布し、中間点の0.00点を境に、+10.00点に近くなるほど満足度は高くなり、逆に-10.00点に近くなるほど不満足度が高くなる。

問29 あなたは、区の施策についてどの程度重視していますか。重要度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

上段：件数
下段：%

	全 体	たい へん 重要	比 較 的 重 要	普 通	無 回 答	評 価 点 (点 数)
(1) 子育て支援	850 100.0	423 49.8	159 18.7	105 12.4	163 19.2	7.31
(2) 障害者福祉	850 100.0	228 26.8	261 30.7	195 22.9	166 19.5	5.24
(3) 高齢者福祉・介護	850 100.0	344 40.5	204 24.0	149 17.5	153 18.0	6.40
(4) 保健衛生	850 100.0	199 23.4	287 33.8	190 22.4	174 20.5	5.07
(5) 男女共同参画社会の推進	850 100.0	109 12.8	232 27.3	335 39.4	174 20.5	3.33
(6) 住宅対策	850 100.0	198 23.3	230 27.1	252 29.6	170 20.0	4.60
(7) 公園・緑地の整備	850 100.0	255 30.0	254 29.9	181 21.3	160 18.8	5.54
(8) 水辺環境の整備	850 100.0	249 29.3	245 28.8	197 23.2	159 18.7	5.38
(9) 消費者生活対策	850 100.0	168 19.8	243 28.6	272 32.0	167 19.6	4.24
(10) 環境保全・公害対策	850 100.0	198 23.3	277 32.6	211 24.8	164 19.3	4.91
(11) 清掃・リサイクル事業の推進	850 100.0	188 22.1	294 34.6	209 24.6	159 18.7	4.85
(12) 駐車場・駐輪場の整備	850 100.0	139 16.4	246 28.9	301 35.4	164 19.3	3.82
(13) 道路環境整備、交通安全対策	850 100.0	186 21.9	263 30.9	238 28.0	163 19.2	4.62
(14) 防災対策	850 100.0	341 40.1	206 24.2	145 17.1	158 18.6	6.42
(15) 防犯対策	850 100.0	297 34.9	237 27.9	156 18.4	160 18.8	6.02
(16) 再開発などによる地域整備	850 100.0	159 18.7	254 29.9	271 31.9	166 19.5	4.18
(17) 中小企業対策	850 100.0	86 10.1	222 26.1	370 43.5	172 20.2	2.91
(18) 学校教育の充実	850 100.0	266 31.3	217 25.5	198 23.3	169 19.9	5.50
(19) 青少年対策	850 100.0	153 18.0	249 29.3	275 32.4	173 20.4	4.10
(20) 生涯学習・文化・スポーツの振興	850 100.0	130 15.3	255 30.0	300 35.3	165 19.4	3.76
(21) コミュニティの育成	850 100.0	98 11.5	235 27.6	349 41.1	168 19.8	3.16
(22) 観光振興	850 100.0	140 16.5	254 29.9	287 33.8	169 19.9	3.92
(23) デジタル化の推進	850 100.0	255 30.0	238 28.0	190 22.4	167 19.6	5.48

重要度の比較をより明確にするために、加重平均値を算出した。

重要度評価点 = (「たいへん重要」の回答者数×10点 + 「比較的重要」の回答者数×5点 + 「普通」の回答者数×0点) ÷ (回答者数 - 無回答者数)

この計算方法では、重要度の場合の評価点は、+10.00点～0点の間に分布し、+10.00点に近くなるほど重要度が高くなる。

問30 問29の施策の中で、あなたが力を入れてほしいものは何ですか。1位から3位までを選んで番号を記入してください。(1～23までの番号)

上段：件数
下段：%

	全 体	(1) 子育て支援	(2) 障害者福祉	(3) 高齢者福祉・介護	(4) 保健衛生	(5) 男女共同参画社会の推進	(6) 住宅対策	(7) 公園・緑地の整備	(8) 水辺環境の整備	(9) 消費者生活対策	(10) 環境保全・公害対策	(11) 清掃・リサイクル事業の推進	(12) 駐車場・駐輪場の整備	(13) 道路環境整備、交通安全対策
第1位～第3位の累計	850 100.0	351 41.3	60 7.1	285 33.5	45 5.3	32 3.8	91 10.7	148 17.4	89 10.5	104 12.2	50 5.9	58 6.8	70 8.2	49 5.8
第1位	850 100.0	218 25.6	16 1.9	164 19.3	10 1.2	7 0.8	23 2.7	31 3.6	16 1.9	32 3.8	7 0.8	9 1.1	21 2.5	9 1.1
第2位	850 100.0	86 10.1	24 2.8	66 7.8	23 2.7	14 1.6	41 4.8	67 7.9	37 4.4	28 3.3	17 2.0	26 3.1	22 2.6	17 2.0
第3位	850 100.0	47 5.5	20 2.4	55 6.5	12 1.4	11 1.3	27 3.2	50 5.9	36 4.2	44 5.2	26 3.1	23 2.7	27 3.2	23 2.7
	(14) 防災対策	(15) 防犯対策	(16) 再開発などによる地域整備	(17) 中小企業対策	(18) 学校教育の充実	(19) 青少年対策	(20) 生涯学習・文化・スポーツの振興	(21) コミュニティの育成	(22) 観光振興	(23) デジタル化の推進	無 回 答			
第1位～第3位の累計	177 20.8	136 16.0	78 9.2	27 3.2	128 15.1	19 2.2	60 7.1	22 2.6	50 5.9	148 17.4	79 9.3			
第1位	53 6.2	29 3.4	18 2.1	9 1.1	29 3.4	1 0.1	15 1.8	1 0.1	11 1.3	42 4.9	79 9.3			
第2位	62 7.3	58 6.8	25 2.9	12 1.4	56 6.6	5 0.6	16 1.9	4 0.5	10 1.2	44 5.2	90 10.6			
第3位	62 7.3	49 5.8	35 4.1	6 0.7	43 5.1	13 1.5	29 3.4	17 2.0	29 3.4	62 7.3	104 12.2			

*第1位～第3位の累計の無回答は第1位の値とした

15 フェイスシート

上段：件数
下段：%

F 1 性別（○は1つ）

全 体	男性	女性	回答 しない	無 回 答
850 100.0	361 42.5	464 54.6	15 1.8	10 1.2

F 2 年齢（○は1つ）

全 体	1 8 ～ 2 9 歳	3 0 歳 代	4 0 歳 代	5 0 歳 代	6 0 ～ 6 4 歳	6 5 ～ 6 9 歳	7 0 ～ 7 4 歳	7 5 歳 以上	無 回 答
850 100.0	63 7.4	150 17.6	180 21.2	197 23.2	61 7.2	44 5.2	56 6.6	85 10.0	14 1.6

性／年齢別

全 体	男 性								女 性							性別 または 年齢 無回答	
	男性 1 8 ～ 2 9 歳	男性 3 0 歳 代	男性 4 0 歳 代	男性 5 0 歳 代	男性 6 0 ～ 6 4 歳	男性 6 5 ～ 6 9 歳	男性 7 0 ～ 7 4 歳	男性 7 5 歳 以上	女性 1 8 ～ 2 9 歳	女性 3 0 歳 代	女性 4 0 歳 代	女性 5 0 歳 代	女性 6 0 ～ 6 4 歳	女性 6 5 ～ 6 9 歳	女性 7 0 ～ 7 4 歳		女性 7 5 歳 以上
850 100.0	23 2.7	60 7.1	92 10.8	70 8.2	31 3.6	23 2.7	23 2.7	39 4.6	39 4.6	88 10.4	85 10.0	122 14.4	29 3.4	20 2.4	33 3.9	46 5.4	27 3.2

F 3 あなたの職業は何ですか。（○は1つ）

全 体	自 営 業 （家 族 従 業 を 含 む）	勤 め 人	ア ル バ イ ト ・ パ ー ト タ イ マ ー	無 職 （主 婦 ・ 主 夫）	無 職 （学 生）	無 職 （そ の 他）	無 回 答
850 100.0	107 12.6	466 54.8	66 7.8	89 10.5	15 1.8	91 10.7	16 1.9

上段：件数
下段：%

F 4 あなたのお住まいの地域は次のどれにあたりますか。（〇は1つ）

全 体	京 橋 地 域	日 本 橋 地 域	月 島 地 域	無 回 答
850 100.0	194 22.8	261 30.7	352 41.4	43 5.1

F 5 現在一緒に暮らしているご家族の方は、あなたを含めて何人ですか。（〇は1つ）

全 体	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人	7 人	8 人	9 人	1 0 人 以 上	「6人以上」に回答して 具体的な人数欄無回答	無 回 答
850 100.0	198 23.3	302 35.5	187 22.0	121 14.2	21 2.5	1 0.1	1 0.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.1	18 2.1

F 6 あなたの家族構成は、次のどれにあたりますか。（〇は1つ）

全 体	単 身 （ 本 人 の み ）	夫 婦 の み （ 1 世 代 世 帯 ）	親 と 子 （ 2 世 代 世 帯 ）	親 と 子 と 孫 （ 3 世 代 世 帯 ）	そ の 他 の 世 帯	無 回 答
850 100.0	192 22.6	244 28.7	347 40.8	15 1.8	30 3.5	22 2.6

F 7 あなた自身は、次のどれにあたりますか。（〇は1つ）

全 体	独 身	子 ど も の い な い 夫 婦	入 学 前 の 子 ど も が 小 学 校	学 生 一 番 上 の 子 ど も が 小 ・ 中	大 学 生 一 番 上 の 子 ど も が 高 校 ・	業 一 番 上 の 子 ど も が 学 校 卒	そ の 他	無 回 答
850 100.0	240 28.2	166 19.5	82 9.6	117 13.8	50 5.9	99 11.6	70 8.2	26 3.1

F 8 あなたのお住まいは、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

上段：件数
下段：%

全 体	持 家		借 家						そ の 他	無 回 答
	一 戸 建	分 譲 マ ン シ ヨ ン	一 戸 建	社 、 都 市 再 生 機 構 (旧 公 団) 公	公 共 住 宅 (区 立 、 区 営 、 都 営 、 公	民 間 木 造 ア パ ー ト	民 間 鉄 筋 ア パ ー ト 、 マ ン シ ヨ ン	社 宅 、 官 舎 、 寮		
850	72	389	4	63	2	263	27	3	6	21
100.0	8.5	45.8	0.5	7.4	0.2	30.9	3.2	0.4	0.7	2.5

(F 8で、「2 分譲マンション」「4 公共住宅」「5 民間木造アパート」「6 民間鉄筋アパート、マンション」「7 社宅、官舎、寮」とお答えの方に)

F 8-1 お住まいの階層

	全 体	1 階	2 階	3 階	4 階	5 階	6 階	7 階	8 階	9 階	1 0 階 以 上	無 回 答	1 ~ 5 階	6 ~ 9 階	1 0 階 以 上
		分譲マンション	389 100.0	1 0.3	15 3.9	19 4.9	18 4.6	19 4.9	15 3.9	20 5.1	21 5.4	19 4.9	116 29.8	126 32.4	72 18.6
公共住宅	63 100.0	0 0.0	1 1.6	1 1.6	1 1.6	2 3.2	3 4.8	0 0.0	1 1.6	1 1.6	15 23.8	38 60.3	5 8.0	5 8.0	15 23.8
民間木造アパート	2 100.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
民間鉄筋アパート、 マンション	263 100.0	2 0.8	12 4.6	15 5.7	20 7.6	11 4.2	12 4.6	19 7.2	15 5.7	11 4.2	75 28.5	71 27.0	60 22.9	57 21.7	75 28.5
社宅、官舎、寮	27 100.0	0 0.0	1 3.7	3 11.1	1 3.7	2 7.4	1 3.7	3 11.1	0 0.0	1 3.7	4 14.8	11 40.7	7 25.9	5 18.5	4 14.8

F 9 あなたの国籍はどちらですか。(〇は1つ)

上段：件数
下段：%

全体	日本	日本以外 (外国籍)	無回答
850 100.0	822 96.7	22 2.6	6 0.7

ライフステージ

全体	独身期	家族形成期	家族成長前期	家族成長後期	家族成熟期	老齢期	その他	無回答
850 100.0	82 9.6	126 14.8	117 13.8	50 5.9	60 7.1	118 13.9	262 30.8	35 4.1

VI 使用した調査票

区政世論調査ご協力をお願い

日頃から区政の推進にご理解・ご協力いただきまして、ありがとうございます。

このたび中央区では、「第53回 区政世論調査」を行うことといたしました。

今回も、満18歳以上の区民の皆さま2,000人を対象に、防災対策、高齢者施策、子育て支援などについてご意見を伺い、今後の区政運営の参考資料とするために実施するものです。

調査は無記名で行い、結果は統計的数値としてまとめますので、個人の回答内容やプライバシーに関わる内容が公表されることは一切ありません。

今回の調査票をお送りしましたのは、区の住民基本台帳から統計的手法によって無作為に選ばせていただいた結果です。

調査の趣旨をご理解の上、ご回答くださいますようよろしくお願い申し上げます。

令和5年4月

中央区企画部広報課

<回答にあたってのお願い>

◎封筒宛名のご本人様がお答えください。

(記入が困難な場合は、本人同意の上で、別の方が回答を代筆しても構いません。)

◎質問によっては、○印は(1つ)や(3つまで)(いくつでも)などの指定がありますので、それに合わせて回答をしてください。

◎「その他」の番号を選んだ場合には、()内に具体的な内容をご記入ください。

◎回答は、**令和5年6月5日(月)までに《郵送》または《インターネット》**

いずれかの方法で、投函もしくは送信してください。

【調査受託事業者・お問い合わせ先(回答方法)】

株式会社CCNグループ

東京都千代田区神田鍛冶町3-7-4 7F

電話：03-6262-9714

E-Mail：chuo-yoron@ccn-g.co.jp

受付時間：月～金曜日(祝日を除く)9:00～17:30

※外国語[英語、中国語(簡体または繁体)]で書かれた調査票が必要な方は、上記へお問い合わせください。

※If you need a questionnaire written in a foreign language (English, Chinese (simplified or traditional)), please contact us.

【調査主体・お問い合わせ先(調査内容)】

中央区役所 企画部広報課広聴係 担当：恩田・小森

東京都中央区築地1-1-1

電話：03-3546-5222(直通)

受付時間：月～金曜日(祝日を除く)8:30～17:00

郵送での回答方法

手順1 調査票に回答してください。

- ・あらかじめ設けてある選択肢の中から、当てはまる項目の番号に○を付けてください。
- ・ボールペン記載で誤った場合は、二重線で消し、正しい回答に○を付けてください。

手順2 調査票を郵送してください。

- ・回答が終わりましたら、同封の返信用封筒（中央区役所宛）に入れて令和5年6月5日（月）までに投函してください（切手は不要です）。
- ・調査票と返信用封筒への記名は不要です（無記名でご回答ください）。

インターネットでの回答方法

（パソコン、スマートフォン、タブレットから回答できます。）

手順1 中央区ホームページから該当ページへアクセスしてください。

※スマートフォン等から回答する場合は、「手順3」<スマートフォン等で回答する場合>へ

中央区ホームページ(https://www.city.chuo.lg.jp/)の画面上部にある「ページID」の検索窓で『78』と入力し、検索してください。



手順2 区政世論調査のページから回答専用ページにアクセスをしてください。

「令和5年 第53回区政世論調査の実施について」の『回答専用ページ』を選択して、「回答専用ページ」にアクセスしてください。

令和5年 第53回中央区政世論調査の実施について

調査は満18歳以上の区民の皆さんの中から2,000人を無作為に抽出し、4月25日（火）に調査票を送付しました。

調査票が届いている方は、郵送またはインターネットで回答をしてください。ご協力をお願いします。

郵送での回答

・調査票に記入の上、同封の返信用封筒に入れて、6月5日（月）までにポストに投函してください（切手は不要です）。

インターネットでの回答

・[回答専用ページ](#)（外部サイトヘリンク）からログインをしてください。

・回答できるのは調査票が届いた方のみとなります。

こちらのページも読まれています

このページに知りたい情報が無い場合は

分類別で探す

- > くらし・手続き
- > 防災・安全
- > 健康・医療・福祉
- > 子育て・教育
- > 文化・観光・スポーツ
- > まちづくり・環境
- > しごと・産業
- > 区政情報

手順3 回答専用ページからログインをしてください。

「回答専用ページ」をクリックすると、ログインページが表示されるので、以下の ID とパスワードを入力し、「ログイン」ボタンを選択してください。

<スマートフォン等で回答する場合>

- ・以下の二次元コードを読み取るとログインページが表示されます。
- ・以下の ID とパスワードを入力して「ログイン」ボタンを選択し、順番に回答してください。

※二次元コードを読み取ることができない場合は、各端末から中央区ホームページにアクセスし、「区政世論調査」ページの中の『回答専用ページ』を選択してください。

インターネット回答用の
あなたの ID とパスワード

インターネット回答用
二次元コード

ID	chuo2023
パスワード	



※ID、パスワードは、半角英数で計8文字です。
IDとパスワードは、個人を特定するものではありません。

手順4 順番に回答してください。

- ・選択肢の中から当てはまる項目の番号を選択し、「次へ」をクリックしてください。
- ・すべての回答が終わりましたら、回答終了の画面が表示されますので、その時点で回答は終了です。
- ・令和5年6月5日(月)までに回答を送信してください。

<注意事項>

- ・ブラウザ、スマートフォンの「戻る」機能は使えません。
- ・通信サービスの接続料金は利用者様の負担となります。
- ・回答を中断する際はブラウザ上のタブを閉じると自動的に回答が保存されますが、通信状況が悪かったり、回答の操作を長時間行わず放置するとページの再読み込みが行われ回答が保存されません。

第 53 回 区 政 世 論 調 査 票

1 定住性

問1 あなたは、中央区にお住まいになって何年になりますか。(○は1つ)

- | | | |
|-----------|------------|-------------|
| 1 3年未満 | 4 10～15年未満 | 6 20年以上 |
| 2 3～6年未満 | 5 15～20年未満 | 7 生まれてからずっと |
| 3 6～10年未満 | | |

問2 あなたは、中央区に対して「わがまち」というような愛着心を感じていますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------|-----------|---------|
| 1 非常に感じる | 3 あまり感じない | 5 わからない |
| 2 少しは感じる | 4 感じない | |

問3 あなたは、中央区に今後もずっと住みたいと思っていますか。(○は1つ)

- | | | |
|--------------|-------------|---------|
| 1 住み続けたい | 3 できれば転出したい | 5 わからない |
| 2 できれば住み続けたい | 4 転出したい | |

2 防災対策

問4 あなたのご家庭では、大地震などの災害が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。(○はいくつでも)

- | |
|-----------------------------|
| 1 食料の備蓄 → () 日分 (1人1日3食分) |
| 2 飲料水の備蓄 → () 日分 (1人1日3ℓ分) |
| 3 簡易トイレの備蓄 → () 日分 |
| 4 家具類の転倒・落下・移動防止やガラス飛散防止 |
| 5 消火器の備え |
| 6 救急セットの備え |
| 7 バールやハンマーなどの救助用工具の備え |
| 8 貴重品を持ち出す準備 |
| 9 風呂などへの水のため置き |
| 10 救命救助の講習会への参加 |
| 11 町会・自治会などの地域の防災訓練への参加 |
| 12 避難方法、避難場所の確認 |
| 13 家庭での連絡方法などの話し合い |
| 14 建物の補強 |
| 15 その他 () |
| 16 特にない |

問5 区では区立の小・中学校などを「防災拠点」とし、食料や毛布などの備蓄や井戸を整備しています。この「防災拠点」は避難所や救護所などの機能を持っています。あなたは、ご自分の地域の「防災拠点」を知っていますか。(○は1つ)

1 知っている

3 知らない

2 知っているが、場所はわからない

(問5で、「1 知っている」または「2 知っているが、場所はわからない」とお答えの方に)

→ 問5-1 この防災拠点の災害時の運営を円滑に進めるため、町会・自治会や防災区民組織が防災拠点運営委員会をつくり、防災訓練の実施や日頃から防災について話し合うなど、災害に備えた協力体制をとっていることをあなたは知っていますか。(○は1つ)

1 知っている

3 知らない

2 知っているが、活動内容はよくわからない

問6 大地震などの災害が起こったら、お住まいの近くで、あなたが協力したいと思う活動には何がありますか。(○はいくつでも)

1 負傷者の応急手当

2 倒壊家屋などからの救出・救助

3 初期の消火活動

4 避難所での被災者の世話

5 救援物資の仕分けなどの防災活動への協力

6 外国語通訳・手話・建物の危険度判定など専門的スキルを活用した活動

7 インターネットによる情報収集や伝達

8 その他の支援活動 ()

9 協力したくない

10 わからない

問7 災害時に区内の災害情報を得る手段として、一般のテレビ・ラジオ以外にあなたが有効だと思うものは何ですか。(○はいくつでも)

1 区のホームページ

2 防災マップアプリ

3 ちゅうおう安全・安心メール

4 インターネット

5 ツイッターやフェイスブックなどSNS (ソーシャルネットワーキングサービス)

6 防災行政無線 (屋外スピーカー)

7 緊急告知ラジオ※

8 ケーブルテレビ

9 その他 ()

※ 緊急告知ラジオ 大きな地震や水害など緊急を要する災害の発生時に自動的に電源が入り、災害情報や避難情報などの緊急放送を受信できるラジオです。区では、平成23年度より区民の皆さんへ有償頒布を実施しています。

3 健康診査※

※ 健康診査 勤務先で実施する定期健康診断、区や加入している健康保険で実施している健康診査、人間ドックなどです。

問8 あなたは、この1年間に健康診査（健康診断）を受けましたか。（○はいくつでも）

- 1 区で実施している健康診査を受けた
- 2 勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた
- 3 加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた
- 4 個人で人間ドックなどを受けた
- 5 学校で実施する健康診査を受けた
- 6 その他で受けた
- 7 健康診査は受けていない

（問8で、「7 健康診査は受けていない」とお答えの方に）

→ 問8-1 あなたが健康診査を受けなかった理由は何ですか。（○はいくつでも）

- 1 勤務先（家族の勤務先を含む）などで実施していない
- 2 受診方法がわからない
- 3 必要がない
- 4 時間がない
- 5 面倒である
- 6 健康に自信がある
- 7 病気で医者にかかっている
- 8 検査がいや
- 9 病気と診断されるのが怖い
- 10 費用がかかる
- 11 その他（)

4 高齢者施策

問9 あなたは、介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいですか。

(もっとも近い考え1つに○)

- 1 主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい
- 2 主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい
- 3 高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい
- 4 特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい
- 5 介護付き有料老人ホームに入りたい
- 6 その他 ()
- 7 わからない

問10 あなたは、住み慣れた地域で暮らし続けるために、これからの高齢者保健福祉施策で、区が力を入れていくべきものは何だと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 健康づくり・介護予防の充実
- 2 就労・社会参加の促進
- 3 在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実
- 4 特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致
- 5 高齢者向け住宅の整備・誘致
- 6 ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援
- 7 低所得者への経済的支援
- 8 特になし

問10-1 問10で、あなたが○をした選択肢を含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

5 子育て支援

問11 あなたは、子育てに関する悩みや不安をどこに相談しましたか。(○は2つまで)

1	配偶者・パートナー
2	その他の親族
3	職場の人
4	隣近所の人、知人、友人
5	保育園・認定こども園※・幼稚園・学校の保護者の仲間
6	保育園・認定こども園※・幼稚園・学校の先生
7	子ども家庭支援センター、児童館、あかちゃん天国など子育て支援施設
8	(健診時などで)保健所、保健センターの担当者
9	その他 ()
10	特に相談しない
11	子育てを経験していない

※ 認定こども園 小学校に就学する前の子どもの教育・保育・子育て支援を一体的に行う施設で、幼稚園と保育所の両方の役割を果たします。

問12 あなたがこれからの区の子育て支援で重要と考えるものを選んでください。(○は2つまで)
また、さらに充実を図る必要があると考えるものを選んでください。(○はいくつでも)

	重要と考えるもの (○は2つまで)	さらに充実を図る必要 があると考えられるもの (○はいくつでも)
1	1	1
2	2	2
3	3	3
4	4	4
5	5	5
6	6	6
7	7	7
8	8	8
9	9	9
10	10	10
11	11	11
12	12	12

※ 地域型保育事業所 少人数の単位で0～2歳の子どもを預かる保育事業所です。
(家庭的保育事業・小規模保育事業・事業所内保育事業・居宅訪問型保育事業)

問12-1 あなたが問12で重要と考えるものに○をした選択肢も含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

6 男女共同参画社会※

※ 男女共同参画社会 男女が、その人権を尊重しつつ喜びも責任も分かち合い、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる社会です。

問13 あなたは、次にあげる分野の男女の平等についてどのように感じていますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

	1 女性が優遇されている	2 どちらかといえば 女性が優遇されている	3 平等になっている	4 どちらかといえば 男性が優遇されている	5 男性が優遇されている
(記入例) (1) 家庭では	1	2	③	4	5
(1) 家庭では	1	2	3	4	5
(2) 職場では	1	2	3	4	5
(3) 学校教育の場では	1	2	3	4	5
(4) 政治の場では	1	2	3	4	5
(5) 法律や制度では	1	2	3	4	5
(6) 社会通念・慣習・しきたりでは	1	2	3	4	5
(7) 自治会やPTAなどの地域活動では	1	2	3	4	5
(8) 社会全体では	1	2	3	4	5

問14 あなた自身のワーク・ライフ・バランス※(「仕事」と「家庭生活」の調和)について、現状は次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

※ ワーク・ライフ・バランス

仕事と仕事以外の家庭生活とのバランスを図ることにより、家庭や地域活動などに参加できる時間を確保しながら充実した生活を送ることが重要であるという考え方です。

1 仕事を優先している 2 どちらかといえば家庭生活よりも仕事を優先している 3 仕事と家庭生活を同じように両立させている 4 どちらかといえば仕事よりも家庭生活を優先している 5 現在仕事をしていない 6 その他 ()
--

7 防犯対策

問15 あなたの住む地域で不安を感じる具体的犯罪は何ですか。(○は2つまで)

1 ひったくり	9 痴漢・強制わいせつ
2 空き巣	10 少年犯罪
3 強盗	11 子どもの誘拐・連れ去り
4 すり・置き引き	12 暴力団員による犯罪
5 自動車(自転車)泥棒・車上ねらい	13 悪質な客引き
6 特殊詐欺(振り込め詐欺など)	14 その他
7 傷害・暴行	()
8 放火	15 特にない

問16 あなたが防犯のために実行していること、心掛けていることは何ですか。(○はいくつでも)

1 自主的な防犯パトロールなどの活動に参加している
2 区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている
3 何かあれば警察や区などの相談窓口に行くようにしている
4 日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている
5 防犯性能の高い鍵や窓の使用や、防犯カメラ、センサー付きライトなどの防犯機器を設置している
6 警備会社などのセキュリティシステムを利用している
7 エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている
8 その他 ()
9 特に何もしていない

問17 今後、あなたが区に特に力を入れてほしいと考える施策は何ですか。(○は2つまで)

1 区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信
2 住まいの防犯設備整備費用の助成
3 自動通話録音機の無料貸出しなどの振り込め詐欺防止対策
4 地域の防犯カメラや街路灯設置の推進
5 防犯対策に関するハンドブックの配布や講座・講演会などの啓発活動
6 学校や児童館などの子どもの安全対策
7 通学路や公園などの安全対策
8 地域の防犯パトロール活動などへの支援
9 その他 ()
10 特にない

8 スポーツ

問18 あなたがこの1年間に行ったスポーツや運動は何ですか。(○はいくつでも)

※ 運動の量や時間の条件はありません。

- 1 水泳(水中歩行、水中運動、アクアビクスなどを含む)
- 2 体操(ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など)
- 3 ジョギング、マラソン
- 4 ウォーキング、散歩(散策、ペットの散歩などを含む)
- 5 マシントレーニング(ランニングマシン、バランスボール、ダンベルなど器具を使った運動)
- 6 武道(柔道、剣道、空手など)
- 7 テニス、ソフトテニス
- 8 屋内球技(バレーボール、バドミントン、卓球など)
- 9 屋外の球技(野球、ソフトボール、サッカー、フットサルなど)
- 10 ゴルフ
- 11 ハイキング、キャンプ、登山など
- 12 スキー、スノーボード、スケートなど
- 13 海水浴(遊水)
- 14 シュノーケリング、ダイビング、サーフィン、ヨットなど
- 15 釣り
- 16 ボーリング
- 17 サイクリング
- 18 ニュースポーツ(グラウンドゴルフ、キンボールスポーツ、ソフトバレーボール、ペタンク、ターゲットバードゴルフ、スポーツ吹き矢など)
- 19 ダンス(フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、民謡の踊りを含む)
- 20 その他()
- 21 スポーツや運動はしなかった

→ (問18で、「1 水泳」から「20 その他」のいずれかにお答えの方に)

→ 問18-1 あなたは、この1年間にどのくらいスポーツや運動をしましたか。(○は1つ)

- | | |
|------------|-------------------------|
| 1 週に3日以上 | 4 3カ月に1~2日程度(年に4~11日程度) |
| 2 週に1~2日程度 | 5 年に1~3日程度 |
| 3 月に1~3日程度 | |

(問18で、「4 ウォーキング、散歩」とお答えの方に)

→ 問18-2 あなたは、この1年間に区内のどのような場所でウォーキングや散歩をしましたか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------------|---------------------|
| 1 水辺や公園などの屋外空間 | 3 スポーツジムや体育館などの屋内空間 |
| 2 住宅街やオフィス街、
商業エリアなどの屋外空間 | 4 その他() |

9 築地魚河岸※

※ 築地魚河岸 築地市場が移転しても築地の活気とにぎわいを絶やさないために、区が『食のプロに支持され、一般客・観光客にも親しまれる、食のまち「築地」のにぎわいの拠点となる施設』として築地場外に開設した生鮮市場です。目利きのプロが厳選した高品質の水産物や青果物などを販売しています。

問19 あなたは、「築地魚河岸」に行ったことがありますか。(○は1つ)

1 よく行っている

2 行ったことがある

3 知っているが、行ったことがない

4 「築地魚河岸」を知らない → 問20へ

(問19で、「1 よく行っている」または「2 行ったことがある」とお答えの方に)

→ 問19-1 あなたが「築地魚河岸」に行った目的は何ですか。(○はいくつでも)

1 1階の店舗で買い物をするため

3 イベントに参加するため

2 魚河岸食堂で食事をするため

4 その他 ()

→ (問19で、「1 よく行っている」「2 行ったことがある」「3 知っているが、行ったことがない」とお答えの方に)

→ 問19-2 「築地魚河岸」には一般の方が利用できる店舗や食堂などがありますが、その印象やイメージとしてあてはまるものをお答えください。(○はいくつでも)

<1階の店舗について>

1 プロが厳選した商品が販売されており、安心して買い物ができる

2 新鮮なものが買える

3 スーパーでは買えないような珍しいものが買える

4 同じようなものを扱う店が多く、どこで買っていいかわからない

5 近くのスーパーなどとの違いを感じない

6 一般の人も気軽に利用できる施設であることを知らない

7 混雑している(イメージがある)

<魚河岸食堂について>

8 おいしい料理が食べられる

9 食堂があることを知らない

10 混雑している(イメージがある)

<その他>

11 いつ、どのようなイベントを開催しているかわからない

12 築地魚河岸の場所がわからない

10 受動喫煙防止対策

問20 令和2年7月1日に「中央区受動喫煙防止対策の推進に関する条例」が施行されました。あなたは条例で定めた「中央区たばこルール※」を知っていますか。(○は1つだけ)

- 1 「中央区たばこルール」の内容も知っている
- 2 聞いたことはあるが、内容は知らない
- 3 知らない

※ 中央区たばこルール 公共の場所（区内全域の道路、公園、広場）での受動喫煙を防止するため、「喫煙者が守るべきルール」および「灰皿を設置する事業者が守るべきルール」を設けました。ルールには加熱式たばこも含まれます。

11 デジタル技術を活用した区民サービス

問21 あなたが、区に進めてほしいと考えるデジタル技術を活用した区民サービスはどれですか。(○はいくつでも)

- 1 窓口手続きにおけるキャッシュレス決済の拡大
- 2 オンライン手続きにおけるキャッシュレス決済の導入
- 3 区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる申請・届け出手続きの拡大
- 4 マイナンバーカードを利用したオンライン手続きの拡大
- 5 スマートフォンなどへの区民サービスの案内の充実
- 6 チャットボット※を活用した自動応答サービスの拡大
- 7 オンラインでの窓口の混雑状況の配信
- 8 デジタルツールなどを活用した窓口サービスの改善※
- 9 オンライン対応可能な相談事業の拡大
- 10 区が開催する講座や説明会などのオンライン配信
- 11 区が保有するデータのオープンデータ化
- 12 パソコンやスマートフォンなどの情報通信技術を十分に活用できない方への支援の充実
- 13 その他（）
- 14 特にない

※ チャットボット インターネットを利用し、人間と会話しているような受け答えをロボットが自動で行うしくみです。

※ デジタルツールを活用した窓口サービスの改善

「区役所に行く前にインターネットで自分に必要な手続き、持ち物などの案内を受けられる」「窓口・相談予約ができる」「複数の申請書に何度も同じことを記入しなくてよい」などデジタルツールを活用し、区役所の窓口サービスの利便性を向上する取り組みです。

12 環境

問22 あなたは、この1年間で区内のみどりが増えたと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|----------|------------|
| 1 増えたと思う | 3 変わらないと思う |
| 2 減ったと思う | 4 わからない |

問23 あなたは、環境を守るために、どのような取り組みを行っていますか。(○はいくつでも)

- | |
|-------------------------|
| 1 節電・節水などの環境配慮活動に努めている |
| 2 ごみ・資源の分別をしている |
| 3 ベランダ・壁面などを利用して緑を育てている |
| 4 食品ロスが発生しないように配慮している |
| 5 その他 () |
| 6 特に取り組んでいない |

問24 あなたは、環境を守るために、今後どのような家庭での取り組みが必要だと思いますか。
(○はいくつでも)

- | |
|---|
| 1 節電・節水などの環境配慮活動を徹底する |
| 2 省エネ家電への買い替えなど、環境に配慮した製品を購入する |
| 3 3R（リデュース・リサイクル・リユース）などへ積極的に取り組む |
| 4 環境問題への理解を深めるため、環境学習や自然体験、環境に関する講座などに参加する |
| 5 家庭で使用する電気を太陽光パネルなどによる自家発電や再生可能エネルギーに切り替える |
| 6 その他 () |

問25 あなたは、家庭で環境配慮活動を行う上での阻害要因は何だと思いますか。(○は1つ)

- | |
|----------------------|
| 1 お金がかかりそうだから |
| 2 手間がかかりそうだから |
| 3 自分には関係がないと思うから |
| 4 必要性を感じないから |
| 5 何から取り組めばいいかわからないから |
| 6 その他 () |

問26 区内には多くの企業がありますが、あなたは、環境を守るために企業の責任として何に取り組む必要があると思いますか。(○はいくつでも)

- 1 再生可能エネルギー機器や省エネルギー機器の導入
- 2 建物のZEB※(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)化
- 3 再生可能エネルギーで発電された電気などの積極的な利用
- 4 ZEV※(ゼロエミッション・ビークル)などの積極的な導入
- 5 建材などの木質化や屋上緑化などの緑化推進による二酸化炭素排出量の削減
- 6 森林整備の支援などによる環境活動への参加
- 7 社員などへの環境教育による環境配慮への意識向上
- 8 その他()

※ ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)

快適な室内環境を実現しながら、省エネや再生可能エネルギーを利用して建物で消費するエネルギーをゼロにすることを目指した建物のことです。

※ ZEV(ゼロエミッション・ビークル)

走行時に二酸化炭素などの排出ガスを出さない電気自動車(EV)や燃料電池車(FCV)、プラグインハイブリッド自動車(PHV)のことです。

13 シティプロモーション

問27 江戸開府以来、東京の経済・文化の中心として発展を遂げてきた中央区の各エリアは、それぞれの歴史に裏打ちされた特色があり、数多くの有形・無形の文化資源を有しています。あなたが思う「中央区ならではの伝統と文化」とは、どのようなものですか。

(○はいくつでも)

- 1 歌舞伎や演劇などの伝統芸能
- 2 伝統工芸品
- 3 老舗
- 4 歴史的な建造物(重要文化財など)
- 5 特色のある街並み(金融街、問屋街、下町、築地場外市場など)
- 6 画廊やギャラリー
- 7 食文化
- 8 祭りや行事
- 9 その他()
- 10 わからない

(問27で、「1 歌舞伎や演劇などの伝統芸能」から「9 その他」のいずれかにお答えの方に)

→ 問27-1 あなたは、問27で選択した「中央区ならではの伝統と文化」について、身近に感じていますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------|-----------|---------|
| 1 非常に感じる | 3 あまり感じない | 5 わからない |
| 2 少しは感じる | 4 感じない | |

問 28 あなたが考える各エリアの特色を選んでください。(○はいくつでも)

また、区外や海外の方に一番お薦めしたい各エリアの特色を1つ選んで番号を記入してください。(1～14までの番号)

※エリア名 区内の町名を5エリアに分けています。(日本橋の冠称は省略)

エリア名	含まれる町名
(1)日本橋・京橋	本石町、室町、本町、八重洲、日本橋、茅場町、兜町、京橋
(2)銀座	銀座
(3)人形町・浜町	小舟町、小伝馬町、大伝馬町、堀留町、富沢町、人形町、小網町、蛸殻町、箱崎町、馬喰町、横山町、東日本橋、久松町、浜町、中洲
(4)築地・明石町	新富、入船、湊、明石町、築地、浜離宮庭園、八丁堀、新川
(5)佃・月島・晴海	佃、月島、勝どき、豊海町、晴海

エリア名	エリアの特色 (○はいくつでも)				区外や海外の方に一番お薦めしたい特色 (1～14までの番号)
(記入例) (1)日本橋・京橋	① グルメ 2 ショッピング ③ 老舗が多い 4 演劇・芸能 5 芸術・アート	6 魅力的な建物が多い 7 街並みが美しい ⑧ 歴史文化 9 歩いて回れる 10 水辺など自然が豊か	⑪ 隠れスポットを楽しめる 12 国際的 13 その他 () 14 特にない		1
(1)日本橋・京橋	1 グルメ 2 ショッピング 3 老舗が多い 4 演劇・芸能 5 芸術・アート	6 魅力的な建物が多い 7 街並みが美しい 8 歴史文化 9 歩いて回れる 10 水辺など自然が豊か	11 隠れスポットを楽しめる 12 国際的 13 その他 () 14 特にない		
(2)銀座	1 グルメ 2 ショッピング 3 老舗が多い 4 演劇・芸能 5 芸術・アート	6 魅力的な建物が多い 7 街並みが美しい 8 歴史文化 9 歩いて回れる 10 水辺など自然が豊か	11 隠れスポットを楽しめる 12 国際的 13 その他 () 14 特にない		
(3)人形町・浜町	1 グルメ 2 ショッピング 3 老舗が多い 4 演劇・芸能 5 芸術・アート	6 魅力的な建物が多い 7 街並みが美しい 8 歴史文化 9 歩いて回れる 10 水辺など自然が豊か	11 隠れスポットを楽しめる 12 国際的 13 その他 () 14 特にない		
(4)築地・明石町	1 グルメ 2 ショッピング 3 老舗が多い 4 演劇・芸能 5 芸術・アート	6 魅力的な建物が多い 7 街並みが美しい 8 歴史文化 9 歩いて回れる 10 水辺など自然が豊か	11 隠れスポットを楽しめる 12 国際的 13 その他 () 14 特にない		
(5)佃・月島・晴海	1 グルメ 2 ショッピング 3 老舗が多い 4 演劇・芸能 5 芸術・アート	6 魅力的な建物が多い 7 街並みが美しい 8 歴史文化 9 歩いて回れる 10 水辺など自然が豊か	11 隠れスポットを楽しめる 12 国際的 13 その他 () 14 特にない		

14 施策の要望・評価

問29 あなたは、区の施策についてどの程度満足していますか。また、その施策をどの程度重視していますか。満足度と重要度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

	満足度					重要度		
	1 満足	2 やや満足	3 普通	4 やや不満	5 不満	1 たいへん重要	2 比較的 重要	3 普通
(記入例) (1) 子育て支援	①	2	3	4	5	①	2	3
(1) 子育て支援	1	2	3	4	5	1	2	3
(2) 障害者福祉	1	2	3	4	5	1	2	3
(3) 高齢者福祉・介護	1	2	3	4	5	1	2	3
(4) 保健衛生	1	2	3	4	5	1	2	3
(5) 男女共同参画社会の推進	1	2	3	4	5	1	2	3
(6) 住宅対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(7) 公園・緑地の整備	1	2	3	4	5	1	2	3
(8) 水辺環境の整備	1	2	3	4	5	1	2	3
(9) 消費者生活対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(10) 環境保全・公害対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(11) 清掃・リサイクル事業の推進	1	2	3	4	5	1	2	3
(12) 駐車場・駐輪場の整備	1	2	3	4	5	1	2	3
(13) 道路環境整備、交通安全対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(14) 防災対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(15) 防犯対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(16) 再開発などによる地域整備	1	2	3	4	5	1	2	3
(17) 中小企業対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(18) 学校教育の充実	1	2	3	4	5	1	2	3
(19) 青少年対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(20) 生涯学習・文化・スポーツの振興	1	2	3	4	5	1	2	3
(21) コミュニティの育成	1	2	3	4	5	1	2	3
(22) 観光振興	1	2	3	4	5	1	2	3
(23) デジタル化の推進	1	2	3	4	5	1	2	3
(24) 区の施策を総合的に見ると	1	2	3	4	5	1	2	3

問30 問29の施策の中で、あなたが力を入れてほしいものは何ですか。

1位から3位までを選んで番号を記入してください。(1～23までの番号)

第1位	第2位	第3位

<フェイスシート>

多くの設問にお答えいただきありがとうございました。あと少しお聞かせください。
これからお聞きすることは、これまでのお答えの内容を統計的に分類するためのものです。
なお、回答しにくいと感じる設問については、お答えいただかなくて結構です。

F 1 性別 (○は1つ)

1 男性	2 女性	3 回答しない
------	------	---------

F 2 年齢 (○は1つ)

1 18~29歳	3 40歳代	5 60~64歳	7 70~74歳
2 30歳代	4 50歳代	6 65~69歳	8 75歳以上

F 3 あなたの職業は何ですか。(○は1つ)

1 自営業 (家族従業を含む)	3 アルバイト・パートタイマー	5 無職 (学生)
2 勤め人	4 無職 (主婦・主夫)	6 無職 (その他)

F 4 あなたのお住まいの地域は次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1 京橋地域(八重洲2丁目、京橋、銀座、新富、入船、湊、明石町、築地、浜離宮庭園、八丁堀、新川)
2 日本橋地域 (本石町、室町、本町、小舟町、小伝馬町、大伝馬町、堀留町、富沢町、人形町、小網町、蛸殻町、箱崎町、馬喰町、横山町、東日本橋、久松町、浜町、中洲、八重洲1丁目、日本橋、茅場町、兜町)
3 月島地域 (佃、月島、勝どき、豊海町、晴海)

F 5 現在一緒に暮らしているご家族の方は、あなたを含めて何人ですか。(○は1つ)

1 1人	3 3人	5 5人
2 2人	4 4人	6 6人以上 (人)

F 6 あなたの家族構成は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1 単身 (本人のみ)	4 親と子と孫 (3世代世帯)
2 夫婦のみ (1世代世帯)	5 その他の世帯
3 親と子 (2世代世帯)	()

F 7 あなた自身は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)
※同居・別居を問わず、現在の状況をお答えください。

1	独身
2	子どものいない夫婦
3	一番上の子どもが小学校入学前
4	一番上の子どもが小・中学生
5	一番上の子どもが高校・大学生
6	一番上の子どもが学校卒業
7	その他 ()

F 8 あなたのお住まいは、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

持家	1	一戸建
	2	分譲マンション (階)
借家	3	一戸建
	4	公共住宅 (区立、区営、都営、公社、都市再生機構 (旧公団)) (階)
	5	民間木造アパート (階)
	6	民間鉄筋アパート、マンション (階)
	7	社宅、官舎、寮 (階)
	8	間借り、住込み
	9	その他 ()

F 9 あなたの国籍はどちらですか。(○は1つ)

1	日本	2	日本以外 (外国籍)
---	----	---	------------

===== ご協力ありがとうございました =====

■最後に

記入もれがないかご確認いただき、三つ折りにして返信用封筒に入れ、6月5日(月)までにポストへ投函をお願いいたします。切手は貼らずにお出してください。お名前を記入する必要はありません。なお、インターネットで回答された方は、この調査票の返送は不要です。

■調査結果については、令和5年9月下旬に報告書にまとめるとともに、概要版を作成いたします。調査報告書および概要版は、図書館や情報公開コーナー(区役所1階)で閲覧できるほか、中央区ホームページに掲載いたします。



▲ 区ホームページ「区政世論調査」



調査報告書（本編）と概要版は
中央区ホームページでもご覧になれます。

第53回 中央区政世論調査 報告書

令和5年9月

刊行物登録番号
5-044

- 発行 中央区企画部広報課
中央区築地1丁目1番1号
電話 03（3546）5222（直通）
- 実施 株式会社CCNグループ
千代田区神田鍛冶町3丁目7番4号
電話 03（6262）9716

